

平成20年度研修事業の概要 (各研修事業別個表)

① 各地域で学校教育において中心的な役割を担う校長・教頭等の教職員に対する 学校管理研修

1. 教職員等中央研修

第1回	校長、教頭等研修（非宿泊・大阪）	1
第2回	校長、教頭等研修（非宿泊・東京）	3
第3回	校長、教頭等研修	5
第4回	校長、教頭等研修	7
第5回	校長、教頭等研修	9
第6回	校長、教頭等研修	11
第7回	校長、教頭等研修	13
第1回	中堅教員研修	15
第2回	中堅教員研修	17
第3回	中堅教員研修	19
第4回	中堅教員研修	21
第5回	中堅教員研修	23

2. 事務職員研修

小・中学校	25
高等学校	27

3. 教職員等海外派遣研修

英語教育コース：6ヶ月	29
英語教育コース：2ヶ月	30
国際理解教育コース：3ヶ月	31

② 喫緊の重要課題について、地方公共団体が行う研修等の講師や企画・立案等を担う指導者を養成するための研修

1. 学校組織マネジメント指導者養成研修	
第1回	33
第2回	35
2. 学校評価指導者養成研修	
東部ブロック	37
西部ブロック	39
3. カリキュラム・マネジメント指導者養成研修	41
4. 国語力向上指導者養成研修	
東部ブロック	43
西部ブロック	45
5. 道徳教育指導者養成研修	
中央指導者研修	47
北海道・東北ブロック	49
関東・甲信越ブロック	51
東海・北陸ブロック	53
近畿ブロック	55
中国・四国ブロック	57
九州ブロック	59
6. 環境教育指導者養成研修	
東部ブロック	61
西部ブロック	63
7. 生徒指導指導者養成研修	65
8. 人権教育指導者養成研修	67
9. キャリア教育指導者養成研修	
東部ブロック	69
西部ブロック	71
10. 小学校における英語活動等国際理解活動指導者養成研修	
北海道・東北ブロック	73
関東・甲信越ブロック	75
東海・北陸ブロック	77
近畿・中国ブロック	79
四国・九州ブロック	81
11. 外国語指導助手研修	
来日直後オリエンテーション（4月期・A日程・B日程・第2次）	83
12. 外国人児童生徒等に対する日本語指導指導者養成研修	
管理者用コース	87
日本語指導者用コース	89

13. 子育て支援指導者養成研修	91
14. 子どもの体力向上指導者養成研修	
東部ブロック	93
中部ブロック	95
西部ブロック	97
15. 健康教育指導者養成研修	
東部ブロック・推進コース	99
東部ブロック・専門コース	101
西部ブロック・推進コース	103
西部ブロック・専門コース	105
16. 学校安全指導者養成研修	
生活・交通安全コース	107
災害安全コース	109
17. 食育指導者養成研修	
食育推進指導者コース	111
栄養教諭コース	113
18. 教育課題研修指導者海外派遣プログラム	
学校評価と学校運営：A－1団	115
学校評価と学校運営：A－2団	116
学校評価と学校運営：A－3団	117
学校評価と学校運営：A－4団	118
キャリア教育：B－1団	119
小学校英語：C－1団	120
小学校英語：C－2団	121
国語力・読解力：D－1団	122
国語力・読解力：D－2団	123
国語力・読解力：D－3団	124
伝統・文化の教育：E－1団	125
伝統・文化の教育：E－2団	126
心身の健康教育：F－1団	127
心身の健康教育：F－2団	128
生徒指導、在り方・生き方指導：G－1団	129
生徒指導、在り方・生き方指導：G－2団	130
生徒指導、在り方・生き方指導：G－3団	131
学校等間の連携：H－1団	132
理数系教育：I－1団	133
理数系教育：I－2団	134
理数系教育：I－3団	135
安全に関する教育：J－1団	136

③ 地方公共団体の共益的事業として委託等により例外的に実施する研修

1. 産業・理科教育教員派遣研修	138
2. 産業・情報技術等指導者養成研修	
農業：A－1（生物活用に関する講義と実習）	141
農業：A－2（バイオテクノロジーに関する講義と実習）	143
工業：B－1（ものづくりに関する講義及び実習）	145
工業：B－2（専門高校における知的財産教育）	147
商業：C－1（新商品開発と起業に関する講義と実習）	149
水産：D－1（沿岸域の環境保全に関する講義と実習）	151
家庭：E－1（フードビジネス及びファッションビジネス等に関する講義と実習）	153
家庭：E－2（子ども理解及び子育て理論等に関する講義と実習）	155
看護：F－1（看護の各領域における教授法・教育評価に関する講義と実習）	157
看護：F－2（看護・医療の高度化に対応した看護教育に関する講義と実習）	159
情報：G－1（オープンソースソフトウェアを活用したシステム構築に関する講義と実習）	161
情報：G－2（ネットワークとシステム開発に関する講義と実習）	163
技術：H－1（社会の要請に応える技術分野の指導：生物育成・材料と加工に関する技術を中心として）	165
技術：H－2（社会の要請に応える技術分野の指導：エネルギー変換・情報等に関する技術を中心として）	167
技術：H－3（社会の要請に応える技術分野の指導：情報に関する技術を中心として）	169
家庭：I－1（学校における食育の推進：技術家庭科における食に関する指導）	171
家庭：I－2（人と関わる力を高める幼児理解に関する指導（講義と演習、実習））	173
3. 産業教育実習助手研修	
農業（農業及び農業教育に関する講義等）	175
工業（工業及び工業教育に関する講義等）	177

研修概要

研修名	教職員等中央研修 第1回校長・教頭等研修		
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ		
研修目的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。		
受講対象	滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県その他の小学校・中学校の副校長・教頭 <small>（小・中・高等学校・中等教育学校、幼稚園及び特別支援学校の新任校長（校長就任2年目まで）、園長、副校長、教頭、副園長及び教育委員会、教育センター等に勤務する指導主事、管理主事、研修主事等で、今後、管理運営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者）</small>		
開催期日	平成20年 7月22日（火）～平成20年 7月25日（金） 平成20年 7月30日（水）～平成20年 8月 7日（木）	13日間	
受講人数	計画人数 50 人	受講者数 81 人	参加率 162.0%
開催場所	梅田スカイビル（大阪府大阪市）		

* 全体計画人数 2,100 人、 受講者数 1,612 人、 参加率 76.8%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	73	7	0	0	1	0	81
割合 (%)	90.1	8.6	0.0	0.0	1.2	0.0	
	80	98.8					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・演習は、自分と違う人の考えを聞き、自らの考えも述べるので人とつながるチャンスであった。 ・日常的な研修では行うことができない研修で実り多いものであった。この内容を持ち帰り、還元していきたいと思えます。 ・一流の人、プロフェッショナルの人の話は大変興味深いものがあつた。普段会うことのできないような先生方との出会いが用意されているのが、この研修のすばらしいところだと思う。 ・多方面からのいろんな手法を使った研修だったため、自分の弱点がよくわかつた。早い段階でこのような研修をもっと多くの人がうけられるようになることを望みます。 ・とても大切な講義演習ばかりで今後役に立つ研修でした。朝のプレゼンテーションのアイスブレイクや演習も工夫がこらされていて、目からウロコ状態で、学校でもやってみたく感じました。あのように視点を変える見方や考え方など、だんだん頭が固くなってきた私にはとても有意義に感じました。 ・研修は全て価値あるものばかりで、文句のつけようがありません。ただ、時間的に厳しく、内容を未消化のものがありました。 ・今回の様に教育関係以外の方の生き方人生等を学ぶ研修を今後も取り入れていただけると視野が広がると思います。講座としてスピーチの方法についても入れていただきたいと思えます(スピーチの機会が多いので)。
--

研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修がスクールコンプライアンス、学校組織マネジメント、危機管理、教育指導上の課題の内容が中心となることを明確にし、受講者に対して十分説明を行った。 ・各地域における有効な研修成果の活用を資するため、改訂された学習指導要領に関する講義を新設した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校管理運営上の問題点について協議する時間を増やす。 ・危機管理研修をリスクマネジメントにポイントを絞った内容とし、時間も短縮する。

研修日程(プログラム)

次ページのとおり

**平成20年度教職員等中央研修
第1回校長・教頭等研修(第314回)**

平成20年7月22日(火)～平成20年7月25日(金)

平成20年7月30日(水)～平成20年8月7日(木)

小学校・中学校 副校長・教頭

第1週		7月22日(火)	7月23日(水)	7月24日(木)	7月25日(金)	7月26日(土)	7月27日(日)
9:30～9:45			9:30～9:45 演習説明	9:30～9:45 演習説明	9:30～9:45 演習説明		
午前1		受付	9:45～12:15 教育法規	9:45～12:15 教育法規	9:45～12:15 学校評価		
午前2		10:00～11:15 オリエンテーション	渡部 繁	三ツ角直正	児玉大輔		
午後1		12:30～13:00 開講式	13:30～16:30 実践研究 (学校管理運営演習)	13:30～15:00 教育法規	13:45～15:15 リーダーとなるために 杵屋五司郎		
午後2		13:45～14:45 教育改革の動向		三ツ角直正			
		15:00～16:30 オリエンテーション		15:15～16:30 実践研究	15:30～16:30 オリエンテーション		
第2週	7月28日(月)	7月29日(火)	7月30日(水)	7月31日(木)	8月1日(金)	8月2日(土)	8月3日(日)
9:30～9:45			9:30～9:45 演習説明	9:30～9:45 演習説明	9:30～9:45 演習説明	自由研修	自由研修
午前1			9:45～12:15 教育指導上の課題 (学習指導)	9:45～12:15 教育指導上の課題 (生徒指導)	9:45～12:15 危機管理		
午前2			角屋重樹	河村茂雄	伊原正俊		
午後1			13:30～16:30 教育指導上の課題 (カリキュラム)	13:30～16:30 危機管理	13:30～16:30 危機管理		
午後2			梶田 勲一	伊原正俊	伊原正俊		
第3週	8月4日(月)	8月5日(火)	8月6日(水)	8月7日(木)			
9:30～9:45	9:30～9:45 演習説明	9:30～16:30 学校組織マネジメント	9:30～9:45 演習説明	9:30～9:45 演習説明			
午前1	9:45～11:45 リーダーとなるために		9:45～16:00 学校管理運営演習	9:45～14:45 学校管理運営演習			
午前2	柴田 励司						
午後1	13:30～16:30 実践研究 (学校管理運営演習)						
午後2							
			15:00～16:00 地方行政制度 堀野 晶三				
		16:00～16:30 演習確認	16:15～16:30 閉講式・事務連絡				

研修概要

研修名	教職員等中央研修 第2回校長・教頭等研修		
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ		
研修目的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。		
受講対象	埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、その他の小学校・中学校の副校長・教頭 <small>(小・中・高等学校・中等教育学校、幼稚園及び特別支援学校の新任校長(校長就任2年目まで)、園長、副校長、教頭、副園長及び教育委員会、教育センター等に勤務する指導主事、管理主事、研修主事等で、今後、管理運営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者)</small>		
開催期日	平成20年 8月 5日(火)～平成20年 8月12日(火) 平成20年 8月18日(月)～平成20年 8月22日(金)	13日間	
受講人数	計画人数 50人	受講者数 95人	参加率 190.0%
開催場所	ホテルフロラシオン青山(東京都港区)		

* 全体計画人数 2,100人、受講者数 1,612人、参加率 76.8%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

人数 (人)	割合 (%)	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計		
		大変有意義	おおむね有意義							
		91	95.8	4	4.2	0	0.0	0	0.0	95
		95		100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

- ・管理職として今日的な課題について学ばせていただきました。今後、公立学校として進むべき方向性を自分なりに感じることが出来ました。あとはどれだけ自分自身が学んだことを活かしていけるかどうかだと思います。長期間の運営、本当にありがとうございました。
- ・11日間、大変お世話になりました。どの内容も私にとっては新鮮で刺激のあるものばかりでした。民間の講師のお話は自分の視野の狭さを反省させられるもので有意義でした。この成果を還元する責任と重さを感じます。
- ・危機管理演習(模擬記者会見)は初めての経験で有意義なものでした。他の講師の方々からもたくさん学ぶことができました。
- ・本研修の中心的な内容であった「学校管理運営演習」は、他の副校長先生方との情報交換の場にもなり、刺激を与えてもらえ、大変有意義でした。
- ・盆休みがはいるが、この日程だと参加し易い。時程と研修内容区分(講義と演習)そして会場がとても良かった。
- ・これだけの研修を受けさせてもらえるだけで、自分としてはとても満足しております。ありがとうございました。
- ・素晴らしい講師の皆様の手配等大変だったと思いますが、とても有意義な研修でした。最新の情報(教育法規、学習指導要領等)が得られ、多くの先生方と交流でき、マネジメントや日本の伝統である三味線をお聞かせいただき短期間中身の濃い研修をさせていただきました。支えてくださった先生方に深く感謝申し上げます。格調高い会場で、気分よく学ばせていただき11日間が短く感じました。
- ・やはり理論よりも実践であり、演習を通して得た情報は今後の学校運営に直結するものであった。また、適度な緊張は集中力を高め、研修の効果が高い。さらに人間関係も広まる(深まる)。

研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・研修がスクールコンプライアンス、学校組織マネジメント、危機管理、教育指導上の課題の内容が中心となることを明確にし、受講者に対して十分説明を行った。
- ・各地域における有効な研修成果の活用に資するため、改訂された学習指導要領に関する講義を新設した。

次年度に向けて

- ・学校管理運営上の問題点について協議する時間を増やす。
- ・危機管理研修をリスクマネジメントにポイントを絞った内容とし、時間も短縮する。

研修日程(プログラム)

次ページのとおり

**平成20年度教職員等中央研修
第2回校長・教頭等研修(第315回)**

平成20年8月5日(火)～平成20年8月12日(火)

平成20年8月18日(月)～平成20年8月22日(金)

小学校・中学校 副校長・教頭

第1週		8月5日(火)	8月6日(水)	8月7日(木)	8月8日(金)	8月9日(土)	8月10日(日)
9:30～9:45			9:30～10:45 オリエンテーション	9:30～9:45 演習説明	9:30～9:45 演習説明	自由研修	自由研修
午前1		受付		9:45～12:15 教育法規	9:45～11:45 リーダーとなるために		
午前2		10:00～11:30 オリエンテーション	11:00～12:15 教育法規 菱村幸彦	石津廣司	杵屋五司郎		
午後1		13:00～13:30 開講式	13:30～15:00 教育法規	13:30～15:00 教育法規	13:30～16:30 実践研究 (学校管理運営演習)		
午後2		13:40～14:40 教育改革の動向	菱村幸彦	石津廣司			
		15:00～16:30 オリエンテーション	15:15～16:30 実践研究	15:15～16:30 実践研究			
第2週	8月11日(月)	8月12日(火)	8月13日(水)	8月14日(木)	8月15日(金)	8月16日(土)	8月17日(日)
9:30～9:45	9:30～9:45 演習説明	9:30～9:45 演習説明					
午前1	9:45～11:45 学校経営の課題 (生徒指導)	9:45～12:15 危機管理					
午前2	横山利弘	石川慶子					
午後1	13:00～16:30 危機管理	13:30～16:30 危機管理					
午後2	石川慶子	石川慶子					
第3週	8月18日(月)	8月19日(火)	8月20日(水)	8月21日(木)	8月22日(金)		
9:30～9:45	9:30～9:45 演習説明	9:30～9:45 演習説明	9:30～9:45 演習説明	9:30～9:45 演習説明	9:30～9:45 演習説明		
午前1	9:45～12:15 教育指導上の課題 (学習指導)	9:45～12:15 学校経営の課題 カリキュラムマネジメント	9:45～16:30 学校組織マネジメント	9:45～16:00 学校管理運営演習	9:45～14:45 学校管理運営演習		
午前2	北 俊夫	児島邦宏					
午後1	13:15～15:15 リーダーとなるために	13:30～16:30 実践研究					
午後2	柴田励司				14:45～16:15 地方教育行政制度 堀野晶三		
	15:30～16:30 学習指導要領			16:00～16:30 演習確認	16:15～16:30 閉講式・事務連絡		

研修概要

研修名	教職員等中央研修 第3回校長・教頭等研修		
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ		
研修目的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。		
受講対象	小学校校長・副校長・教頭、中学校校長・副校長・教頭 <small>（小・中・高等学校・中等教育学校、幼稚園及び特別支援学校の新任校長（校長就任2年目まで）、園長、副校長、教頭、副園長及び教育委員会、教育センター等に勤務する指導主事、管理主事、研修主事等で、今後、管理運営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者）</small>		
開催期日	平成20年 9月 4日（木）～平成20年 9月19日（金）	16日間	
受講人数	計画人数 180 人	受講者数 141 人	参加率 78.3%
開催場所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）		

* 全体計画人数 2,100 人、 受講者数 1,612 人、 参加率 76.8%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった		無回答		未回収		合計
	大変有意義	おおむね有意義								
人数 (人)	130	11	0	0	0	0	0	0	141	
割合 (%)	92.2	7.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	141									

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・「還元」をねらいとした、とてもよい研修内容ばかりでした。 ・座学だけでなく演習を行うことで、一層の理解が図られました。やや時間が足りないと感じる演習もあり(組織マネジメント)、時間の十分な確保ができればと思います。 ・オリエンテーションを適切にいただき、見通しをもって研修を受けることができました。 ・教育の今日的課題について、またその解決に必要な方策について、一流の講師の方々の講義を聞くことができたことは大変勉強になるとともに、今後の自校の取り組みに大きな示唆がいただけました。 ・素晴らしい講師の方々にたくさんのお話を学ぶ事が出来、大きな財産となった。一人だけのものにせず、いかに還元していくか責任を重く感じた。 ・講義でそれぞれ概論を学び、演習で着実に自分のものとしていくという流れ、とてもよかったです。 ・大きく変革している教育界、それについての講義をもっと取り入れると現場において役立つのではないかと。また、受講生にもっとまとめられる時間的ゆとりがあればと思う。 ・短い期間で凝縮して実施しているのだと思うが、もう少し時間的にゆとりが欲しかった。

研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修がスクールコンプライアンス、学校組織マネジメント、危機管理、教育指導上の課題の内容が中心となることを明確にし、受講者に対して十分説明を行った。 ・各地域における有効な研修成果の活用を資するため、改訂された学習指導要領に関する講義を新設した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校管理運営上の問題点について協議する時間を増やす。 ・危機管理研修をリスクマネジメントにポイントを絞った内容とし、時間も短縮する。

研修日程(プログラム)

次ページのとおり

**平成20年度教職員等中央研修
第3回校長・教頭等研修(第317回)**

小学校・中学校 校長・副校長・教頭

平成20年9月4日(木)～平成20年9月19日(金)

第1週				9月4日(木)	9月5日(金)	9月6日(土)	9月7日(日)		
8:30～9:00					8:30～9:00 オリエンテーション	自由研修	自由研修		
午前1 9:15～10:30				9:45～10:00 受付	9:15～11:45 実践研究 (学校管理運営演習)				
午前2 10:30～11:45				10:00～11:45 オリエンテーション					
午後1 13:00～14:15				13:00～13:20 開講式	13:00～15:30 教育法規 菱村幸彦				
午後2 14:15～15:30				13:30～14:30 教育改革の動向					
午後3 15:45～17:00				15:15～17:00 オリエンテーション	15:45～17:00 学習指導要領				
第2週	9月8日(月)	9月9日(火)	9月10日(水)	9月11日(木)	9月12日(金)			自由研修	自由研修
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究				
午前1 9:15～10:30	9:15～11:45 教育指導上の課題 (学習指導) 工藤 文三	9:15～15:30 教育指導上の課題 (生徒指導) 嶋崎政男	9:15～15:30 教育法規 松崎勝	9:15～11:45 学校評価 学校評価室	9:15～17:00 危機管理 伊原正俊				
午後1 13:00～14:15	13:00～17:00 研修講師となるための知識・技術			13:00～17:00 危機管理 伊原正俊					
午後2 14:15～15:30									
午後3 15:45～17:00		15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究						
第3週	9月15日(月)	9月16日(火)	9月17日(水)	9月18日(木)	9月19日(金)				
8:30～9:00	自由研修	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究				
午前1 9:15～10:30		9:15～17:00 学校組織マネジメント 木岡一明	9:15～17:00 学校管理運営演習	9:15～15:15 学校管理運営演習	9:15～10:45 リーダーとなるために 北城 格太郎				
午後1 13:00～14:15					11:00～11:20 閉講式				
午後2 14:15～15:30									
午後3 15:45～17:00				15:30～17:00 地方教育行政制度	9月9日(火)17:00～18:00「免許更新制」(文部科学省) 9月11日(木)17:15～17:45「ネットいじめ」(文部科学省)				

研修概要

研修名	教職員等中央研修 第4回校長・教頭等研修							
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ							
研修目的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。							
受講対象	高等学校校長・副校長・教頭 (小・中・高等学校・中等教育学校、幼稚園及び特別支援学校の新任校長(校長就任2年目まで)、園長、副校長、教頭、副園長及び教育委員会、教育センター等に勤務する指導主事、管理主事、研修主事等で、今後、管理運営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者)							
開催期日	平成20年 9月24日(水)～平成20年10月 8日(水)				15日間			
受講人数	計画人数	250	人	受講者数	146	人	参加率	58.4%
開催場所	独立行政法人教員研修センター(茨城県つくば市)							

* 全体計画人数 2,100人、受講者数 1,612人、参加率 76.8%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数(人)	133	13	0	0	0	0	146
割合(%)	91.1	8.9	0.0	0.0	0.0	0.0	
	146						

2. 研修内容に関する主な意見

- ・演習が多く取り入れられて、グループ内での討議を通じて、他県の様子もわかり大変有意義でした。
- ・全国の素晴らしい人達と切磋琢磨することは、人生において貴重な経験になりました。
- ・研修内容を戦略的に企画していただき、大変参考になりました。センターの皆様にご心より感謝申し上げます。
- ・日本一の研修というだけあり環境、講師等大変素晴らしかったと思います。また、教員研修センターの皆様の対応に心から敬意を表し、感謝申し上げます。この研修が日本の教育界に大いに貢献しているといわれるよう、地元に戻り頑張りたいと思います。
- ・研修の各プログラムが充実していたことに満足しているが、時間外に行った各県の情報交換も大変有意義だった。
- ・各教科での意見交換の場があるとよい(そういう面で、リーダー性を発揮しなくてはならないことも多いとおもうので)。
- ・全研修を通じて内容、運営も満足するものであるが、全体的にせかされている感じで余裕がなかった。
- ・演習を取り入れることは賛成であるが、不完全燃焼で終わってしまったものもある。時間配分・確保について検討を望む。

研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・研修がスクールコンプライアンス、学校組織マネジメント、危機管理、教育指導上の課題の内容が中心となることを明確にし、受講者に対して十分説明を行った。
- ・各地域における有効な研修成果の活用を資するため、改訂された学習指導要領に関する講義を新設した。

次年度へ向けて

- ・学校管理運営上の問題点について協議する時間を増やす。
- ・危機管理研修をリスクマネジメントにポイントを絞った内容とし、時間も短縮する。

研修日程(プログラム)

次ページのとおり

**平成20年度教職員等中央研修
第4回校長・教頭等研修(第318回)**

高等学校 校長・副校長・教頭

平成20年9月24日(水)～平成20年10月8日(水)

第1週			9月24日(水)	9月25日(木)	9月26日(金)	9月27日(土)	9月28日(日)
8:30～9:00				8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 オリエンテーション	自由研修	自由研修
午前1 9:15～10:30			9:45～10:00 受付	9:15～15:30 教育法規 松崎 勝	9:15～11:45 実践研究 (学校管理運営演習)		
午前2 10:30～11:45			10:00～11:45 オリエンテーション				
午後1 13:00～14:15			13:00～13:20 開講式		13:00～15:30 教育法規		
午後2 14:15～15:30			13:30～14:30 教育改革の動向		伊勢呂裕史		
午後3 15:45～17:00			15:15～17:00 オリエンテーション	15:45～17:00 学習指導要領	15:45～17:00 実践研究		
第2週	9月29日(月)	9月30日(火)	10月1日(水)	10月2日(木)	10月3日(金)	10月4日(土)	10月5日(日)
8:30～9:00	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	自由研修	自由研修
午前1 9:15～10:30	9:15～15:30 教育指導上の課題 (生徒指導) 飯野真幸	9:15～11:45 教育指導上の課題 (学習指導) 工藤文三	9:15～17:00 学校組織マネジメント 浅野良一	9:15～11:45 学校評価 小松郁夫	9:15～17:00 危機管理 伊原正俊		
午後1 13:00～14:15		13:00～17:00 研修講師となるための知識・技術		13:00～17:00 危機管理 伊原正俊			
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究						
第3週	10月6日(月)	10月7日(火)	10月8日(水)				
8:30～9:00	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究				
午前1 9:15～10:30	9:15～17:00 学校管理運営演習	9:15～15:15 学校管理運営演習	9:15～10:45 リーダーとなるために 鍵山 秀三郎				
午前2 10:30～11:45			11:00～11:20 閉講式				
午後1 13:00～14:15							
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00		15:30～17:00 地方教育行政制度					

9月26日(金)17:00～18:00「免許更新制」(文部科学省)
10月1日(水)17:15～17:45「ネットいじめ」(文部科学省)

研修概要

研修名	教職員等中央研修 第5回校長・教頭等研修					
担当課グループ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ					
研修目的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。					
受講対象	小学校副校長・教頭、幼稚園長 〔小・中・高等学校・中等教育学校、幼稚園及び特別支援学校の新任校長(校長就任2年目まで)、園長、副校長、教頭、副園長及び教育委員会、教育センター等に勤務する指導主事、管理主事、研修主事等で、今後、管理運営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者〕					
開催期日	平成21年 1月 8日(木)～平成21年 1月23日(金)			16日間		
受講人数	計画人数	120人	受講者数	88人	参加率	73.3%
開催場所	独立行政法人教員研修センター(教員研修センター)					

* 全体計画人数 2,100人、受講者数 1,612人、参加率 76.8%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数(人)	81	5	0	0	2	0	88
割合(%)	92.0	5.7	0.0	0.0	2.3	0.0	
	86	97.7					

2. 研修内容に関する主な意見

- ・どの講義・演習も講師の方々も素晴らしかったと思います。
- ・幅広い分野の研修ができ、とても有意義でした。センターの先生方には、大変お世話になりました。
- ・中央研修に参加させていただき、毎日大変有意義な研修を受けることができました。関係の皆様方に衷心より感謝申し上げます、本研修の末長く続くことを切に望みます。
- ・全国から集まっているので、情報交換もでき非常に有益でした。小学校の立場として、幼稚園の方々との交流があるとさらにすばらしいと思いました。幼稚園の先生方で構成されていた班もありましたが、それも当然に必要なですが、その枠組みを解体した班もあると、情報交換ができると思いました。
- ・演習は理解するために効果的であった。
- ・実績のある講師陣で、素晴らしい研修内容だった。
- ・レジュメのない講義は記録も取りにくく、後で活かしにくいので、レジュメは欲しい。
- ・第一線で活躍している講師を迎えての講義等のお話を聞く機会を得て、大変有意義でした。

研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・研修がスクールコンプライアンス、学校組織マネジメント、危機管理、教育指導上の課題の内容が中心となることを明確にし、受講者に対して十分説明を行った。
- ・各地域における有効な研修成果の活用に資するため、改訂された学習指導要領に関する講義を新設した。

次年度に向けて

- ・学校管理運営上の問題点について協議する時間を増やす。
- ・危機管理研修をリスクマネジメントにポイントを絞った内容とし、時間も短縮する。

研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成20年度教職員等中央研修
第5回校長・教頭等研修(第321回)

小学校 副校長・教頭、幼稚園 園長

平成21年1月8日(木)～平成21年1月23日(金)

第1週				1月8日(木)	1月9日(金)	1月10日(土)	1月11日(日)		
8:30～9:00					8:30～9:00 オリエンテーション	自由研修	自由研修		
午前1 9:15～10:30				9:45～10:00 受付	9:15～11:45 実践研究 (学校管理運営演習)				
午前2 10:30～11:45				10:00～11:45 オリエンテーション					
午後1 13:00～14:15				13:00～13:20 開講式	13:00～15:30 教育法規 菱村幸彦				
午後2 14:15～15:30				13:30～14:30 教育改革の動向					
午後3 15:45～17:00				15:15～17:00 オリエンテーション	15:45～17:00 学習指導要領				
第2週	1月12日(月)	1月13日(火)	1月14日(水)	1月15日(木)	1月16日(金)			1月17日(土)	1月18日(日)
8:30～9:00	自由研修	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～11:45 研修講師となるための知識・技術	8:30～9:00 実践研究	自由研修	自由研修		
午前1 9:15～10:30		9:15～15:30 教育法規 清水 幹裕	9:15～15:30 教育指導上の課題 (生徒指導) 國分康孝 藤川章		9:15～17:00 危機管理 伊原正俊				
午前2 10:30～11:45									
午後1 13:00～14:15			教育指導上の課題 【幼稚園長のみ】 神長 美津子	13:00～17:00 危機管理 伊原正俊					
午後2 14:15～15:30									
午後3 15:45～17:00		15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究						
第3週	1月19日(月)	1月20日(火)	1月21日(水)	1月22日(木)	1月23日(金)				
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究				
午前1 9:15～10:30	【幼稚園長のみ】 9:15～15:30 教育指導上の課題 豊田一秀	9:15～17:00 学校組織マネジメント 北神正行	9:15～17:00 学校管理運営演習	9:15～15:15 学校管理運営演習	9:15～10:45 リーダーとなるために 柴田励司				
午前2 10:30～11:45					9:15～11:45 教育指導上の課題 (学習指導) 北俊夫	11:00～11:20 閉講式			
午後1 13:00～14:15					13:00～15:30				
午後2 14:15～15:30					学校評価 天笠茂				
午後3 15:45～17:00					15:45～17:00 実践研究				
								15:30～17:00 地方教育行政制度	1月13日(火)17:00～18:00「免許更新制」(文部科学省) 1月15日(木)17:15～17:45「ネットいじめ」(文部科学省)

研修概要

研修名	教職員等中央研修 第6回校長・教頭等研修		
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ		
研修目的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。		
受講対象	中学校副校長・教頭・指導主事・センター指導主事 (小・中・高等学校・中等教育学校、幼稚園及び特別支援学校の新任校長(校長就任2年目まで)、園長、副校長、教頭、副園長及び教育委員会、教育センター等に勤務する指導主事、管理主事、研修主事等で、今後、管理運営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者)		
開催期日	平成21年 1月27日(火)～平成21年 2月10日(火)	15日間	
受講人数	計画人数 180人	受講者数 148人	参加率 82.2%
開催場所	独立行政法人教員研修センター(茨城県つくば市)		

* 全体計画人数 2,100人、受講者数 1,612人、参加率 76.8%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数(人)	134	14	0	0	0	0	148
割合(%)	90.5	9.5	0.0	0.0	0.0	0.0	
	148						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

- ・一流の講師・第一線で活躍されている講師の講義や講演が受講でき、時代の変化・流れを知ることが出来ました。大変良い勉強をさせていただきました。
- ・演習によって、講義ではできない具体的な体験ができ大変よかった。また、グループ検討で他府県の先生と交流でき、それぞれの地域との違いを理解できた。
- ・危機管理運営演習をはじめ教育法規など身につけておくべき事項が十分盛り込まれており、素晴らしい研修内容であった。
- ・教育の最先端で活躍されている講師の話を伺い、大変勉強になりました。
- ・研修の内容の構成にストーリー性があり理解しながら進んでいったように思う。研修を組み立てるためのポイントを学んだ。
- ・教育法規の弁護士等による専門的な講義は大変有益でした。
- ・豪華な講師陣は魅力の一つです。今後お願いします。
- ・これだけの研修を企画・運営されるのは大変なことだと思います。財政厳しい折、この研修が意義あるものとなるよう、受講生一人一人がこれから努力していかなければいけないと思います。このセンターでの研修がより多くの方々に受講・還元されるよう、具体的な姿を広報されるよう努めていきたいと思ひます。

研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・研修がスクールコンプライアンス、学校組織マネジメント、危機管理、教育指導上の課題の内容が中心となることを明確にし、受講者に対して十分説明を行った。
- ・各地域における有効な研修成果の活用資するため、改訂された学習指導要領に関する講義を新設した。

次年度に向けて

- ・学校管理運営上の問題点について協議する時間を増やす。
- ・危機管理研修をリスクマネジメントにポイントを絞った内容とし、時間も短縮する。

研修日程(プログラム)

次ページのとおり

**平成20年度教職員等中央研修
第6回校長・教頭等研修(第322回)**

中学校 副校長・教頭、指導主事、センター指導主事

平成21年1月27日(火)～平成21年2月10日(火)

第1週		1月27日(火)	1月28日(水)	1月29日(木)	1月30日(金)	1月31日(土)	2月1日(日)
8:30～9:00			8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 オリエンテーション	自由研修	自由研修
午前1 9:15～10:30		9:45～10:00 受付	9:15～11:45 実践研究 (学校管理運営演習)	9:15～15:30 教育指導上の課題 (生徒指導)	9:15～15:30 教育法規		
午前2 10:30～11:45		10:00～11:45 オリエンテーション		清水井一	松崎 勝		
午後1 13:00～14:15		13:00～13:20 開講式	13:00～15:30				
午後2 14:15～15:30		13:30～14:30 教育改革の動向	教育法規 坂田仰				
午後3 15:45～17:00		15:15～17:00 オリエンテーション	15:45～17:00 学習指導要領	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究		
第2週	2月2日(月)	2月3日(火)	2月4日(水)	2月5日(木)	2月6日(金)	2月7日(土)	2月8日(日)
8:30～9:00	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	自由研修	自由研修
午前1 9:15～10:30	9:15～11:45 教育指導上の課題 (学習指導)	9:15～11:45 学校評価	9:15～17:00 危機管理	9:15～17:00 学校管理運営演習	9:15～15:15 学校管理運営演習		
午前2 10:30～11:45	工藤文三	天笠茂	伊原正俊				
午後1 13:00～14:15	13:00～17:00 研修講師となるための知識・技術	13:00～17:00 危機管理					
午後2 14:15～15:30			伊原正俊				
午後3 15:45～17:00					15:30～17:00 地方教育行政制度		
第3週	2月9日(月)	2月10日(火)					
8:30～9:00	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究					
午前1 9:15～10:30	9:15～17:00 学校組織マネジメント 浅野良一	9:15～10:45 リーダーとなるために					
午前2 10:30～11:45		11:00～11:20 閉講式					
午後1 13:00～14:15							
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00							

1月28日(水)17:00～17:30「ネットいじめ」(文部科学省)

1月29日(木)17:00～18:00「免許更新制」(文部科学省)

研修概要

研修名	教職員等中央研修 第7回校長・教頭等研修								
担当課 グループ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ								
研修目的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。								
受講対象	小学校副校長・教頭・指導主事・センター指導主事 〔小・中・高等学校・中等教育学校、幼稚園及び特別支援学校の新任校長(校長就任2年目まで)、園長、副校長、教頭、副園長及び教育委員会、教育センター等に勤務する指導主事、管理主事、研修主事等で、今後、管理運営、教育実践において各地域の中核として活躍が期待される者〕								
開催期日	平成21年 2月12日(木)～平成21年 2月26日(木)				15日間				
受講人数	計画人数	170	人	受講者数	107	人	参加率	62.9%	
開催場所	独立行政法人教員研修センター(茨城県つくば市)								

* 全体計画人数 2,100 人、 受講者数 1,612 人、 参加率 76.8%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった		無回答		未回収		合計
	大変有意義	おおむね有意義								
人数 (人)	96	11	0	0	0	0	0	0	107	
割合 (%)	89.7	10.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	107									

2. 研修内容に関する主な意見

- ・講師の陣容が一流であり、中央研修ならではの感謝しています。今後ともこのような講師陣での研修を続けていただきたいと思います。
- ・有意義な研修の機会を与えてくださり、本当にありがとうございました。素晴らしい仲間との出会い、そして内容の濃い講義、充実した11日間でした。
- ・一人でも多くの先生にこのような機会が与えられるといいと思います。
- ・教育界に必ず広い分野から講師を選んでいただく方向は、今後も是非継続していただきたいと思っております。
- ・研修全体が一連の流れになっており、とてもよかったです。
- ・どの研修も大切なものばかりで、こうした機会に学ぶことができたのは大変ありがたいことでした。ただ、一日の研修プログラムが密で、それぞれの研修について理解を深めることがとても難しかったです。
- ・講義だけでなく演習を取り入れていただくことにより、更に理解が深まったり、実際に体験することで、今後活用するときの留意点に気づくことができました。
- ・演習によっては時間不足で、未消化のものもあったので、その点考慮いただければと思います。

研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・研修がスクールコンプライアンス、学校組織マネジメント、危機管理、教育指導上の課題の内容が中心となることを明確にし、受講者に対して十分説明を行った。
- ・各地域における有効な研修成果の活用に資するため、改訂された学習指導要領に関する講義を新設した。

次年度に向けて

- ・学校管理運営上の問題点について協議する時間を増やす。
- ・危機管理研修をリスクマネジメントにポイントを絞った内容とし、時間も短縮する。

研修日程(プログラム)

次ページのとおり

**平成20年度教職員等中央研修
第7回校長・教頭等研修(第323回)**

小学校 副校長・教頭、指導主事、センター指導主事

平成21年2月12日(木)～平成21年2月26日(木)

第1週				2月12日(木)	2月13日(金)	2月14日(土)	2月15日(日)
8:30～9:00					8:30～9:00 オリエンテーション	自由研修	自由研修
午前1 9:15～10:30				9:45～10:00 受付	9:15～11:45 実践研究 (学校管理運営演習)		
午前2 10:30～11:45				10:00～11:45 オリエンテーション			
午後1 13:00～14:15				13:00～13:20 開講式	13:00～15:30 教育法規 伊勢呂裕史		
午後2 14:15～15:30				13:30～14:30 教育改革の動向			
午後3 15:45～17:00				15:15～17:00 オリエンテーション	15:45～17:00 学習指導要領		
第2週	2月16日(月)	2月17日(火)	2月18日(水)	2月19日(木)	2月20日(金)		
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	自由研修	自由研修
午前1 9:15～10:30	9:15～15:30 教育法規 清水 幹裕	9:15～15:30 教育指導上の課題 (生徒指導) 松田素行	9:15～11:45 教育指導上の課題 (学習指導) 角屋重樹	9:15～11:45 学校評価 小松郁夫	9:15～17:00 危機管理 伊原正俊		
午前2 10:30～11:45							
午後1 13:00～14:15			13:00～17:00 研修講師となるための知識・技術	13:00～17:00 危機管理 伊原正俊			
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究					
第3週	2月23日(月)	2月24日(火)	2月25日(水)	2月26日(木)			
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究			
午前1 9:15～10:30	9:15～17:00 学校組織マネジメント 木岡一明	9:15～17:00 学校管理運営演習	9:15～15:15 学校管理運営演習	9:15～10:45 リーダーとなるために 木村 政雄			
午前2 10:30～11:45				11:00～11:20 閉講式			
午後1 13:00～14:15							
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00			15:30～17:00 地方教育行政制度				
					2月13日(金)17:00～17:30「ネットいじめ」(文部科学省) 2月17日(火)17:00～18:00「免許更新制」(文部科学省)		

研修概要

研修名	教職員等中央研修 第1回中堅教員研修							
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ							
研修目的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。							
受講対象	高等学校教諭 <small>（小・中・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の教員(副校長・教頭を除く)で、今後、管理運営、教育実践において、各地域の中核として活躍が期待され、おおむね35歳以上かつ教職経験10年以上の者）</small>							
開催期日	平成20年 5月 8日（木）～平成20年 6月 3日（火）			27日間				
受講人数	計画人数	180	人	受講者数	151	人	参加率	83.9%
開催場所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

* 全体計画人数 2,100 人、 受講者数 1,612 人、 参加率 76.8%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数	132	18	0	0	1	0	151
割合 (%)	87.4	11.9	0.0	0.0	0.7	0.0	
	150	99.3					

2. 研修内容に関する主な意見

- ・この研修は、私の教員人生において、とてもためになる充実したものでした。植物が太陽の光を浴びたようなものでした。研修センターの先生方、大変有難うございました。
- ・大変充実した時を過ごさせていただきました。ありがとうございました。
- ・基本的に有意義な講義・演習を聞け、大変勉強になりました。講義・演習について適切な評価をして次につなげていただけると、より有意義なものとなることと思います。
- ・国内最高の講師陣の講義を次から次へと受けることができ、とても幸せでした。講義を自分の中に落とし込むという意味でも、最後のレポートとプレゼンでの振り返りが、とても有意義でした。
- ・もっと実践面で役に立つ内容にして欲しい。我々の世代は若手を教育するためにも高度で実践的な内容を求めている(結構わかっている内容もあった)。
- ・センターの方々が高齢ということで選んで下さった講師は本当に素晴らしかったです。有難うございました。
- ・演習がよい割合で取り入れられ、すばらしい構成になっていると思いました。
- ・このように全国から集まった教員が、情報交換できる場がこれからも絶対に必要です。

研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・研修がスクールコンプライアンス、学校組織マネジメント、危機管理、教育指導上の課題の内容が中心となることを明確にし、受講者に対して十分説明を行った。
- ・各地域における有効な研修成果の活用資するため、改訂された学習指導要領に関する講義を新設した。

次年度に向けて

- ・学校評価に関する講義を新設する。

研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成20年度教職員等中央研修
第1回中堅教員研修(第312回)

高等学校 教諭

平成20年5月8日(木)～平成20年6月3日(火)

第1週				5月8日(木)	5月9日(金)	5月10日(土)	5月11日(日)
8:30～9:00					8:30～10:00 オリエンテーション	自由研修	自由研修
午前1 9:15～10:30				9:45～10:00 受付			
午前2 10:30～11:45				10:00～11:45 オリエンテーション	10:15～11:45 地方教育行財政制度 大桃敏行		
午後1 13:00～14:15				13:00～13:20 開講式	13:00～15:30 教育法規		
午後2 14:15～15:30				13:30～14:30 教育改革の動向	伊勢呂裕史		
午後3 15:45～17:00				15:15～17:00 オリエンテーション	15:45～17:00 演習打合せ		
第2週	5月12日(月)	5月13日(火)	5月14日(水)	5月15日(木)	5月16日(金)	5月17日(土)	5月18日(日)
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 演習準備	自由研修	自由研修
午前1 9:15～10:30	9:15～15:30 教育法規 清水 幹裕	9:15～11:45 道徳教育 押谷由夫	9:15～11:45 国際理解教育 多田 孝志	9:15～11:45 危機管理 上地安昭	9:15～17:00 危機管理 石川慶子		
午前2 10:30～11:45							
午後1 13:00～14:15		13:00～15:30 生徒指導	13:00～15:30 キャリア教育	13:00～17:00 危機管理			
午後2 14:15～15:30		下田博次	三村隆男	石川慶子			
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究				
第3週	5月19日(月)	5月20日(火)	5月21日(水)	5月22日(木)	5月23日(金)	5月24日(土)	5月25日(日)
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	自由研修	自由研修
午前1 9:15～10:30	9:15～15:30 カリキュラムマネジメント 蛭田政弘	9:15～15:30 総合的な学習の時間 角屋重樹	9:15～15:30 特色あるカリキュラム編成 (選択講義) 情報教育 小泉カエ ボランティア教育 興沼 寛 健康教育 西岡伸紀 環境教育 見上一幸	9:15～15:30 学習指導 二井正浩	9:15～17:00 学校組織マネジメント 産能大		
午前2 10:30～11:45							
午後1 13:00～14:15							
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 学習指導要領			
第4週	5月26日(月)	5月27日(火)	5月28日(水)	5月29日(木)	5月30日(金)	5月31日(土)	6月1日(日)
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	自由研修	自由研修
午前1 9:15～10:30	9:15～15:30 生徒指導 菅野純	9:15～11:45 生徒指導 木原雅子	9:15～17:00 学校管理運営演習	9:15～17:00 学校管理運営演習	9:15～15:15 学校管理運営演習		
午前2 10:30～11:45							
午後1 13:00～14:15		13:00～17:00 研修講師となるための知識・技術					
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究				15:30～17:00 地方教育行政制度		
第5週	6月2日(月)	6月3日(火)					
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 演習準備					
午前1 9:15～10:30	9:15～11:45 人権教育 森 実	9:15～10:45 リーダーとなるために 藤田 潔					
午前2 10:30～11:45		11:00～11:20 開講式					
午後1 13:00～14:15	13:00～15:30 特別支援教育 上野一彦						
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究						

5月14日(水)17:00～18:00「免許更新制」(文部科学省)

研修概要

研修名	教職員等中央研修 第2回中堅教員研修							
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ							
研修目的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。							
受講対象	小学校教諭 〔小・中・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の教員(副校長・教頭を除く)で、今後、管理運営、教育実践において、各地域の中核として活躍が期待され、おおむね35歳以上かつ教職経験10年以上の者〕							
開催期日	平成20年 7月 7日(月)～平成20年 8月 1日(金)			26日間				
受講人数	計画人数	220	人	受講者数	170	人	参加率	77.3%
開催場所	独立行政法人教員研修センター(茨城県つくば市)							

* 全体計画人数 2,100 人、 受講者数 1,612 人、 参加率 76.8%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数(人)	160	10	0	0	0	0	170
割合(%)	94.1	5.9	0.0	0.0	0.0	0.0	
	170						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

- ・教職員の質の向上が学校の質を決めると思っています。質を向上させるためにもこの研修は大切だと思った。
- ・何より自分を高めることができました。内容はもちろん、高まった自分にできることで地域に役立ちたいと思います。また、多くの仲間をもつことができ、これからもつながっていかれたらと思っています。
- ・1ヶ月間、大変お世話になりました。ここで学んだ、経験したこと全てをこれからの教職生活の中で還元していきます。ありがとうございました。
- ・今後もより多くの教員に研修の機会を与えていただければ、日本の教師も自信をもって仕事に取り組めると思っています。
- ・教育界以外の方の話聞くことは、とても良かった。今後も続けて欲しい。
- ・すばらしい先生ばかりで大変勉強になりました。
- ・それぞれの講師の先生から送られる情報量の多さを考えると、もう少し個人演習・自習の時間を確保したい。

研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・研修がスクールコンプライアンス、学校組織マネジメント、危機管理、教育指導上の課題の内容が中心となることを明確にし、受講者に対して十分説明を行った。
- ・各地域における有効な研修成果の活用に資するため、改訂された学習指導要領に関する講義を新設した。

次年度に向けて

- ・学校評価に関する講義を新設する。

研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成20年度教職員等中央研修
第2回中堅教員研修(第313回)

小学校 教諭

平成20年7月7日(月)～平成20年8月1日(金)

第1週	7月7日(月)	7月8日(火)	7月9日(水)	7月10日(木)	7月11日(金)	7月12日(土)	7月13日(日)
8:30～9:00		8:30～10:00 オリエンテーション	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	自由研修	自由研修
午前1 9:15～10:30	9:45～10:00 受付		9:15～15:30 教育法規	9:15～11:45 国際理解教育	9:15～15:30 生徒指導		
午前2 10:30～11:45	10:00～11:45 オリエンテーション	10:15～11:45 地方教育行財政制度 大桃敏行	松崎 勝	佐藤郡衛	河村茂雄		
午後1 13:00～14:15	13:00～13:20 開講式	13:00～15:30 教育法規		13:00～15:30 キャリア教育			
午後2 14:15～15:30	13:30～14:30 教育改革の動向	坂田仰		鹿嶋研之助			
午後3 15:45～17:00	15:15～17:00 オリエンテーション	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究		
第2週	7月14日(月)	7月15日(火)	7月16日(水)	7月17日(木)	7月18日(金)	7月19日(土)	7月20日(日)
8:30～9:00	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	自由研修	自由研修
午前1 9:15～10:30	9:15～11:45 道徳教育	9:15～11:45 生徒指導	9:15～15:30 カリキュラムマネジメント	9:15～11:45 危機管理	9:15～17:00 危機管理		
午前2 10:30～11:45	七條正典	池島徳大	八尾坂修	飯野眞幸	石川慶子		
午後1 13:00～14:15	13:00～17:00 研修講師となるための知識・技術	13:00～15:30 生徒指導		13:00～17:00 危機管理			
午後2 14:15～15:30		玉井邦夫		石川慶子			
午後3 15:45～17:00		15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 学習指導要領				
第3週	7月21日(月)	7月22日(火)	7月23日(水)	7月24日(木)	7月25日(金)	7月26日(土)	7月27日(日)
8:30～9:00		8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	自由研修	自由研修
午前1 9:15～10:30		9:15～15:30 総合的な学習の時間	9:15～15:30 特色あるカリキュラム編成 (選択講義)	9:15～15:30 学習指導	9:15～17:00 学校組織マネジメント		
午前2 10:30～11:45		嶋野道弘	情報教育 竹野英敏 ボランティア教育 長沼 豊 健康教育 野津有司 環境教育 見上一幸	北俊夫	産能大		
午後1 13:00～14:15							
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00		15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究			
	7月28日(月)	7月29日(火)	7月30日(水)	7月31日(木)	8月1日(金)		
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究		
午前1 9:15～10:30	9:15～11:45 人権教育 有村久春	9:15～17:00 学校管理運営演習	9:15～17:00 学校管理運営演習	9:15～15:15 学校管理運営演習	9:15～10:45 リーダーとなるために 古賀正一		
午前2 10:30～11:45					11:00～11:20 閉講式		
午後1 13:00～14:15	13:00～15:30 特別支援教育						
午後2 14:15～15:30	中井 滋						
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究			15:30～17:00 地方教育行政制度			
					7月9日(水)17:00～18:00「免許更新制」(文部科学省) 7月16日(水)17:10～17:30「ネットいじめ」(文部科学省)		

研修概要

研修名	教職員等中央研修 第3回中堅教員研修								
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ								
研修目的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。								
受講対象	中学校教諭 〔小・中・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の教員(副校長・教頭を除く)で、今後、管理運営、教育実践において、各地域の中核として活躍が期待され、おおむね35歳以上かつ教職経験10年以上の者〕								
開催期日	平成20年 8月 5日(火)～平成20年 8月29日(金)			25日間					
受講人数	計画人数	270	人	受講者数	136	人	参加率	50.4%	
開催場所	独立行政法人教員研修センター(茨城県つくば市)								

* 全体計画人数 2,100人、受講者数 1,612人、参加率 76.8%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数(人)	125	11	0	0	0	0	136
割合(%)	91.9	8.1	0.0	0.0	0.0	0.0	
	136						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> このような素晴らしい研修を少しでも長く続けていって欲しいと思いました。本当に素晴らしい研修でした。 超一流の講師の先生方の講義演習を受講することができたこと、そして素晴らしい環境の中で研修ができたこと、とても感謝しております。 さすがナショナルトレーニングセンターにふさわしいメニューだと思いました。 自校に帰ってから活用できる演習が多く、有意義でした。特に具体的な事例をあげての演習ほど、中味が濃かった。 長期にわたる研修ですが、教育上の諸問題に関する講義や実践に役立つ演習等、今後の教育活動に大いに役立つものばかりでした。よく考えられた素晴らしい研修でした。 教育界で活躍、先進的に取り組みを行われている先生方の講義とともに民間の動向、考え方も取り入れていただけたとよかったですと思っています。 パワーポイントのレジュメのない講義がいくつかありましたが、話を集中して聞くためにもレジュメが欲しいと思いました。 演習を増やしてほしい。研究実践の交流時間がもう少し長くてもよいかと思いました。大変お世話になり、ありがとうございました。
--

研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> 研修がスクールコンプライアンス、学校組織マネジメント、危機管理、教育指導上の課題の内容が中心となることを明確にし、受講者に対して十分説明を行った。 各地域における有効な研修成果の活用に資するため、改訂された学習指導要領に関する講義を新設した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校評価に関する講義を新設する。

研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成20年度教職員等中央研修
第3回中堅教員研修(第316回)

中学校 教諭

平成20年8月5日(火)～平成20年8月29日(金)

第1週		8月5日(火)	8月6日(水)	8月7日(木)	8月8日(金)	8月9日(土)	8月10日(日)
8:30～9:00			8:30～10:00 オリエンテーション	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	自由研修	自由研修
午前1 9:15～10:30		9:45～10:00 受付		9:15～15:30 教育法規	9:15～11:45 国際理解教育		
午前2 10:30～11:45		10:00～11:45 オリエンテーション	10:15～11:45 地方教育行財政制度 窪田真二	清水 幹裕	多田孝志		
午後1 13:00～14:15		13:00～13:20 開講式	13:00～15:30 教育法規		13:00～17:00 研修講師となるための知識・技術		
午後2 14:15～15:30		13:30～14:30 教育改革の動向	坂田仰				
午後3 15:45～17:00		15:15～17:00 オリエンテーション	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究			
第2週	8月11日(月)	8月12日(火)	8月13日(水)	8月14日(木)	8月15日(金)		
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	自由研修	自由研修
午前1 9:15～10:30	9:15～15:30 生徒指導 河村茂雄	9:15～11:45 生徒指導 有村久春	9:15～11:45 道徳教育 小寺正一	9:15～11:45 危機管理 飯野眞幸	9:15～17:00 危機管理 石川慶子		
午前2 10:30～11:45							
午後1 13:00～14:15		13:00～15:30 生徒指導 玉井邦夫	13:00～15:30 キャリア教育 菊池武剋	13:00～17:00 危機管理 石川慶子			
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究				
第3週	8月18日(月)	8月19日(火)	8月20日(水)	8月21日(木)	8月22日(金)	8月23日(土)	8月24日(日)
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	自由研修	自由研修
午前1 9:15～10:30	9:15～15:30 カリキュラムマネジメント 安彦忠彦	9:15～15:30 総合的な学習の時間 吉崎静夫	9:15～15:30 特色あるカリキュラム編成 (選択講義) 情報教育 小泉カエ ボランティア教育 池田 幸也 健康教育 和唐正勝 環境教育 高田研	9:15～15:30 学習指導 清水静海	9:15～17:00 学校組織マネジメント 産能大		
午前2 10:30～11:45							
午後1 13:00～14:15							
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 学習指導要領	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究			
第4週	8月25日(月)	8月26日(火)	8月27日(水)	8月28日(木)	8月29日(金)		
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究		
午前1 9:15～10:30	9:15～11:45 人権教育 福田弘	9:15～17:00 学校管理運営演習	9:15～17:00 学校管理運営演習	9:15～15:15 学校管理運営演習	9:15～10:45 リーダーとなるために 大竹 美喜		
午前2 10:30～11:45					11:00～11:20 閉講式		
午後1 13:00～14:15	13:00～15:30 特別支援教育 花輪敏男						
午後2 14:15～15:30							
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究			15:30～17:00 地方教育行政制度			

8月13日(水)17:00～18:00「免許更新制」(文部科学省)

研修概要

研 修 名	教職員等中央研修 第4回中堅教員研修							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ							
研 修 目 的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。							
受 講 対 象	小学校教諭・中学校教諭 〔小・中・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の教員(副校長・教頭を除く)で、今後、管理運営、教育実践において、各地域の中核として活躍が期待され、おおむね35歳以上かつ教職経験10年以上の者〕							
開 催 期 日	平成20年10月 9日 (木) ～平成20年11月 6日 (木)				29日間			
受 講 人 数	計画人数	180	人	受講者数	127	人	参加率	70.6%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター (茨城県つくば市)							

* 全体計画人数 2,100 人、 受講者数 1,612 人、 参加率 76.8%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	116	11	0	0	0	0	127
割合 (%)	91.3	8.7	0.0	0.0	0.0	0.0	
	127						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

- ・とても充実した研修でした。これからもこのような研修が続くと思います。
- ・中央研修ということで、日本でトップの講師の先生方の講義が聞けたことに感謝しております。研修の機会をいただきましたことを深く感謝します。
- ・講義と演習のバランスがよく、特に演習は課題を自分のものとしてとらえることができ有意義であった。
- ・講義は他の場所、機会でも聞くことができますが、演習はこの場でしかできないので、演習が多いととても勉強になります(経験、校種等様々な方との話し合いは良いと思いました)。
- ・正直なところできるならもう一度この研修に来たいと思うほど内容は充実していました。よく検討されたすばらしいプログラムであったと思う。
- ・限られた時間の中で必要な課題を学習するために過密な日程になっていると感じた。学びの意味を考えるゆとりが欲しい。
- ・演習はいろいろな意味で勉強になったが、もう少し時間が取れば、と思うところがあった。

研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・研修がスクールコンプライアンス、学校組織マネジメント、危機管理、教育指導上の課題の内容が中心となることを明確にし、受講者に対して十分説明を行った。
- ・各地域における有効な研修成果の活用に資するため、改訂された学習指導要領に関する講義を新設した。

次年度に向けて

- ・学校評価に関する講義を新設する。

研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成20年度教職員等中央研修
第4回中堅教員研修(第319回)

小学校・中学校 教諭

平成20年10月9日(木)～平成20年11月6日(木)

	10月9日(木)	10月10日(金)	10月11日(土)	10月12日(日)
第1週				
8:30～9:00		8:30～10:00 オリエンテーション	自由研修	自由研修
午前1 9:15～10:30	9:45～10:00 受付			
午前2 10:30～11:45	10:00～11:45 オリエンテーション	10:15～11:45 地方教育行財政制度 宮腰英一		
午後1 13:00～14:15	13:00～13:20 閉講式	13:00～15:30 教育法規		
午後2 14:15～15:30	13:30～14:30 教育改革の動向	坂田仰		
午後3 15:45～17:00	15:15～17:00 オリエンテーション	15:45～17:00 演習打合せ		
第2週	10月13日(月)	10月14日(火)	10月15日(水)	10月16日(木)
8:30～9:00	自由研修	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 オリエンテーション
午前1 9:15～10:30		9:15～15:30 教育法規 清水 幹裕	9:15～11:45 国際理解教育 佐藤郡衛	9:15～11:45 危機管理 上地安昭
午前2 10:30～11:45				9:15～17:00 危機管理 石川慶子
午後1 13:00～14:15		13:00～17:00 研修講師となるための知識・技術	13:00～17:00 危機管理 石川慶子	
午後2 14:15～15:30				
午後3 15:45～17:00		15:45～17:00 実践研究		
第3週	10月20日(月)	10月21日(火)	10月22日(水)	10月23日(木)
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備
午前1 9:15～10:30	9:15～11:45 道徳教育 藤永芳純	9:15～17:00 学校組織マネジメント 産能大	9:15～11:45 生徒指導 岩永雅也	9:15～11:45 人権教育 梅野正信
午前2 10:30～11:45				9:15～15:30 生徒指導 河村茂雄
午後1 13:00～14:15	13:00～15:30 キャリア教育 鹿嶋研之助	13:00～15:30 生徒指導 石隈利紀	13:00～15:30 特別支援教育 玉井邦夫	
午後2 14:15～15:30				
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究
第4週	10月27日(月)	10月28日(火)	10月29日(水)	10月30日(木)
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 オリエンテーション
午前1 9:15～10:30	9:15～15:30 カリキュラムマネジメント 児島邦宏	9:15～15:30 学習指導 清水静海	9:15～15:30 特色あるカリキュラム編成 (選択講義) 情報教育 堀田龍也 ボランティア教育 長沼 豊 健康教育 川畑徹朗 環境教育 高田研	9:15～15:30 総合的な学習の時間 相澤秀夫
午前2 10:30～11:45				9:15～17:00 学校管理運営演習
午後1 13:00～14:15				
午後2 14:15～15:30				
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 学習指導要領	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究
第5週	11月3日(月)	11月4日(火)	11月5日(水)	11月6日(木)
8:30～9:00	自由研修	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備	8:30～9:00 演習準備
午前1 9:15～10:30		9:15～17:00 学校管理運営演習	9:15～15:15 学校管理運営演習	9:15～10:45 リーダーとなるために
午前2 10:30～11:45				11:00～11:20 閉講式
午後1 13:00～14:15				
午後2 14:15～15:30				
午後3 15:45～17:00			15:30～17:00 地方教育行政制度	

10月15日(水)17:00～18:00「免許更新制」(文部科学省)
10月20日(月)17:00～17:30「ネットいじめ」(文部科学省)

研修概要

研修名	教職員等中央研修 第5回中堅教員研修							
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ							
研修目的	学校の適切な管理運営、特色ある教育活動の推進のための高度、専門的な知識等を修得させ、各地域の中核として教育に取り組む校長、副校長、教頭等を育成する。							
受講対象	小学校教務主任・中学校教務主任・高等学校教務主任 〔小・中・高等学校・中等教育学校及び特別支援学校の教員(副校長・教頭を除く)で、今後、管理運営、教育実践において、各地域の中核として活躍が期待され、おおむね35歳以上かつ教職経験10年以上の者〕							
開催期日	平成20年11月17日(月)～平成20年12月12日(金)				26日間			
受講人数	計画人数	250	人	受講者数	222	人	参加率	88.8%
開催場所	独立行政法人教員研修センター(茨城県つくば市)							

* 全体計画人数 2,100人、受講者数 1,612人、参加率 76.8%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数(人)	205	17	0	0	0	0	222
割合(%)	92.3	7.7	0.0	0.0	0.0	0.0	
	222						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> どの講師の先生方のお話も素晴らしく、メモをとる手が止まることはありませんでした。特に教育法規の清水幹裕先生、道徳教育の横山利弘先生のご講義は、ぜひもう一度受けたいと思いました。 「一流の講師」と説明があったが、本当にその通りだった。内容は勿論のこと、ステージとフロアという距離があったにもかかわらず、講師の豊かな人柄に触れることが多かった。こんな貴重な講義を毎日聞けることは、夢のような日々だった。 講師の先生方のお話は時間を感じさせない、充実したものばかりでした。トップでご活躍されている先生方と毎回集中して受講することができ、感謝しています。 本当に充実した内容の研修を受けることができ、県に帰って「頑張ろう」というパワーをいただきました。 とても有名な講師陣に驚きました。こんないい意味で「ぜいたくな」研修ができたことを幸せに思います。 演習が多く取り入れられて大変良かった。 中央研修の受講者としとしても、今後、センター等を通じて、最新の情報等(講師の方についても)を入手できるようなシステムがあったならば、大変ありがたいです。 講義内容に対して研修期間が短いと感じる。消化不良のような感じを強く感じる。当然、この研修がヒントの手がかりとなることは間違いないが、じっくり自らがこの期間中に考える時間、学習を振り返る時間が欲しかった(現場に戻ると、今以上に時間がないので)。

研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> 研修がスクールコンプライアンス、学校組織マネジメント、危機管理、教育指導上の課題の内容が中心となることを明確にし、受講者に対して十分説明を行った。 各地域における有効な研修成果の活用を資するため、改訂された学習指導要領に関する講義を新設した。 <p>次年度へ向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校評価に関する講義を新設する。

研修日程(プログラム)

次ページのとおり

**平成20年度教職員等中央研修
第5回中堅教員研修(第320回)**

小学校・中学校・高等学校 教務主任

平成20年11月17日(月)～平成20年12月12日(金)

第1週	11月17日(月)	11月18日(火)	11月19日(水)	11月20日(木)	11月21日(金)	11月22日(土)	11月23日(日)		
8:30～9:00		8:30～10:00 オリエンテーション	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	自由研修	自由研修		
午前1 9:15～10:30	9:45～10:00 受付		9:15～15:30 教育法規	9:15～11:45 キャリア教育	9:15～11:45 国際理解教育				
午前2 10:30～11:45	10:00～11:45 オリエンテーション	10:15～11:45 地方教育行財政制度 窪田眞二	清水 幹裕	三村 隆男	森本 敏				
午後1 13:00～14:15	13:00～13:20 開講式	13:00～15:30 教育法規 北神正行		13:00～17:00 研修講師となるための知識・技術	13:00～15:30 (小・中学校)生徒指導 岩永雅也 (高校) 道徳教育 柴原弘志				
午後2 14:15～15:30	13:30～14:30 教育改革の動向								
午後3 15:45～17:00	15:15～17:00 オリエンテーション	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究		15:45～17:00 実践研究				
第2週	11月24日(月)	11月25日(火)	11月26日(水)	11月27日(木)	11月28日(金)			11月29日(土)	11月30日(日)
8:30～9:00	自由研修	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	自由研修	自由研修		
午前1 9:15～10:30		9:15～15:30 生徒指導 早稲田大学 菅野純	9:15～15:30 (小・中学校) 道徳教育 横山利弘 (高校) 生徒指導 (午前) 東京大学大学院 木原雅子 (午後) 群馬大学 下田博次	9:15～11:45 危機管理 中尾政之	9:15～17:00 危機管理 石川慶子				
午後1 13:00～14:15				13:00～17:00 危機管理 石川慶子					
午後2 14:15～15:30									
午後3 15:45～17:00		15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究						
第3週	12月1日(月)	12月2日(火)	12月3日(水)	12月4日(木)	12月5日(金)			12月6日(土)	12月7日(日)
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究			自由研修	自由研修
午前1 9:15～10:30	9:15～15:30 カリキュラムマネジメント (小・中学校) 安彦忠彦 (高校) 中留武昭	9:15～17:00 学校組織マネジメント 産能大	9:15～15:30 特色あるカリキュラム編成 (選択講義) 情報教育 竹野英敏 ボランティア教育 興梠 寛 健康教育 西岡伸紀 環境教育 阿部 治 教育資源の活用 亀井 修	9:15～15:30 学習指導 (小・中学校) 角屋重樹 (高校) 二井正浩	9:15～15:30 総合的な学習の時間 (小・中・高) 村川雅弘				
午後1 13:00～14:15									
午後2 14:15～15:30									
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 学習指導要領		15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究	15:45～17:00 実践研究				
第4週	12月8日(月)	12月9日(火)	12月10日(水)	12月11日(木)	12月12日(金)				
8:30～9:00	8:30～9:00 オリエンテーション	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究	8:30～9:00 実践研究				
午前1 9:15～10:30	9:15～11:45 人権教育 森 実	9:15～17:00 学校管理運営演習	9:15～17:00 学校管理運営演習	9:15～15:15 学校管理運営演習	9:15～10:45 リーダーとなるために 藤原佳代				
午後1 13:00～14:15	13:00～15:30 特別支援教育 花輪敏男				11:00～11:20 閉講式				
午後2 14:15～15:30									
午後3 15:45～17:00	15:45～17:00 実践研究			15:30～17:00 地方教育行政制度		11月19日(水)17:00～18:00「免許更新制」(文部科学省) 11月20日(木)17:00～17:30「ネットいじめ」(文部科学省)			

研修概要

研修名	事務職員研修（小・中学校）					
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第二グループ					
研修目的	学校の組織運営の一翼を担う事務職員として必要な、特色ある教育活動の推進、学校事務体制のマネジメント等に関する専門的な知識等を修得させ、各地域の中核となる事務職員を育成する。					
受講対象	小学校及び中学校の幹部事務職員で、原則として学校事務職員の経験が20年以上の者で、各地域の学校管理運営、学校事務の改善充実、教育改革の推進の取組の中核的な者として期待される者					
開催期日	平成21年2月16日（月）～平成21年2月20日（金）			5日間		
受講人数	計画人数	180人	受講者数	174人	参加率	96.7%
開催場所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）					

* 全体計画人数 360人、 受講者数 325人、 参加率 90.3%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義がなかった	全く無意義だった		無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義						
人数(人)	135	34	1	0	4	0	174	
割合(%)	77.6	19.5	0.6	0.0	2.3	0.0		
	169	97.1						

2. 研修内容に関する主な意見

- ・現在の学校教育や学校事務職員にとって重要となる研修項目を、素晴らしい講師陣のもと拝聴することができ、大変有意義な研修でした。また、全国の同じ学校事務職員と交流ができたことは、今後の学校事務のあり方や学校事務職員のあるべき姿を確立していくためのパワーの源になるものと信じます。
- ・5日間の研修ということで、最初大変不安でしたが、どの講義・演習も大変充実した内容で、とても勉強になりました。今後、この内容をいかに他の方に還元出来るかということが自分にとっての課題になると思います。いつも学校にひとりという立場で勤務している私達にとって、日本全国から集まり情報交換出来たこともとてもよかったです。
- ・5日間で消化するには厳しいぐらいに、盛り沢山の内容だったが、これからの学校での取り組み、又は地区の研究団体のリーダー的立場でのあり方について、非常に参考になることが多く得られた。研修だけに終わらないよう、がんばっていきたいと思います。
- ・研修5日目の発表に向けて、すべての研修が系統だてて設定されており、最終的に近づくほど充実感が高まりました。研修に来る前は何となく重荷だと感じていましたが、このような機会を与えていただいたことに感謝しています。
- ・今までマネジメントや評価について、子どもの学び、成長をはかる学校に本当に必要なのか、疑問な部分がありましたが、今回の研修を受講して、決してそうではなく、子ども達の豊かな学びの為に利用をしていくべきだと分かりました。貴重な機会をありがとうございました。
- ・特に同じ事務職員の実践事例が聞けたことがありがたかった。

研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・新学習指導要領に関する講義を新たに設置した。
- ・学校評価ガイドラインの改訂を踏まえ、学校評価を生かした学校運営に関する講義を増設した。
- ・事例発表者を従来の校長から事務職員に依頼した。

次年度に向けて

- ・学校組織マネジメントの内容を見直す。
- ・演習の進め方についてより具体的にし、演習内容・目的を明確にする。

研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成20年度 事務職員研修(小・中学校) 日程表

2月16日(月)	9:50	10:20	10:50	12:00	13:00	14:00	14:10	15:30	15:45	17:00
	受付	開講式	課題協議1 「教育改革の流れと取組」 文部科学省大臣官房 審議官 前川 喜平 目的:教育改革の流れについて理解する	昼 休 食 憩	課題協議2 「財政制度について」 文部科学省初等中等教育局 財務課教育財政室長 勝山 浩司 目的:財政制度の現状及び課題について理解を深める	休 憩	課題協議3 「新学習指導要領とこれからの学校」 文部科学省初等中等教育局 主任視学官 田中 孝一 目的:新学習指導要領の理念や内容について理解を深める	休 憩	演習1 「自校の取組」 目的:他校の特色ある取組について理解する	
2月17日(火)	9:00	10:20	10:35	11:45	12:45	15:10	15:30	17:00		
	受付	休 憩	課題協議5 「信頼される開かれた学校づくり」 筑波大学大学院人間総合科学研究科 教授 浜田 博文 目的:学校評価を生かした学校運営について、具体的な事例を踏まえ理解する	昼 休 食 憩	事例発表 「特色ある学校運営の取組」 事例発表 (共同実施について) 新潟県上越市立城北中学校 事務主幹 二見 恵美子 目的:各地域で取り組まれている教育改革に係る学校運営の事例を知る	休 憩	演習2 「学校運営を支える学校事務職員の役割」 目的:学校運営に係る学校事務職員の役割について理解を深める			
2月18日(水)	9:00	受付	12:00	13:00	13:00			17:00		
	受付	休 憩	演習3 - 「学校組織マネジメント」 国立教育政策研究所 主任研究官 加藤 崇英 目的:学校組織マネジメントによる望ましい学校運営を図るための検討方法について具体的に理解を深める。	昼 休 食 憩	演習3 - 「学校組織マネジメント」 国立教育政策研究所 主任研究官 加藤 崇英					
2月19日(木)	9:00	受付	12:00	13:00	13:00			17:00		
	受付	休 憩	演習4 「学校におけるリスクマネジメント」 PRRMコンサルティング グループ代表 伊原 正俊 目的:学校における危機管理の手法について理解を深める	昼 休 食 憩	演習5 「学校運営を支える学校事務職員の役割」 文部科学省初等中等教育局 視学官 宮崎 活志 目的:学校運営における課題に対する検討方法の一例を学ぶとともに、今後の学校事務職員の役割を整理する					

2月20日(金)	9:00	11:20	11:30	12:00	12:15
	受付	休 憩	課題協議6 「研修を生かした学校運営の充実を図る方策」 目的:研修内容を整理し、学校運営を支える学校事務職員の役割について理解する	閉講式	

研修概要

研 修 名	事務職員研修（高等学校）								
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ								
研 修 目 的	学校の組織運営の一翼を担う事務職員として必要な、特色ある教育活動の推進、学校事務体制のマネジメント等に関する専門的な知識等を修得させ、各地域の中核となる事務職員を育成する。								
受 講 対 象	高等学校及び特別支援学校の事務長及び同等の事務職員で、各地域の学校事務の改善充実の取組の中核的な役割が期待される者								
開 催 期 日	平成21年1月19日（月）～平成21年1月23日（金）			5日間					
受 講 人 数	計画人数	180	人	受講者数	151	人	参加率	83.9%	
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）								

* 全体計画人数 360人、 受講者数 325人、 参加率 90.3%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計			
	大変有意義	おおむね有意義											
人数 (人)	91	60.3	57	37.7	1	0.7	0	0.0	2	1.3	0	0.0	151
割合 (%)	148		98.0										

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・学校現場ではこのような研修会を受講するチャンスがないので、大変勉強になりました。この研修内容を自分のためばかりではなく、職場や地区の事務職員に還元したいと思います。 ・学校に勤務しながら「学習指導要領」に目を通す機会がなかったが、今回の研修「課題協議1・2」は良い動機付けになった。また、他県の諸事情を良く理解することができた。事務長の立場では、校長（学校）の教育目標を実現するため企画等、計画する機会が多いので「学校組織マネジメント研修」は、今後非常に役に立つ研修でした。 ・研修の内容はいずれも今学校の課題となっているものであり、基礎となる源の部分から講義していただいたので、流れがよくわかり、納得することができました。また、それぞれ演習課題の関わりの中で、改めて深く自校を見つめ直すことができました。また講義ばかりでなく、全国の方と親しく情報交換をさせていただき、視野を広げることができました。 ・リスクマネジメントなど、時間不足を感じるものが多かった。内容的に絞れないのであれば、期間の延長も検討すべきと思う。全体的な研修内容が教師向けという感じが強く、事務職向けに修正した方が良いのではないか。 ・4回にわたる「学校運営の課題と改善策」についての演習は、回を追うごとに中身が充実し、有意義な時間だった。 ・新学習指導要領、学校評価ガイドラインの改訂など、普段じっくり考えることがないことを、分かりやすく説明してもらい、非常に有意義でした。そして学校におけるリスクマネジメントの話があり、今まで深く考えていなかった点を指摘してもらい、こんなところまで配慮が必要だと指導を受け、非常に反省しています。今回研修した事務長や事務室が果たすべき役割りを自分のものにし、今後の学校の改善に向けて頑張ります。
--

研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領に関する講義を新たに設置した。 ・学校評価ガイドラインの改訂を踏まえ、学校評価を生かした学校運営に関する講義を増設した。 ・事例発表者を従来の校長から事務長に依頼した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校組織マネジメントの内容を見直す。 ・演習3の時間配分の再検討や演習内容と目的を明確にするよう見直す。

研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成20年度 事務職員研修（高等学校）日程表

1月19日(月)	10:00	10:30	10:40	11:00	12:30	13:30	15:10	15:25	17:00
		受付	開講式	オリエンテーション	課題協議1 「新学習指導要領とこれからの学校」 文部科学省初等中等教育局 視学官 吉川 成夫 目的：新学習指導要領の理念や内容について理解を深める	昼食	課題協議2 「教育改革と財政制度」 文部科学省初等中等教育局 初等中等教育企画課 教育制度改革室長 佐藤 光次郎 目的：教育改革及び財政制度について理解を深める	休憩	演習1 「自校の取組」 目的：班別演習により、他校の特色ある取組について理解する
1月20日(火)	9:00	10:20	10:30	11:30	12:30	13:30	15:10	15:25	17:00
		受付	課題協議3 「学校評価と学校運営の改善」 文部科学省初等中等教育局 初等中等教育企画課 学校評価室長補佐 児玉 大輔 目的：学校評価ガイドラインの改訂を踏まえ、学校評価の目的とそ の方法について理解する	課題協議4 「信頼される開かれた学校づくり」 筑波大学大学院人間総合科学研究科 教授 浜田 博文 目的：学校評価を生かした学校 運営について、具体的な事例を 踏まえ理解する	昼食	課題協議5 「学校運営を支える事務長の役割」 文部科学省初等中等教育局 初等中等教育企画課 教育制度改革室長 佐藤 光次郎 目的：教育改革及び財政制度について理解を深める	課題協議6 「学校運営を支える事務長の役割」 文部科学省初等中等教育局 初等中等教育企画課 教育制度改革室長 佐藤 光次郎 目的：教育改革及び財政制度について理解を深める	課題協議7 「学校運営を支える事務長の役割」 文部科学省初等中等教育局 初等中等教育企画課 教育制度改革室長 佐藤 光次郎 目的：教育改革及び財政制度について理解を深める	課題協議8 「学校運営を支える事務長の役割」 文部科学省初等中等教育局 初等中等教育企画課 教育制度改革室長 佐藤 光次郎 目的：教育改革及び財政制度について理解を深める
1月21日(水)	9:00	10:50	11:00	12:00	13:00	13:00	15:10	15:25	17:00
		受付	事例発表 「学校運営の課題と改善策について」 9:50 10:00 事例発表 柳本県立宇都宮工業高等学校 主任研究官 金子 友昭 事例発表 埼玉県立大宮高等学校 事務室長 野口 馨 目的：特色ある学校運営の事例を知るとともに、事務長に期待されていることを確認する	演習3 「学校運営を支える事務長の役割」 目的：学校を運営する上で、事務長に求められる役割について課題をもつ	課題協議9 「学校運営を支える事務長の役割」 文部科学省初等中等教育局 初等中等教育企画課 教育制度改革室長 佐藤 光次郎 目的：教育改革及び財政制度について理解を深める	課題協議10 「学校運営を支える事務長の役割」 文部科学省初等中等教育局 初等中等教育企画課 教育制度改革室長 佐藤 光次郎 目的：教育改革及び財政制度について理解を深める	課題協議11 「学校運営を支える事務長の役割」 文部科学省初等中等教育局 初等中等教育企画課 教育制度改革室長 佐藤 光次郎 目的：教育改革及び財政制度について理解を深める	課題協議12 「学校運営を支える事務長の役割」 文部科学省初等中等教育局 初等中等教育企画課 教育制度改革室長 佐藤 光次郎 目的：教育改革及び財政制度について理解を深める	課題協議13 「学校運営を支える事務長の役割」 文部科学省初等中等教育局 初等中等教育企画課 教育制度改革室長 佐藤 光次郎 目的：教育改革及び財政制度について理解を深める
1月22日(木)	9:00	10:50	11:00	12:00	13:00	13:00	15:10	15:25	17:00
		受付	課題協議14 「学校運営を支える事務長の役割」 文部科学省初等中等教育局 初等中等教育企画課 教育制度改革室長 佐藤 光次郎 目的：教育改革及び財政制度について理解を深める	課題協議15 「学校運営を支える事務長の役割」 文部科学省初等中等教育局 初等中等教育企画課 教育制度改革室長 佐藤 光次郎 目的：教育改革及び財政制度について理解を深める	課題協議16 「学校運営を支える事務長の役割」 文部科学省初等中等教育局 初等中等教育企画課 教育制度改革室長 佐藤 光次郎 目的：教育改革及び財政制度について理解を深める	課題協議17 「学校運営を支える事務長の役割」 文部科学省初等中等教育局 初等中等教育企画課 教育制度改革室長 佐藤 光次郎 目的：教育改革及び財政制度について理解を深める	課題協議18 「学校運営を支える事務長の役割」 文部科学省初等中等教育局 初等中等教育企画課 教育制度改革室長 佐藤 光次郎 目的：教育改革及び財政制度について理解を深める	課題協議19 「学校運営を支える事務長の役割」 文部科学省初等中等教育局 初等中等教育企画課 教育制度改革室長 佐藤 光次郎 目的：教育改革及び財政制度について理解を深める	課題協議20 「学校運営を支える事務長の役割」 文部科学省初等中等教育局 初等中等教育企画課 教育制度改革室長 佐藤 光次郎 目的：教育改革及び財政制度について理解を深める
1月23日(金)	9:00	11:20	11:30	12:10	12:25	12:25	15:10	15:25	17:00
		受付	課題協議21 「学校運営を支える事務長の役割」 文部科学省初等中等教育局 初等中等教育企画課 教育制度改革室長 佐藤 光次郎 目的：教育改革及び財政制度について理解を深める	課題協議22 「学校運営を支える事務長の役割」 文部科学省初等中等教育局 初等中等教育企画課 教育制度改革室長 佐藤 光次郎 目的：教育改革及び財政制度について理解を深める	課題協議23 「学校運営を支える事務長の役割」 文部科学省初等中等教育局 初等中等教育企画課 教育制度改革室長 佐藤 光次郎 目的：教育改革及び財政制度について理解を深める	課題協議24 「学校運営を支える事務長の役割」 文部科学省初等中等教育局 初等中等教育企画課 教育制度改革室長 佐藤 光次郎 目的：教育改革及び財政制度について理解を深める	課題協議25 「学校運営を支える事務長の役割」 文部科学省初等中等教育局 初等中等教育企画課 教育制度改革室長 佐藤 光次郎 目的：教育改革及び財政制度について理解を深める	課題協議26 「学校運営を支える事務長の役割」 文部科学省初等中等教育局 初等中等教育企画課 教育制度改革室長 佐藤 光次郎 目的：教育改革及び財政制度について理解を深める	課題協議27 「学校運営を支える事務長の役割」 文部科学省初等中等教育局 初等中等教育企画課 教育制度改革室長 佐藤 光次郎 目的：教育改革及び財政制度について理解を深める

研修概要

研修名	教職員等海外派遣研修（英語教育コース：6ヶ月）							
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研修目的	各地域において英語教育や国際理解教育等を推進する中核的教員を育成するため、優れた自主的調査研究課題を有する者を海外に派遣し、当該国の教育活動への参加や実生活を通じて確かな知識の修得及び指導力の向上を図るとともに、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校並びに幼稚園の新任校（園）長、教頭及び教諭 都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者 							
派遣期間	別紙のとおり							
受講人数	計画人数	25	人	受講者数	17	人	参加率	68.0%
派遣国	別紙のとおり							

* 全体計画人数 100 人、 受講者数 59 人、 参加率 59.0%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数	12	5	0	0	0	0	17
割合 (%)	70.6	29.4	0.0	0.0	0.0	0.0	
	17	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

- ・研修の内容について大変満足しています。先生方も大変熱心で、教師としても学ぶことが多くありました。他国の生徒たちとの交流も貴重な経験となりました。
- ・語学研修では、コースの途中から終了までと、次のコースの最初から途中までだったので、最初から最後まで一つのコースを受けることができると、授業の流れもわかり、カリキュラムの組み方の点で学ぶことも多く、また達成感を得ることができたのではないかと思います。
- ・大学の先生方は全員、我々研修生が本国で直面する現状を理解された上で、授業を展開して下さい、帰国後にすぐつながる研修であったことに、大いに満足しています。

研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・帰国報告会、参加者アンケート、経費面から語学研修機関を2機関から1機関に変更した。
- ・事前研修会の内容を精選し、日程を短縮（3日間から2日間）した。

次年度に向けて

- ・研修成果について、ホームページ等を活用し広めていくようにする。

研修日程(プログラム)

別紙のとおり（32ページ参照）

研修概要

研修名	教職員等海外派遣研修（英語教育コース：2ヶ月）							
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研修目的	各地域において英語教育や国際理解教育等を推進する中核的教員を育成するため、優れた自主的調査研究課題を有する者を海外に派遣し、当該国の教育活動への参加や実生活を通じて確かな知識の修得及び指導力の向上を図るとともに、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校並びに幼稚園の新任校（園）長、教頭及び教諭 都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者 							
開催期日	別紙のとおり							
受講人数	計画人数	50	人	受講者数	31	人	参加率	62.0%
開催場所	別紙のとおり							

* 全体計画人数 100 人、 受講者数 59 人、 参加率 59.0%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数(人)	29	2	0	0	0	0	31
割合(%)	93.5	6.5	0.0	0.0	0.0	0.0	
	31	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

- ・英語教育についてこれまでの国内での研修にはなかった視点の講義が多くとても刺激になった。
- ・英語の能力を伸ばすような授業と、英語教育や授業内容の幅を広げていくような授業とのバランスがとれていて、とても充実した内容の授業を受けることができた。
- ・日本では学べない様々な表現や教授法を学ぶことが出来たことは非常に良かった。出来れば研修先の大学担当者が日本の英語教育の場面をみる機会があれば更に有意義な研修となると思われる。
- ・学校訪問の内容は満足できたが、訪問時期が年度初めとなり、訪問校の予定が1校減ってしまったのは残念だった。

研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・帰国報告会、参加者アンケート、経費面から研修先大学の変更を行った。
- ・事前研修会の内容を精選し、日程を短縮（3日間から2日間）した。

次年度に向けて

- ・研修先大学の研修プログラムを考慮した派遣時期の変更
- ・研修成果について、ホームページ等を活用し広めていくようにする。

研修日程(プログラム)

別紙のとおり（32ページ参照）

研修概要

研修名	教職員等海外派遣研修（国際理解教育コース：3ヶ月）							
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研修目的	各地域において英語教育や国際理解教育等を推進する中核的教員を育成するため、優れた自主的調査研究課題を有する者を海外に派遣し、当該国の教育活動への参加や実生活を通じて確かな知識の修得及び指導力の向上を図るとともに、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校並びに幼稚園の新任校（園）長、教頭及び教諭 ・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにこれに準じる者 							
開催期日	別紙のとおり							
受講人数	計画人数	25	人	受講者数	11	人	参加率	44.0%
開催場所	別紙のとおり							

* 全体計画人数 100 人、 受講者数 59 人、 参加率 59.0%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	11	0	0	0	0	0	11
割合 (%)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	11	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・語学と授業の両面を研修することができ、大変良かったです。 ・ホストスクールでの研修期間は妥当だと思います。様子が全く違う2つの学校を見ることができたのも大変勉強になりました。 ・研修先校で日本の文化、国について紹介したり、体験的な授業を十分組むことができ、子どもたちに理解を深め、興味をもってもらえたことが、とても有意義でした。

研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前研修会の内容を精選し、日程を短縮（3日間から2日間）した。 ・研修に必要な経費の低廉化を進めた。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修プログラム作成について、参加者アンケートでの意見を参考に改善を図る。
--

研修日程(プログラム)

別紙のとおり（32ページ参照）

平成20年度 教職員等海外派遣研修

英語教育コース：6か月

派遣国	派遣先機関	参加人数	事前研修会	派遣期間	帰国報告会
イギリス	エセックス大学	8	4/21-22	6/12 ~ 12/10	2/16 TKP東京駅八重洲ビジネスセンター (東京都中央区)
カナダ	オタワ大学	9	教員研修センター (茨城県つくば市)	6/19 ~ 12/11	
計		17			

英語教育コース：2か月

派遣国	派遣先機関	参加人数	事前研修会	派遣期間	帰国報告会
イギリス	エクセター大学	9	5/12-13 教員研修センター (茨城県つくば市)	6/28 ~ 8/25	2/16 TKP東京駅八重洲ビジネスセンター (東京都中央区)
	バーミンガム大学	8		7/18 ~ 9/15	
アメリカ	サンディエゴ大学	7		7/19 ~ 9/15	
	デンバ - 大学	7		7/20 ~ 9/16	
計		31			

国際理解教育コース：3か月

派遣国	派遣州	参加人数	事前研修会	派遣期間	帰国報告会
アメリカ	ウィスコンシン州団	11	6/9-10 教員研修センター (茨城県つくば市)	9/18 ~ 12/14	2/16 TKP東京駅八重洲ビジネスセンター (東京都中央区)
計		11			

研修概要

研 修 名	学校組織マネジメント指導者養成研修（第1回）							
担 当 課 グ ル ー プ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ							
研 修 目 的	<p>学校の運営に当たっては、校長の示す学校経営の方針のもと、教職員がそれぞれの役割に応じて経営に参画し、業務を機能的・効果的に行うなど、学校が組織として有効に機能することが求められている。</p> <p>本研修では、各地域において、学校組織マネジメントを推進するための研修の企画・実施ができる中核となる指導者を養成することを目的とする。</p>							
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事・管理主事等及び教育センターの指導主事・研修主事等で、学校組織マネジメントの普及・充実または学校組織マネジメント研修の企画・実施を担当する者並びにそれに準ずる者 幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭、教諭、養護教諭、事務長、事務職員等であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 							
開 催 期 日	平成20年 7月 7日（月）～平成20年 7月11日（金）					5日間		
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	133	人	参加率	※
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

全体計画人数 220人、受講者数 248人、参加率 112.7%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数(人)	78	49	0	0	6	0	133
割合(%)	58.6	36.8	0.0	0.0	4.5	0.0	
	127						
	95.5						

2. 研修内容に関する主な意見

- ・理論的な側面及び演習の方法や考え方を身につけることができ、有意義。
- ・今後に活かせることは多かったと思う。自分なりに「マネジメント」について考え、向き合うことができた。
- ・自分自身のマネジメントマインドを育むことができたのと、研修結果を普及していく意欲がもてました。
- ・自分の研修として有意義でしたが、全国の同じ立場の先生方と情報交換できたことがうれしかった。
- ・じっくり取り組むことのできる研修で得るものが多かった。後は自分なりに整理し、経験を積むことで自分を高め、さらに地域で啓発(普及)したい。
- ・具体的な組織マネジメントの理論手法→具体化のプロセスが学べて良かった。講座等に活かしていきたい。
- ・学校組織マネジメントに対する考え方や手法の幅が広がり、大きな成果を得ることができた。
- ・5日間をトータルして、ネットワーク作りという点も含めて、非常に充実した研修でした。研修成果を還元できるものを考えていきたいと思います。

研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・「県市等における学校組織マネジメントに関する研修の実施状況」、「組織的な学校経営確立のための受講者の所掌事項に関する課題」、「地域における組織的な学校経営に関する優れた取組の紹介」などを事前課題として提出することとした。
- ・事前に十分に打合せを行った受講者より、具体的な事例を発表してもらい協議を行った。
- ・事例校に対して組織的な学校経営を確立させる指導を行うことを想定しSWOT分析を行った上で突破口や問題を整理する事例校の分析を持参資料とした。

次年度に向けて

- ・学校組織マネジメントの理論的な理解が全国的に進んでいるため、次年度からは、研修運営を効果的に進めることについて、より実践的な内容を中心としたプログラムとする。

研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成20年度 学校組織マネジメント指導者養成研修(第1回)日程

平成20年 7月 7日(月)～11日(金) 4泊5日 会場:教員研修センター

1日目 7月7日 (月)	9:00	開講式	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	休憩	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00
	講義 教育改革の動向とこれからの学校経営 文部科学省初等中等教育局視学官 永井克昇	オリエンテーション	講義 学校における組織マネジメント実践の視点と学校評価の活用 兵庫教育大学大学院教授 浅野良一														
2日目 7月8日 (火)	9:00	演習 研修・コンサルティンクに係る課題協議	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	休憩	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00
	講義 民間における組織経営改善の視点と手法 カルチュア・コミュニケーション株式会社 取締役C 柴田励司	実践発表 学校組織マネジメントの実際(学校関係者) 研修企画・コンサルティングの実際(教委関係者) 千葉大学教授 天笠茂	演習 学校分析手法の実際(学校戦略マップ作成演習) 国立教育政策研究所主任研究官 加藤崇英 京都教育大学教授 榎原禎宏 新潟大学大学院准教授 雲尾周 兵庫教育大学大学院准教授 大野裕己														
3日目 7月9日 (水)	9:00	講義 学校組織マネジメント研修の手法 国立教育政策研究所主任研究官 加藤崇英	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	休憩	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00
	演習 学校分析手法の実際(学校戦略マップ作成演習) 国立教育政策研究所主任研究官 加藤崇英 京都教育大学教授 榎原禎宏 新潟大学大学院准教授 雲尾周 兵庫教育大学大学院准教授 大野裕己	演習 学校分析手法の実際(学校戦略マップ作成演習) 国立教育政策研究所主任研究官 加藤崇英 京都教育大学教授 榎原禎宏 新潟大学大学院准教授 雲尾周 兵庫教育大学大学院准教授 大野裕己															
4日目 7月10日 (木)	9:00	演習 学校分析手法の実際(学校戦略マップ作成演習) 国立教育政策研究所主任研究官 加藤崇英 京都教育大学教授 榎原禎宏 新潟大学大学院准教授 雲尾周 兵庫教育大学大学院准教授 大野裕己	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	休憩	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00
	演習 学校分析手法の実際(学校戦略マップ作成演習) 国立教育政策研究所主任研究官 加藤崇英 京都教育大学教授 榎原禎宏 新潟大学大学院准教授 雲尾周 兵庫教育大学大学院准教授 大野裕己	演習 学校分析手法の実際(学校戦略マップ作成演習) 国立教育政策研究所主任研究官 加藤崇英 京都教育大学教授 榎原禎宏 新潟大学大学院准教授 雲尾周 兵庫教育大学大学院准教授 大野裕己															
5日目 7月11日 (金)	9:00	演習 研修・コンサルティンクの実際(企画案作成演習) 玉川大学教職大学院教授 小松郁夫 群馬県立高崎女子高等学校校長 飯野真幸	10:00	10:30	11:00	11:30	12:00	休憩	13:00	13:30	14:00	14:30	15:00	15:30	16:00	16:30	17:00
	演習 研修成果の活用(今後の取組計画作成)	閉講式	講義 学校分析手法の活用 国立教育政策研究所主任研究官 加藤崇英														

研修概要

研修名	学校組織マネジメント指導者養成研修（第2回）							
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ							
研修目的	<p>学校の運営に当たっては、校長の示す学校経営の方針のもと、教職員がそれぞれの役割に応じて経営に参画し、業務を機能的・効果的に行うなど、学校が組織として有効に機能することが求められている。</p> <p>本研修では、各地域において、学校組織マネジメントを推進するための研修の企画・実施ができる中核となる指導者を養成することを目的とする。</p>							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事・管理主事等及び教育センターの指導主事・研修主事等で、学校組織マネジメントの普及・充実または学校組織マネジメント研修の企画・実施を担当する者並びにそれに準ずる者 幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭、教諭、養護教諭、事務長、事務職員等であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 							
開催期日	平成20年10月20日（月）～平成20年10月24日（金）					5日間		
受講人数	計画人数	※	人	受講者数	115	人	参加率	※
開催場所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

全体計画人数 220 人、受講者数 248 人、参加率 112.7%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数(人)	61	52	2	0	0	0	115
割合(%)	53.0	45.2	1.7	0.0	0.0	0.0	
	113						
	98.3						

2. 研修内容に関する主な意見

- ・学校現場のマネジメントだけでなく、多くの業務にも応用できるヒントをいただいた。学校現場の良い変容を第一に考え、それに絡む業務にも役立てていきたい。
- ・ここに来なければ聞けない講義や演習を受けることができ、大変参考になりました。
- ・マネジメント研修の内容とともに、全国からの参加者でネットワークが広がったのはよかった。
- ・難しい内容でしたが、意識が変わり、有意義でした。
- ・5日間の研修を受けて、組織マネジメントの理解と指導のための知識と技能は高めることができた。
- ・学校組織マネジメントの必要性や手法について実感しながら理解することができ、有益だった。
- ・マネジメントの重要性・意義を再認識でき、それを手法も含めて、他の人に伝えることの大切さをよく理解できた。今後頑張っていきたい。
- ・ある程度の理解はできたと思うが、指導者として、となると自信がもてない。

研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・「県市等における学校組織マネジメントに関する研修の実施状況」、「組織的な学校経営確立のための受講者の所掌事項に関する課題」、「地域における組織的な学校経営に関する優れた取組の紹介」などを事前課題として提出することとした。
- ・事前に十分に打合せを行った受講者より、具体的な事例を発表をしてもらい協議を行った。
- ・事例校に対して組織的な学校経営を確立させる指導を行うことを想定しSWOT分析を行った上で突破口や問題を整理する事例校の分析を持参資料とした。

次年度に向けて

- ・学校組織マネジメントの理論的な理解が全国的に進んでいるため、次年度からは、研修運営を効果的に進めることについて、より実践的な内容を中心としたプログラムとする。

研修日程(プログラム)

次ページのとおり

研修概要

研 修 名	学校評価指導者養成研修（東部ブロック）							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研 修 目 的	学校が自律的・継続的に教育活動の改善等を行うため、自己評価、学校関係者評価の在り方等、学校評価を円滑に推進するために必要となる知識等を習得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が受講者により行われることを目的とする。							
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県・指定都市・中核市教育委員会等の管理主事、指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 							
開 催 期 日	平成20年10月28日（火）～平成20年10月31日（金）				4日間			
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	127	人	参加率	※
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

全体計画人数 220 人、 受講者数 256 人、 参加率 116.4%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数	85	42	0	0	0	0	127
割合 (%)	66.9	33.1	0.0	0.0	0.0	0.0	
	127						

2. 研修内容に関する主な意見

- ・なぜ学校評価をしなければならないのか、学校評価の必要性が明確になった。あらゆる面で根拠を示しながら、教職員・保護者・学校評議員へ説明し、実施（実践）に向けて大きく前進できそうである。
- ・本県は他県に比べ取組みが遅れており、この4日間は大変有意義であった。自校へ戻り本研修で学んだことを生かし、早速取り組んでいきたい。
- ・私学の一人として、本研修に求める学校評価の在り方を考えての参加であり、その目的が解決取得できたことに満足し感謝いたします。自校・姉妹校は勿論、必要とする（求めている）機関に自信を持って対応してまいります。
- ・学校評価の方向性や国内外の情報が得られた。また各都道府県の事例や先進校の取組みを知り、今後自校のみならず地域での実践時に役立つものとなった。小中高、教委担当者の意見も交換できてよかった。互いに配慮すべきポイントが分ったことと思う。
- ・他県の情報を得た上で、本県の取り組み内容や学校関係者評価の進捗状況を、見直すことができ有意義であった。また他県の関係者と横のつながりが持てたことも、大きな財産となった。本県に学び取ったことを持ち帰り、更に業務を進めていきたいと思っております。
- ・協議を通じて多くのことが実感できました。研修において、受講者同士の考えのすり合わせをすることの意義と、方法を学ぶことができた点が有意義でした。学校関係者評価については、より具体的な事例で委員の人選・運営・評価スキルの育成などについて学べると良いと思います。

研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・本年度新設研修

次年度に向けて

- ・課題協議「国際比較による学校評価」のコマについては、よりニーズのある組織マネジメントや教員評価等、管理運営機能との関わり方や、学校評価を実施しての疎外要因をどうするかなどの講義内容を検討する。
- ・特殊事例ではなく、どこの地域でも実施でき参考になるような事例発表者の選定、時間配分の再検討。
- ・演習の部会は、単に学校種で分けるのではなく、参加者の実態に応じた課題別とすることを検討する。

研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成20年度 学校評価指導者養成研修（東部）
日程表

第1日目 10月28日 (火)	10:00 10:30 受付	11:00 開講式 「これからの学校評価に求められていること」 文部科学省初等中等教育局長 補佐 見玉大輔 ◎目的：学校評価ガイドラインの改訂を踏まえ、学校評価の意義と目的を知る	12:00 13:00 昼休み	13:00 課題協議1 「国際比較から見た学校評価」 筑波大学大学院教授 浜田博文 ◎目的：諸外国の学校評価とわが国の学校評価の比較から、学校評価に関する視野を広める	14:30 14:45 休憩	14:45 課題協議3 「求められるリーダーシップ」 慶應義塾大学大学院准教授 小杉俊哉 ◎目的：効果的な学校評価を進めるにあたり、求められる校長のリーダーシップの在り方について理解を深める	16:15 演習1ー1 「各地域における学校評価の取組」 ◎目的：各地域における学校評価の取組の情報を交換し、学校評価について課題をもつ	17:00
第2日目 10月29日 (水)	9:00 10:20 休憩 演習1ー2 「各地域における学校評価の取組」 国土館大学教授 北神正行 ◎目的：各地域における学校評価の取組の情報交換により学校評価について課題をもつ	10:20 10:30 事例発表 「学校評価の取組～信頼される学校づくりをめざして～」 山形県教育委員会義務教育課 主任指導主事 井上賢一 京都市教育委員会学校指導課 首席指導主事 北尾恵文 京都市立松ヶ崎小学校長 白石悦徳 横浜国立大学教育人間科学部 附属横浜中学校教諭 末岡洋一 ◎目的：先進的な学校評価の取組事例を知るとともに、学校評価の方法について整理し、理解を深める	12:15 13:15 昼休み	13:15 事例協議 「学校評価の実際と学校改善の取組～信頼される学校づくりをめざして～」 全体協議 ※各部会に別れ、事例発表を踏まえでグループ協議 国土館大学教授 北神正行	15:10 15:20 休憩	15:20 講義・演習2 「学校評価の手法とその生かし方～学校関係者評価を意識した自己評価～」 《小学校部会》 北神正行 《国土館大学部会》 北神正行 《中学校部会》 京都市教育委員会学校指導課 首席指導主事 北尾恵文 《高等学校部会》 山梨大学教授 日永龍彦	17:00	
第3日目 10月30日 (木)	9:00 講義・演習3 「学校評価の手法とその生かし方～自己評価の目標、評価項目、評価基準の設定、公表の在り方～」 《小学校部会》 玉川大学教職大学院教授 小松郁夫 《中学校部会》 京都市教育委員会学校指導課首席指導主事 北尾恵文 《高等学校部会》 山梨大学教授 日永龍彦 ◎目的：学校評価の手法についての知識を得るとともに、その生かし方について理解する	10:50 11:00 休憩	11:00 演習4 「学校評価の手法とその生かし方～学校関係者評価の実施と公表の在り方～」 小松郁夫 北尾恵文 日永龍彦	12:00 13:00 昼休み	13:00 13:15 演習5 「学校評価を展開するために～課題の整理、改善策、活用資料作成～」 班別演習 《小学校部会》 玉川大学教職大学院教授 小松郁夫 《中学校部会》 京都市教育委員会学校指導課首席指導主事 北尾恵文 《高等学校部会》 山梨大学教授 日永龍彦 ◎目的：学校評価を効果的に展開するため、本研修成果の活用について課題をもつ	16:00 部会発表	17:00	
第4日目 10月31日 (金)	9:00 演習6 「学校評価の充実に向けて～全体発表・協議～」 ※部会の代表グループ発表（4グループ） 玉川大学教職大学院教授 小松郁夫 山梨大学教授 日永龍彦 ◎目的：学校評価を効果的に展開するための方策について理解する	10:50 11:00 休憩	11:00 課題協議4 「研修講師となるために」 文部科学省初等中等教育局長 補佐 田中孝一 ◎目的：学校評価に関する研修講師となるための課題を整理する	12:00 12:15 閉講式				

研修概要

研 修 名	学校評価指導者養成研修（西部ブロック）							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研 修 目 的	学校が自律的・継続的に教育活動の改善等を行うため、自己評価、学校関係者評価の在り方等、学校評価を円滑に推進するために必要となる知識等を習得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が受講者により行われることを目的とする。							
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県・指定都市・中核市教育委員会等の管理主事、指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 							
開 催 期 日	平成20年12月2日（火）～平成20年12月5日（金）				4日間			
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	129	人	参加率	※
開 催 場 所	新梅田研修センター（大阪府大阪市）							

全体計画人数 220 人、 受講者数 256 人、 参加率 116.4%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数	99	30	0	0	0	0	129
割合 (%)	76.7	23.3	0.0	0.0	0.0	0.0	
	129						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> 協議の時間をたくさんとっていただき、他府県の方と大変有意義な日々をすごせた。また成果物を持って帰る中で、今後の研修に活かしていけるように感じた。 予習が不足だったことはあるのですが、初日のガイダンスで講義や演習のねらい。体系の説明があるととても効果的だったと思います。演習がよかった。時間が短かく本質的なことにふれ始めると終わってしまうというところが残念でした。 学校評価に関する基本的な内容から、実施状況等の現状、具体的な取組み、今後の方向性に至るまで、幅広い研修ができて有意義だった 教育委員会で学校教育委員会、評価、両方を担当しているが学校評価の疑問を解消することができ、教育委員会評価につなげることができた研修でした。有意義な4日間を過ごすことができました。 法改正にともない、市教委として市立幼学校へ指導助官をする立場として本研修会での講演及び具体的フォーマット作成、演習はどれも有意義なものであった。来年用に管理職対象の説明会を開催する。その時に本研修会で研修した内容を本市に合った形で活用したいと考えている。 講義と実習がバランス良く組まれていたと思いました。 全体概要に対する説明（全体講義）の後に、具体的なテーマに則した演習、その後の発表と有機的な連関に基づいた学習システムがとり入れられていたことが、研修の効果を高めたように考える。 講義、演習ともに内容が充実（現状、意味、英との比較、具体的な作成、指導、伝達法等）しており、実り多い研修でありました。

研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> 本年度新設研修 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> 課題協議「国際比較による学校評価」のコマについては、よりニーズのある組織マネジメントや教員評価等、管理運営機能との関わり方や、学校評価を実施しての疎外要因をどうするかなどの講義内容を検討する。 特殊事例ではなく、どこの地域でも実施でき参考になるような事例発表者の選定、時間配分の再検討。 演習の部会は、単に学校種で分けるのではなく、参加者の実態に応じた課題別とすることを検討する。
--

研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成20年度 学校評価指導者養成研修（西部）
日程表

第1日目	10:00 10:30	11:00	12:00 13:00	14:30 14:45	16:15	17:00
12月2日 (火)	受付	開講式 「これからの学校評価に求められること」 文部科学省初等中等教育局教育水準向上PT学校評価室 室長 西田憲史 目的：学校評価ガイドインの改訂を踏まえ、学評価の意義と目的を知る	休み	講義2 「求められるリーダーシップ」 慶應義塾大学大学院准教授 小杉俊哉	講義3 「国際比較から見た学校評価」 福岡大学 高妻紳二郎	演習1-1 「各地域における学校評価の取組」 目的：各地域における学校評価の取組の情報交換により学校評価について課題をもつ
第2日目	9:00	10:10 10:20	12:15 13:15	15:10 15:20	17:00	
12月3日 (水)	演習1-2 「各地域における学校評価の取組」 玉川大学教職大学院教授 小松郁夫 目的：各地域における学校評価の取組の情報交換により学校評価について課題をもつ	講義発表 「学校評価の実践と学校改善の取組～信頼される学校づくりをめざして～」 山形県教育委員会義務教育課 主任指導主事 井上賢一 京都市教育委員会学校指導課 首席指導主事 北尾恵丈 京都市立御所南小学校校長 西孝一郎 佐賀県教育行政策課指導主事 五反田進 佐賀県多々市教育委員会指導主事 原口弘之 佐賀県多々市立東部小学校校長 峰茂樹 目的：先進的な学校評価の取組事例を知るとともに、学校評価の方法について整理し、理解を深める	休み	講義・演習2 「学校評価の手法とその生かし方～学校関係者評価を意識した自己評価～」 《小学校部会》 小松郁夫 玉川大学教職大学院教授 《中学校部会》 大野裕己 兵庫教育大学大学院准教授 《高等学校部会》 日永龍彦 山梨大学教職大学院准教授 岡山大学大学院准教授	休憩	
第3日目	9:00	10:50 11:00	12:00 13:00	13:15	16:00	17:00
12月4日 (木)	講義・演習3 「学校評価の手法とその生かし方～自己評価の目標、評価項目、評価基準の設定、公表の在り方～」 《小学校部会》 玉川大学教職大学院教授 小松郁夫 《中学校部会》 兵庫教育大学大学院准教授 大野裕己 《高等学校部会》 山梨大学教職大学院准教授 日永龍彦 岡山大学大学院准教授 佐藤博志 目的：学校評価の手法についての知識を得るとともに、その生かし方について理解する	講義・演習4 「学校評価の手法とその生かし方～学校関係者評価の実施と公表の在り方～」 小松郁夫 大野裕己 日永龍彦 佐藤博志	休み	演習5 「学校評価を展開するために」 《小学校部会》 玉川大学教職大学院教授 小松郁夫 《中学校部会》 兵庫教育大学大学院准教授 大野裕己 《高等学校部会》 山梨大学教職大学院准教授 日永龍彦 岡山大学大学院准教授 佐藤博志	部会発表	
第4日目	9:00	10:50 11:00	12:00 12:15			
12月5日 (金)	演習6 「学校評価の充実に向けて～全体発表・協議～」 部会の代表グループ発表（4グループ） 玉川大学教職大学院教授 小松郁夫 山梨大学教職大学院准教授 日永龍彦 目的：学校評価を効果的に展開するための方法について理解する	講義・演習4 「研修講師となるために」 文部科学省初等中等教育局 宮崎活志 視学官 目的：学校評価に関する研修講師となるための課題を整理する	閉講式			

研修概要

研 修 名	カリキュラム・マネジメント指導者養成研修							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研 修 目 的	<p>新学習指導要領の告示に伴い、今後さらに、地域の実態等に即した特色ある学校づくりが求められる中、校長や教員においては、学習指導要領の趣旨を踏まえたカリキュラム・マネジメントに関する理解を深め、有効に活用することが重要である。</p> <p>このため、学校においてカリキュラム・マネジメントを展開するための手立て、カリキュラムの自己点検・評価に関する手法等、カリキュラム・マネジメントを円滑に行うために必要となる知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。</p>							
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修及び「総合的な学習の時間コーディネーター養成講座」の講師等としての活動を行う予定である者 							
開 催 期 日	平成20年12月15日（月）～平成20年12月19日（金）				5日間			
受 講 人 数	計画人数	160	人	受講者数	184	人	参加率	115.0%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数	147	36	0	0	1	0	184
割合 (%)	79.9	19.6	0.0	0.0	0.5	0.0	
	183	99.5					

2. 研修内容に関する主な意見

- ・明日に生かせる、明日から実践できる研修内容であった。
- ・5日間の研修の大きな流れが理論→演習→まとめとなっており、カリマネを総体として捉えるのに役に立った。カリマネモデル、演習の際のシートの応用、などは今後の研修講座で活用できそうだし、カリキュラムマネジメントによる改善のPointも資料としてまとめた形で活用できる。
- ・教員研修センターならではの第一線で御活躍されている講師陣と研修形態により、カリキュラム・マネジメントについて幅広い視野をもつことができた。県の研修に生かしていこうと思う。
- ・新教育課程への移行期にむけて、今年度中に指導計画を見なおす必要があるだけに、その際の視点としてこのカリキュラムマネジメントの考え方や手法は、大変有効であると思った。
- ・他の先生方との協働、学び合いの場面が多かったのは大変よかった。プレゼン等の作成物のお土産つきは大変ありがたい。
- ・成果物のデジタルデータをいただけると加工ができてなお良い。
- ・事例について、もう少し話し合える時間があればよかった。
- ・日程的にももう少しゆとりがほしい。特に演習は帰って実践・伝達する意味で、しっかりと時間を確保してほしい。

研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・カリキュラム・マネジメントを学ぶ際のテーマとして従来から扱っている「総合的な学習の時間」に、新学習指導要領において学校全体による取組みが求められている「道徳教育」「言語活動」「キャリア教育」を加え、カリキュラム・マネジメントを実際に展開するための具体的な手法について学ぶための演習を行った。
- ・演習は可能な限り、広い会場に全員が集まって実施し、講師から受講者への指導や、受講者から講師への質問などがスムーズに行えるようにした。

次年度に向けて

- ・カリキュラムの点検・評価の講義の充実を図るため、講義で扱う内容及び講師の選定について検討する。
- ・研修初日のオリエンテーションで、研修のゴール（地域での研修成果活用のための資料作り）について講師から説明し、受講者に準備を促す。

研修日程(プログラム)

次ページのとおり

研修概要

研 修 名	国語力向上指導者養成研修（東部ブロック）							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	学習指導要領の改訂を踏まえて、各教科等において言語活動の充実に取り組むための方策や最新の情報について学び、理解を深め、各都道府県等における研修の講師や各学校への指導・助言を行う指導者を育成する。							
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭（特に研修主任や研究主任のほか教務主任等のカリキュラム作成担当者が望ましい。）であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 							
開 催 期 日	平成20年9月2日（火）～平成20年9月4日（木）				3日間			
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	112	人	参加率	※
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

全体計画人数 220 人、 受講者数 207 人、 参加率 94.1%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	103	9	0	0	0	0	112
割合 (%)	92.0	8.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	112	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

- ・グループワークを通して、一つの取組について具体性を持ち広く考え工夫することができた。
- ・多様な視点から率直な話を聞くことができ、自己理解が深まった。
- ・どの協議や演習をとってみても、大変有意義で勉強になった。
- ・講師の先生方も一流でとても役に立ち、帰県してからの力になるものだった。
- ・他校種や他教科の発表を聞くことができ有意義だった。
- ・他校の先生方と交流を持って、自分の視野が広がった。
- ・国語科の先生の参加が中心だったため、他教科の出席者を増やしたほうがいい。
- ・講義だけでは分らないことも、すぐ質問に答えてくださる方々がいて本当にありがたかった。

研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・研修プログラム作成前に講師に講義を行ってもらうことにより、受講者が作成にスムーズに入れるようにした。
- ・副題に「言語活動の充実」を明記し、周知の徹底を図った。

次年度へ向けて

- ・受講者に対し、指導者養成研修であることを意識づけるため、初日の冒頭に研修のねらいや3日間の研修の流れを説明するコマを新たに設置する。
- ・国語科の担当者だけでなく、他の教科からの受講者が増えるよう、様々な会議等を通じて他の教科からの参加を促す。
- ・学校種ごとの教科間の連携による言語活動の充実に関する方策を学ぶ演習を取り入れる。
- ・海外派遣報告については、その国の具体の事例のみならず、日本の新学習指導要領との関連も含めて講義する。

研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成20年度 国語力向上指導者養成研修～各教科等における言語活動の充実に向けて～日程表（東部ブロック）

1日目	9:30	10:00	10:30	11:45	12:45	13:45	14:00	16:00	16:10	17:00	17:15
9月2日 (火)	受付	開講式	「新学習指導要領における言語活動の充実に向けた教育の展開方策について」 文部科学省初等中等教育局 田中 孝一 主任規学官	屋休み	「イギリスにおける母語教育」 宇都宮大学准教授 森田 香緒里	休憩	「各教科等における言語活動の充実について」 ①国語初等部会 ②国語中等部会 ③社会部会 ④算数・数学部会 ⑤理科部会 ⑥総合的な学習の時間部会 文部科学省初等中等教育局課程課教科調査官（総合的な学習の時間担当・生活担当）	休憩	教員部会 各部会講師	教科別演習 全体会	記録係 参観支援

2日目	9:00	10:20	10:35	11:00	11:15	12:45	13:00	15:30	15:50	17:00		
9月3日 (水)	事例発表・質疑応答 「言語活動の充実に向けた指導実践と課題」 ・埼玉県 草加市立小山小学校 教諭 橋本 大輔 ・宮城県 涌谷町立涌谷中学校 教諭 早坂 正紀 ・京都府 京都市立堀川高等学校 教諭 鶴岡 智志	休憩	コース別演習 【学校全体でのカリキュラム作成コース】 A 初等分科会：山形大学准教授 奥州市立衣川小学校校長 水戸部 修治 B 中等分科会：横浜国立大学教授 藤岡町立藤岡第二中学校教頭 高木 展郎 C 国語分科会：文教大学教授 藤川 ひとみ D 社会分科会：文部科学省初等中等教育局課程課教科調査官（生活担当） 中島 聖巳 E 算数・数学部会：近畿大学講師 鳴島 南 F 総合的な学習の時間部会：姫路市立教育研究所指導主事 水谷 尚人 中島 輝久	休憩	「言語活動の充実に関するカリキュラム作成コース」 ◎目的：言語活動の充実に向けた必要事項を整理する。 【各教科等でのカリキュラム作成コース】 ◎目的：先進校の取組を知り、言語活動の充実に関与する知識・方法を得る。	休憩	休憩	休憩	休憩	休憩	休憩	休憩

3日目	9:00	11:00	11:15	12:45	13:00
9月4日 (木)	研究協議 「学校教育全体における言語活動の充実に向けて」 文部科学省初等中等教育局課程課教科調査官（国語担当） 西辻 正副 信州大学教授 藤森 裕治	休憩	演習 「研修講師となるために」 文部科学省初等中等教育局課程課教科調査官（国語担当） 西辻 正副	閉講式	◎目的：学校教育全体における言語活動の充実について理解を深める。

研修概要

研 修 名	国語力向上指導者養成研修（西部ブロック）							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	学習指導要領の改訂を踏まえて、各教科等において言語活動の充実に取り組むための方策や最新の情報について学び、理解を深め、各都道府県等における研修の講師や各学校への指導・助言を行う指導者を育成する。							
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭（特に研修主任や研究主任のほか教務主任等のカリキュラム作成担当者が望ましい。）であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 							
開 催 期 日	平成20年8月4日（月）～平成20年8月6日（水）				3日間			
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	95	人	参加率	※
開 催 場 所	九州大学（福岡県福岡市）							

全体計画人数 220 人、 受講者数 207 人、 参加率 94.1%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	67	26	2	0	0	0	95
割合 (%)	70.5	27.4	2.1	0.0	0.0	0.0	
	93						
	97.9						

2. 研修内容に関する主な意見

- ・研修の目的が明らかで、講話や事例発表、演習が効果的に組み込まれていてよかった。
- ・大変有意義で研修の成果が十分活用できる。
- ・お互いの意見交流や指導助言を受けて、どんな言語活動が必要なのか具体的話し合いをすることは有意義だった。
- ・学校全体で取組む際の方法や手順を示してもらい、大変参考になった。
- ・研修講師として押さえるポイントが明確であり分りやすかった。
- ・他校の先生方と交流を持てたのはよかった。
- ・きめ細かに研修日程が配慮されていたので、様々な視点から国語力向上に関して学ぶことができた。
- ・短い期間だったが、本当に必要なことを学べる内容であり、協議すべきことが明確であった。

研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・研修プログラム作成前に講師に講義を行ってもらうことにより、受講者が作成にスムーズに入れるようにした。
- ・副題に「言語活動の充実」を明記し、周知の徹底を図った。

次年度に向けて

- ・受講者に対し、指導者養成研修であることを意識づけるため、初日の冒頭に研修のねらいや3日間の研修の流れを説明するコマを新たに設置する。
- ・国語科の担当者だけでなく、他の教科からの受講者が増えるよう、様々な会議等を通じて他の教科からの参加を促す。
- ・学校種ごとの教科間の連携による言語活動の充実に関する方策を学ぶ演習を取り入れる。
- ・海外派遣報告については、その国の具体的な事例のみならず、日本の新学習指導要領との関連も含めて講義する。

研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成20年度 国語力向上指導者養成研修～各教科等における言語活動の充実に向けて～日程表（西部ブロック）

1日	8月4日 (月)	9:30	10:00	10:30	11:45	12:45	13:45	14:00	16:00	16:10	17:00	17:15
		開講式	受付	言葉見直し協賛1 「言語活動の充実に向けた 教育の現状と課題について」	言葉見直し協賛2 「カナダにおける母語教育」	休	休	言葉見直し協賛 「各教科等における言語活動の充実について」	休	休	休	休
				文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 (国語科担当) 富山 哲也 目的：学習指導要領の改訂を踏まえ、言語活動の充実に向けた教育の現状と課題について理解する。	筑波大学大学院 講師 長田 友紀 目的：外国の取組を知り視野を広める。			国語初等部会 国語中等部会 社会部会 算数・数学部会 総合的な学習の時間部会 千葉敬愛短期大学専任講師 文部科学省初等中等教育局教科調査官 (国語担当) 文部科学省初等中等教育局教科調査官 (社会担当) 九州女子大学准教授 関西大学教授 小久保美子 富山 哲也 寺田 登 赤井 利行 黒上 晴夫 各部会講師				

2日	8月5日 (火)	9:00	10:20	10:35	11:00	11:45	12:45	13:00	15:30	15:50	17:00
		事例発表・質疑応答	休	休	休	休	休	休	休	休	休
		「言語活動の充実に向けた指導実践と課題」 ・京都府 京都市立御所南小学校 藤本 鈴香 副教頭 ・広島県 竹原市立忠海中学校 積山 昌典 教諭 ・奈良女子大学附属中等教育学校 副校長 吉田 信也 目的：先進校の取組を知り、言語活動の充実に役立つ知識・方法を得る。	休	休	休	休	休	休	休	休	休
				【各教科等でのカリキュラム作成コース】 A 初等分科会：千葉敬愛短期大学専任講師 小久保 美子 四條畷市立四條畷小学校校長 尾崎 靖二 B 中等分科会：鹿児島国際大学教授 門戸 千幸 廿日市市立七尾中学校校長 目的：言語活動の充実に学校教育全体で取り組むために必要な事項を整理する。	休	休	休	休	休	休	休
				【各教科等でのカリキュラム作成コース】 C 国語分科会：文部科学省初等中等教育局教科調査官 (国語担当) D 社会分科会：文部科学省初等中等教育局教科調査官 (社会担当) E 算数・数学分科会：九州女子大学准教授 F 総合的な学習の時間の時間分科会：兵庫教育大学大学院教授 佐藤 真 目的：言語活動を充実するための方策や指導の工夫などについて理解する。	休	休	休	休	休	休	休

3日	8月6日 (水)	9:00	11:00	11:15	12:45	13:00
		研究協賛	休	休	休	休
		「学校教育全体における言語活動の充実について」 文部科学省初等中等教育局教科調査官 (国語科担当) 広島大学大学院教授 井上 一郎 吉田 裕久 目的：学校教育全体における言語活動の充実について理解を深める。	休	休	休	休
			休	休	休	休
			休	休	休	休

研修概要

研 修 名	道徳教育指導者養成研修（中央指導者研修）							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研 修 目 的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、発達の段階に応じた指導内容の重点化や道徳教育推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開、魅力的な教材の活用等道徳の時間の指導の充実、体験活動や実践活動の推進等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、「道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）」等の講師等としての活動を行う予定である者 							
開 催 期 日	平成20年6月9日（月）～平成20年6月13日（金）				5日間			
受 講 人 数	計画人数	220	人	受講者数	235	人	参加率	106.8%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

* 道徳教育指導者養成研修全体計画人数 880 人、 受講者数 961 人、 参加率 109.2%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	169	51	0	0	10	5	235
割合 (%)	71.9	21.7	0.0	0.0	4.3	2.1	
	220	93.6					

2. 研修内容に関する主な意見

- ・全体を通して研修内容は非常に有意義で、道徳教育についての自分の今までの考え方が間違っていなかったことを再確認・再認識し、今後の教育に対しての意欲が高まったと感じています。全教育活動における道徳教育の重要性をこれからも自分の学校で地道に実践していきたいと考えます。
- ・言葉では表現できないほど充実した5日間でした。施設面、講師陣、研修プログラムすべてにわたって世界に誇れる日本一の研修センターだと思います。また研修に訪れたいと強く思いました。
- ・各地の先生方の生の声（実践・課題）がきけたことは、よい刺激になった。
- ・調査官の話が長時間聞くことができ、あわせて最新の情報が得られ有意義でした。他県の方と道徳以外のことで、情報が得られました。事例発表は3本とも充実しており、参考になりました。特に広島の記事が印象に残りました。特別活動改訂のポイントがよくわかり、今後は道徳とリンクさせていく必要性を認識しました。
- ・高校の学習指導要領の告示前に高校段階での道徳教育の重点化や、義務教育における道徳教育の現状がわかり、大変有意義であった。また、茨城県などの他県の状況もわかり、勉強になった。
- ・高校での道徳教育推進の必要性、進め方、道徳教育の魅力等についてよく理解することができました。

研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・新学習指導要領の趣旨を踏まえた講義内容、および、演習においては新学習指導要領のポイントをテーマとして取り上げ、理解を深める内容とした。
- ・「体験活動」「特別活動」「家庭・地域社会」をテーマに、文科省から研究指定を受けた学校からの事例発表のコマを設定した。
- ・高等学校部会の協議内容が高まるよう、指導助言者を依頼した。

次年度に向けて

- ・演習事前課題のテーマ設定と演習内容の関係性を明確にし、協議内容の焦点化を図る。
- ・模擬授業の目的の明確化と実施方法の検討が必要。

研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成20年度 道徳教育指導者養成研修（中央指導者研修）
日程表

第1日目	6月9日 (月)	10:00	10:30	11:50	12:50	14:40	15:00	17:00
		受付	開講式	課題協議1 「新学習指導要領と道徳教育の課題」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 永田繁雄 谷田増幸	休息	休息	休息	「道徳教育の問題点・課題－発達段階に応じた指導内容の重点化－」 ◎目的：発達の段階に応じた指導内容の重点化について課題をもつ
第2日目	6月10日 (火)	9:00	10:40	10:55	12:35	13:40	15:20	15:30
		課題協議2 「道徳教育推進活動を通して道徳教育」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 杉田 洋 ◎目的：道徳教育における特別活動等の推進の意義や役割について理解する	休息	課題協議3 「豊かな心を育むこれからの道徳教育」 ◎目的：道徳教育全般について理解を深める	休息	事例協議 「豊かな心を育む道徳教育の実践と課題」 ①体験活動：御前崎市立白羽小学校教諭 石原さゆり 伊村洋之 飯塚雅之 山本カヨ ②特別活動：足立区立真緑瀬瀬小学校教諭 山口さゆみ ◎目的：地域社会、呉市立三津口小学校教諭 山口さゆみ ◎目的：先進校の取組を知る	休息	課題協議4 「若者の感性と道徳教育」 江東区立深川第一中学校長 加倉井隆 シンガーソングライター 大野靖之 ◎目的：教育全般について視野を広める
第3日目	6月11日 (水)	9:00	10:30	12:00	13:00	13:40	16:15	16:30
小・中学校部会		道徳教育推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開 (体験活動「心のノート」の生かし方も含む) 2班：杉並区立杉並第八小学校長 高島盛隆 5班：西尾市立立平小学校長 名倉裕一 8班：相模原市立相模原中学校長 藤村公三郎 10班：久喜市教育委員会指導主事 堀内俊吾 ◎目的：テーマごと現在の現状、課題、解決策等について知識・方法を得る	休息	休息	休息	休息	休息	休息
高等学校部会		高等学校部会協議 「人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 谷田増幸 ◎目的：高等学校における道徳教育とは何かを理解する	休息	事例発表 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践と課題」 ◎事例> 山梨県立韮崎工業高等学校教諭 菊島圭一 ◎目的：先進校の取組を知る	休息	休息	休息	休息
第4日目	6月12日 (木)	9:00	10:30	10:40	12:00	13:00	14:30	14:45
小・中学校部会		小・中学校部会協議 「新学習指導要領の視点を生かす道徳の時間の充実への取組」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 永田繁雄 ◎目的：「道徳の時間」について理解を深め、学習指導案作成等に生かす	休息	休息	休息	休息	休息	休息
高等学校部会		高等学校協議 「高等学校における人間としての在り方生き方に関する教育の充実に向けて」 高1グループ：鳴門教育大学教諭 兼松肇郎 高3グループ：くらしき作陽大学教諭 秋山博正 ◎目的：高等学校における道徳教育を充実するための知識・方法を得る	休息	事例発表 「道徳の時間」の学習指導案作成と進め方等について知識・方法を得る	休息	休息	休息	休息
第5日目	6月13日 (金)	9:00	10:10	10:20	12:00	12:20	12:50	17:00
		研究協議 「道徳教育の充実に向けて」 文部科学省初等中等教育局 教育課程課教科調査官 永田繁雄 谷田増幸 ◎目的：道徳教育の指導者となつたための理解を深める	休息	研究協議5 「研修講師となるために」 文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 永田繁雄 谷田増幸 ◎目的：道徳教育についての理解を深め、各自が本研修の成果等をまとめる	休息	休息	休息	休息

研修概要

研修名	道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）北海道・東北ブロック							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研修目的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、発達の段階に応じた指導内容の重点化や道徳教育推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開、魅力的な教材の活用等道徳の時間の指導の充実、体験活動や実践活動の推進等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 							
開催期日	平成20年8月6日（水）～平成20年8月8日（金）				3日間			
受講人数	計画人数	※	人	受講者数	128	人	参加率	※
開催場所	山形テルサ（山形県山形市）							

*道徳教育指導者養成研修全体計画人数 880 人、受講者数 961 人、参加率 109.2%
道徳教育ブロック別指導者研修計画人数 660 人、受講者数 726 人、参加率 110.0%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数	96	27	0	0	5	0	128
割合 (%)	75.0	21.1	0.0	0.0	3.9	0.0	
	123	96.1					

2. 研修内容に関する主な意見

- ・今回、道徳教育指導者養成研修に参加させてもらい大変感謝しております。特に谷田先生や宮川先生、新宮先生や永田先生など県内にはなかなか聞くことのできない貴重なお話を聞くことができ、大変勉強になりました。この研修をきっかけにさらに自分自身を高めていくと同時に機会をみつけて、できれば普及するように努めていきたいと思えます。3日間ありがとうございました。
- ・H21年度より本格実施する道徳教育について、学習指導要領の改善事項・内容をはじめ、具体的な協議・演習をしながら道徳教育への取り組みの意欲を新たにしました。まず今できることは何か、来年度やらなければならないことは何かを具体的につかむことができた。育てたい子ども像を明確にし、学校全体でとりくんでいく時、計画づくりや共通理解、そして授業づくりが重要であることを再確認できた。研修の機会を得ましたことに深く感謝いたします。ありがとうございました。
- ・他の県の人との交流や実践を紹介し合う機会はありませんので、今回、いろいろな人の実践を聞いたり話し合ったりすることができて、とても有意義だった。また、指導者を養成する研修だけあって、発表内容も道徳をきちんとやっていないとわからないような内容ばかりで、レベルの高い話し合いに参加できてとても勉強になったし、楽しかった。
- ・講話と演習がバランスよく組まれていたのがよかった。演習では、先生方の工夫に富んだ実践を聞くことができ、有意義だった。職場にもどり研修等で生かしたいと思う。

研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・新学習指導要領の趣旨を踏まえた講義内容、および、演習においては新学習指導要領のポイントをテーマとして取り上げ、理解を深める内容とした。
- ・「体験活動」「特別活動」「家庭・地域社会」をテーマに、文科省から研究指定を受けた学校からの事例発表のコマを設定した。
- ・特別活動等の道徳教育における充実の観点から、中央研修と同様の講義のコマを追加した。
- ・高等学校部会の協議内容が高まるよう、指導助言者を依頼した。

次年度へ向けて

- ・演習事前課題のテーマ設定と演習内容の関係性を明確にし、協議内容の焦点化を図る。

研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成20年度 道德教育指導者養成研修（北海道・東北ブロック）

日 程 表

第1日目		9:15 9:45		10:30		12:00		13:10		14:40 15:00		17:00	
8月6日 (水)		受講	開講式	成果発表協議 1 「新学習指導要領と道德教育の課題」 文部科学省教育課程課教科調査官 谷田 増幸 ◎目的：新学習指導要領の趣旨を踏まえ、道德教育の現状と課題について理解する		休み	成果発表協議 2 「体験活動や実践活動を通じた道德教育」 日本体育大学教授 宮川 八岐 ◎目的：道德教育における特別活動等の推進の意義や役割について理解する	演習 1 「道德教育の問題点・課題—発達段階に応じた指導内容の重点化—」 ◎目的：発達の段階に応じた指導内容の重点化について課題をもつ	休息				
第2日目		9:50 10:10		12:30		13:40		15:25 15:40		17:00			
8月7日 (木)	小・中学校部会	協議 1 「中央研修で学んだこと」 ◎目的：テーマごとの現状、課題、解決策等について知識・方法を得る	演習 2 「道德教育推進教師を中心とした指導体制と道德教育の展開（体験活動、『心のノート』の生かし方も含めて）」	休み	演習 3 「道德の授業づくり（魅力的な教材の開発と活用を含めて）と道德教育の評価」	演習 3 「人間としての在り方生き方に関する教育の各教科等における具体的な教材研究・実践」	発表・協議 「高等学校における人間としての在り方生き方に関する教育の充実に向けて」	休息					
	高等学校部会	協議 1 「人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 講師・指導助言者 鳴門教育大学教授 兼松 儀郎 ◎目的：高等学校における道德教育とは何かを理解するとともに、テーマごとの現状、課題、解決策等について知識・方法を得る	事例発表 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践と課題」 岡山県立総社南高等学校 教諭 津島 速人	演習 2 「学校の教育活動全体を通じて行う人間としての在り方生き方に関する教育の展開」	演習 3 「人間としての在り方生き方に関する教育の各教科等における具体的な教材研究・実践」	発表・協議 「高等学校における人間としての在り方生き方に関する教育の充実に向けて」	休息						
第3日目		8:40		10:10 10:20		11:50 12:00							
8月8日 (金)		協議 3 「豊かな心を育むこれからの道德教育」（仮題） 淑徳大学名誉教授 新宮 弘識 ◎目的：道德教育全般について理解を深める	協議 4 「研修講師となるために」 文部科学省教育課程課 教科調査官 永田 繁雄 ◎目的：道德教育についての理解を深め、各自が本研修の成果等をまとめる	閉講式									

研修概要

研修名	道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修） 関東・甲信越ブロック							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研修目的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、発達の段階に応じた指導内容の重点化や道徳教育推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開、魅力的な教材の活用等道徳の時間の指導の充実、体験活動や実践活動の推進等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 							
開催期日	平成20年8月18日（月）～平成20年8月20日（水）			3日間				
受講人数	計画人数	※	人	受講者数	147	人	参加率	※
開催場所	前橋テルサ（群馬県前橋市）							

*道徳教育指導者養成研修全体計画人数 880人、受講者数 961人、参加率 109.2%
 道徳教育ブロック別指導者研修計画人数 660人、受講者数 726人、参加率 110.0%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	98	49	0	0	0	0	147
割合 (%)	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	
	147		100.0				

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・指導要領、解説書、書籍からだけでは理解しにくいことを、わかりやすく講義していただき、とても勉強になりました。演習では他県の様子、道徳教育への具体的な取り組みを知ることができ、自分の学校へ戻ってすぐに活用していきたいと考えております。今回の研修をこれからの教育活動に生かしていきたいと思っております。 ・文科省調査官等、講師による具体的な話が大変役に立ちました。何よりも先生方の熱意が感じられました。演習では他県の先生方との議論があり、自分の実践を積み上げる上で、また道徳を推進していく上で大いに参考になりました。また自分の立場における責任の重さを痛感させられました。今回の研修で得たことを地域に持ち帰り広めたいと考えております。ありがとうございました。 ・これからの道徳教育における課題を理解し、責任と自覚を高めることができた。研究校や他県の取組が大変よい刺激となり、参考になった。内容も時間配分もとてもよかったと思っております。 ・今日的な課題の講義で大変参考になった。また演習では実践発表、意見交換で課題が明確になり、これからの実践に役立つものであった。 ・道徳教育推進教師としての役割の大きさと、自身の課題をいくつかもつことができた有意義な研修会となった。レポートをもとにしたグループ討議も期待以上のものがあつた。これからの道徳教育の方向性を学ぶことができた。（特に文科省の永田先生と阪大の藤永先生のお話は心に響いた）

研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領の趣旨を踏まえた講義内容、および、演習においては新学習指導要領のポイントをテーマとして取り上げ、理解を深める内容とした。 ・「体験活動」「特別活動」「家庭・地域社会」をテーマに、文科省から研究指定を受けた学校からの事例発表のコマを設定した。 ・特別活動等の道徳教育における充実の観点から、中央研修と同様の講義のコマを追加した。 ・高等学校部会の協議内容が高まるよう、指導助言者を依頼した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習事前課題のテーマ設定と演習内容の関係性を明確にし、協議内容の焦点化を図る。
--

研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成20年度 道德教育指導者養成研修（関東・甲信越ブロック）

日 程 表

第1日目

8月18日 (月)	9:15 9:45	9:30 10:30	12:00 13:10	14:40 15:00	17:00
	受付	開講式	昼休み	演習1	17:00
		「新学習指導要領と道德教育の課題」 文部科学省教育課程課 教科調査官 永田 繁雄 ◎目的：新学習指導要領の趣旨を踏まえ、道德教育の現状と課題について理解する	「体験活動や実践活動を通じた道德教育」 文部科学省初等中等教育局 視学官 森嶋 昭伸 ◎目的：道德教育における特別活動等の推進の意義や役割について理解する	「道德教育の問題点・課題—発達の段階に応じた指導内容の重点化—」 ◎目的：発達の段階に応じた指導内容の重点化について課題をもつ	

第2日目

8月19日 (火)	9:00 9:50 10:10	12:30 13:40	15:25 15:40	17:00
	協義1 「中央研修で学んだこと」 ◎目的：テーマごとの現状、課題、解決策等について知識・方法を得る	演習2 「道德教育推進教師を中心とした指導体制と道德教育の展開（体験活動、『心のノート』の生かし方も含めて）」 昼休み	演習3 「道德の授業づくり（魅力的な教材の開発と活用を含めて）」と「道德教育の評価」 休憩	発表・協義
	「人間としての在り方生き方に関する教育の展開」 福岡県立ありあり新世高等学校 教諭 田口 博信	「学校の教育活動全体を通じ、在り方生き方に関する教育の展開」 人間としての在り方生き方に関する教育の各教科等における具体的な教材の研究・実践	「人間としての在り方生き方に関する教育の各教科等における具体的な教材の研究・実践」 休憩	発表・協義 「高等学校における人間としての在り方生き方に関する教育の充実に向けて」

第3日目

8月20日 (水)	9:00 9:30 10:45	12:15 12:30
	演習3 「豊かな心を育むこれからの道德教育」(仮題) 大阪教育大学教育学部 教授 藤永 芳純 ◎目的：道德教育全般について理解を深める	演習4 「研修講師となるために」 文部科学省教育課程課 教科調査官 谷田 増幸 ◎目的：道德教育についての理解を深め、各自が本研修の成果をまとめる

研修概要

研修名	道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）東海・北陸ブロック							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研修目的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、発達の段階に応じた指導内容の重点化や道徳教育推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開、魅力的な教材の活用等道徳の時間の指導の充実、体験活動や実践活動の推進等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 							
開催期日	平成20年11月26日（水）～平成20年11月28日（金）				3日間			
受講人数	計画人数	※	人	受講者数	117	人	参加率	※
開催場所	じゅうろくプラザ（岐阜県岐阜市）							

* 道徳教育指導者養成研修全体計画人数 880 人、 受講者数 961 人、 参加率 109.2%
 道徳教育ブロック別指導者研修計画人数 660 人、 受講者数 726 人、 参加率 110.0%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	82	35	0	0	0	0	117
割合 (%)	70.1	29.9	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領が施行されるにあたり、いろいろとわからないこと、また自分の学校の進むべき道について悩んでいたことなど多かったが、今回の研修に参加でき、いろいろなヒント・道筋を示していただけでよかった。 ・学習指導要領の改訂のポイントや道徳教育の課題等がよくわかりました。また各県の先生方の具体的な実践もきけ、すぐに取り入れたいと思うことばかりでした。三日目の課題協議は、道徳教育を担う人間としての一番大切な部分を教えていただきました。本当に勉強になったと思います。 ・いろいろな先生方（中央講師）の話聞き、学習指導要領の改訂に伴う様々なことがよくわかった。まだ自分のものにするには時間がかかるが、資料・記録などを読み返して、自校や各関係機関に広めたいと思った。他府県の先生方の取り組みや情報などがわかり大変よかった。 ・新学習指導要領の内容について、講師の先生からくり返しお話をいただき、確かなものとなりました。また学習指導要領にかかっている内容の行間やそこまでの経緯等、奥深いところまで聞くことができ、学習指導要領の内容を点ではなく線や面までのとらえをすることができました。演習では自校の実践や自校での役割について学習指導要領の内容とのズレを自覚することができ、実践への意欲をもつことができました。 ・道徳の指導体制づくりや推進教師の役割など、以前から勉強したいと思っていたことが3日間の研修でよく分かりました。各県の先生方と話し合うことで、それぞれの地域での良い実践例なども知ることができ、今後に生かしていきたいと思いました。

研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領の趣旨を踏まえた講義内容、および、演習においては新学習指導要領のポイントをテーマとして取り上げ、理解を深める内容とした。 ・「体験活動」「特別活動」「家庭・地域社会」をテーマに、文科省から研究指定を受けた学校からの事例発表のコマを設定した。 ・特別活動等の道徳教育における充実の観点から、中央研修と同様の講義のコマを追加した。 ・高等学校部会の協議内容が高まるよう、指導助言者を依頼した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習事前課題のテーマ設定と演習内容の関係性を明確にし、協議内容の焦点化を図る。
--

研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成20年度 道德教育指導者養成研修（東海・北陸ブロック）

日 程 表

第1日目	9:45	10:30	12:00	13:10	14:40	15:00	17:00		
11月26日 (水)	受付	開講式	言葉是直協言義 1 「新学習指導要領と道德教育の課題」 文部科学省教育課程課 教科調査官 永田 繁雄 目的：新学習指導要領の趣旨を踏まえ、道德教育の現状と課題について理解する	昼 休 み	言葉是直協言義 2 「体験活動や実践活動を通じた道德教育」 文部科学省初等中等教育局 視学官 森嶋 昭伸 目的：道德教育における特別活動等の推進の意義や役割について理解する	休 憩	演習 1 「道德教育の問題点・課題 発達段階に応じた指導内容の重点化」 目的：発達段階に応じた指導内容の重点化について課題をもつ		
	第2日目								
11月27日 (木)	小・中学校部会	9:00	9:50	10:10	12:30	13:40	15:25	15:40	17:00
	高等学校部会	9:00	10:30	10:45	12:00	13:10	15:45	16:00	17:00
協言義 1 「中央研修で学んだこと」		休 憩		演習 2 「道德教育推進教師を中心とした指導体制と道德教育の展開（体験活動、『心のノート』の生かし方も含めて）」 目的：テーマごとの現状、課題、解決策等について知識・方法を得る		休 憩		発表・協言義	
協言義 1 「人間としての在り方生き方に関する教育の展開」		休 憩		事例発表 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践と課題」 熊本県立熊本商業高等学校 教諭 村上 力人		演習 2 「学校の教育活動全体を通じて行う人間としての在り方生き方に関する教育の展開」		演習 3 「人間としての在り方生き方に関する教育の各教科等における具体的な教材研究・実践」	
講師・指導助言者 くらしき 作陽大学 教授 秋山 博正		休 憩		発表・協言義 「高等学校における人間としての在り方生き方に関する教育の充実に向けて」		休 憩		休 憩	
目的：高等学校における道德教育とは何かを理解するとともに、テーマごとの現状、課題、解決策等について知識・方法を得る		休 憩		休 憩		休 憩		休 憩	
第3日目									
11月28日 (金)	9:00	10:30	10:45	12:15	12:30				
	言葉是直協言義 3 「豊かな心を育むこれからの道德教育」(仮題) 国立大学法人高知大学教育学部 附属教育実践総合センター 教授 田沼 茂紀 目的：道德教育全般について理解を深める		休 憩		言葉是直協言義 4 「研修講師となるために」 兵庫教育大学 特任教授 小寺 正一 目的：道德教育についての理解を深め、各自が本研修の成果等をまとめる		閉 講 式		

研修概要

研 修 名	道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）近畿ブロック							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研 修 目 的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、発達の段階に応じた指導内容の重点化や道徳教育推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開、魅力的な教材の活用等道徳の時間の指導の充実、体験活動や実践活動の推進等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 							
開 催 期 日	平成20年10月8日（水）～平成20年10月10日（金）				3日間			
受 講 人 数	計画人数		人	受講者数	86	人	参加率	
開 催 場 所	六甲荘（兵庫県神戸市）							

* 道徳教育指導者養成研修全体計画人数 880 人、受講者数 961 人、参加率 109.2%
道徳教育ブロック別指導者研修計画人数 660 人、受講者数 726 人、参加率 110.0%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	62	22	0	0	2	0	86
割合 (%)	72.1	25.6	0.0	0.0	2.3	0.0	
	84	97.7					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育における道徳教育(含む道徳の時間)の位置づけをはっきりさせるとともに、今後どのような準備が必要なのか、方向性をつかむことができた。演習を通して、先生方の実践交流ができたことも貴重だった。 ・全体研修と小グループでの研修の組みあわせにより、一方的に聞くだけでなく、いろいろな交流をすることができ、とても貴重な体験であったと思います。職種が異なる方やいろいろな県、市などではそれぞれちがった考え方、悩みなどがあり、それを知るだけでもよかったです。3日間って長いと感じていましたが、まだまだ知りたいことがあるような気がします。分厚い資料はこれからじっくりと読ませていただき、これからのいろいろな取組に生かしていきたいと思っています。 ・課題協議で講義して頂いた先生方の内容は、全て勉強になりました。道徳を全ての教育活動で行うことは頭ではわかっていても、道徳教育を要としてという点では十分でなく、上手に結びつけていませんでした。それは、道徳の内容項目をしっかりと理解せず、教科領域との関連が弱かったと思います。また、特別活動のための道徳というように、一本の糸で結びつけてしまっており、本研修を通して道徳教育の素晴らしさ、大切さを学ぶことができよかったです。 ・講義で道徳教育の流れや意義が理解できただけでなく、各府県の学校現場の状況について情報交換も出来、これらを総合して新学習指導要領の目指す内容が学べた。 ・大変貴重な講演と少人数に分かれての演習があり、とても有意義な研修でした。特に演習では自校よりも先進的な学校や熱意ある先生方のご意見をおきかせいただけ、私自身の刺激にもなりました。本当にどうもありがとうございました。
--

研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領の趣旨を踏まえた講義内容、および、演習においては新学習指導要領のポイントをテーマとして取り上げ、理解を深める内容とした。 ・「体験活動」「特別活動」「家庭・地域社会」をテーマに、文科省から研究指定を受けた学校からの事例発表のコマを設定した。 ・特別活動等の道徳教育における充実の観点から、中央研修と同様の講義のコマを追加した。 ・高等学校部会の協議内容が高まるよう、指導助言者を依頼した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習事前課題のテーマ設定と演習内容の関係性を明確にし、協議内容の焦点化を図る。
--

研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成20年度 道德教育指導者養成研修（近畿ブロック）

日 程 表

第1日目		9:45		10:30		12:00		13:10		14:40		15:00		17:00			
10月8日 (水)	受付	開講式	言葉是題協言義 1 「新学習指導要領と道德教育の課題」 文部科学省教育課程課 教科調査官 谷田 増幸		昼休み	言葉是題協言義 2 「体験活動や実践活動を通じた道德教育」 文部科学省教育課程課 教科調査官 杉田 洋		休憩	演習 1 「道德教育の問題点・課題—発達段階に応じた指導内容の重点化—」		◎目的：発達の段階に応じた指導内容の重点化について課題をもつ						
第2日目		9:50		10:10		12:30		13:40		15:25		15:40		17:00			
10月9日 (木)	小・中学校部会	協言義 1 「中央研修で学んだこと」	演習 2 「道德教育推進教師を中心とした指導体制と道德教育の展開（体験活動、『心のノート』の生かし方も含めて）」		昼休み	演習 3 「道德の授業づくり（魅力的な教材の開発と活用を含めて）と道德教育の評価」		休憩	発表 - 協言義								
第3日目		9:00		10:30		10:45		12:00		13:10		15:45		16:00		17:00	
10月10日 (金)	高等学校部会	協言義 1 「人間としての在り方生き方に関する教育の展開」	事例発表 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践と課題」 霧島市立国分中央高等学校 教諭 和田 淳義		昼休み	演習 2 「学校の教育活動全体を通じて行う人間としての在り方生き方に関する教育の展開」		休憩	演習 3 「人間としての在り方生き方に関する教育の各教科等における具体的な教材研究・実践」		発表 - 協言義 「高等学校における人間としての在り方生き方に関する教育の充実に向けて」						
第3日目		9:00		10:30		10:45		12:15		12:30							
10月10日 (金)	言葉是題協言義 3 「豊かな心を育むこれからの道德教育」（仮題） 関西学院大学 教授 横山 利弘	言葉是題協言義 4 「研修講師となるために」 文部科学省教育課程課 教科調査官 永田 繁雄		閉講式													

研修概要

研修名	道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）中国・四国ブロック							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研修目的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、発達の段階に応じた指導内容の重点化や道徳教育推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開、魅力的な教材の活用等道徳の時間の指導の充実、体験活動や実践活動の推進等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 							
開催期日	平成20年8月20日（水）～平成20年8月22日（金）				3日間			
受講人数	計画人数	※	人	受講者数	130	人	参加率	※
開催場所	サンラポーむらくも（島根県松江市）							

* 道徳教育指導者養成研修全体計画人数 880 人、受講者数 961 人、参加率 109.2%
 道徳教育ブロック別指導者研修計画人数 660 人、受講者数 726 人、参加率 110.0%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	66	61	0	0	3	0	130
割合 (%)	50.8	46.9	0.0	0.0	2.3	0.0	
	127						
	97.7						

2. 研修内容に関する主な意見

- ・他校・他県の各学校の取り組みや課題・実践例を知ることができ、勤務校でも挑戦できそうな内容であり、同じ問題を持ちながら頑張っていることがわかり大変有意義であった。また文科省の調査官の先生方から道徳や特活にかける思いを直接聞くことができると共に、改訂のポイントを分りやすく話していただき、推進教員の役割を確認することができた。
- ・各県・各校の様々な実践に触れることができ、大変参考になった。道徳の時間と総合・特活等の関わりについて、十分納得のできる説明であった。
- ・3日間お世話になりました。とても有意義な会でした。事前のレポート作りもありましたが、改めて本校の取組みの良さや課題について考え直すよい機会となりました。3日間という長い期間でしたが、計画から指導の工夫といった具体的なことまで、様々なことを学んだと思います。新学習指導要領が出され、本校の教員でもこれからどうしていくのが課題になっていますが、道徳教育については今回の研修で学んだことを話ことができそうです。道徳教育の大切さなど、校内研修で伝えたいと思っています。
- ・演習（協議）もよいが、少し時間が多かったように思う。課題協議（講義）の内容が充実していたので、もう少し時間をしっかりかけて、もっと詳しく話を聞きたかった。
- ・重複する内容があり、その時間を足りなかった講義や協議の時間に充てれば、さらに充実したものになると思います。3日間快適な環境の中で、充実した研修を受けさせていただいたことを本当に感謝いたします。ありがとうございました。

研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・新学習指導要領の趣旨を踏まえた講義内容、および、演習においては新学習指導要領のポイントをテーマとして取り上げ、理解を深める内容とした。
- ・「体験活動」「特別活動」「家庭・地域社会」をテーマに、文科省から研究指定を受けた学校からの事例発表のコマを設定した。
- ・特別活動等の道徳教育における充実の観点から、中央研修と同様の講義のコマを追加した。
- ・高等学校部会の協議内容が高まるよう、指導助言者を依頼した。

次年度へ向けて

- ・演習事前課題のテーマ設定と演習内容の関係性を明確にし、協議内容の焦点化を図る。

研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成20年度 道德教育指導者養成研修（中国・四国ブロック）

日程表

第1日目

8月20日 (水)	9:45	10:30	12:00	13:10	14:40	15:00	17:00
	受付	開講式	言葉是題協義1 「新学習指導要領と道德教育の課題」 文部科学省教育課程課 教科調査官 永田 繁雄 ◎目的：新学習指導要領の趣旨を踏まえ、道德教育の現状と課題について理解する	昼休み	言葉是題協義2 「体験活動や実践活動を通じた道德教育」 文部科学省教育課程課 教科調査官 杉田 洋 ◎目的：道德教育における特別活動等の推進の意義や役割について理解する	休憩	演習1 「道德教育の問題点・課題—発達段階に応じた指導内容の重点化—」 ◎目的：発達の段階に応じた指導内容の重点化について課題をもつ

第2日目

8月21日 (木)	9:00	9:50	10:10	12:30	13:40	15:25	15:40	17:00
	協義1 「中央研修で学んだこと」 ◎目的：テーマごとの現状、課題、解決策等について知識・方法を得る	演習1 「道德教育推進教師を中心とした指導体制と道德教育の展開（体験活動、『心のノート』の生かし方も含めて）」	演習2 「学校の教育活動全体を通じて行う人間としての在り方生き方に関する教育の展開」	昼休み	演習3 「道德の授業づくり（魅力的な教材の開発と活用を含めて）と道德教育の評価」	休憩	発表・協義	発表・協義 「高等学校における人間としての在り方生き方に関する教育の充実に向けて」

第3日目

8月22日 (金)	9:00	10:30	10:45	12:15	12:30
	言葉是題協義3 「豊かな心を育むこれからの道德教育」（仮題） 京都市立下京中学校 校長 柴原 弘志 ◎目的：道德教育全般について理解を深める	言葉是題協義4 「研修講師となるために」 文部科学省教育課程課 教科調査官 谷田 増幸 ◎目的：道德教育についての理解を深め、各自が本研修の成果等をまとめる	閉講式		

研修概要

研 修 名	道徳教育指導者養成研修（ブロック別指導者研修）九州ブロック							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研 修 目 的	道徳教育を担当する指導主事等に対し、発達の段階に応じた指導内容の重点化や道徳教育推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開、魅力的な教材の活用等道徳の時間の指導の充実、体験活動や実践活動の推進等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ・小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 							
開 催 期 日	平成20年8月26日（火）～平成20年8月28日（木）				3日間			
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	118	人	参加率	※
開 催 場 所	別府国際コンベンションセンター B-CON PLAZA（大分県別府市）							

* 道徳教育指導者養成研修全体計画人数 880 人、受講者数 961 人、参加率 109.2%
道徳教育ブロック別指導者研修計画人数 660 人、受講者数 726 人、参加率 110.0%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	78	37	0	0	3	0	118
割合 (%)	66.1	31.4	0.0	0.0	2.5	0.0	
	115						
	97.5						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・参加前と後では、道徳担当としての知識・理解・課題の把握の仕方・構想の仕方・着眼点など、全く違っている自分があります。他地区の先生方の、団体の取り組みの中から自分達の課題が見えてきましたし、道徳の考え方・指針・勇気などの力をいただきました。 ・課題協議・演習等バランスよく入れられており、最新の情報や他校での実践等多くのことを学ぶことができ、大変有意義でした。 ・新学習指導要領における道徳教育の重要性が大変よく理解でき、「要」としてという意味が現代社会を反映したものであるということが切実に伝わってきました。演習で意見交換を行なった先生方との話のもとより、文科省教科調査官の先生方の講義をこの期に直接聞けたことは、今後の財産となりました。自分がこの研修に参加させていただいた意義を自覚し、現場で広め道徳教育の充実に努めたいと思います。ありがとうございました。 ・3日間の研修を通して、新学習指導要領の改訂の主旨や道徳教育をめぐる最新の動向について、知ることができ大変有意義な研修でした。また演習では、各県の先生方と道徳の授業づくりや道徳推進教師としての指導体制作りなど、幅広く意見交換することができました。 ・1日目緊張の中始まった研修でしたが、本当に多くのことを学ぶことができました。指導要領の説明、多くの実践、道徳の授業の本質のあり方、職員組織の作り方等、帰ったらすぐ生かせることをたくさん得ることができました。他県の多くの先生方の熱意を感じたことも、これから自分の意欲も支えてくれると思います。杉田調査官のお話は、先生の人柄にも感動し共感できることも多く、新しく知ることも多く、本当に感銘を受けました。ありがとうございました。

研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・新学習指導要領の趣旨を踏まえた講義内容、および、演習においては新学習指導要領のポイントをテーマとして取り上げ、理解を深める内容とした。 ・「体験活動」「特別活動」「家庭・地域社会」をテーマに、文科省から研究指定を受けた学校からの事例発表のコマを設定した。 ・特別活動等の道徳教育における充実の観点から、中央研修と同様の講義のコマを追加した。 ・高等学校部会の協議内容が高まるよう、指導助言者を依頼した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・演習事前課題のテーマ設定と演習内容の関係性を明確にし、協議内容の焦点化を図る。
--

研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成20年度 道徳教育指導者養成研修（九州ブロック）

日程表

第1日目	9:45	10:30	12:00	13:10	14:40	15:00	17:00
8月26日 (火)	受付	開講式 「新学習指導要領と道徳教育の課題」 文部科学省教育課程課 教科調査官 谷田 増幸 目的：新学習指導要領の趣旨を踏まえ、道徳教育の現状と課題について理解する	昼休み	演習1 「道徳教育推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開（体験活動、『心のノート』の生かし方も含めて）」 目的：テーマごとの現状、課題、解決策等について知識・方法を得る	演習2 「体験活動や実践活動を通じた道徳教育」 文部科学省教育課程課 教科調査官 杉田 洋 目的：道徳教育における特別活動等の推進の意義や役割について理解する	演習1 「道徳教育の問題点・課題 発達段階に応じた指導内容の重点化」	「道徳教育の問題点・課題 発達段階に応じた指導内容の重点化」
第2日目	9:00	9:50	10:10	12:30	13:40	15:25	15:40
8月27日 (水)	協賛1 「中央研修で学んだこと」 目的：テーマごとの現状、課題、解決策等について知識・方法を得る	協賛2 「道徳教育推進教師を中心とした指導体制と道徳教育の展開（体験活動、『心のノート』の生かし方も含めて）」	演習2 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践と課題」 茨城県立中央高等学校 教諭 井坂 孝	昼休み	演習3 「道徳の授業づくり（魅力的な教材の開発と活用を含めて）と道徳教育の評価」	演習3 「人間としての在り方生き方に関する教育の各教科等における具体的な教材研究・実践」	発表・協賛 「高等学校における人間としての在り方生き方に関する教育の充実に向けて」
第3日目	9:00	10:30	10:45	12:00	13:10	15:45	16:00
8月28日 (木)	協賛3 「豊かな心を育むこれからの道徳教育」（仮題） 昭和女子大学 教授 押谷 由夫 目的：道徳教育全般について理解を深める	協賛4 「研修講師となるために」 文部科学省教育課程課 教科調査官 永田 繁雄 目的：道徳教育についての理解を深め、各自が本研修の成果等をまとめ	事例発表 「人間としての在り方生き方に関する教育の実践と課題」 茨城県立中央高等学校 教諭 井坂 孝	閉講式	演習2 「学校の教育活動全体を通じて行う人間としての在り方生き方に関する教育の展開」	演習3 「人間としての在り方生き方に関する教育の各教科等における具体的な教材研究・実践」	発表・協賛 「高等学校における人間としての在り方生き方に関する教育の充実に向けて」

研修概要

研 修 名	環境教育指導者養成研修（東部ブロック）							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課教育課題第一グループ							
研 修 目 的	各都道府県等において環境教育を担当する指導主事などに対し、「国連持続可能な開発のための教育の10年」に関連する環境教育を推進する際に留意すべき事項（外部資源の活用の在り方等）について必要な知識などの習得をはじめ資質・能力の向上を図るとともに、受講者により、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が受講者により行われることを目的とする。							
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> 西部ブロックの府県教育委員会等の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 							
開 催 期 日	平成20年9月30日（火）～平成20年10月3日（金）				4日間			
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	61	人	参加率	※
開 催 場 所	国立青少年教育振興機構 国立妙高青少年自然の家（新潟県妙高市）							

全体計画人数 110人、 受講者数 107人、 参加率 97.3%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	43	17	0	0	1	0	61
割合 (%)	70.5	27.9	0.0	0.0	1.6	0.0	
	60	98.4					

2. 研修内容に関する主な意見

- ・研修を企画・運営する部分、また、その講義の手法など、大変参考になり有意義だった。
- ・全員からの意見や考えを引き出そうとする工夫がなされていた。
- ・全体の流れが統一されており、実践を含む有意義な研修だった。
- ・ややプログラム数が多く、総花的な感もあった。
- ・すぐに活用（伝達）できる最新の内容であった。
- ・これからの環境教育の指針について、3つのねらい（感受性・見方考え方・実践行動）を分りやすく丁寧に解説・説明いただいたので、理解が深まったと共に、手ごたえも感じた。
- ・様々な視点から現象を捉えることの重要性、ファシリテーターとして役割の大切さを理解することができた。
- ・集中して学べる機会となりよかった。

研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・学習指導要領の改訂を中心に、「文部科学省による背景・ねらいの説明」→「新学習指導要領に基づく指導を行っている学校による事例発表」を初日に設定し、理論と実践を意識付けさせることとした。
- ・ESDの一環としての環境教育の位置づけを意識させるため、第2日目の始めと第3日目の最後にESDに関する講義・演習を位置づけた。
- ・フィールドワークは、自然の家の環境を意識するだけでなく、新学習指導要領に対応したプログラム内容とした。

次年度に向けて

- ・20年度中に改訂がなされる高等学校の学習指導要領について取り入れる。
- ・受講者が発信する場を設ける。
- ・ワークショップの時間を増加し、教職経験者とNPO等の関係者の2人1組で講師を行うことにより、すぐに実践に活かせる演習とする。

研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成20年度 環境教育指導者養成研修基本日程（東部ブロック）

◎印は講義等の目的

第1日目

9月30日 (火)	12:00 12:30	12:45	14:00 14:15	15:45 16:00	17:00
受付	開講式	講義・演習1 「研修の進め方について」 長嶋 立 西陵 高等学校 教諭 藤 修	休憩 講義・演習2 「学校教育における環境教育の位置づけ」 ～新学習指導要領を踏まえて～ 文部科学省初等中等教育局 視学官 日置 光久	休憩 事例発表 (発表:30分 質疑応答・協議:30分) ・小学校分科会 板橋区立板橋第七小学校 ・中学校分科会 杉並区立泉南中学校 ・高等学校分科会 神奈川県立西湘高等学校	
			◎学校教育における環境教育の進め方を理解する。		◎新学習指導要領を踏まえた環境教育を行っている学校の取組を知り、各学校で今後実践していくための方法について理解を深める。

第2日目

10月1日 (水)	8:30	10:00 10:15	12:00	13:00	17:00
全体協議1 「国連持続可能な開発のための教育の10年」 立教大学大学院 教授 阿部 治	休憩	分科会協議 「環境教育の取組の実際」 ・小学校分科会 ・中学校分科会 ・高等学校分科会	屋食	フィールドワーク ※各会場の特色を活用した演習	
◎環境教育からESDへの国際的な動きについて学び、視野を広げる。		◎自校等の環境教育に関する取組について、情報交換・協議を行う。	休憩		◎現場で自然に触れながら、実地調査等を行うことにより環境学習の取り組み方の参考とする。

第3日目

10月2日 (木)	8:30	12:00	13:00	15:15 15:30	17:00
ワークショップ「体験による学び」 ・小学校分科会 NPO法人 くすの木自然館 専務理事 浜本 一 ・中学校分科会 国立教育政策研究所教育課程研究センター 基礎研究部 総括研究官 五島 政一 ・高等学校分科会 NPO法人 当別エコロジカルコミュニケーション 代表理事 山本 幹彦 長崎県立西陵高等学校 教諭 藤 修 早稲田大学教育学部	屋食	屋食	ワークショップ(続き) ・小学校分科会 ・中学校分科会 ・高等学校分科会	休憩	全体協議2 「ESDにおける環境教育」 ESD-J 副代表理事 池田 満之
◎体験学習の手法と学習指導の効果的な展開について学ぶ。					◎ESDに対する基本的な理解を踏まえ、わが国の取組について理解を深め、特に学校と外部機関との連携の方について理解を深める。

第4日目

10月3日 (金)	8:30	11:30	12:00		
全体研究協議 「研修全体のふりかえりとまとめ」 長崎県立西陵高等学校 教諭 藤 修			閉講式		
◎本研修の成果等について協議し、今後の還元方策と環境教育に取り組むために必要な事項を整理する。					

研修概要

研修名	環境教育指導者養成研修（西部ブロック）							
担当グループ	教育課題研修課教育課題第一グループ							
研修目的	各都道府県等において環境教育を担当する指導主事などに対し、「国連持続可能な開発のための教育の10年」に関連する環境教育を推進する際に留意すべき事項（外部資源の活用の在り方等）について必要な知識などの習得をはじめ資質・能力の向上を図るとともに、受講者により、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が受講者により行われることを目的とする。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> 西部ブロックの府県教育委員会等の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 							
開催期日	平成20年10月21日（火）～平成20年10月24日（金）				4日間			
受講人数	計画人数	※	人	受講者数	46	人	参加率	※
開催場所	国立青少年教育振興機構 国立淡路青少年交流の家（兵庫県南あわじ市）							

全体計画人数 110人、 受講者数 107人、 参加率 97.3%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	35	11	0	0	0	0	46
割合 (%)	76.1	23.9	0.0	0.0	0.0	0.0	
	46						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

- ・アイスブレイクを多く取り入れていただいたおかげで打ち解けることができ、意見交流がしやすくなった。
- ・環境教育について先進的に視野を広げることができた。
- ・本校の環境教育の不十分だった所が明確になり、大変有意義な時間だった。
- ・ファシリテーターとしての研修の在り方、進め方がとても参考になった。
- ・環境教育のプログラムの企画と運営について、実際に体験しながら学ぶことができた。
- ・具体的に実践例を体験することで、職場に戻ってすぐに活用できる。
- ・最後に具体的な学習プログラムを考えることで、今回の研修内容を自分なりに整理することができた。
- ・地元の研修では会うことのできないような講師陣に、たくさんのことを学んだ。

研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・学習指導要領の改訂を中心に、「文部科学省による背景・ねらいの説明」→「新学習指導要領に基づく指導を行っている学校による事例発表」を初日に設定し、理論と実践を意識付けさせることとした。
- ・ESDの一環としての環境教育の位置づけを意識させるため、第2日目の始めと第3日目の最後にESDに関する講義・演習を位置づけた。
- ・フィールドワークは、自然の家の環境を意識するだけでなく、新学習指導要領に対応したプログラム内容とした。

次年度に向けて

- ・20年度中に改訂がなされる高等学校の学習指導要領について取り入れる。
- ・受講者が発信する場を設ける。
- ・ワークショップの時間を増加し、教職経験者とNPO等の関係者の2人1組で講師を行うことにより、すぐに実践に活かせる演習とする。

研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成20年度 環境教育指導者養成研修基本日程（西部ブロック）

◎印は講義等の目的
第1日目

10月21日 (火)	12:00 12:30 12:45 13:15 13:30 15:45 16:00 17:00	受付	開講式	オリエンテーション	休憩 講義・演習 「学校教育における環境教育の位置づけ ～新学習指導要領を踏まえて～」 文部科学省初等中等教育局 視学官 日置 光久	休憩 事例発表 (発表:30分 質疑応答・協議:30分) ・小学校分科会 小坂井町立小坂井西小学校 ・中学校分科会 海陽町立中央中学校 ・高等学校分科会 愛知県立海翔高等学校	17:00
					◎学校教育における環境教育の進め方を理解する。	◎新学習指導要領を踏まえた環境教育を行っている学校の取組を知り、各学校で今後実践していくための方法について理解を深める。	

第2日目

10月22日 (水)	8:30 10:00 10:15 12:00 13:00 17:00	全体協議1 「ESDにおける環境教育」 ESD-J 副代表理事 池田 満之	休憩 分科会協議 「環境教育の取組の実際」 ・小学校分科会 ・中学校分科会 ・高等学校分科会	食 休憩	フィールドワーク ※各会場の特色を活用した演習		17:00
		◎ESDに対する基本的な理解を踏まえ、わが国の取組について理解を深め、特に学校と外部機関との連携の方について理解を深める。	◎自校等の環境教育に関する取組について、情報交換・協議を行う。		◎現場で自然に触れながら、実地調査等を行うことにより環境学習の取り組み方の参考とする。		

第3日目

10月23日 (木)	8:30 12:00 13:00 15:15 15:30 17:00	ワークショップ「体験による学び」 ・小学校分科会 NPO法人 くすの木自然館 ・中学校・高等学校分科会 国立教育政策研究所教育課程研究センター 基礎研究部 総括研究官 五島 政一 NPO法人 当別エコジナルコミュニケーション 代表理事 山本 幹彦	食 休憩	食 休憩	ワークショップ (続き) ・小学校分科会 ・中学校分科会 ・高等学校分科会	全体協議2 「国連持続可能な開発のための教育の10年」 立教大学大学院 教授 阿部 治	17:00
		◎体験学習の手法と学習指導の効果的な展開について学ぶ。				◎環境教育からESDへの国際的な動きについて学び、視野を広げる。	

第4日目

10月24日 (金)	8:30 11:30 12:00	全体研究協議 「研修全体のふりかえりとまとめ」 教員研修センター 主任指導主事 倉掛 高志	閉講式				
		◎本研修の成果等について協議し、今後の還元方策と環境教育に取り組むために必要な事項を整理する。					

研修概要

研修名	生徒指導指導者養成研修							
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第一グループ							
研修目的	各都道府県、指定都市及び中核市において生徒指導又は教育相談を担当する指導主事等に対し、全国的かつ緊急に対応が必要ないじめ・不登校等の問題行動や、児童虐待等の生徒指導上の今日的諸課題について、最新の知見や全国的動向、研究成果、対応方策に関する必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講生により行われることを目的とする。							
受講対象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会等の生徒指導又は教育相談を担当する指導主事及び教諭であって、各地域において本研修を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者							
開催期日	平成20年 6月16日（月）～平成20年 7月 1日（火）				16日間			
受講人数	計画人数	110	人	受講者数	127	人	参加率	115.5%
開催場所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	116	7	0	0	1	3	127
割合 (%)	91.3	5.5	0.0	0.0	0.8	2.4	
	123	96.9					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・同じ立場の仲間と内側にある考えや経験を出し合うことの貴重な体験をすることができました。 ・全体講義・選択講義、そして班別講義など、様々な内容が組み込まれていて、オリエンテーションでアイスブレイク等も含めて大変有意義な研修となりました。できれば最後のテーマ別研究(班別)については、あと半日～1日多くあれば、より内容も整理でき充実したように感じました。 ・もっと欲張って学びたい。もっと語り合いたい。もう少し・・・と感じるくらいがいいのですかね。一生忘れられない。 ・共有協議よりも課題発表やテーマ別研究に時間を振り分けていただけると、自分たちの考えや思いを深めることができたと思った。講義や研修内容は充実していたので本当に良かった。 ・本当に素晴らしい研修であり、中身の濃い充実したプログラムに準備して頂いたスタッフの方々に心から感謝申し上げます。自ら振り返りも出来て、改めて勉強にもなり、財となりました。又、多くの先生方との出会いにも感謝しました。 ・今回の研修で、最新の情報を身につけることができました。16日間、ありがとうございました。 ・長年研究を重ねてこられた方々の講義だけに、地元に戻って還元方法を考えたときにただ単に伝達講習会にならないよう、自分なりに勉強をし、これからの研修会に生かしていきたいと考えています。 ・もっと実践的な内容を入れてもらえると戻ってから活用しやすいのではないかと思います。
--

研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修内容が重複しないよう講師との十分な打合せを行うとともに、前年度よりさらに生徒指導に含まれる様々な内容（問題行動、法、学級集団づくり、不登校、いじめ等）について、系統立てて研修が行われるようなプログラムとした。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・喫緊の生徒指導上の課題に関する講義を盛り込みながら、さらに系統立てて研修が行われるようにプログラムを工夫する。
--

研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成20年度生徒指導指導者養成研修日程表

独立行政法人教員研修センター

< 日程と講座内容 >

期日	曜	8:30	9:30	9:45	12:15	13:30	16:15	17:00
1	6月16日	月	受付 (9:30～9:50)	開講式 (10:00～10:30) 教員研修センター・文部科学省	生徒指導の在り方 (10:45～12:15) 文部科学省初等中等教育局視学官 森嶋昭伸	特別講演(13:30～15:00) 「よりよい人格の形成を目指して」 原田 隆史	オリエンテーション (15:15～16:15)	班別協議 (打ち合わせ) (16:30～17:00)
2	6月17日	火	班別協議 (打ち合わせ)	生徒指導と危機管理 群馬県立高崎女子高等学校長 飯野真幸	生徒指導と法 弁護士 清水幹裕		オリエンテーション	
3	6月18日	水	グループ別協議 (事例協議)	国際比較から見る生徒指導 広島大学理事・副学長 二宮 皓	生徒指導と心の教育 関西学院大学教授 横山利弘		オリエンテーション	
4	6月19日	木	グループ別協議 (事例協議)	生徒指導事例研究(1) 1班(小) 奈良教育大学教授 池島徳大 2班(中) 琉球大学教授 平田幹夫 3班(中) 上尾市立西中学校校長 清水井一 4班(中) 大阪女子短期大学教授 住本克彦 5班(高) 文教大学教授 柳生和男 6班(高) 兵庫教育大学教授 新井 肇	生徒指導事例研究(2) 1班(小) 奈良教育大学教授 池島徳大 2班(中) 琉球大学教授 平田幹夫 3班(中) 上尾市立西中学校校長 清水井一 4班(中) 大阪女子短期大学教授 住本克彦 5班(高) 文教大学教授 柳生和男 6班(高) 兵庫教育大学教授 新井 肇			
5	6月20日	金	グループ別協議 (事例協議)	生徒指導事例研究(3) 1班(小) 奈良教育大学教授 池島徳大 2班(中) 琉球大学教授 平田幹夫 3班(中) 上尾市立西中学校校長 清水井一 4班(中) 大阪女子短期大学教授 住本克彦 5班(高) 文教大学教授 柳生和男 6班(高) 兵庫教育大学教授 新井 肇	生徒指導事例研究(4) 1班(小) 奈良教育大学教授 池島徳大 2班(中) 琉球大学教授 平田幹夫 3班(中) 上尾市立西中学校校長 清水井一 4班(中) 大阪女子短期大学教授 住本克彦 5班(高) 文教大学教授 柳生和男 6班(高) 兵庫教育大学教授 新井 肇			
6	6月21日	土						
7	6月22日	日						
8	6月23日	月	オリエンテーション	望ましい学級集団づくり 早稲田大学教授 河村茂雄	望ましい学級集団づくり 早稲田大学教授 河村茂雄		グループ協議 (事例協議)	
9	6月24日	火	合同別協議 (課題発表)	児童生徒の課題と保護者への対応 早稲田大学教授 菅野 純	児童生徒の課題と保護者への対応 早稲田大学教授 菅野 純		班別協議 (事例協議)	
10	6月25日	水	合同別協議 (課題発表)	小・中 チーム援助の在り方 筑波大学大学院教授 石隈利紀 中・高 性に関わる非行への対応 京都大学大学院准教授 木原雅子	小・中 児童虐待への対応 宮城教育大学教授 関口博久 中・高 情報モラルの理解と対応 NPO青少年メディア研究協会理事長 下田博次		合同別協議 (課題発表)	
11	6月26日	木	合同別協議 (課題発表)	選択 ピアサポートを生かした いじめを起こさない集団づくり いじめ 奈良教育大学教授 池島徳大 選択 不登校への学校の対応 不登校 山形県立山形聾学校長 花輪敏男	小 子どもたちの感情の育ちといじめ問題 いじめ 東京学芸大学教授 大河原美以 中・高 不登校の訪問相談 不登校 開善塾教育相談研究所長 金澤純三		班別協議 (共有協議)	
12	6月27日	金	班別協議 (テーマ別研究)	選択 ブリーフセラピーによる問題の解決 いじめ 広島大学大学院教授 栗原慎二 選択 不登校の理解と対応, その未然防止 - 精神科医の視点から 不登校 中部学院大学大学院教授 吉川武彦	選択 児童生徒の特性の理解と人間関係づくり いじめ 立川市立立川第一中学校長 嶋崎政男 選択 特別支援からの理解と未然防止 不登校 大正大学教授 玉井邦夫		班別協議 (共有協議)	
13	6月28日	土						
14	6月29日	日						
15	6月30日	月	オリエンテーション (8:30～8:45)	班別協議(テーマ別研究) 昭和学院短期大学教授 松田素行	班別協議(テーマ別研究 つづき) 昭和学院短期大学教授 松田素行		パネルディスカッション (15:00～17:00)	
16	7月1日	火	班別協議・オリエンテーション	総括講義「教え育てる」 昭和学院短期大学教授 松田素行	閉講式 (11:30～11:50)			

研修概要

研修名	人権教育指導者養成研修							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研修目的	本研修では、人権教育に関する国内外の動向や人権教育に関する効果的な指導方法等について、研究協議及び演習等を行うことにより児童生徒に人権を尊重する態度を育成するための必要な知識等を修得させ、各地域において、本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が受講者により行われることを目的とする。							
受講対象	都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事又は教育センターの人権教育担当者並びにそれに準じる者 〔幼稚園、小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校(園)長、教頭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者(人権教育の指導的立場を担う者)〕							
開催期日	平成20年10月15日(水)～平成20年10月17日(金)					3日間		
受講人数	計画人数	110	人	受講者数	122	人	参加率	110.9%
開催場所	独立行政法人教員研修センター(茨城県つくば市)							

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合

(人、%)

	有意義であった		あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数(人)	82	40	0	0	0	0	122
割合(%)	67.2	32.8	0.0	0.0	0.0	0.0	
	122		100.0				

2. 研修内容に関する主な意見

- ・欧州における人権教育の取組み、国連の取組みを受けての日本の取組みがよく理解できました。人権教育の重要性は、欧州も同様であることを知りました。学校教育における重要性を改めて知らされ、今後の取組みにやる気が出ました。
- ・人権教育の国内外の動きについては概ね理解できたが、指導方法の在り方についてレジメに沿って、具体例を入れながら話していただきえると、更に理解が深まったと思う。
- ・欧州の人権教育を基に第三次とりまとめが作られた事を知り、世界の大きな流れの中での人権教育というものを探えることができた。また活動的・参加的・協力的な学習という新しい人権教育の形態というものを知ることができ、様々な教育活動の中で取り組んでいける大きな可能性、期待を感じることができた。
- ・人権課題が身近にあふれていると感じていたが、それを更に痛切に感じ取らせていただいた。身の回りに起こっている人権侵害について、おかしいと感じるセンスそして行動化する。「頭・心・手」をキーワードに人をチェンジし、社会をチェンジする重大さを再確認した。
- ・3人の先生方から、とても実践的な発表を聞くことができました。各校での取組みが他の学校でも十分参考となり、実践していけるものと思いました。こういう取組みがあるんだ、というアイデアをたくさん教えてもらいました。
- ・初めて会った6人が研修プログラムを作成するという設定は、参加者に大きな力を与えてくれたと思う。限られた時間の中で人権教育を進めるための効果的な研修を考え、発表する中で人権についてしっかり進めねばならないという思いを強くした。
- ・今回の研修の中で一番有意義な時間でした。同じ班の方々と、一つのものを創造していくのは興味深かったです。

研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・実践につながるような講義内容とするため、課題協議1の時間を25分増やし100分とした。
- ・演習の進め方について、各グループごとにセンター職員を配置し事務的な説明を徹底するとともに、各グループの指導助言者より、演習におけるポイント等について内容の説明を実施した。
- ・演習の運営がやりやすいよう、グループを増やした。

次年度に向けて

- ・行政説明においてレジュメを作成する
- ・演習の内容をより深めやすくするため事例協議と演習の班を極力同じにする。
- ・演習時間が限られているので、テーマを絞る、例を示す等の工夫をする。

研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成20年度人権教育指導者養成研修 日程表

日 時：平成20年10月15日(水)～平成20年10月17日(金) 会 場：独立行政法人 教員研修センター

第1日目	9:20	9:50	10:40	12:20	13:20	15:20	15:30	17:00
10月15日 (水)	受 付	開 講 式	課 題 協 議 1 「国内外の動きと学校における人権教育」 「人権教育」のための世界計画等」 聖徳大学児童学部教授 福田 弘 ◎目的：国際的な視点からも普遍的な人権教育が学校教育において必要であることを理解する	昼 休 み	事 例 発 表 「人権教育推進上の課題と改善策等について」 埼玉県上里町立賀美小学校教諭 青木 澄子 熊本県天草市立牛深東中学校長 吉村 幸男 享栄学園鈴鹿中学校・高等学校校長 山中 保一 ◎目的：先進校の取組を知る	休 憩	事 例 協 議 「人権教育推進上の課題と改善策等について」 教育の指導方法等の在り方について[第三次と まとめ]を踏まえて-」 ◎目的：人権教育における各地域の取組を知り、 課題をもち	

第2日目	9:00	9:30	12:00	13:00	15:30	15:45	17:00	
10月16日 (木)	演習の進め方：演習1・2 「学校における人権教育の改善・充実について」 (課題) A 効果的な研修プログラムや啓発資料等について B 学校としての組織的な取組 (例：年間指導計画、校内体制、校内研修、評価等) と関係機関等との連携について C 人権尊重の理念の理解と体得を旨とした指導内容・方法について (例：授業案、指導計画等) D 人権尊重の精神に立つ学級経営と生徒指導について (例：実践プログラム、指導計画等) ◎目的：各テーマ・課題ごとの現状、改善・効果等について知識・方法を修得し、人権教育を推進するための資料(研修成果を活かすための資料)を作成する		[昼 休 み]	[休憩] グループ発表・協議				
	【指導助言者】 A (A-1)：大阪府教育委員会市町村教育室児童生徒支援課長 菅原 寛 B (小)：山形県長井市立長井北中学校長 布施 清 C：東京都教育庁指導部指導企画課統括指導主事 神山 直子		A (A-2)：東京都教職員研修センター企画部企画課長 伊東 哲 B (中高)：上越教育大学学校教育学部教授 梅野 正信 D：東京学芸大学教育学部准教授 林 尚示					

第3日目	9:00	11:00	11:15	12:15	12:30
10月17日 (金)	演習3 「学校における人権教育の改善・充実について」 全体発表・協議・まとめ-」 ◎目的：研修成果の全体を理解するとともに、演習成果を活かし方について理解を深める		休 憩	閉 講 式	
	【指導助言者：講師】 文部科学省初等中等教育局視学官 森嶋 昭伸		課 題 協 議 2 「研修講師となったために」 ◎目的：人権教育についての理解を深め、 本研修の成果等をまとめる		

研修概要

研修名	キャリア教育指導者養成研修（東部ブロック）							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研修目的	キャリア教育を担当する指導主事等に対し、発達段階に応じたキャリア教育、キャリアカウンセリング等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 							
開催期日	平20年6月2日（月）～平成20年6月6日（金）				5日間			
受講人数	計画人数	※	人	受講者数	117	人	参加率	※
開催場所	サンシャインシティ文化会館（東京都豊島区）							

全体計画人数 220 人、受講者数 215 人、参加率 97.7%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	93	21	2	0	1	0	117
割合 (%)	79.5	17.9	1.7	0.0	0.9	0.0	
	114						
	97.4						

2. 研修内容に関する主な意見

- ・キャリア教育の理解が進み、やるべきことが明確になった。そのために必要なスキルも提示していただいたので、今後、キャリア教育の指導者として推進に努力したい。
- ・5日間の研修全体のプログラムの組み立て方も参考になった。地元に戻ってキャリア教育の推進に当たるとともに、研修の進め方や取組についても広めて行きたい。
- ・他の受講者との交流により、他県の置かれている状況を知ることができて、参考となる情報が多くあった。また、校種間の交流、意識の共有化なども大変有意義であった。
- ・演習が多く取り入れられており、講義で学んだ内容の理解や他の受講者との交流を深めることができた。5日間のスパンが決まっているので仕方がないが、各演習ともっと時間に余裕があればよかった。
- ・研修が進むにつれ、小中高の連携の重要性を感じた。
- ・キャリア教育についての認識の低さを痛感した。また、校種間連携、地域社会との連携はもとより、校内における共通理解の必要性も強く感じた。
- ・非常に内容が盛りだくさんであった。自分の中で整理がうまくできない事が残念。もう少し時間が欲しい所であるが、5日間というスパンがあるので仕方がないか。
- ・5日間という長い研修で、じっくりとキャリア教育を考える機会を与えてもらい、大変有意義であった。

研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・小中高それぞれの事例発表の時間を新たに設定した。
- ・キャリア教育の評価に重点を置いた講義を設定した。
- ・講義を受けた後に演習を行い、その内容を深めることができるよう、コマの配置を工夫した。
- ・受講者に課す事前提出資料の内容を精選した。

次年度に向けて

- ・研修初日に行う演習は学校種ごとの班分けで行うこととし、受講者個々の課題を整理するとともに、2日目以降の研修内容にスムーズに移行できるよう配慮する。
- ・キャリア・カウンセリングやコミュニケーションスキルの演習に関しては、受講者がスキルを重視しすぎる傾向にあるので、その必要性や日々の指導への生かし方をしっかりと伝えるよう配慮する。
- ・キャリア教育のプログラム開発の演習について、プログラムの内容を深めることができるよう、学校の設定などは当センターで準備するなどの工夫を行う。
- ・各地域でキャリア教育を展開するための準備として、最終日の演習を改善する。（過去の受講者による研修成果活用事例の紹介や、同一県・近隣県の受講者グループによる活用策作りを行う、等）

研修日程(プログラム)

次ページのとおり

研修概要

研修名	キャリア教育指導者養成研修（西部ブロック）							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研修目的	キャリア教育を担当する指導主事等に対し、発達段階に応じたキャリア教育、キャリアカウンセリング等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 							
開催期日	平20年6月23日（月）～平成20年6月27日（金）				5日間			
受講人数	計画人数	※	人	受講者数	98	人	参加率	※
開催場所	大阪アカデミア（大阪府大阪市）							

全体計画人数 220 人、受講者数 215 人、参加率 97.7%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	80	17	0	0	0	1	98
割合 (%)	81.6	17.3	0.0	0.0	0.0	1.0	
	97	99.0					

2. 研修内容に関する主な意見

- ・研修の流れも分かりやすく内容も濃く、5日間かけて学ぶ値打ちのあるものだと実感している。
- ・キャリア教育に対する学習不足な部分を多く感じた研修となった。我が校及び私自身の無知な点をはっきりと際立ち、今後他への還元も含めて、自分自身の研修に更に力を入れていかなければと強く感じている。
- ・様々な形態での研修を受けることを通して、教職員研修の形態へのヒントともなった。今後、県において研修を企画・運営していくことで、キャリア教育が現場に浸透していくことを目指し努力したい。
- ・他県や他校、さらに異校種の取組状況を知ることができたのが、特によかった。自校・自県に持ち帰って、指導・普及に努めたい。
- ・この研修に参加する前は、キャリア教育という言葉や意味に関しては何となく分っていたというレベルであったが、様々な研修を受講する中で内容が少しずつ具体化されていき、内容理解が進んできた気がする。学習した内容を伝え広めていくことが、自分自身の課せられた役割だと自覚した。
- ・課題の明確化、解決へ向けての方策作りなど、今後の実践に役立つことが多かった。少し個々の講座の時間が短く、駆け足だったのが残念だった。
- ・研修受講前、5日間は長いという思いがあったが、演習等をする中で大変有意義な研修だったと思った。

研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・小中高それぞれの事例発表の時間を新たに設定した。
- ・キャリア教育の評価に重点を置いた講義を設定した。
- ・講義を受けた後に演習を行い、その内容を深めることができるよう、コマの配置を工夫した。
- ・受講者に課す事前提出資料の内容を精選した。

次年度に向けて

- ・研修初日に行う演習は学校種ごとの班分けで行うこととし、受講者個々の課題を整理するとともに、2日目以降の研修内容にスムーズに移行できるよう配慮する。
- ・キャリア・カウンセリングやコミュニケーションスキルの演習に関しては、受講者がスキルを重視しすぎる傾向にあるので、その必要性や日々の指導への生かし方をしっかりと伝えるよう配慮する。
- ・キャリア教育のプログラム開発の演習について、プログラムの内容を深めることができるよう、学校の設定などは当センターで準備するなどの工夫を行う。
- ・各地域でキャリア教育を展開するための準備として、最終日の演習を改善する。（過去の受講者による研修成果活用事例の紹介や、同一県・近隣県の受講者グループによる活用策作りを行う、等）

研修日程(プログラム)

次ページのとおり

研修概要

研修名	小学校における英語活動等国際理解活動指導者養成研修（北海道・東北ブロック）							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研修目的	学習指導要領の改訂において、小学校高学年に外国語活動が導入された。このことを踏まえ、外国語活動（英語活動）を担当する指導者主事等に対して、研修の意義や役割、校内研修の運営方法、学級担任の役割、教材作成の方法等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受講対象	教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者で、本研修内容を踏まえた研修の講師等や各学校への指導・助言等の役割を担う予定である者							
開催期日	平成20年10月20日（月）～平成20年10月24日（金）					5日間		
受講人数	計画人数	※	人	受講者数	53	人	参加率	※
開催場所	北海道立道民活動センター（北海道札幌市）							

全体計画人数 220 人、受講者数 357 人、参加率 162.3%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数(人)	48	3	1	0	1	0	53
割合(%)	90.6	5.7	1.9	0.0	1.9	0.0	
	51						
	96.2						

2. 研修内容に関する主な意見

- ・今後の中核教員研修等の企画・運営に携わる立場として、外国語活動の基本理念等に関する正しい理解や外国語活動の目標を達成するための様々な具体的な活動を知ることができ、大変勉強になった。研修で得た成果を生かして、普及・啓発に努めるとともに、各学校の求めるニーズに応えることができる指導助言に努めたい。
- ・外国語活動が導入されたが、正直、どのようにしていけばよいか全く先が見えない状態だったものが、自分の中では結構理解することができたと思う。5日間で少しずつ講義していただけたことがとても助かった。現場の人たちは、やはり今も困惑していると思うので、学んだことを伝えて、安心して外国語活動に取り組んでほしい。
- ・ひとつひとつの講義の内容がとても濃く勉強になった。これから行う予定の中核教員の研修会にむけて見通しがもてたように思う。特にマイクロティーチングの作成を通して、いかにわかったように思っている、なかなか実際のものに生かすというのは大変なことだとわかった。体験を通して学んだ、という達成感のようなものがある。
- ・研修内容は全般的に大変素晴らしいものであった。2年連続で受講させていただくのはもったいないと感じた。県として受講済みの指導主事を参加対象からはずし、現場の先生方に参加していただく、という方法も考えるべきであったと思う。
- ・指導要領は読んだ。解説書も読んだ。様々な刊行物にも目を通した。文科省のHPもチェックしている。しかし、今回、小学校外国語活動の真髄に触れたように思う。第一線で推進していらっしゃる講師の先生方からの多角的なアプローチはやり素晴らしい。
- ・研修会の構成がよかった。講義・協議・演習・発表・理論と実践がうまく組み合わせられ、まさに体験的に学ぶことができた。あとは我々自身がこのテンションを下げずに地元にもどって実践するのみ。

研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・講義や演習の内容について、新学習指導要領を踏まえた内容とした。
- ・文部科学省からの行政説明をなくし、英語活動の進め方の具体的な方策について、演習を通して体験的に学ぶことができるようにした。
- ・文部科学省が作成した英語ノートや当センター作成のDVDなどの活用方法を演習で扱った。
- ・各地域の受講者間のネットワークが構築できるよう、受講者のメールアドレス一覧を作成し、研修後にメールにて配信した（メールは希望した受講者にのみ配信）。

次年度に向けて

- ・教育委員会の指導主事等に加えて、地域における英語活動推進の中核となる教員も研修の対象とする。
- ・中核となる教員が参加し易いよう、研修内容を精選し、研修期間を3日間とする。
- ・受講者が協議を行う時間を十分確保できるよう工夫する。
- ・クラスルームイングリッシュ、TTなど、経験のない教員向けの内容は扱わないこととする。

研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成20年度 小学校における英語活動等国際理解活動指導者養成研修（北海道・東北ブロック）

日程表

第1日目	12:30 13:00 13:20	15:10 15:30	17:00
10月20日 (月)	12:30 13:00 13:20 受付 開講式	15:10 15:30 休憩 「小学校における外国語活動の在り方」菅正隆 文部科学省国際教育課長 ◎目的：本研修の全体像（外国語活動が求められた背景、国の施策、意義等）について理解する。	17:00 休憩 「小学校における外国語活動の基本理念と言語習得理論等」大城賢 国立大学法人札幌大学 ◎目的：外国語活動の基本理念と言語習得について理解を深める。
第2日目	9:00 10:30 10:45	12:15 13:30	14:50 15:10 16:30 17:00
10月21日 (火)	9:00 10:30 10:45 休憩 「地方自治体における小学校外国語活動の在り方」菅正隆 文部科学省国際教育課長 ◎目的：地域における研修体制の在り方とその他の課題について情報を共有し、問題解決への糸口を探る。	12:15 13:30 昼休み 休憩 「小学校外国語活動における国際理解の在り方」大城賢 国立大学法人札幌大学 ◎目的：外国語活動における国際理解の在り方について具体的な活動を踏まえながら、工夫すべき点等の理解を深める。	14:50 15:10 16:30 17:00 休憩 「クラスルームイミングリッシュ」Peter Ferguson 道庁中等教育課 ◎目的：教室で使う簡単な表現等について指導するための知識・方法を得る。
第3日目	9:00 10:30 10:45	12:15 13:30	15:10 15:20 17:00
10月22日 (水)	9:00 10:30 10:45 休憩 「小学校外国語活動における様々なコミュニケーション活動等」菅正隆 文部科学省国際教育課長 ◎目的：小学校におけるコミュニケーション活動の意義と位置づけについて理解を深める。	12:15 13:30 昼休み 休憩 「事例発表 「小学校経営の視点で捉えた小学校外国語活動・校内研修の実践」 ※意見交換（課題） 柳田昌則 札幌市立南小学校長 ◎目的：先進的な校内研修の取組の中から役立つ知識・方法を得る。	15:10 15:20 17:00 休憩 「TTTでのコミュニケーション活動2」直山木綿子 ALT Matthew Hirakawa ALT Galen Howie ◎目的：TTの役割、実際の教員の役割について学び、工夫すべき点等、より実践的な手法について理解を深める。
第4日目	9:00 10:30 10:45	12:15 13:30	15:10 15:20 17:00
10月23日 (木)	9:00 10:30 10:45 休憩 「様々な外国語活動1（『英語ノート』の活用）」直山木綿子 菅正隆 文部科学省国際教育課長 ◎目的：実際の授業を体験しながら、『英語ノート』の活用や歌・チャンツ等の指導について役立つ知識・方法を得る。	12:15 13:30 昼休み 休憩 「様々な外国語活動2（『英語ノート』の活用）」直山木綿子 菅正隆 文部科学省国際教育課長 ◎目的：実際の授業を体験しながら、『英語ノート』の活用やコミュニケーション活動の指導について役立つ知識・方法を得る。	15:10 15:20 17:00 休憩 「マイクロテイチング（指導案作成、発表の準備）」直山木綿子 菅正隆 文部科学省国際教育課長 ◎目的：研修で得たことを十分に活かして、効果的な授業の在り方を探る。
第5日目	9:00 11:00 11:15	12:30	
10月24日 (金)	9:00 11:00 11:15 発表 Aグループ 大城賢 文部科学省国際教育課長 Bグループ 菅正隆 文部科学省国際教育課長 ◎目標：作成した指導案を基に授業を展開することにより、お互いに学び合う。	12:30 閉講式 指導助言・講評 「研修講師と異なるために」菅正隆・直山木綿子 梅本龍多・兼重昇 ◎目的：発表内容に基づき、研修講師と異なるための知見を深める。	

研修概要

研修名	小学校における英語活動等国際理解活動指導者養成研修（関東・甲信越ブロック）							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研修目的	学習指導要領の改訂において、小学校高学年に外国語活動が導入された。このことを踏まえ、外国語活動（英語活動）を担当する指導者主事等に対して、研修の意義や役割、校内研修の運営方法、学級担任の役割、教材作成の方法等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受講対象	教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者で、本研修内容を踏まえた研修の講師等や各学校への指導・助言等の役割を担う予定である者							
開催期日	平成20年10月27日（月）～平成20年10月31日（金）					5日間		
受講人数	計画人数	※	人	受講者数	81	人	参加率	※
開催場所	ワークピア横浜（神奈川県横浜市）							

全体計画人数 220 人、受講者数 357 人、参加率 162.3%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数	79	2	0	0	0	0	81
割合 (%)	97.5	2.5	0.0	0.0	0.0	0.0	
	81	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・中核教員研修を立案するのに、また拠点校の指導助言のために、大変役に立つ研修であった。 ・研修内容がマイクロティーチングに向けて有機的に計画されていた。また個々の研修内容も現在求められているものであり、有意義な研修となった。 ・一流の先生方の御指導をいただき、これまでの疑問が解消されたと同時に、方向性がはっきり見えた。 ・ネットワーク構築ができ、今後につながる研修となった。 ・普段の仕事とは離れて、じっくりと取り組むことができよかった。中には5日間が長いというように感じる受講者もいると思うが、このような研修は大切。 ・事前提出資料は、参考資料集としていただけるのも嬉しいが、情報交換の時間を確保（1時間程度で十分）していただけたら、レポート、紙面からだけでは見えない苦労や工夫等もわかりあえ、よかったと感じた。 ・実践的な研修、具体的な支援に結びつく研修をさらに充実させていただけるとありがたい。

研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・講義や演習の内容について、新学習指導要領を踏まえた内容とした。 ・文部科学省からの行政説明をなくし、英語活動の進め方の具体的な方策について、演習を通して体験的に学ぶことができるようにした。 ・文部科学省が作成した英語ノートや当センター作成のDVDなどの活用方法を演習で扱った。 ・各地域の受講者間のネットワークが構築できるよう、受講者のメールアドレス一覧を作成し、研修後にメールにて配信した（メールは希望した受講者にのみ配信）。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育委員会の指導主事等に加えて、地域における英語活動推進の中核となる教員も研修の対象とする。 ・中核となる教員が参加し易いよう、研修内容を精選し、研修期間を3日間とする。 ・受講者が協議を行う時間を十分確保できるよう工夫する。 ・クラスルームイングリッシュ、TTなど、経験のない教員向けの内容は扱わないこととする。
--

研修日程(プログラム)

次ページのとおり

研修概要

研修名	小学校における英語活動等国際理解活動指導者養成研修（東海・北陸ブロック）							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研修目的	学習指導要領の改訂において、小学校高学年に外国語活動が導入された。このことを踏まえ、外国語活動（英語活動）を担当する指導主事等に対して、研修の意義や役割、校内研修の運営方法、学級担任の役割、教材作成の方法等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受講対象	教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者で、本研修内容を踏まえた研修の講師等や各学校への指導・助言等の役割を担う予定である者							
開催期日	平成20年11月10日（月）～平成20年11月14日（金）				5日間			
受講人数	計画人数	※	人	受講者数	48	人	参加率	※
開催場所	じゅうろくプラザ（岐阜県岐阜市）							

全体計画人数 220 人、 受講者数 357 人、 参加率 162.3%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	46	2	0	0	0	0	48
割合 (%)	95.8	4.2	0.0	0.0	0.0	0.0	
	48						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

- ・どの協議・演習においても得るものが多い研修だった。小学校外国語活動を行う上で大切にすべきこと（例えば、外国語活動を行うことで人と言葉でつながることのよさを子どもたちに教えていくこと、学級担任の役割や心がまえ等）を学ぶことができ、今後の指導・助言や研修の企画運営に大変役立つ研修となった。
- ・基本的な理念から実際の授業の方法まで幅広く学ばせていただいた。最後の模擬授業のゴール設定に向けて、各研修がずっとつながっていた。小学校経験のない私にとって、現場の先生方と意見交換ができたのも貴重な体験となった。
- ・外国語活動の導入に不安をいっている先生方が多いと思う。その不安を少しでも解消すべく「できそうですよ」と伝えるものを得ることができたことが成果。
- ・これまで築き上げられたものを無我夢中で毎日やってきた自分の勤務校の英語活動のあり方が間違っていないという自信を持った。理論的に教えていただき、「そういうことだったのか」と納得し、そして「今それはきちんとやっている」と思うことができた。今回の研修で教えていただいたことを自分の言葉としてどこまで伝えられるのかという不安は大きくあるが、学校の中で仲間を増やし、できる範囲のことを拠点校としてやっていくといいのだろうか、と今思っている。

研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・講義や演習の内容について、新学習指導要領を踏まえた内容とした。
- ・文部科学省からの行政説明をなくし、英語活動の進め方の具体的な方策について、演習を通して体験的に学ぶことができるようにした。
- ・文部科学省が作成した英語ノートや当センター作成のDVDなどの活用方法を演習で扱った。
- ・各地域の受講者間のネットワークが構築できるよう、受講者のメールアドレス一覧を作成し、研修後にメールにて配信した（メールは希望した受講者にのみ配信）。

次年度に向けて

- ・教育委員会の指導主事等に加えて、地域における英語活動推進の中核となる教員も研修の対象とする。
- ・中核となる教員が参加し易いよう、研修内容を精選し、研修期間を3日間とする。
- ・受講者が協議を行う時間を十分確保できるよう工夫する。
- ・クラスルームイングリッシュ、TTなど、経験のない教員向けの内容は扱わないこととする。

研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成20年度 小学校における英語活動等国際理解活動指導者養成研修（東海・北陸ブロック）

第1日目 11月10日（月）

15:10-15:30	休憩	15:30-17:00	課題協議2 「小学校における外国語活動の基本理念と言語習得理論等」 国立大学法政大学 大城賢 目的：外国語活動の基本理念と言語習得について理解を深める。
12:30-13:00	開講式	13:00-13:20	課題協議1 「小学校における外国語活動の在り方」 菅正隆 目的：本研修の全体像（外国語活動が求められた背景、国の施策、意義等）について理解する。
12:30-13:00	受付	13:00-13:20	課題協議1 「小学校における外国語活動の在り方」 菅正隆 目的：本研修の全体像（外国語活動が求められた背景、国の施策、意義等）について理解する。

第2日目 11月11日（火）

9:00-10:30	課題協議3 「地方自治体における小学校外国語活動の構築」 文部科学省国際交流センター 菅正隆 目的：地域における研修体制の在り方とその他の課題について情報を共有し、問題解決への糸口を探る。	10:30-10:45	休憩	10:45-12:15	課題協議4 「小学校外国語活動における国際理解の在り方」 国立大学法政大学大学院 卯城祐司 目的：外国語活動における国際理解の在り方について具体的な活動を踏まえながら、工夫すべき点等の理解を深める。	12:15-13:30	昼休み	13:30-14:50	課題協議5 「研修における発音等音声指導の在り方」 菅正隆 目的：音声指導等を効果的に行うための知識・方法を探る。	14:50-15:10	休憩	15:10-16:30	課題協議6 「クラスルームイングリッシュ」 菅正隆 目的：教室で使う簡単な表現等について指導するための知識・方法を得る。	16:30-17:00	休憩
------------	---	-------------	----	-------------	--	-------------	-----	-------------	--	-------------	----	-------------	---	-------------	----

第3日目 11月12日（水）

9:00-10:30	課題協議7 「様々な外国語活動における様々なコミュニケーション活動等」 国立大学法政大学 白畑知彦 目的：小学校におけるコミュニケーション活動の意義と位置づけについて理解を深める。	10:30-10:45	休憩	10:45-12:15	事例発表 「小学校経営の視点で捉えた小学校外国語活動・校内研修の実践」 意見交換（課題） 卯城祐司 卯城祐司 安田昌則 目的：先進的な校内研修の取組の中から役立つ知識・方法を得る。	12:15-13:30	昼休み	13:30-15:00	演習1 「TTでのコミュニケーション活動2グループ」 京都市教育委員会 菅正隆 大府河内長野市立高向小学校 直山木綿子 目的：TTの役割、実際の教員の役割について学び、工夫すべき点等、より実践的な手法について理解を深める。	15:00-15:20	休憩	15:20-16:30	演習2 「TTでのコミュニケーション活動2」 直山木綿子 ALT Matthew Hirakawa ALT Steven Wong 梅本龍多	16:30-17:00	休憩
------------	---	-------------	----	-------------	--	-------------	-----	-------------	---	-------------	----	-------------	---	-------------	----

第4日目 11月13日（木）

9:00-10:30	演習3 「様々な外国語活動1（『英語ノート』の活用）」 菅正隆 目的：実際の授業を体験しながら、『英語ノート』の活用や歌・チャンツ等の指導について役立つ知識・方法を得る。	10:30-10:45	休憩	10:45-12:15	演習4 「様々な外国語活動2（『英語ノート』の活用）」 菅正隆 目的：実際の授業を体験しながら、『英語ノート』の活用やコミュニケーション活動の指導について役立つ知識・方法を得る。	12:15-13:30	昼休み	13:30-15:00	演習5 「マイクロテイチング（指導案作成）」 菅正隆 目的：研修で得たことを十分に活かして、効果的な授業の在り方を探る。	15:00-15:20	休憩	15:20-16:30	演習6 「マイクロテイチング（指導案作成、発表の準備）」 菅正隆 目的：研修で得たことを十分に活かして、効果的な授業の在り方を探る。	16:30-17:00	休憩
------------	--	-------------	----	-------------	--	-------------	-----	-------------	---	-------------	----	-------------	---	-------------	----

第5日目 11月14日（金）

9:00-11:00	発表 Aグループ Bグループ 目標：作成した指導案を基に授業を展開することにより、お互いに学び合う。	11:00-11:15	休憩	11:15-12:30	指導助言・講評 「研修講師とつながるために」 直山木綿子・渡邊信治 梅本龍多・菅正隆 目的：発表内容に基づき、研修講師となるための知見を深める。	12:30-13:00	閉講式
------------	---	-------------	----	-------------	--	-------------	-----

研修概要

研 修 名	小学校における英語活動等国際理解活動指導者養成研修（近畿・中国ブロック）							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研 修 目 的	学習指導要領の改訂において、小学校高学年に外国語活動が導入された。このことを踏まえ、外国語活動（英語活動）を担当する指導主事等に対して、研修の意義や役割、校内研修の運営方法、学級担任の役割、教材作成の方法等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受 講 対 象	教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者で、本研修内容を踏まえた研修の講師等や各学校への指導・助言等の役割を担う予定である者							
開 催 期 日	平成20年10月6日（月）～平成20年10月10日（金）					5日間		
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	82	人	参加率	※
開 催 場 所	ルビノ京都堀川（京都府京都市）							

全体計画人数 220 人、 受講者数 357 人、 参加率 162.3%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	70	11	0	0	1	0	82
割合 (%)	85.4	13.4	0.0	0.0	1.2	0.0	
	81	98.8					

2. 研修内容に関する主な意見

- ・国の大きな流れがたいへんよく理解できた。直接解説書等を書かれた先生方のお話は大変有意義であった。
- ・「なぜ英語なの」「コミュニケーション活動とは」等、基本的な認識と共に、実際の指導について体験することにより、指導主事としての在り方について、より具体的なイメージを持つことができた。
- ・現場の小学校の担任の先生の不安と大きな負担を少しでも取り除くノウハウや考え方等、とても参考になり勉強になった。今後、本研修で学んだ内容を生かし、本市の小学校英語活動をどうマネジメントするかが大きな課題であり責務である。
- ・英語は苦手だ、と思いながら今回参加したが、研修がすすむにつれ、講師の先生方、まわりの研修生のみなさんの熱い思いの中で、自分が変わっていくのを感じた。英語活動が始まるにあたり、本研修の機会を与えてもらったことに本当に感謝している。これから勉強していく中で、また悩みも生れることと思うが、相談し合える仲間ができた。
- ・指導主事を中心とした研修であり、小学校教諭(英語が苦手)には、本当に場違いな所へ来てしまったというのが本音だった。しかし、講義を受けるうちに「学級担任が進める英語活動」の意義が、見えてきた。英語が苦手でもできる方法、工夫しだいで子ども達が活動できるということ、何より学級担任だからこそ子ども達の気持ちを引き出せるという確信が持てた。
- ・質問の時間をもっと確保していただきたかった。

研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・講義や演習の内容について、新学習指導要領を踏まえた内容とした。
- ・文部科学省からの行政説明をなくし、英語活動の進め方の具体的な方策について、演習を通して体験的に学ぶことができるようにした。
- ・文部科学省が作成した英語ノートや当センター作成のDVDなどの活用方法を演習で扱った。
- ・各地域の受講者間のネットワークが構築できるよう、受講者のメールアドレス一覧を作成し、研修後にメールにて配信した（メールは希望した受講者にのみ配信）。

次年度に向けて

- ・教育委員会の指導主事等に加えて、地域における英語活動推進の中核となる教員も研修の対象とする。
- ・中核となる教員が参加し易いよう、研修内容を精選し、研修期間を3日間とする。
- ・受講者が協議を行う時間を十分確保できるよう工夫する。
- ・クラスルームイングリッシュ、T Tなど、経験のない教員向けの内容は扱わないこととする。

研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成20年度 小学校における英語活動等国際理解活動指導者養成研修(近畿・中国ブロック)

第1日目 日程表

10月6日 (月)	12:30 13:00 13:20	15:10 15:30	17:00
	受付	開講式	休憩
		<p>課題協議1 「小学校における外国語活動の在り方」 文部科学省国際理解推進課 菅正隆</p> <p>目的：本研修の全体像（外国語活動が求められた背景、国の施策、意義等）について理解する。</p>	<p>課題協議2 「小学校における外国語活動の基本理念と言語習得理論等」 国立大学法人神戸大学 大城賢</p> <p>目的：外国語活動の基本理念と言語習得について理解を深める。</p>

第2日目

10月7日 (火)	9:00	10:30 10:45	12:15	13:30	14:50 15:10	16:30 17:00
	<p>課題協議3 「地方自治体における小学校外国語活動の構築」 文部科学省国際理解推進課 菅正隆</p> <p>目的：地域における研修体制の在り方とその他の課題について情報を共有し、問題解決への糸口を探る。</p>	<p>課題協議4 「小学校外国語活動における国際理解の在り方」 国立大学法人城波大学大学院 卵城祐司</p> <p>目的：外国語活動における国際理解の在り方について具体的な活動を踏まえながら、工夫すべき点等の理解を深める。</p>	<p>昼休み</p>	<p>課題協議5 「研修における発音等音声指導の在り方」 灘中学校・灘高等学校 菅正隆</p> <p>目的：音声指導等を効果的に行うための知識・方法を探る。</p>	<p>課題協議6 「クラスルームイングリッシュ」 灘中学校・灘高等学校 菅正隆</p> <p>目的：教室で使う簡単な表現等について指導するための知識・方法を得る。</p>	<p>研修材料の活用について 十津川高等学校 森秀夫</p>

第3日目

10月8日 (水)	9:00	10:30 10:45	12:15	13:30	15:00 15:20	17:00
	<p>課題協議7 「様々な外国語活動における様々なコミュニケーション活動等」 国立大学法人神戸大学 菅正隆</p> <p>目的：小学校におけるコミュニケーション活動の意義と位置づけについて理解を深める。</p>	<p>事例発表 「小学校経営の視点で捉えた小学校外国語活動・校内研修の実践」 意見交換（課題） 御島大祐 田辺明弘 小川 安田昌則</p> <p>目的：先進的な校内研修の取組の中から役立つ知識・方法を得る。</p>	<p>昼休み</p>	<p>演習1 「TTでのコミュニケーション活動1」 2グループ 京都市教育委員会指導員 菅正隆 大阪府河内長野市立高向小学校 梅本龍多</p>	<p>演習2 「TTでのコミュニケーション活動2」 直山木綿子 ALT Matthew Hirakawa ALT Joanna Waketfield</p>	<p>目的：TTの役割、実際の教員の役割について学び、工夫すべき点等、より実践的な手法について理解を深める。</p>

第4日目

10月9日 (木)	9:00	10:30 10:45	12:15	13:30	15:00 15:20	17:00
	<p>演習3 「様々な外国語活動1（『英語ノート』の活用）」 班単位 京都市教育委員会指導員 菅正隆 大阪府河内長野市立高向小学校 梅本龍多 国立大学法人神戸大学 菅正隆</p> <p>目的：実際の授業を体験しながら、『英語ノート』の活用や歌・チャット等の指導について役立つ知識・方法を得る。</p>	<p>演習4 「様々な外国語活動2（『英語ノート』の活用）」 班単位 京都市教育委員会指導員 菅正隆 大阪府河内長野市立高向小学校 梅本龍多 国立大学法人神戸大学 菅正隆</p> <p>目的：実際の授業を体験しながら、『英語ノート』の活用やコミュニケーション活動の指導について役立つ知識・方法を得る。</p>	<p>昼休み</p>	<p>演習5 「マイクロティーチング（指導案作成）」 班単位 直山木綿子 梅本龍多 菅正隆</p> <p>目的：研修で得たことを十分に活かして、効果的な授業の在り方を探る。</p>	<p>演習6 「マイクロティーチング（指導案作成、発表の準備）」 班単位 直山木綿子 梅本龍多 菅正隆</p> <p>目的：研修で得たことを十分に活かして、効果的な授業の在り方を探る。</p>	

第5日目

10月10日 (金)	9:00	11:00 11:15	12:30
	<p>発表 Aグループ 文部科学省国際理解推進課 菅正隆 京都市教育委員会指導員 菅正隆 大阪府河内長野市立高向小学校 梅本龍多 大阪府河内長野市立高向小学校 梅本龍多 国立大学法人神戸大学 菅正隆</p> <p>Bグループ 文部科学省国際理解推進課 菅正隆 京都市教育委員会指導員 菅正隆 大阪府河内長野市立高向小学校 梅本龍多 大阪府河内長野市立高向小学校 梅本龍多 国立大学法人神戸大学 菅正隆</p> <p>目標：作成した指導案を基に授業を展開することにより、お互いに学び合う。</p>	<p>指導助言・講評 「研修講師と異なるために」 菅正隆・直山木綿子 梅本龍多・菅正隆 目的：発表内容に基づき、研修講師となるための知見を深める。</p>	<p>閉講式</p>

研修概要

研修名	小学校における英語活動等国際理解活動指導者養成研修（四国・九州ブロック）							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研修目的	学習指導要領の改訂において、小学校高学年に外国語活動が導入された。このことを踏まえ、外国語活動（英語活動）を担当する指導主事等に対して、研修の意義や役割、校内研修の運営方法、学級担任の役割、教材作成の方法等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受講対象	教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者で、本研修内容を踏まえた研修の講師等や各学校への指導・助言等の役割を担う予定である者							
開催期日	平成20年11月17日（月）～平成20年11月21日（金）				5日間			
受講人数	計画人数	※	人	受講者数	93	人	参加率	※
開催場所	熊本テルサ（熊本県熊本市）							

全体計画人数 220 人、受講者数 357 人、参加率 162.3%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	84	9	0	0	0	0	93
割合 (%)	90.3	9.7	0.0	0.0	0.0	0.0	
	93						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

- ・充実した講師陣で大変多くのことを学ばせていただいた。これまでも何人かの大学の先生のお話を聞く機会があったが、実践をされていて、課題もわかった上でお話いただいた直山先生や梅本先生の講義・演習などは、大変役立った。
- ・英語活動の大枠→授業までフォーカスしていく構成がわかりやすかった。
- ・管内で研修を進めていく際の大変有益な情報や研修そのものの進め方について、多くのことを学ぶことができた。同じ管内の参加者とともに今後の本研修内容の広め方について協議し、実践していきたいと思う。
- ・本研修において、これほどの講師の先生方から、直接実践的なお話をおうかがいすることができ、大変有意義な時間を過ごすことができた。いよいよ、明年からの移行措置期間、そして23年度からの本格実施に向け、指導者の一人として我が地域で、今回の研修を自分なりの表現におきかえ、しっかり伝えていきたい。
- ・質疑・応答の時間が十分にあると、今後さらに役立ったと思う。私たちが疑問に思っていることや、悩んでいること等は、現場の先生方のもと同じであり、我々が地域に戻って指導する側に立った時、必ず質問される内容だと思うので、できる限り解決していきたくった。
- ・外国語活動における基本的な考え方がよく理解できた。研修の内容、講師の人選等、とてもよく考えられており、この研修全体の構成も大変参考になった。
- ・これまで勉強してきたつもりだったが、自分の考え方・実践とのギャップがあったことを痛感させられた。また、個人の研修にかたよりつつあったので、全体に伝えていくという使命をあらためて感じた。

研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・講義や演習の内容について、新学習指導要領を踏まえた内容とした。
- ・文部科学省からの行政説明をなくし、英語活動の進め方の具体的な方策について、演習を通して体験的に学ぶことができるようにした。
- ・文部科学省が作成した英語ノートや当センター作成のDVDなどの活用方法を演習で扱った。
- ・各地域の受講者間のネットワークが構築できるよう、受講者のメールアドレス一覧を作成し、研修後にメールにて配信した（メールは希望した受講者にのみ配信）。

次年度に向けて

- ・教育委員会の指導主事等に加えて、地域における英語活動推進の中核となる教員も研修の対象とする。
- ・中核となる教員が参加し易いよう、研修内容を精選し、研修期間を3日間とする。
- ・受講者が協議を行う時間を十分確保できるよう工夫する。
- ・クラスルームイングリッシュ、T Tなど、経験のない教員向けの内容は扱わないこととする。

研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成20年度 小学校における英語活動等国際理解活動指導者養成研修（四国・九州ブロック）

日程表

第1日目	12:30 13:00 13:20	15:10 15:30	17:00
11月17日 (月)	12:30 13:00 13:20 開講式 受付	15:10 15:30 休憩 「小学校における外国語活動の在り方」菅正隆 文部科学省国際理解推進課	17:00 休憩 「小学校における外国語活動の基本理念と言語習得理論等」 国立大学法人岡山大学 大城賢 ◎目的：外国語活動の基本理念と言語習得について理解を深める。
第2日目	9:00 10:30 10:45	12:15 13:30	14:50 15:10
11月18日 (火)	9:00 10:30 10:45 休憩 「小学校における外国語活動における国際理解の在り方」 国立大学法人岡山大学大学院 卯城祐司	12:15 13:30 昼休み	14:50 15:10 休憩 「クラスルームイミングリッシュ」 Peter Ferguson ◎目的：教室で使う簡単な表現等について指導するための知識・方法を得る。
第3日目	9:00 10:30 10:45	12:15 13:30	15:10 15:20
11月19日 (水)	9:00 10:30 10:45 休憩 「小学校外国語活動における様々なコミュニケーション活動等」 鳥取県立大学 彰浦攻 ◎目的：小学校におけるコミュニケーション活動の意義と位置づけについて理解を深める。	12:15 13:30 昼休み	15:10 15:20 休憩 「TTTでのコミュニケーション活動2」 直山木綿子 ALT Matthew Hirakawa ALT Joanna Wakefield
第4日目	9:00 10:30 10:45	12:15 13:30	15:10 15:20
11月20日 (木)	9:00 10:30 10:45 休憩 「様々な外国語活動1（『英語ノート』の活用）」※班単位 直山木綿子 兼重昇 ◎目的：実際の授業を体験しながら、『英語ノート』の活用や歌・チャンツ等の指導について役立つ知識・方法を得る。	12:15 13:30 昼休み	15:10 15:20 休憩 「マイクロテイチング（指導案作成、発表の準備）」※班単位 直山木綿子 兼重昇 ◎目的：研修で得たことを十分に活かして、効果的な授業の在り方を探る。
第5日目	9:00 11:00 11:15	12:30	
11月21日 (金)	9:00 11:00 11:15 発表 Aグループ 文部科学省国際理解推進課 Bグループ 京都府教育委員会 ◎目標：作成した指導案を基に授業を展開することにより、お互いに学び合う。	12:30 閉講式	

研修概要

研修名	平成20年度外国語指導助手研修(来日直後オリエンテーション)						
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第二グループ						
研修目的	我が国の外国語教育を推進し、国際社会に生きる子ども達を育成するため、全国の外国語指導助手(ALT)に対して、日本の外国語教育等について適切に理解し、各学校において一層効果的な職務遂行ができるようにするために必要な知識等を修得させる。						
受講対象	総務省・外務省・文部科学省の協力の下に実施しているJETプログラムに招致した外国語指導助手(ALT)						
開催期日	(4月期)平成20年4月10日(木)			1日間			
	(A日程)平成20年7月28日(月)～平成20年7月29日(火)			2日間			
	(B日程)平成20年8月4日(月)～平成20年8月5日(火)			2日間			
	(第2次)平成20年8月21日(木)			1日間			
受講人数	計画人数	4月期	2,000人	受講者数	9人	参加率	—
		A日程			1,011人		—
		B日程			763人		—
		第2次			70人		—
		計			2,000人		計
開催場所	4月期=ルポール麹町(東京都千代田区) A日程、B日程、第2次=京王プラザホテル(東京都新宿区)						

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数(人)	119	374	26	0	0	1,334	1,853
割合(%)	6.4	20.2	1.4	0.0	0.0	72.0	
	493	26.6					

2. 研修内容に関する主な意見

- ・ティーム・ティーチングについて理解ができた。
- ・配られた資料が大変わかりやすかった。
- ・講師が大変熱心で親切だった。
- ・たくさんの資料を得ることができたので、すぐに授業で使ってみたい。
- ・日本の授業を実際に生徒として体験することができて良かった。
- ・授業計画についてのセッションがあるとさらに良かった。

研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・分科会の数は減ったが、内容の点では大きな問題はなかった。
- ・文部科学省と連携をとりながら、講師の選定にあたった。

次年度に向けて

- ・高校の分科会を1から2に増やす。
- ・基調講演・パネルプレゼンテーションを初日の午後に行う。
- ・今年度と同様に早めに講師の候補を絞り、事前打合せを十分行っていく。

研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成20年度外国語指導助手研修（来日直後オリエンテーション）
文部科学省分科会に係る日程表

平成20年4月10日（木）

会場：ホテルルポール麹町

12:50	開 会
	<p>【行政説明】</p> <p>「日本の学校教育の特色と外国語教育の現状」 講師：文部科学省初等中等教育局 国際教育課国際理解教育専門官 都築 智</p> <p>「外国語指導助手の役割とティーム・ティーチングの基本的な考え方」 講師：文部科学省初等中等教育局 国際教育課 西村 久仁美</p> <p>必要に応じ、潮田講師（中国語）、黒澤講師（韓国語）による逐次通訳</p>
13:20	休 憩
13:30	<p>【講 義】</p> <p>[中国語] 「日本における中国語教育の現状について」 講師・指導助言： 神奈川県立横浜国際高等学校 教諭 潮田 康之</p> <p>[韓国語] 「日本における韓国語教育の現状について」 講師・指導助言： 関東国際高等学校 教諭 黒澤 真爾</p>
14:20	休 憩
14:30	<p>【指導助言等】</p> <p>「先輩ALTからの体験談・指導助言」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・授業、教材、JTLとのティーム・ティーチング ・JTL等の教職員との人間関係、生徒との関係 ・学校における授業以外の活動状況等 ・学校以外の地域社会との関わり方及び活動状況 ・日本の生活習慣（生活一般）等 ・質疑応答 ・意見交換 <p style="text-align: right;">[中国語] 指導助言者：長崎県立佐世保東翔高等学校 張 鶴（先輩ALT）</p> <p style="text-align: right;">[韓国語] 指導助言者：鳥取県立倉吉総合産業高等学校 鄭 然旭（先輩ALT）</p>
15:20	<p>必要に応じ、適宜潮田講師、黒澤講師も指導助言等を行う。</p>

平成20年度来日直後オリエンテーション 日程

A日程	B日程	時間	内容					
7/26(土)	8/2(土)		TOA集合 受け入れ準備					
7/27(日)	8/3(日)		新規招致者来日、ホテルチェックイン					
7/28(月)	8/4(月)	09:00 - 10:00	県別ミーティング			TOA		
		10:00 - 11:00	開会式・JETプログラムに関する重要事項の説明			司会:PC		
		11:00 - 12:00	講演「カルチャーショック・最初のヶ月」			PC		
		12:00 - 13:15	昼食					
			ALT		担当	CIR		担当
		13:15 - 15:15	パネルディスカッション 「ALTの日本での生活について」	TOA,PC, 日本人 PA	13:15 - 15:15	講演「CIRの日本での生活 について」(総務省) パネルディスカッション 「CIRの日本での生活につ いて」	TOA,PC, 日本人ス タッフ	
		15:25 - 16:10	CLAIR PA就任予定者のためのワークショップ AJETワークショップ 文部科学省ワークショップ(小学校訪問分科会)	AJET 文部科 学省	15:25 - 16:10	CLAIR PA就任予定者のた めのワークショップ AJETワークショップ	PC,TOA, AJET	
		16:20 - 17:05	AJETワークショップ 文部科学省ワークショップ(小学校訪問分科会)	AJET 文部科 学省	16:20 - 17:05	AJETワークショップ	AJET	
		17:15 - 18:00	AJETワークショップ	AJET	17:15 - 18:00	AJETワークショップ	AJET	
		15:25 - 18:00	AJET インフォメーションフェア					
18:30 - 20:00	JETプログラム歓迎レセプション			司会:PC				
7/29(火)	8/5(火)		ALT		担当	CIR		担当
		09:00 - 09:30	文部科学省 基調講演		文部 科学 省	09:00 - 11:00	TOA プレゼンテーション	TOA
		09:30 - 11:00	パネルプレゼンテーション 「日本の教育、ALTの仕事について」					
		11:10 - 12:00	分科会 「チームティーチングと効果的な授業計画」 (小学校1、中学校2、高等学校1、フランス語1、 ドイツ語1) フランス語はA日程、ドイツ語はB日程のみ			11:10 - 12:00	「CIRになってみよう」 ロールプレイ	
		12:00 - 13:15	昼食					
		13:15 - 14:05	分科会 「教材の創造的な使い方と言語活動の計画」 (小学校1、中学校2、高等学校1、フランス語1、 ドイツ語1) フランス語はA日程、ドイツ語はB日程のみ	文部 科学 省	13:15 - 14:05	職場別ディスカッション	TOA	
		14:15 - 15:05	CLAIRワークショップ及び県別ミーティング					
		15:15 - 16:05	CLAIRワークショップ及び県別ミーティング					
		16:15 - 17:05	CLAIRワークショップ及び県別ミーティング					
		17:45 - 20:00	取団への出発準備(荷物の詰め替え、発送等)					
	夜	大使館歓迎イベント						
7/30(水)	8/6(火)	各取団による	取りまとめ団体へ出発					

平成20年度 来日直後オリエンテーション 2次来日スケジュール

	時間	内容				
	8月21日(木)	10:00 - 10:15	開会式			南館4階「錦」
		ALT		CIR		
10:20 - 10:50		CLAIR 情報提供			南館4階「錦」	
10:50 - 11:00		AJET紹介			南館4階「錦」	
11:00 - 12:30		ALT全体会	南館4階「錦」	11:00 - 12:30	CIR全体会	南館4階「かつら」
12:30 - 13:30		昼食 南館4階「扇」				
13:30 - 13:45		MEXT 歓迎挨拶	南館4階「錦」	13:30 - 14:15	講演	南館4階「かつら」
13:45 - 14:15		MEXT 基調講演	南館4階「錦」			
14:15 - 14:25		休憩		14:15 - 14:30	休憩	
14:25 - 15:25		MEXT プレゼンテーション(1)	南館4階「錦」	14:30 - 15:15	職場別ミーティング	南館4階「かつら」
15:25 - 15:35		休憩		15:15 - 16:15	CIRロールプレイ	南館4階「かつら」
15:35 - 16:30		MEXT プレゼンテーション(2)	南館4階「錦」	16:15 - 16:30	質疑応答	南館4階「かつら」
16:40 - 17:10		都道府県別ミーティング 南館4階「錦」				
18:30 - 20:00		JETプログラム夕食会 南館4階「扇」				
8月22日(金)		時間	内容			
	各取団による	取りまとめ団体へ出発				

研修概要

研 修 名	外国人児童生徒等に対する日本語指導指導者養成研修【管理者用コース】							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研 修 目 的	日本語指導が必要な児童生徒等の増加等を踏まえ、これらの児童生徒に対し適応指導・日本語指導を行うとともに、関係機関と連携し、受入態勢を整備するなど、学校全体できめ細かな対応を図ることが重要である。 本研修では、学校全体での外国人児童生徒の受入体制の整備、関係機関との連携等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が受講者により行われることを目的とする。							
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの外国人児童生徒等教育担当者並びにこれらに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭であって、各地域・学校において本研修の成果を活用できる者 							
開 催 期 日	平成20年7月29日(火)～平成20年7月30日(水)			2日間				
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	50	人	参加率	※
開 催 場 所	サンシャインシティ文化会館(東京都豊島区)							

全体計画人数 110 人、 受講者数 132 人、 参加率 120.0%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数	26	24	0	0	0	0	50
割合 (%)	52.0	48.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

2. 研修内容に関する主な意見

- ・今まで見聞きしてきたことをきちんと整理された感じで、とてもいい学習ができました。
- ・日本語指導を専門的な見方で学ぶ機会は、大変有意義な内容でした。
- ・県・市のそれぞれの様子がよくわかった。
- ・意見交換を通して、自分たちの施策に対して自信が持てるようになりました。
- ・地域により実態が違うことに驚いた。校長先生や教頭先生の生の声が聞けて大変よかった。

研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・文化的な背景の講義について、ブラジル、中国のコースに分けず両方聞けるように配慮した。
- ・概論的および適応指導についての講義を管理者用コースにも取り入れた。
- ・推薦募集の段階で、推薦条件について各都道府県の担当者に伝える。
- ・日程の入れ替えを行った。

次年度に向けて

- ・管理者コースの内容のより充実を図る。
- ・講師同士の事前打合せは必ず行うようにする。

研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成20年度 外国人児童生徒等に対する日本語指導指導者養成研修
日 程 表

第1日目

7月29日 (火)	10:00	10:30	11:10	12:10	13:10	14:40	14:55	17:00
	受 付	開 講 式	両コース共通 課題協議1 「外国人児童生徒教育全般 ～外国人児童生徒の受入れ体 制～」 東京学芸大学国際教育センター 教授 吉谷 武志 目的：外国人児童生徒教育にお ける課題等について見識を深め る。	昼 食	両コース共通 課題協議2 「外国人児童生徒の文化的背景について」 ・ブラジル： 日向 ノエミア ・中国：中国帰国者定着促進センター 安場 淳子 目的：南米及び中国の文化や国民性を理解し、 より適切な指導に役立てる。	休 憩	管理者用コース 課題協議3 「受入れ体制の整備について～管理者としての 役割～」 豊橋市立岩田小学校 校長 彦坂 久伸 太田市教育委員会 主事 根岸 親 国立大学法人東京学芸大学 准教授 白井 智美 目的：外国人児童生徒の受入れについて、 先進的な地域の取組について理解を深める。 日本語指導者用コース 班別演習1 「各地域における取組についての情報交換」 国立大学法人東京学芸大学 准教授 齋藤 ひろみ 目的：個々の情報を共有し、課題解決への 糸口を探る。	

第2日目

7月30日 (水)	9:00	10:30	10:40	11:50	13:00	14:30	14:45	16:30	16:45
	両コース共通 課題協議4 「日本語指導とは何か」 早稲田大学 准教授 池上 摩希子 目的：日本語指導の理論的な 概論について理解を深める。	休 憩	両コース共通 課題協議5 「外国人児童生徒の心理について ～適応指導～」 明治学院大学 教授 阿部 裕 四谷ゆいクリニック 目的：心理的な側面からの児童生 徒への支援のあり方について理解を 深める。	昼 食	班別演習1 「外国人児童生徒等の受入れ体制1」 国立大学法人東京学芸大学 准教授 白井 智美 愛知淑徳大学 非常勤講師 松本 一子 目的：外国人児童生徒等の受入れ体制につ いて情報を共有し、課題解決への糸口を探る。	休 憩	管理者用コース 班別演習2 「外国人児童生徒等の受入れ体制2」 国立大学法人東京学芸大学 准教授 白井 智美 愛知淑徳大学 非常勤講師 松本 一子 目的：外国人児童生徒等の受入れ体 制について情報を共有し、課題解決 への糸口を探る。	閉 講 式	13:00 日本語指導者両コース共通 課題協議6 「JSLカリキュラムとは何か～基本的考え方～(小 学校編と中学校編)」 国立大学法人東京学芸大学 准教授 齋藤 ひろみ 目的：JSLカリキュラムについて、その考え方、 使い方について理解を深める。

第3日目

7月31日 (木)	9:00	10:30	10:45	12:00	13:10	17:00
	日本語初期指導コース 課題協議7 「年少者の日本語指導で、工夫が 必要なもの」 東京女子大学 教授 石井 恵理子 目的：年少者に日本語指導を 行う際に、工夫するべき点等、 より実践的な手法について理解 を深める。	休 憩	班別演習2 「指導案作成1と模擬授業」 ～日本語指導のための教材について～ 東京女子大学 教授 石井 恵理子 新宿区立大久保小学校 教諭 野口 恵美子 渋谷区立神南小学校 教諭 濱村 久美 目的：日本語初期指導に関する指 導案を作成し、模擬授業を行うこと を通じて、日本語初期指導について 理解を深める。	昼 食	班別演習3 「指導案作成2と模擬授業」 東京女子大学 教授 石井 恵理子 新宿区立大久保小学校 教諭 野口 恵美子 渋谷区立神南小学校 教諭 濱村 久美 目的：日本語初期指導に関する指導案を作成し、模擬授業を行うことを通じて、日本語初期指 導について理解を深める。	教科指導実践コース 班別演習2 「JSLカリキュラムの実践(教科志向型の指導案作成1と模擬授業)」 国立大学法人東京学芸大学 准教授 齋藤 ひろみ 浜松市立瑞穂小学校 教諭 近田 由紀子 甲府市立琢美小学校 教諭 今澤 悌 京都教育大学附属桃山中学校 教諭 佐々木 稔 京都市立池田小学校 教諭 大菅 佐知子 東京学芸大学附属大泉中学校 教諭 赤羽 寿夫 神栖市立植松小学校 教諭 山中 文枝 目的：日ごろの教科指導についての情報交換及び課題を共有し、JSL カリキュラムの授業計画作成時に具体的な手だてや支援を考えていく。

第4日目

8月1日 (金)	9:00	12:00	13:10	14:00	14:15
	日本語指導者両コース共通 班別演習4 「JSLカリキュラムの実践(教科志向型の模擬授業)」 国立大学法人東京学芸大学 准教授 齋藤 ひろみ 東京女子大学 教授 石井 恵理子 新宿区立大久保小学校 教諭 野口 恵美子 渋谷区立神南小学校 教諭 濱村 久美 浜松市立瑞穂小学校 教諭 近田 由紀子 甲府市立琢美小学校 教諭 今澤 悌 京都教育大学附属桃山中学校 教諭 佐々木 稔 京都市立池田小学校 教諭 大菅 佐知子 東京学芸大学附属大泉中学校 教諭 赤羽 寿夫 神栖市立植松小学校 教諭 山中 文枝 目的： (初期指導コース) JSLカリキュラムに則った指導案の模擬授業を参観 し、JSLカリキュラムに則った授業についての理解を深める。 (教科指導コース) JSLカリキュラムに則った指導案の模擬授業をすることで、JSLカ リキュラムに則った指導法を体得する。	昼 食	日本語指導者両コース共通 課題協議8 「研修を生かした日本語指導の充実を図 る方策」 国立大学法人東京学芸大学 准教授 齋藤 ひろみ 東京女子大学 教授 石井 恵理子 目的：日本語指導に関する研修成果を 活用するための方策について理解を深め る。	閉 講 式	

研修概要

研修名	外国人児童生徒等に対する日本語指導指導者養成研修【日本語指導者用コース】							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第二グループ							
研修目的	日本語指導が必要な児童生徒等の増加等を踏まえ、これらの児童生徒に対し適応指導・日本語指導を行うとともに、関係機関と連携し、受入態勢を整備するなど、学校全体できめ細かな対応を図ることが重要である。 本研修では、学校全体での外国人児童生徒の受入体制の整備、関係機関との連携等について、必要な知識等を修得させ、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動や各学校への指導・助言等が受講者により行われることを目的とする。							
受講対象	外国人児童生徒等に対する日本語指導等について一定の知識と経験を有する小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校等の主幹教諭、指導教諭及び教諭等であって、各地域・学校において本研修の成果を活用できる者							
開催期日	平成20年7月29日(火)～平成20年8月1日(金)				4日間			
受講人数	計画人数	※	人	受講者数	82	人	参加率	※
開催場所	サンシャインシティ文化会館(東京都豊島区)							

全体計画人数 110人、受講者数 132人、参加率 120.0%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数(人)	58	22	1	0	0	1	82
割合(%)	70.7	26.8	1.2	0.0	0.0	1.2	
	80	97.6					

2. 研修内容に関する主な意見

- ・日頃実践していることが、外国籍の児童生徒にとって効果があることが再確認できました。
- ・外国人児童生徒教育には、地域によって大きな問題があることがよくわかった。
- ・実際の授業場面のビデオを見ることができよかった。
- ・他の先生方と情報交換しながら共同して作るポスターがとても有意義でした。
- ・まとめとしてのポスターセッションが大変良かった。
- ・実践事例でも様々なパターンの指導やスキル、教科指導等を知ることができた。
- ・JSLのねらいと教科のねらいの両方を指導に入れることがわかりました。
- ・講師の助言もすぐいただけてよかったです。

研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・文化的な背景の講義について、ブラジル、中国のコースに分けず両方聞けるように配慮した。
- ・推薦募集の段階で、推薦条件について各都道府県の担当者に伝える。
- ・日程の入れ替えを行った。

次年度に向けて

- ・講師同士の事前打合せは必ず行うようにする。
- ・日本語指導の経験の度合いによって班別ができるような配慮をなるべく行う。

研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成20年度 外国人児童生徒等に対する日本語指導指導者養成研修
日 程 表

第1日目

7月29日 (火)	10:00	10:30	11:10	12:10	13:10	14:40	14:55	17:00
	受 付	開 講 式	両コース共通 課題協議1 「外国人児童生徒教育全般 ～外国人児童生徒の受入れ体 制～」 東京学芸大学国際教育センター 教授 吉谷 武志 目的：外国人児童生徒教育にお ける課題等について見識を深め る。	昼 食	両コース共通 課題協議2 「外国人児童生徒の文化的背景について」 ・ブラジル： 日向 ノエミア ・中国：中国帰国者定着促進センター 安場 淳子 目的：南米及び中国の文化や国民性を理解し、 より適切な指導に役立てる。	休 憩	管理者用コース 課題協議3 「受入れ体制の整備について～管理者としての 役割～」 豊橋市立岩田小学校 校長 彦坂 久伸 太田市教育委員会 主事 根岸 親 国立大学法人東京学芸大学 准教授 白井 智美 目的：外国人児童生徒の受入れについて、 先進的な地域の取組について理解を深める。 日本語指導者用コース 班別演習1 「各地域における取組についての情報交換」 国立大学法人東京学芸大学 准教授 齋藤 ひろみ 目的：個々の情報を共有し、課題解決への 糸口を探る。	

第2日目

7月30日 (水)	9:00	10:30	10:40	11:50	13:00	14:30	14:45	16:30	16:45
	両コース共通 課題協議4 「日本語指導とは何か」 早稲田大学 准教授 池上 摩希子 目的：日本語指導の理論的な 概論について理解を深める。	休 憩	両コース共通 課題協議5 「外国人児童生徒の心理について ～適応指導～」 明治学院大学 教授 阿部 裕 四谷ゆいクリニック 目的：心理的な側面からの児童生 徒への支援のあり方について理解を 深める。	昼 食	班別演習1 「外国人児童生徒等の受入れ体制1」 国立大学法人東京学芸大学 准教授 白井 智美 愛知淑徳大学 非常勤講師 松本 一子 目的：外国人児童生徒等の受入れ体制につ いて情報を共有し、課題解決への糸口を探る。	休 憩	管理者用コース 班別演習2 「外国人児童生徒等の受入れ体制2」 国立大学法人東京学芸大学 准教授 白井 智美 愛知淑徳大学 非常勤講師 松本 一子 目的：外国人児童生徒等の受入れ体 制について情報を共有し、課題解決 への糸口を探る。	閉 講 式	
	13:00	日本語指導者両コース共通		14:45	15:00	日本語指導者両コース共通		17:00	
			課題協議6 「JSLカリキュラムとは何か～基本的考え方～(小 学校編と中学校編)」 国立大学法人東京学芸大学 准教授 齋藤 ひろみ 目的：JSLカリキュラムについて、その考え方、 使い方について理解を深める。	休 憩	事例協議 「日本語指導の効果的な授業のありかた」 ・初期指導の授業実践 ・JSLカリキュラムに則った教 科の授業実践(小学校) ・JSLカリキュラムに則った教 科の授業実践(中学校) 新宿区立大久保小学校 教諭 野口 恵美子 浜松市立遠州浜小学校 教諭 櫻井 敬子 東京学芸大学附属大泉中学校 教諭 赤羽 寿夫 目的：初期指導やJSLカリキュラム に則った日本語指導の先進的な実践事例か ら、日本語指導の授業の効果的なありかた について知識を得る。				

第3日目

7月31日 (木)	9:00	10:30	10:45	12:00	13:10	17:00
	日本語初期指導コース 課題協議7 「年少者の日本語指導で、工夫が 必要なもの」 東京女子大学 教授 石井 恵理子 目的：年少者に日本語指導を 行う際に、工夫するべき点等、 より実践的な手法について理解 を深める。	休 憩	班別演習2 「指導案作成1と模擬授業」 ～日本語指導のための教材について～ 東京女子大学 教授 石井 恵理子 新宿区立大久保小学校 教諭 野口 恵美子 渋谷区立神南小学校 教諭 濱村 久美 目的：日本語初期指導に関する指 導案を作成し、模擬授業を行うこと を通じて、日本語初期指導について 理解を深める。	昼 食	班別演習3 「指導案作成2と模擬授業」 東京女子大学 教授 石井 恵理子 新宿区立大久保小学校 教諭 野口 恵美子 渋谷区立神南小学校 教諭 濱村 久美 目的：日本語初期指導に関する指導案を作成し、模擬授業を行うことを通じて、日本語初期指 導について理解を深める。	
	教科指導実践コース 班別演習2 「JSLカリキュラムの実践(教科志向型の指導案作成1と模擬授業)」 国立大学法人東京学芸大学 准教授 齋藤 ひろみ 浜松市立瑞穂小学校 教諭 近田 由紀子 甲府市立琢美小学校 教諭 今澤 悌 京都教育大学附属桃山中学校 教諭 佐々木 稔 京都市立池田小学校 教諭 大菅 佐知子 東京学芸大学附属大泉中学校 教諭 赤羽 寿夫 神栖市立植松小学校 教諭 山中 文枝 目的：日ごろの教科指導についての情報交換及び課題を共有し、JSL カリキュラムの授業計画作成時に具体的な手だてや支援を考えていく。		班別演習3 「JSLカリキュラムの実践(教科志向型の指導案作成2)」 ～日本語指導のための教材について～ 国立大学法人東京学芸大学 准教授 齋藤 ひろみ 甲府市立琢美小学校 教諭 今澤 悌 京都教育大学附属桃山中学校 教諭 佐々木 稔 京都市立池田小学校 教諭 大菅 佐知子 浜松市立瑞穂小学校 教諭 近田 由紀子 東京学芸大学附属大泉中学校 教諭 赤羽 寿夫 神栖市立植松小学校 教諭 山中 文枝 目的：新たにJSLカリキュラムに則った指導案を作成し、JSLカリキュラムに則った指導 法を体得する。			

第4日目

8月1日 (金)	9:00	12:00	13:10	14:00	14:15
	日本語指導者両コース共通 班別演習4 「JSLカリキュラムの実践(教科志向型の模擬授業)」 国立大学法人東京学芸大学 准教授 齋藤 ひろみ 東京女子大学 教授 石井 恵理子 新宿区立大久保小学校 教諭 野口 恵美子 渋谷区立神南小学校 教諭 濱村 久美 浜松市立瑞穂小学校 教諭 近田 由紀子 甲府市立琢美小学校 教諭 今澤 悌 京都教育大学附属桃山中学校 教諭 佐々木 稔 京都市立池田小学校 教諭 大菅 佐知子 東京学芸大学附属大泉中学校 教諭 赤羽 寿夫 神栖市立植松小学校 教諭 山中 文枝 目的： (初期指導コース) JSLカリキュラムに則った指導案の模擬授業を参観 し、JSLカリキュラムに則った授業についての理解を深める。 (教科指導コース) JSLカリキュラムに則った指導案の模擬授業をすることで、JSLカ リキュラムに則った指導法を体得する。	昼 食	日本語指導者両コース共通 課題協議8 「研修を生かした日本語指導の充実を図 る方策」 国立大学法人東京学芸大学 准教授 齋藤 ひろみ 東京女子大学 教授 石井 恵理子 目的：日本語指導に関する研修成果を 活用するための方策について理解を深め る。	閉 講 式	

研修概要

研 修 名	子育て支援指導者養成研修（中央指導者研修）							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	認定こども園（幼稚園）において子育て支援を推進するため、各都道府県等の指導主事等に対し、子育て支援の実施方法、子育て相談に関する手法等について、必要な知識を修得させ、各地域において、本研修内容を踏まえた研修の企画・立案や各園への指導・助言等が、受講者により行われることを目的とする。							
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県・指定都市・中核市の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 ・地方公共団体において認定こども園等の指導・助言を行う者 ・幼稚園・保育所の教職員であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 							
開 催 期 日	平成20年7月28日（月）～平成20年8月1日（金）				5日間			
受 講 人 数	計画人数	60	人	受講者数	52	人	参加率	86.7%
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	42	8	0	0	2	0	52
割合 (%)	80.8	15.4	0.0	0.0	3.8	0.0	
	50						
	96.2						

2. 研修内容に関する主な意見

- ・事前学習からまとめまで、講義・演習を含めてたくさんの勉強をすることができ、毎日充実していた。研修の機会を与えてくださったことに感謝している。ぜひ現場で学んだことを活用していきたい。
- ・子育て支援への理解が大変深まった。園への指導等に生かしていきたいと思う。同じ目的を持った研修生徒の交流は、視野を広げ自分自身を振り返るものとなり大変意義があった。
- ・5日間は現場を離れなければならないので辛い。せめて3日間くらいが良いと思う。
- ・理論を知った上で実際に事例を班で考えることによって、更に理解を深めることができた。また保護者への対応についても、生かしていきたい所がたくさんあり勉強になった。
- ・発達障害の基本的な考え方について知ることができた。家族支援も大事だが、もっと幼稚園現場での対応の仕方についての話を聞きたかった。
- ・研修計画を企画立案することで問題点がよく見えた。班のメンバーが自分の実践する事を前提に発言していた。特に全体のイメージ図を作成したことで、自園での研修計画に活かせる内容だった。
- ・指導主事で集まって研修計画を作成したが、想定する研修会への思いがバラバラであったために難しかった。個別に作成しても良かった。
- ・これだけ有意義で、現代の最も重要な課題とされる研修の現場への周知があまりできていないと感じる。前年度から計画に入れたり予算化したりする必要があるので、早めの周知を図ってほしい。

研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・他の講義と内容の重複を少なくしたり、メタ的な知識を受講者に習得してもらえようようにしたりするために、講師との事前打ち合わせの中で確認を行った。
- ・研修期間中、子育て支援に関連するNPO情報などのパンフレットを展示し、受講者に情報提供を行った。

次年度に向けて

- ・受講者が参加し易いよう、研修内容の重点化を図り、研修期間を3日間とする。
- ・受講者の経歴・担当業務内容を考慮した演習内容や班編成を工夫し、子育て支援の指導者としての資質の向上を図る。
- ・研修のねらいや全体構造をオリエンテーションにおいて示し、メタ的な観点をもって研修に臨む手立てを図る。

研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成20年度 子育て支援指導者養成研修日程一覧

7月28日(月)	10:30	11:00	11:30	12:30	13:30	17:00
	受付	開講式	オリエンテーション	講義・演習 「幼稚園を取り巻く状況の変化を踏まえた子育て支援事業の展開のために」 文部科学省初等中等教育局幼児教育課 大谷 圭介 目的：全国的視点から認定子ども園や幼稚園、学校の課題について理解する。	昼食	個別協議 「子育て支援に関する班別協議」 文部科学省初等中等教育局幼児教育課 子育て支援指導官 山下 文一 目的：各地域の子育て支援の現状について課題をもつ
会場 独立行政法人教員研修センター(つくば本部)						

7月29日(火)	9:00	10:00	10:10	12:00	13:10	14:40	14:50	17:00
	受付	講義・演習 「子育て支援事業の現状と課題」 高知県教育委員会幼保支援課 課長 佐藤 津矢子 目的：認定子ども園や幼稚園、保育所等の福祉部局で実施している子育て支援の現状や専門機関との連携方法を学ぶ。	休	講義・演習 「保護者やNPOから見た子育て支援」 株式会社日本総合研究所 主任研究員 池本 美香 目的：保護者のニーズや民間で行われている子育て支援の実例を知る。	昼食	休	講義・演習 「認定子ども園(幼稚園)における子育て支援事業の内容と展開方法」 新宿区立四谷子ども園 園長 國嶋 高子 目的：認定子ども園や幼稚園における子育て支援の実例を知る。	
会場 独立行政法人教員研修センター(つくば本部)								

7月30日(水)	9:00	12:00	13:00	17:00
	受付	講義・演習 - 1 「子どもの発達とその支援」 山脇学園短期大学 家政科 講師 安藤 智子 目的：子どもの発達に影響を与える親子関係などの問題点について理解を深め、子育てを支援する者のかわり方を知る。	昼食	講義・演習 - 2 「子どもの発達とその支援」 独立行政法人国立特別支援教育総合研究所 企画部 研究員 柳澤 亜希子 目的：発達障害に関する知識、課題、対応方法等について知識を得る。
会場 独立行政法人教員研修センター(つくば本部)				

7月31日(木)	9:00	12:00	13:00	15:00	15:10	17:00
	受付	講義・演習 「相談による支援」 東京学芸大学 教授 岩立 京子 指導助言 東京学芸大学 非常勤講師 森下 葉子 東京学芸大学大学院連合学校教育学研究所 青木 聡子 目的：子育て支援事業における相談事業の重要性を認識し、相談者との信頼関係の確立方法等について知識・方法を得る。	昼食	講義・演習 「相談による支援」	休	講義・演習 「研修計画の立て方」 独立行政法人教員研修センター 目的：研修の企画・立案・実施方法の知識を得る。
会場 独立行政法人教員研修センター(つくば本部)						

8月1日(金)	9:00	12:00
	受付	開講式 講義・演習 「研修を生かした子育て支援の充実を図る方策」 東京学芸大学 教授 岩立 京子 目的：各地域において必要となる研修内容等をまとめる。
会場 独立行政法人教員研修センター(つくば本部)		

講義・演習 - 1 「子どもの発達とその支援」については、インターネット配信する講義で事前研修を実施。
事前研修講師：白梅学園大学 子ども学科 教授 無藤 隆

研修概要

研修名	子どもの体力向上指導者養成研修（東部ブロック）					
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第一グループ					
研修目的	各学校においては、子どもの体力低下・運動嫌いを防止し、子どもが実社会においても積極的に運動に親しみ、体力を高めることに取り組むことができるようにすることが求められている。 そのため、本研修においては、体力を高めるために体を動かす意識をもたせる学習指導の在り方、体ほぐしの運動の趣旨を踏まえた学習指導の在り方、及び運動の意欲を高めるための学習指導の在り方などについて、指導者として必要な知識や技術の習得を図ることとする。また、受講者が各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師として活動し、各学校へ指導助言等を行うことのできる資質や能力の向上を図ることとする。					
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の教員であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 					
開催期日	平成20年5月27日（火）～平成20年5月30日（金）				4日間	
受講人数	計画人数	※	人	受講者数	288	人
				参加率	※	
開催場所	深谷市民文化会館（埼玉県深谷市）ほか					

全体計画人数 830 人、 受講者数 851 人、 参加率 102.5%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数(人)	180	67	4	0	0	37	288
割合(%)	62.5	23.3	1.4	0.0	0.0	12.8	
	247						
	85.8						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> 現在の教育の最新情報にふれられ、教育の流れがどのようになっているのかを知ることができたことは大きな修得だった。又、他の地域の先生達と色々な活力できたことは大きな財産となった。 これまでに教員主導型に指導することが多く、一方的な面がこれまでの自分ではなかったのかを痛感しました。我々の年齢を考えると、ややハードには感じたが、それをどのように対処するかを考えるのも生徒達と同じような状況ではと感じました。中・高を中心とした内容での演習であったが、女子や小学生年代ではどの様な工夫をしていけばよいか、アドバイスを頂いておけばよかった。 すばらしい講師の方々、運営して頂く方々のもと、大変有意義な研修であった。まず1つ目に学校に戻ってすぐ使える教材であったこと。2つ目に基本の運動の存在が分かったこと、3つ目にすばらしい仲間と共に研修できたこと、講師の先生のあたたかな雰囲気の中、できたことは自分の財産です。 様々な校種の先生方、専門種目の先生方との交流をさせて頂き、自分の思っていた体育授業の見直しを改めて実感することができました。又、大会後は研修会で学んだ内容をしっかりとまとめ、県にもちかえりたいと思います。 昨年度は体づくり運動（中・高）で参加させていただきましたが、2年続けて参加してみると、評価の仕方や講習会の進め方に一定の共通点があり、ポイントの理解を深めることができました。

研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育活動全体における取組や家庭・地域社会との連携について、理解を深める研修を取り入れた。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度、学校教育活動全体における取組や家庭・地域社会との連携に関する研究協議を取り入れたが、更に受講者への意識付けを図る。 子どもたちへの運動の楽しさ・面白さなど、学習指導を通じて、運動意欲の向上が図られるよう研修内容を検討する。 競技力向上の実技研修と勘違いしている受講者がいるので、事前に研修目的の周知を工夫する。
--

研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成20年度 子どもの体力向上指導者養成研修日程（東部ブロック）

5月27日	12:00	12:30	12:50	13:30	14:30	17:00
	受付		開講式		全体会	班別演習
	「学習指導要領の改訂と今後の学習指導の在り方」 文部科学省 スポーツ・青少年局 教科調査官		「研修の進め方と研修のポイント」 「指導と評価のポイント」		研究協議 「体力向上に向けた取組の工夫について」 【小学校】 ・体力向上に向けた家庭や地域社会との連携の工夫 【中・高等学校】 ・体力向上に向けた学校の教育活動全体での取組の工夫	

5月28日	9:00	10:30	12:00	13:00	14:30	17:00
	班別演習		昼・休憩		班別演習	班別演習
	「体ほぐし運動の趣旨を生かした学習指導の在り方①」 (演習・協議)		「体ほぐし運動の趣旨を生かした学習指導の在り方②」 (演習・協議)		「体力を高めるために体を動かす意識を持たせる学習指導の在り方②」 (演習・協議)	

5月29日	9:00	10:30	12:00	13:00	14:30	17:00
	班別演習		昼・休憩		班別演習	班別演習
	「運動の意欲を高めるための学習指導の在り方①」 (演習・協議)		「運動の意欲を高めるための学習指導の在り方②」 (演習・協議)		「指導と評価の一体化に向けた学習指導の在り方②」 (演習・協議)	

5月30日	9:00	10:30	12:00	13:00	15:00
	班別演習		昼・休憩		班別演習
	「研修講師となるために①」 (演習・協議)		「研修講師となるために②」 (演習・協議)		「研修講師となるために③」 (演習・協議)
					閉講式

開催場所
深谷市民文化会館ほか

研修概要

研修名	子どもの体力向上指導者養成研修（中部ブロック）							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研修目的	各学校においては、子どもの体力低下・運動嫌いを防止し、子どもが実社会においても積極的に運動に親しみ、体力を高めることに取り組むことができるようにすることが求められている。 そのため、本研修においては、体力を高めるために体を動かす意識をもたせる学習指導の在り方、体ほぐしの運動の趣旨を踏まえた学習指導の在り方、及び運動の意欲を高めるための学習指導の在り方などについて、指導者として必要な知識や技術の習得を図ることとする。また、受講者が各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師として活動し、各学校へ指導助言等を行うことのできる資質や能力の向上を図ることとする。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の教員であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 							
開催期日	平成20年5月20日（火）～平成20年5月23日（金）				4日間			
受講人数	計画人数	※	人	受講者数	309	人	参加率	※
開催場所	石川県文教会館（石川県金沢市）ほか							

全体計画人数 830 人、受講者数 851 人、参加率 102.5%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	176	92	3	0	2	36	309
割合 (%)	57.0	29.8	1.0	0.0	0.6	11.7	
	268						
	86.7						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> 今まで知らなかった技を数多く教えていただき、大変勉強になりました。また他府県の先生方との交流、情報交換ができ貴重な時間でした。多くの財産を得ることができたので、これらの情報をまた各都市へ伝えていきたいと思えます。ありがとうございます。 今まで自分自身学習（研修）してきたことが今回の研修によりウラ打ちされたようで自信となった。今回教えていただいたことをどう伝えていこうか、伝え方が大切である。スタッフの方もとても素晴らしい対応をしてくださり、気持ちよく4日間過ごさせていただきました。 初心者のために、授業でどう教えるか、何を教えるか、という視点が貫かれており、参考になることが多かった。 具体的な実践例や理論に沿った例を教えていただき、今後に活かしていきたい。また、この研修内容を県や市にも広めていきたい。 初心者もしくは、運動嫌いの子どもに対しての指導の方法を学べた点については有意義だった。しかしながら、体力向上という点においては、技術のすぐれている子どもも多いことから、苦手な子どもという枠だけではなく、もう少し多様性を持った指導の方法や工夫の方法が、もう少し充実した方が良かったのでは？と思えます。 これまでの実践について確認するという意味で参加してよかったと感じる。（体感を重視し動き（コツ）を身につける体育学習は間違っていない。）

研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校教育活動全体における取組や家庭・地域社会との連携について、理解を深める研修を取り入れた。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> 今年度、学校教育活動全体における取組や家庭・地域社会との連携に関する研究協議を取り入れたが、更に受講者への意識付けを図る。 子どもたちへの運動の楽しさ・面白さなど、学習指導を通じて、運動意欲の向上が図られるよう研修内容を検討する。 競技力向上の実技研修と勘違いしている受講者がいるので、事前に研修目的の周知を工夫する。
--

研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成20年度 子どもの体力向上指導者養成研修日程（中部ブロック）

	12:00	12:30	12:50	13:30	14:30	17:00
	開講式		全体会	班別演習	班別演習	
5月20日	受付		「学習指導要領の改訂と今後の学習指導の在り方」 文部科学省 スポーツ・青少年局 教科調査官	「研修の進め方と研修のポイント」 「指導と評価のポイント」	研究協議 「体力向上に向けた取組の工夫について」 【小学校】 ・体力向上に向けた家庭や地域社会との連携の工夫 【中・高等学校】 ・体力向上に向けた学校の教育活動全体での取組の工夫	

	12:00	13:00	14:30	17:00
	班別演習	昼・休憩	班別演習	
5月21日	「体ほぐし運動の趣旨を生かした学習指導の在り方①」 (演習・協議)		「体力を高めるために体を動かす意識を持たせる学習指導の在り方①」 (演習・協議)	「体力を高めるために体を動かす意識を持たせる学習指導の在り方②」 (演習・協議)

	12:00	13:00	14:30	17:00
	班別演習	昼・休憩	班別演習	
5月22日	「運動の意欲を高めるための学習指導の在り方①」 (演習・協議)		「指導と評価の在り方①」 (演習・協議)	「指導と評価の一体化に向けた学習指導の在り方②」 (演習・協議)

	12:00	13:00	15:00
	班別演習	昼・休憩	閉講式
5月23日	「研修講師となるために①」 (演習・協議)		「研修講師となるために③」 (演習・協議)

開催場所
石川県文教会館ほか

研修概要

研 修 名	子どもの体力向上指導者養成研修（西部ブロック）							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	各学校においては、子どもの体力低下・運動嫌いを防止し、子どもが実社会においても積極的に運動に親しみ、体力を高めることに取り組むことができるようにすることが求められている。 そのため、本研修においては、体力を高めるために体を動かす意識をもたせる学習指導の在り方、体ほぐしの運動の趣旨を踏まえた学習指導の在り方、及び運動の意欲を高めるための学習指導の在り方などについて、指導者として必要な知識や技術の習得を図ることとする。また、受講者が各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師として活動し、各学校へ指導助言等を行うことのできる資質や能力の向上を図ることとする。							
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の教員であって、各地域で本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 							
開 催 期 日	平成20年5月13日（火）～平成20年5月16日（金）			4日間				
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	254	人	参加率	※
開 催 場 所	徳島県立総合教育センター（徳島県板野町）ほか							

全体計画人数 830 人、受講者数 851 人、参加率 102.5%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	165	56	0	0	2	31	254
割合 (%)	65.0	22.0	0.0	0.0	0.8	12.2	
	221						
	87.0						

2. 研修内容に関する主な意見

- ・授業研究、教材研究そして評価に至って、何をどう捉えたらよいのかというのを学ばせていただき、これからの自己研修または校内での研修の、一つの道標を示していただいたと考えています。何とか自分なりの形として生かしたいです。
- ・授業に取り入れることは難しいと思っていたが、道具や施設等の問題がクリアできれば授業でも行なえることがわかった。また早い段階で、その楽しさを教えることができることが理解できてよかった。
- ・専門外の種目で、今まで知らなかった技能や知識を身に付けることができた。ここでの経験を日常の実践の中で生かし、更に伝達していければと思っている。
- ・研修する時間がたっぷりあり、とても有意義だった。地元を離れることによって、より集中して研修を受けることができた。このような機会をたくさん増やしていただければ、教員の資質も高まると思った。
- ・最初長いと思っていた研修期間も、むしろ短く感じてしまうほど楽しく、また思考をめぐらし意識や理解、考えを深めることができました。
- ・理論や技術・指導法等を学べたことが良い経験になった。他県の先生と話す機会は通常ないので、よい体験ができた。

研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・学校教育活動全体における取組や家庭・地域社会との連携について、理解を深める研修を取り入れた。

次年度に向けて

- ・今年度、学校教育活動全体における取組や家庭・地域社会との連携に関する研究協議を取り入れたが、更に受講者への意識付けを図る。
- ・子どもたちへの運動の楽しさ・面白さなど、学習指導を通じて、運動意欲の向上が図られるよう研修内容を検討する。
- ・競技力向上の実技研修と勘違いしている受講者がいるので、事前に研修目的の周知を工夫する。

研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成20年度 子どもの体力向上指導者養成研修日程（西部ブロック）

	12:00	12:30	12:50	13:30	14:30	17:00				
5月13日	受付			開講式			全体会			
	「学習指導要領の改訂と今後の学習指導の在り方」 文部科学省 スポーツ・青少年局 教科調査官			「研修の進め方と研修のポイント」 「指導と評価のポイント」			研究協議 「体力向上に向けた取組の工夫について」 【小学校】 ・体力向上に向けた家庭や地域社会との連携の工夫 【中・高等学校】 ・体力向上に向けた学校の教育活動全体での取組の工夫			

	12:00	13:00	14:30	17:00					
5月14日	班別演習		昼・休憩		班別演習				
	「体ほぐし運動の趣旨を生かした学習指導の在り方①」 (演習・協議)		「体ほぐし運動の趣旨を生かした学習指導の在り方②」 (演習・協議)		「体力を高めるために体を動かす意識を持たせる学習指導の在り方①」 (演習・協議)				
「運動の意欲を高めるための学習指導の在り方①」 (演習・協議)		「運動の意欲を高めるための学習指導の在り方②」 (演習・協議)		「指導と評価の一体化に向けた学習指導の在り方①」 (演習・協議)					

	12:00	13:00	14:30	17:00					
5月15日	班別演習		昼・休憩		班別演習				
	「運動の意欲を高めるための学習指導の在り方①」 (演習・協議)		「運動の意欲を高めるための学習指導の在り方②」 (演習・協議)		「指導と評価の一体化に向けた学習指導の在り方②」 (演習・協議)				

	12:00	13:00	15:00						
5月16日	班別演習		昼・休憩		班別演習				
	「研修講師となるために①」 (演習・協議)		「研修講師となるために②」 (演習・協議)		「研修講師となるために③」 (演習・協議)				
		開講式							

開催場所
徳島県立総合教育センターほか

研修概要

研修名	健康教育指導者養成研修（東部ブロック：推進コース）							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研修目的	各学校における健康教育に関し、必要な知識等を修得させるとともに、各地域において本研修の内容を踏まえた研修講師や各学校への指導・助言等を行う指導者等の育成や資質向上を図り、もって健康教育の充実に資することを目的とする。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事、並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、教頭、教諭及び養護教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 							
開催期日	平成20年11月10日（月）～平成20年11月12日（水）				3日間			
受講人数	計画人数	※	人	受講者数	98	人	参加率	※
開催場所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

全体計画人数 330 人、受講者数 341 人、参加率 103.3%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	55	36	2	0	5	0	98
割合 (%)	56.1	36.7	2.0	0.0	5.1	0.0	
	91	92.9					

2. 研修内容に関する主な意見

- ・大変貴重な意味をもつこの研修に参加させていただきまして、学ばせていただきましたこと、感謝します。ただ、それだからこそ、この研修を受ける人の選考にあたっては十分考慮が必要ということ、特に最後の森先生のお言葉から強く感じました。学ばせていただいたことを、地域での研修・現場に役立てていきたいと思えます。
- ・達成度については、勉強不足もあり、目的どおり達成はできなかったが、今後の指導のためには大変勉強になり、とても有意義なものであった。事務局の方々や講師をしてくださった先生方に感謝しています。
- ・養教の先生が多い中で教諭が入って話し合うことは、他の視野からの意見が出せるので意義があると思えますが、中には立場が違い意見を言えないものもありました。
- ・基本となるもの、基本にしなければいけないこと、はっきりわかりました。今後、今回研修したことを現場にいかしていきたいと思えます。伝えていきたいと思えます。
- ・自分の部会での研修はもちろんのこと、特に最後の他部会の研修内容の共有化がそこまでやってもらえるとは思っていませんでしたので、ありがたかったです。
- ・ここで学んだものをどのように保健学習に生かしていくかが大切になってくると思うので、ここから帰ったあとをより引き締めしていきたいと思えます。ありがとうございました。

研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・各部会において、教諭、養護教諭等の相互理解・連携が図られるよう特に配慮する。
- ・地域社会との連携組織となる学校保健委員会の活動を通じた学校保健活動について、理解が深められるよう配慮する。
- ・学習指導要領改訂及び学校保健法改正の概要の講義を設ける。

次年度に向けて

- ・全体講義については、今回の反省を踏まえ、2つのテーマの講義を、受講者が選択できるよう配慮する。
- ・教諭等の参加者増を促し、学校全体での健康教育の推進が図られるよう配慮する。

研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成20年度健康教育指導者養成研修（東部ブロック） 日程表

第1日目		9:30	10:00	10:20	11:10	12:00	13:00	17:00
11月10日 (月)	西コース共通	受付	開講式	講義1 全体講義 学習指導要領改訂の概要 文部科学省 スポーツ・青少年局 教科調査官 森 良一	講義2 全体講義 学校保健法改正の概要 文部科学省 スポーツ・青少年局 健康教育調査官 采女 智津江	昼食・休憩 部会別演習	講義・演習1-1 現代的課題、保健主事の役割及び組織マネジメント、児童生徒のメンタルヘルスに対応した指導方法や活動の在り方 現代的課題に対応した保健学習 【心の健康】 聖心女子大学 教授 植田 誠治 甲斐市立竜王北中学校 教頭 加賀美 猛 筑波大学大学院 教授 野津 有司 朝倉市立秋月中学校 教頭 坂井 満 保健主事の役割・学校保健活動の組織マネジメント 日本女子体育大学 教授 畑 攻 鹿児島県教育庁 指導主事 竹下 公博 児童生徒のメンタルヘルスへの対応【いじめ、不登校、発達障害】 金沢大学子どもこころの発達研究センター 特任准教授 棟居 俊夫 目的：各部会ごとの課題に対応した指導方法や活動の在り方を知る。	
				目的：学習指導要領改訂の概要を理解する。	目的：学校保健法改正の概要を理解する。			

第2日目		9:30	12:00	13:00	17:00
11月11日 (火)	西コース共通	受付	講義・演習1-2 現代的課題、保健主事の役割及び組織マネジメント、健康相談活動に対応した指導方法や活動の在り方 現代的課題に対応した保健学習【心の健康】【喫煙・飲酒・薬物乱用】 【心の健康】 聖心女子大学 教授 植田 誠治 甲斐市立竜王北中学校 教頭 加賀美 猛 筑波大学大学院 教授 野津 有司 朝倉市立秋月中学校 教頭 坂井 満 目的：部会ごとに、持ち寄った指導方法を班別に練り上げていく。 保健主事の役割・学校保健活動の組織マネジメント 日本女子体育大学 教授 畑 攻 鹿児島県教育庁 指導主事 竹下 公博 目的：事前課題を班別に練り上げていく。 児童生徒のメンタルヘルスへの対応 山形県立聖学校 校長 花輪 敏男 目的：学校におけるカウンセリングの活用方法を学ぶ。	講義・演習1-3 現代的課題、保健主事の役割及び組織マネジメント、健康相談活動に対応した指導方法や活動の在り方 現代的課題に対応した保健学習【心の健康】【喫煙・飲酒・薬物乱用】 【心の健康】 聖心女子大学 教授 植田 誠治 甲斐市立竜王北中学校 教頭 加賀美 猛 筑波大学大学院 教授 野津 有司 朝倉市立秋月中学校 教頭 坂井 満 目的：部会ごとに、各班の発表を聞きながら、指導方法を練り上げていく。 保健主事の役割・学校保健活動の組織マネジメント 日本女子体育大学 教授 畑 攻 鹿児島県教育庁 指導主事 竹下 公博 目的：各班の発表を聞きながら、更に事前課題を練り上げていく。 児童生徒のメンタルヘルスへの対応 福島県立磐城桜が丘高等学校 養護教諭 笹原 和子 十文字学園女子大学 准教授 松野 智子 滋賀県教育委員会 指導主事 岩崎 信子 兵庫県教育委員会 主任指導主事 西村 恵子 目的：学校における児童生徒のメンタルヘルスへの対応の具体的な対応を学ぶ。	
			目的：部会ごとに、持ち寄った指導方法を班別に練り上げていく。	目的：部会ごとに、各班の発表を聞きながら、指導方法を練り上げていく。	

第3日目		9:30	12:00	13:00	15:00	17:00
11月12日 (水)	西コース共通	受付	発表：事例研究 現代的課題、保健主事の役割及び組織マネジメント、健康相談活動に対応した指導方法や活動の在り方 現代的課題に対応した保健学習【心の健康】【喫煙・飲酒・薬物乱用】 【心の健康】 聖心女子大学 教授 植田 誠治 甲斐市立竜王北中学校 教頭 加賀美 猛 筑波大学大学院 教授 野津 有司 朝倉市立秋月中学校 教頭 坂井 満 目的：望ましい指導方法についての理解を深める。 保健主事の役割・学校保健活動の組織マネジメント 日本女子体育大学 教授 畑 攻 鹿児島県教育庁 指導主事 竹下 公博 目的：望ましい組織体制についての理解を深める。 児童生徒のメンタルヘルスへの対応 東京大学 特任准教授 金生 由紀子 浜川市立伊香保中学校 校長 都丸 喜久雄 岩手県立総合教育センター 主任研修主事 佐藤 一也 目的：事例を通じて、児童生徒理解及び支援方法について理解を深める。	推進コース 研修講師となるために (推進コース：全体講義・演習) 文部科学省 スポーツ・青少年局 教科調査官 森 良一 目的：本研修(推進コース)を振り返り、本研修の成果等をまとめる。	推進コース閉講式	
			事例研究 目的：事例を通じて、児童生徒理解及び支援方法について理解を深める。	専門コース 講義・演習2 学校・家庭・地域社会との連携の在り方 【児童虐待への対応】 横浜市西部児童相談所 医師担当係長 田崎 みどり 【学校保健委員会の実態】 高崎市立塚沢中学校 保健主事 長井 久子 目的：学校における家庭・地域社会との連携の在り方について理解を深める。		

第4日目		9:30	12:00	13:00	17:00
11月13日 (木)	専門コース	受付	講義・演習3 学校における性に関する指導の在り方 京都大学大学院 准教授 木原 雅子 目的：性に関する指導の現状・課題等について理解を深め、学校における指導の在り方を考える。	講義・演習4 学校における性に関する指導の在り方 京都大学大学院 准教授 木原 雅子	
			目的：性に関する指導の現状・課題等について理解を深め、学校における指導の在り方を考える。		

第5日目		9:30	12:00	13:00	15:00
11月14日 (金)	専門コース	受付	講義・演習5 学校における感染症対策の在り方 東京大学医学研究所附属病院 助教 大沼 圭 目的：学校における感染症対策の在り方について理解を深め、危機管理体制を考える。	講義・演習6 研修講師となるために (専門コース：全体講義・演習) 文部科学省 スポーツ・青少年局 健康教育調査官 采女 智津江 目的：本研修(専門コース)を振り返り、本研修の成果等をまとめる。	専門開講式
			目的：学校における感染症対策の在り方について理解を深め、危機管理体制を考える。		

研修概要

研 修 名	健康教育指導者養成研修（東部ブロック：専門コース）							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	各学校における健康教育に関し、必要な知識等を修得させるとともに、各地域において本研修の内容を踏まえた研修講師や各学校への指導・助言等を行う指導者等の育成や資質向上を図り、もって健康教育の充実に資することを目的とする。							
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事、並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、教頭、教諭及び養護教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 							
開 催 期 日	平成20年11月10日（月）～平成20年11月14日（金）				5日間			
受 講 人 数	計画人数	※	人	受講者数	98	人	参加率	※
開 催 場 所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

全体計画人数 330 人、受講者数 341 人、参加率 103.3%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	92	6	0	0	0	0	98
割合 (%)	93.9	6.1	0.0	0.0	0.0	0.0	
	98	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> 問題解決にむけて、学校教育活動に位置づけ、学校の組織を考えると問題点や見直し点が見えてきて、解決の手立のヒントを得ることができた。 研修内容、環境等いろいろととても勉強になりました。本研修に参加できたことがまず私にとってラッキーなことだったのだと改めて思いました。特に他県の方々と交流でき、新しい友人を得たことが何よりもうれしいです。また、子どもたちと日々向き合っていく元気をいただきました。 じっくり深い内容の講義で、私自身の今までをふり返るよい機会となりました。地域にもどり、どれだけみんなに還元できるか分かりませんが、自分のやれる所（まずは学校から）今回の研修を生かしていきたいと思えます。 学校教育の土台として健康教育は重要である。保健主事、養護教諭の役割は重要だが、全教職員が意識を共有できるように今後がんばっていきたい。 貴重な研修の機会を与えていただき、心から感謝しています。どの講師のかたの講義・演習とも学ぶことばかりで、もっともっと時間があつたらいいのと思うものばかりでした。大変お世話になり、ありがとうございました。 学習指導要領・学校保健法の改正など、職場の基盤となるものが変わったことについて熟読し、地域で伝達していかなければならないと感じた。また、学校保健委員会や性に関する指導等、日頃悩みをかかえていた部分をグループワークで情報交換でき大変有意義でした。このような研修の機会を与えていただいたことに感謝しています。
--

研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> 各部会において、教諭、養護教諭等の相互理解・連携が図られるよう特に配慮する。 地域社会との連携組織となる学校保健委員会の活動を通じた学校保健活動について、理解が深められるよう配慮する。 学習指導要領改訂及び学校保健法改正の概要の講義を設ける。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> 全体講義については、今回の反省を踏まえ、2つのテーマの講義を、受講者が選択できるよう配慮する。 教諭等の参加者増を促し、学校全体での健康教育の推進が図られるよう配慮する。
--

研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成20年度健康教育指導者養成研修（東部ブロック） 日程表

第1日目		9:30	10:00	10:20	11:10	12:00	13:00	17:00
11月10日 (月)	西コース共通	受付	開講式	講義1 全体講義 学習指導要領改訂の概要 文部科学省 スポーツ・青少年局 教科調査官 森 良一	講義2 全体講義 学校保健法改正の概要 文部科学省 スポーツ・青少年局 健康教育調査官 采女 智津江	昼食・休憩 部会別演習	講義・演習1-1 現代的課題、保健主事の役割及び組織マネジメント、児童生徒のメンタルヘルスに対応した指導方法や活動の在り方 現代的課題に対応した保健学習 【心の健康】 聖心女子大学 教授 植田 誠治 甲斐市立竜王北中学校 教頭 加賀美 猛 筑波大学大学院 教授 野津 有司 朝倉市立秋月中学校 教頭 坂井 満 保健主事の役割・学校保健活動の組織マネジメント 日本女子体育大学 教授 畑 攻 鹿児島県教育庁 指導主事 竹下 公博 児童生徒のメンタルヘルスへの対応【いじめ、不登校、発達障害】 金沢大学子どもこころの発達研究センター 特任准教授 棟居 俊夫 目的：各部会ごとの課題に対応した指導方法や活動の在り方を知る。	
				目的：学習指導要領改訂の概要を理解する。	目的：学校保健法改正の概要を理解する。			

第2日目		9:30	12:00	13:00	17:00
11月11日 (火)	西コース共通	受付	講義・演習1-2 現代的課題、保健主事の役割及び組織マネジメント、健康相談活動に対応した指導方法や活動の在り方 現代的課題に対応した保健学習【心の健康】【喫煙・飲酒・薬物乱用】 【心の健康】 聖心女子大学 教授 植田 誠治 甲斐市立竜王北中学校 教頭 加賀美 猛 筑波大学大学院 教授 野津 有司 朝倉市立秋月中学校 教頭 坂井 満 目的：部会ごとに、持ち寄った指導方法を班別に練り上げていく。 保健主事の役割・学校保健活動の組織マネジメント 日本女子体育大学 教授 畑 攻 鹿児島県教育庁 指導主事 竹下 公博 目的：事前課題を班別に練り上げていく。 児童生徒のメンタルヘルスへの対応 山形県立聖学校 校長 花輪 敏男 目的：学校におけるカウンセリングの活用方法を学ぶ。	講義・演習1-3 現代的課題、保健主事の役割及び組織マネジメント、健康相談活動に対応した指導方法や活動の在り方 現代的課題に対応した保健学習【心の健康】【喫煙・飲酒・薬物乱用】 【心の健康】 聖心女子大学 教授 植田 誠治 甲斐市立竜王北中学校 教頭 加賀美 猛 筑波大学大学院 教授 野津 有司 朝倉市立秋月中学校 教頭 坂井 満 目的：部会ごとに、各班の発表を聞きながら、指導方法を練り上げていく。 保健主事の役割・学校保健活動の組織マネジメント 日本女子体育大学 教授 畑 攻 鹿児島県教育庁 指導主事 竹下 公博 目的：各班の発表を聞きながら、更に事前課題を練り上げていく。 児童生徒のメンタルヘルスへの対応 福島県立磐城桜が丘高等学校 養護教諭 笹原 和子 十文字学園女子大学 准教授 松野 智子 滋賀県教育委員会 指導主事 岩崎 信子 兵庫県教育委員会 主任指導主事 西村 恵子 目的：学校における児童生徒のメンタルヘルスへの対応の具体的な対応を学ぶ。	

第3日目		9:30	12:00	13:00	15:00	17:00
11月12日 (水)	西コース共通	受付	発表：事例研究 現代的課題、保健主事の役割及び組織マネジメント、健康相談活動に対応した指導方法や活動の在り方 現代的課題に対応した保健学習【心の健康】【喫煙・飲酒・薬物乱用】 【心の健康】 聖心女子大学 教授 植田 誠治 甲斐市立竜王北中学校 教頭 加賀美 猛 筑波大学大学院 教授 野津 有司 朝倉市立秋月中学校 教頭 坂井 満 目的：望ましい指導方法についての理解を深める。 保健主事の役割・学校保健活動の組織マネジメント 日本女子体育大学 教授 畑 攻 鹿児島県教育庁 指導主事 竹下 公博 目的：望ましい組織体制についての理解を深める。 児童生徒のメンタルヘルスへの対応 東京大学 特任准教授 金生 由紀子 洪川市立伊香保中学校 校長 都丸 喜久雄 岩手県立総合教育センター 主任研修主事 佐藤 一也 目的：事例を通じて、児童生徒理解及び支援方法について理解を深める。	推進コース 研修講師となるために (推進コース：全体講義・演習) 文部科学省 スポーツ・青少年局 教科調査官 森 良一 目的：本研修(推進コース)を振り返り、本研修の成果等をまとめる。	推進コース閉講式	
			事例研究 目的：事例を通じて、児童生徒理解及び支援方法について理解を深める。	専門コース 講義・演習2 学校・家庭・地域社会との連携の在り方 【児童虐待への対応】 横浜市西部児童相談所 医師担当係長 田崎 みどり 【学校保健委員会の実態】 高崎市立塚沢中学校 保健主事 長井 久子 目的：学校における家庭・地域社会との連携の在り方について理解を深める。		

第4日目		9:30	12:00	13:00	17:00
11月13日 (木)	専門コース	受付	講義・演習3 学校における性に関する指導の在り方 京都大学大学院 准教授 木原 雅子	講義・演習4 学校における性に関する指導の在り方 京都大学大学院 准教授 木原 雅子	
			目的：性に関する指導の現状・課題等について理解を深め、学校における指導の在り方を考える。		

第5日目		9:30	12:00	13:00	15:00
11月14日 (金)	専門コース	受付	講義・演習5 学校における感染症対策の在り方 東京大学医学研究所附属病院 助教 大沼 圭	講義・演習6 研修講師となるために (専門コース：全体講義・演習) 文部科学省 スポーツ・青少年局 健康教育調査官 采女 智津江 目的：本研修(専門コース)を振り返り、本研修の成果等をまとめる。	専門開講式
			目的：学校における感染症対策の在り方について理解を深め、危機管理体制を考える。		

研修概要

研修名	健康教育指導者養成研修（西部ブロック：推進コース）							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研修目的	各学校における健康教育に関し、必要な知識等を修得させるとともに、各地域において本研修の内容を踏まえた研修講師や各学校への指導・助言等を行う指導者等の育成や資質向上を図り、もって健康教育の充実に資することを目的とする。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事、並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、教頭、教諭及び養護教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 							
開催期日	平成20年12月8日（月）～平成20年12月10日（水）				3日間			
受講人数	計画人数	※	人	受講者数	64	人	参加率	※
開催場所	エル・おおさか（大阪府大阪市）							

全体計画人数 330 人、受講者数 341 人、参加率 103.3%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	43	21	0	0	0	0	64
割合 (%)	67.2	32.8	0.0	0.0	0.0	0.0	
	64	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

- グループで、1つのテーマにもとづき、様々な意見交換ができて、大変有意義な研修となりました。基本的な授業づくりの講義をもとにアイデアを出しあい、適宜適切なアドバイスを入れていただき、詳細にわたってたくさんの学びがありました。
- 具体的な事例を基に、多くの方々と話し合い気づきや対応の仕方などわかりやすく学べよかったです。
- 今回の研修を受けて自分の保健室経営等、振りかえることができ反省することも多かったです。研修で学んだことをもう一度自分の中で整理し、日々の学校生活の中で生かしていきたいと思います。
- 講師の先生のレベルが高く、有意義な講義・演習であり、問題解決がはかれた部分もあった。
- 保健主事の役割について、校内のいろいろな立場（養護教諭、教諭、管理職）の人がそろって話し合う機会となり、重要な点をいくつか明らかにすることができ、有意義であった。

研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- 各部会において、教諭、養護教諭等の相互理解・連携が図られるよう特に配慮する。
- 地域社会との連携組織となる学校保健委員会の活動を通じた学校保健活動について、理解が深められるよう配慮する。
- 学習指導要領改訂及び学校保健法改正の概要の講義を設ける。

次年度に向けて

- 全体講義については、今回の反省を踏まえ、2つのテーマの講義を、受講者が選択できるよう配慮する。
- 教諭等の参加者増を促し、学校全体での健康教育の推進が図られるよう配慮する。

研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成20年度健康教育指導者養成研修（西部ブロック） 日程表

第1日目		9:30	10:00	10:20	11:10	12:00	13:00	17:00		
12月8日（月）	西コース共通	受付	開講式	講義1 全体講義 学習指導要領改訂の概要 文部科学省 スポーツ・青少年局 教科調査官 森 良一	講義2 全体講義 学校保健法改正の概要 文部科学省 スポーツ・青少年局 健康教育調査官 采女 智津江	昼食・休憩 部会別演習	講義・演習1-1 現代的課題、保健主事の役割及び組織マネジメント、児童生徒のメンタルヘルスに対応した指導方法や活動の在り方 現代的課題に対応した保健学習【性教育】【感染症】 【性教育】 国立淡路青少年交流の家 所長 戸田 芳雄 群馬県教育委員会 指導主事 北爪 喜久雄 【感染症】 北海道教育大学 准教授 渡部 基 江戸川区立葛西第二中学校 校長 青木 孝子 保健主事の役割・学校保健活動の組織マネジメント 筑波大学 教授 柳沢 和雄 東京都立足立高等学校 校長 薄井 和久 児童生徒のメンタルヘルスへの対応【いじめ、不登校、発達障害】 京都大学大学院 教授 十一 元三	目的：学習指導要領の改訂の概要を理解する。	目的：学校保健法改正の概要を理解する。	目的：各部会ごとの課題に対応した指導方法や活動の在り方を知る。
				目的：各部会ごとの課題に対応した指導方法や活動の在り方を知る。						

第2日目		9:30	12:00	13:00	17:00
12月9日（火）	西コース共通	受付	講義・演習1-2 現代的課題、保健主事の役割及び組織マネジメント、健康相談活動に対応した指導方法や活動の在り方 現代的課題に対応した保健学習【性教育】【感染症】 【性教育】 国立淡路青少年交流の家 所長 戸田 芳雄 群馬県教育委員会 指導主事 北爪 喜久雄 【感染症】 北海道教育大学 准教授 渡部 基 江戸川区立葛西第二中学校 校長 青木 孝子 目的：部会ごとに、持ち寄った指導方法を班別に練り上げていく。 保健主事の役割・学校保健活動の組織マネジメント 筑波大学 教授 柳沢 和雄 東京都立足立高等学校 校長 薄井 和久 目的：事前課題を班別に練り上げていく。 児童生徒のメンタルヘルスへの対応 滋賀県心の教育相談センター チーフカウンセラー 生天目 聖子 目的：学校におけるカウンセリングの活用法を学ぶ。	講義・演習1-3 現代的課題、保健主事の役割及び組織マネジメント、健康相談活動に対応した指導方法や活動の在り方 現代的課題に対応した保健学習【性教育】【感染症】 【性教育】 国立淡路青少年交流の家 所長 戸田 芳雄 群馬県教育委員会 指導主事 北爪 喜久雄 【感染症】 北海道教育大学 准教授 渡部 基 江戸川区立葛西第二中学校 校長 青木 孝子 目的：部会ごとに、各班の発表を聞きながら、指導方法を練り上げていく。 保健主事の役割・学校保健活動の組織マネジメント 筑波大学 教授 柳沢 和雄 東京都立足立高等学校 校長 薄井 和久 目的：各班の発表を聞きながら、更に事前課題を練り上げていく。 児童生徒のメンタルヘルスへの対応 奥出雲町立三沢小学校 教頭 荊尾 玲子 春日井市教育委員会 安藤 節子 高知県心の教育センター 子どもが-はつ 中野 靖子 川崎市立栢生小学校 教頭 矢野 君江 目的：学校における児童生徒のメンタルヘルスへの対応の具体的な対応を学ぶ。	昼食・休憩

第3日目		9:30	12:00	13:00	15:00	17:00
12月10日（水）	西コース共通	受付	発表：事例研究 現代的課題、保健主事の役割及び組織マネジメント、健康相談活動に対応した指導方法や活動の在り方 現代的課題に対応した保健学習【性教育】【感染症】 【性教育】 国立淡路青少年交流の家 所長 戸田 芳雄 群馬県教育委員会 指導主事 北爪 喜久雄 【感染症】 北海道教育大学 准教授 渡部 基 江戸川区立葛西第二中学校 校長 青木 孝子 目的：望ましい指導方法についての理解を深める。 保健主事の役割・学校保健活動の組織マネジメント 筑波大学 教授 柳沢 和雄 東京都立足立高等学校 校長 薄井 和久 目的：望ましい組織体制についての理解を深める。 児童生徒のメンタルヘルスへの対応 【小学校】名古屋市教育センター 指導主事 山口 純枝 【中学校】兵庫大学 講師 加藤 和代 【高校】山形県立山形響学校 校長 花輪 敏男 目的：事例を通じて、児童生徒理解及び支援方法について理解を深める。	推進コース 研修講師となるために （推進コース：全体講義・演習） 文部科学省 スポーツ・青少年局 教科調査官 森 良一 目的：本研修（推進コース）を振り返り、本研修の成果等をまとめる。	推進コース 推進コース閉講式	専門コース 学校・家庭・地域社会との連携の在り方 【児童虐待への対応】 日本子ども家庭総合研究所 家庭福祉研究部長 山本 恒雄 【学校保健委員会の実態】 高崎市立塚沢中学校 保健主事 長井 久子 目的：学校における家庭・地域社会との連携の在り方について理解を深める。

第4日目		9:30	12:00	13:00	17:00
12月11日（木）	専門コース	受付	講義・演習3 学校における性に関する指導の在り方 京都大学大学院 准教授 木原 雅子	講義・演習4 学校における性に関する指導の在り方 京都大学大学院 准教授 木原 雅子	昼食・休憩

第5日目		9:30	12:00	13:00	15:00
12月12日（金）	専門コース	受付	講義・演習5 学校における感染症対策の在り方 国立病院機構三重病院 国際保健医療研究室長 中野 貴司 目的：学校における感染症対策の在り方について理解を深め、危機管理体制を考える。	講義・演習6 研修講師となるために （専門コース：全体講義・演習） 文部科学省 スポーツ・青少年局 健康教育調査官 采女 智津江 目的：本研修（専門コース）を振り返り、本研修の成果等をまとめる。	専門コース 閉講式

研修概要

研修名	健康教育指導者養成研修（西部ブロック：専門コース）							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研修目的	各学校における健康教育に関し、必要な知識等を修得させるとともに、各地域において本研修の内容を踏まえた研修講師や各学校への指導・助言等を行う指導者等の育成や資質向上を図り、もって健康教育の充実に資することを目的とする。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事、並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、教頭、教諭及び養護教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 							
開催期日	平成20年12月8日（月）～平成20年12月12日（金）					5日間		
受講人数	計画人数	※	人	受講者数	81	人	参加率	※
開催場所	エル・おおさか（大阪府大阪市）							

全体計画人数 330 人、受講者数 341 人、参加率 103.3%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数(人)	66	15	0	0	0	0	81
割合(%)	81.5	18.5	0.0	0.0	0.0	0.0	
	81						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・討議形式が多く取り込まれていたため、考え話す機会が多く、受け身研修でなく学びが多かったですし、積極参加型研修で大変有意義でした。 ・研修を受けることができ、本当に感謝しています。研修を受ける喜びを感じることができました。確実に自身の意識や知識が向上したと感じています。この学びをどのような手段や方法で伝えていくべきか、考えていきたいと思っています。 ・現代的な健康教育課題について、講義と演習により学ぶことができ、大変有意義であった。質と内容共に有益な情報を多く得ることができた。とりわけ演習は二日間、また一つの課題について一日かけてというように、じっくり深く研修できたことが有意義でした。ぜひこの研修で学び得たことを広めていきたいと思えます。 ・講師の先生方がすばらしく、変に緊張することなくリラックスして研修に参加し、多くを学ぶことができました。 ・最新の情報を各分野における著名な講師の先生方から御指導いただいたり、質の高い実践にふれるという貴重な機会に恵まれ、とても充実した5日間を過ごすことができました。西日本から内なるやる気をもったすばらしい先生方の集まりの中で、健康教育の熱い思いを語り、自分自身の実践をふりかえるよい機会にもなりました。この研修で学んだことを広島にもちかえり、多くの先生方（仲間）と共にさらに自分自身をみがいていこうと思いました。 ・自分自身の知識や仕事に対する情熱に対し、大変深まり刺激になったので、現場に戻って学校保健や健康教育について広めていきたいと思う。 ・学び直しを実感でき、自分自身のなかで課題となっていたことが解決できたと思います。研修内容が現在の健康課題にそったもので、大変充実していました。

研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・各部会において、教諭、養護教諭等の相互理解・連携が図られるよう特に配慮する。 ・地域社会との連携組織となる学校保健委員会の活動を通じた学校保健活動について、理解が深められるよう配慮する。 ・学習指導要領改訂及び学校保健法改正の概要の講義を設ける。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体講義については、今回の反省を踏まえ、2つのテーマの講義を、受講者が選択できるよう配慮する。 ・教諭等の参加者増を促し、学校全体での健康教育の推進が図られるよう配慮する。

研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成20年度健康教育指導者養成研修（西部ブロック） 日程表

第1日目		9:30	10:00	10:20	11:10	12:00	13:00	17:00		
12月8日（月）	西コース共通	受付	開講式	講義1 全体講義 学習指導要領改訂の概要 文部科学省 スポーツ・青少年局 教科調査官 森 良一	講義2 全体講義 学校保健法改正の概要 文部科学省 スポーツ・青少年局 健康教育調査官 采女 智津江	昼食・休憩 個別演習	講義・演習1-1 現代的課題、保健主事の役割及び組織マネジメント、児童生徒のメンタルヘルスに対応した指導方法や活動の在り方 現代的課題に対応した保健学習【性教育】【感染症】 【性教育】 国立淡路青少年交流の家 所長 戸田 芳雄 群馬県教育委員会 指導主事 北爪 喜久雄 【感染症】 北海道教育大学 准教授 渡部 基 江戸川区立葛西第二中学校 校長 青木 孝子 保健主事の役割・学校保健活動の組織マネジメント 筑波大学 教授 柳沢 和雄 東京都立足立高等学校 校長 薄井 和久 児童生徒のメンタルヘルスへの対応【いじめ、不登校、発達障害】 京都大学大学院 教授 十一 元三	目的：学習指導要領の改訂の概要を理解する。	目的：学校保健法改正の概要を理解する。	目的：各部会ごとの課題に対応した指導方法や活動の在り方を知る。

第2日目		9:30	12:00	13:00	17:00
12月9日（火）	西コース共通	受付	講義・演習1-2 現代的課題、保健主事の役割及び組織マネジメント、健康相談活動に対応した指導方法や活動の在り方 現代的課題に対応した保健学習【性教育】【感染症】 【性教育】 国立淡路青少年交流の家 所長 戸田 芳雄 群馬県教育委員会 指導主事 北爪 喜久雄 【感染症】 北海道教育大学 准教授 渡部 基 江戸川区立葛西第二中学校 校長 青木 孝子 目的：部会ごとに、持ち寄った指導方法を班別に練り上げていく。 保健主事の役割・学校保健活動の組織マネジメント 筑波大学 教授 柳沢 和雄 東京都立足立高等学校 校長 薄井 和久 目的：事前課題を班別に練り上げていく。 児童生徒のメンタルヘルスへの対応 滋賀県心の教育相談センター チーフカウンセラー 生天目 聖子 目的：学校におけるカウンセリングの活用方法を学ぶ。	講義・演習1-3 現代的課題、保健主事の役割及び組織マネジメント、健康相談活動に対応した指導方法や活動の在り方 現代的課題に対応した保健学習【性教育】【感染症】 【性教育】 国立淡路青少年交流の家 所長 戸田 芳雄 群馬県教育委員会 指導主事 北爪 喜久雄 【感染症】 北海道教育大学 准教授 渡部 基 江戸川区立葛西第二中学校 校長 青木 孝子 目的：部会ごとに、各班の発表を聞きながら、指導方法を練り上げていく。 保健主事の役割・学校保健活動の組織マネジメント 筑波大学 教授 柳沢 和雄 東京都立足立高等学校 校長 薄井 和久 目的：各班の発表を聞きながら、更に事前課題を練り上げていく。 児童生徒のメンタルヘルスへの対応 奥出雲町立三沢小学校 教頭 荊尾 玲子 春日井市教育委員会 安藤 節子 高知県心の教育センター 子ども館-ほろろ 中野 靖子 川崎市立栢生小学校 教頭 矢野 君江 目的：学校における児童生徒のメンタルヘルスへの対応の具体的な対応を学ぶ。	昼食・休憩

第3日目		9:30	12:00	13:00	15:00	17:00	
12月10日（水）	西コース共通	受付	発表：事例研究 現代的課題、保健主事の役割及び組織マネジメント、健康相談活動に対応した指導方法や活動の在り方 現代的課題に対応した保健学習【性教育】【感染症】 【性教育】 国立淡路青少年交流の家 所長 戸田 芳雄 群馬県教育委員会 指導主事 北爪 喜久雄 【感染症】 北海道教育大学 准教授 渡部 基 江戸川区立葛西第二中学校 校長 青木 孝子 目的：望ましい指導方法についての理解を深める。 保健主事の役割・学校保健活動の組織マネジメント 筑波大学 教授 柳沢 和雄 東京都立足立高等学校 校長 薄井 和久 目的：望ましい組織体制についての理解を深める。 児童生徒のメンタルヘルスへの対応 【小学校】名古屋市教育センター 指導主事 山口 純枝 【中学校】兵庫大学 講師 加藤 和代 【高校】山形県立山形響学校 校長 花輪 敏男 目的：事例を通じて、児童生徒理解及び支援方法について理解を深める。	推進コース 研修講師となるために （推進コース：全体講義・演習） 文部科学省 スポーツ・青少年局 教科調査官 森 良一 目的：本研修（推進コース）を振り返り、本研修の成果等をまとめる。	推進コース閉講式	専門コース 学校・家庭・地域社会との連携の在り方 【児童虐待への対応】 日本子ども家庭総合研究所 家庭福祉研究部長 山本 恒雄 【学校保健委員会の実態】 高崎市立塚沢中学校 保健主事 長井 久子 目的：学校における家庭・地域社会との連携の在り方について理解を深める。	昼食・休憩

第4日目		9:30	12:00	13:00	17:00
12月11日（木）	専門コース	受付	講義・演習3 学校における性に関する指導の在り方 京都大学大学院 准教授 木原 雅子	講義・演習4 学校における性に関する指導の在り方 京都大学大学院 准教授 木原 雅子	昼食・休憩

第5日目		9:30	12:00	13:00	15:00
12月12日（金）	専門コース	受付	講義・演習5 学校における感染症対策の在り方 国立病院機構三重病院 国際保健医療研究室長 中野 貴司 目的：学校における感染症対策の在り方について理解を深め、危機管理体制を考える。	講義・演習6 研修講師となるために （専門コース：全体講義・演習） 文部科学省 スポーツ・青少年局 健康教育調査官 采女 智津江 目的：本研修（専門コース）を振り返り、本研修の成果等をまとめる。	専門コース閉講式

研修概要

研修名	学校安全指導者養成研修（生活安全・交通安全コース）							
担当グループ	教育課題研修課教育課題第一グループ							
研修目的	各学校における生活安全、交通安全、災害安全に関し、必要な知識等を修得させるとともに、本研修の内容を踏まえた各地域で行われる研修の講師や各学校への指導・助言等を行う指導者等の育成や資質向上を図り、もって学校安全の充実に資することを目的とする。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事、並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 							
開催期日	平成20年6月4日（水）～平成20年6月6日（金）				3日間			
受講人数	計画人数	※	人	受講者数	122	人	参加率	※
開催場所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

全体計画人数 160 人、 受講者数 168 人、 参加率 105.0%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	74	45	0	0	1	2	122
割合 (%)	60.7	36.9	0.0	0.0	0.8	1.6	
	119						
	97.5						

2. 研修内容に関する主な意見

- ・ 3日間の研修で、講義・演習にしっかりと時間をとった運営が大変有意義だった。
- ・ 一日目の講義内容はとても有意義だった。新たな知識や意識を持つことができた。
- ・ 学校を活性化するための研修という言葉が印象的で研修を企画する上で大変参考になった。
- ・ 知識があっても意識が高いわけではなく、意識をあげていくことが大切であることを認識できた。
- ・ 自身の向上のためだけでなく、講師としての力量向上のポイントがよくわかった。
- ・ 様々な講師から専門的な話が聞けたため、視野が拡大した。
- ・ 組織的、共同的な学校安全教育の推進のための演習は効果があると実感した。
- ・ 最新の情報（中教審答申、新学習指導要領）について分かりやすく解説いただけてよかった。

研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・ 初日の知識伝達に関する内容のコマを増やす。

次年度に向けて

- ・ 各部会の講師から初日に受講者全員を対象に講義を行っていただき、各部会の演習との流れをつなげる。
- ・ 学校保健安全法の改訂を踏まえた学校安全計画に関わる内容を盛り込んだものにする。
- ・ 文部科学省が20年度作成する資料集等を研修の際に配付する。

研修日程(プログラム)

次ページのとおり

研修概要

研修名	学校安全指導者養成研修（災害安全コース）							
担当グループ	教育課題研修課教育課題第一グループ							
研修目的	各学校における生活安全、交通安全、災害安全に関し、必要な知識等を修得させるとともに、本研修の内容を踏まえた各地域で行われる研修の講師や各学校への指導・助言等を行う指導者等の育成や資質向上を図り、もって学校安全の充実に資することを目的とする。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当主事、並びにそれに準じる者 小学校、中学校、高等学校、中等教育学校並びに特別支援学校の校長、副校長、教頭、主幹教諭、指導教諭及び教諭であって、各地域において本研修内容を踏まえた研修の講師等としての活動を行う予定である者 							
開催期日	平成20年6月4日（水）～平成20年6月6日（金）				3日間			
受講人数	計画人数	※	人	受講者数	46	人	参加率	※
開催場所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

全体計画人数 160 人、受講者数 168 人、参加率 105.0%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数(人)	22	18	0	0	3	3	46
割合(%)	47.8	39.1	0.0	0.0	6.5	6.5	
	40						
	87.0						

2. 研修内容に関する主な意見

- ・災害安全に対する自分の意識が大きく変化し高まったので、今後の活動に活かしていきたい。
- ・全体会で学校安全の領域を網羅した上でコースごとに内容を深めていけたので、研修全体的に見て勉強になった。
- ・講義・演習と割合よく配当されており、内容も良かった。
- ・実践に基づいた話を聞くことができ、学校現場においてどのような取組が考えられるのか知ることができた。
- ・自分たちで指導プログラムを作ることで、自分のものとして考えることができた。
- ・演習前の講義は、分りやすくとても的を得たものであった。
- ・各部会ごとのグループ発表がとても考えられたものであると感じた。
- ・学校安全指導者としての要点を指導していただいた。

研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・初日の知識伝達に関する内容のコマを増やす。
- ・災害安全コースを一つの部会にし、新潟中越沖地震と兵庫県の震災の両方について学ぶことができるように配慮した講師を設定した。

次年度へ向けて

- ・各部会の講師から初日に受講者全員を対象に講義を行っていただき、各部会の演習との流れをつなげる。
- ・学校保健安全法の改訂を踏まえた学校安全計画に関わる内容を盛り込んだものにする。
- ・文部科学省が20年度作成する資料集等を研修の際に配付する。

研修日程(プログラム)

次ページのとおり

研修概要

研修名	食育指導者養成研修（食育推進指導者コース）							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研修目的	食育の重要性に鑑み、学校において食育を推進するために、各都道府県等における食に関する指導体制の整備、食に関する指導の充実に資するように、各地域で校長、教諭、栄養教諭、学校栄養職員を対象とした研修の企画立案・実施、指導助言等を行う食に関する指導の充実に資するための指導者の養成を目的とした研修を行う。							
受講対象	<p>本研修の参加者は、本研修受講後に各地域で食に関する指導についての研修の企画立案・実施、当該研修での講師等の活動を行うことが予定される者で、下記のいずれかに該当する者とする。</p> <p>ア 都道府県、指定都市、中核市教育委員会の食に関する指導を担当する者（指導主事、学校栄養職員経験者等）</p> <p>イ 都道府県、指定都市、中核市教育委員会の教育センターにおいて食に関する指導についての研修等を担当する指導主事等</p> <p>ウ 校長、教諭、学校栄養職員で各地域の食に関する指導についての研修の講師等の活動が予定されている者</p> <p>エ その他上記ア～ウに準ずる者</p>							
開催期日	平成20年7月1日（火）～平成20年7月4日（金）				4日間			
受講人数	計画人数	※	人	受講者数	96	人	参加率	※
開催場所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

全体計画人数 170 人、受講者数 193 人、参加率 113.5%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数(人)	80	11	0	0	2	3	96
割合(%)	83.3	11.5	0.0	0.0	2.1	3.1	
	91	94.8					

2. 研修内容に関する主な意見

- ・食育は今後どこでも重要視されるため、学習要領で改訂された内容を、どのように学校現場で推進しなければならないのか、知ることができた。
- ・学校における食育を推進するためには、食に関する年間指導計画が必要であることが再確認できました。また、演習では実際に単元を食に関する指導のもつ目標に分けてみることで、目標達成状況のふりかえりなどについても分かり、勉強になりました。
- ・献立の立案者（栄養職員、栄養教諭）と担任との連携で生きた教材となることの大切さがよくわかりました。9年間の学校給食がその後の実践につなげていきたいです。
- ・学校給食を「生きた教材」と今迄耳にしていたが、どのようにしたらいいのか漠然としていましたが、方向性がみえて良かった。
- ・笠原先生の話し口調が大変聞きやすく、いろんな学校の実態を聞くことができ良かった。コーチングについて私も興味があるところでしたので参考になりました。
- ・全体指導計画と年間指導計画の重要性を具体的に再理解することができました。形だけのものにならないよう、さらに見直しをはかりたいと思います。
- ・給食を各教科と関連づけさせることのポイントが理解できた。今、家庭の中で教育力が低下している中、学校で求められていることも年々ふえてきている。それを的確にとらえ、しっかり全体計画に組みこんでいくことが大切と感じる。
- ・食育を推進するにあたって、学校・地域・家庭とどう連携していくかというディスカッションは、とても有意義であり、全体計画作成にあたり、見直しを持ってそうである。

研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・学校全体で取り組む食に関する指導にかかる指導計画の作成や新学習指導要領の改訂を踏まえた各教科における指導のポイントの理解がより深まるよう配慮した。
- ・研修全体の中で、食育のコーディネータとしての役割を意識させるよう工夫する。

次年度に向けて

- ・基本的には、今年度の内容をベースにしつつ、各地域での活動を行う際の課題・問題点に配慮した内容となるよう工夫する。

研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成20年度 食育指導者養成研修（食育推進指導者コース）

7月1日（火）	10:00	10:45	11:20	12:30	13:30	14:30	14:40	17:00
	受付	開講式	オリエンテーション	講義1 「学校における食育の推進について」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 食育調査官 田中延子	昼食	講義・演習1 「学校給食管理の在り方」 桐生大学 教授 賀子 笠原	休	講義・演習2 「学校全体で取り組む食に関する指導にかか る全体的な指導計画の作成」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 食育調査官 森 泉 哲 也
会場 教員研修センター（つくば）								
7月2日（水）	8:30	9:50	10:00	11:30	12:30	15:10	15:20	17:00
	受付	協議 「食育を推進するにあたって の現状と課題」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 食育調査官 森 泉 哲 也	昼食	講義2 「各教科等における食に関する指導のポイント」 特別活動 国立教育政策研究所 杉田 調査官 生活、総合的な学習の時間 国立教育政策研究所 田村 調査官	休	講義・演習4 「各教科等における食に関する指導案の検討」 各教科等において、講義・演習	休	講義・演習4 「各教科等における食に関する指導案の検討」 各教科等において、講義・演習
会場 教員研修センター（つくば）								
7月3日（木）	8:30	12:00	13:00	13:00	13:00	17:00		
	受付	講義・演習4 「各教科等における食に関する指導案の検討」 各教科等において、講義・演習	昼食	講義・演習4 「各教科等における食に関する指導案の検討」 各教科等において、講義・演習	昼食	講義・演習4 「各教科等における食に関する指導案の検討」 各教科等において、講義・演習		
会場 教員研修センター（つくば）								
7月4日（金）	8:30	12:00	13:00	14:30	14:30			
	受付	講義・演習5 「食に関する指導の模擬授業」 特別活動 宗像市教育委員会 藤田 主任指導主事 生活、総合的な学習の時間 姫路市教育研究所 中島 指導主事	昼食	講義・演習6 「研修講師となるために」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 食育調査官 森 泉 哲 也	閉講式	特別活動 国立教育政策研究所 教育課程調査官 杉田 洋 宗像市教育委員会主任指導主事 藤田 哲郎 生活、総合的な学習の時間 国立教育政策研究所 教育課程調査官 田村 学 姫路市教育研究所指導主事 中島 輝久 社 会 元水戸市立第一中学校校長 介川 文雄		
会場 教員研修センター（つくば）								

研修概要

研修名	食育指導者養成研修（栄養教諭コース）							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研修目的	食育の重要性に鑑み、学校において食育を推進するために、各都道府県等における食に関する指導体制の整備、食に関する指導の充実に資するように、各地域で校長、教諭、栄養教諭、学校栄養職員を対象とした研修の企画立案・実施、指導助言等を行う食に関する指導の充実のための指導者の養成を目的とした研修を行う。							
受講対象	栄養教諭であって、各地域で本研修を踏まえた研修等を行う予定である者							
開催期日	平成20年9月9日（火）～平成20年9月12日（金）				4日間			
受講人数	計画人数	※	人	受講者数	97	人	参加率	※
開催場所	独立行政法人教員研修センター（茨城県つくば市）							

全体計画人数 170 人、受講者数 193 人、参加率 113.5%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数(人)	95	2	0	0	0	0	97
割合(%)	97.9	2.1	0.0	0.0	0.0	0.0	
	97	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> 各教科での指導のポイントなど、なかなか学ぶことができないことを学べ、理解を深めることができました。またいろいろな県の栄養教諭と協議や交流することができ、とてもよい機会になりました。今回学んだことを、これから生かしていきたいと思いました。 学習指導要領改訂のポイントや学校給食法の改正など、最新情報を知ることができた。今後、栄養教諭がコーディネーターとしての役割を果たせるよう、人間力を高めていきたい。 ほとんどの諸外国での給食は福祉的要因が強いものに対し、日本は教育に位置づけられている。その中でやっと栄養教諭という立場が認められたものであるため、その立場を十分に生かしていきたい。指導にあたっては、PDCAサイクルを常に意識し行なっていきたい。 教科等と関連し、他教科として活用できる献立を意図的に作成することの重要性や、栄養教諭と学校栄養職員の役割の違いについて、理解を深めることができました。 全国から集まり、交流を深めつつ指導についての意見をも交わす研修会。特に演習では県内における研修より、より幅広い視野で指導のあり方について意見を交わすことができた達成感がありますし、多くの知識を得ることができたことに感謝します。 学習指導要領の改訂により、食育が明記されました。この研修を通して、これからは教科や特別活動だけに力を入れるのではなく、毎日の給食時間の食に関する指導をもっと充実させていきたいと思いました。 演習の時間を設けていただき講義が多く、課題について自校の分析をすることができて、とても良かったです。他県の方とも交流ができ、意見交換もできたので有意義な研修だったと思います。 演習の時間が多く課題について自校の分析をすることができて、とても良かったです。他県の方とも交流ができ、意見交換もできたので有意義な研修だったと思います。
--

研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校全体で取り組む食に関する指導にかかる指導計画の作成や新学習指導要領の改訂を踏まえた各教科における指導のポイントの理解がより深まるよう配慮した。 研修全体の中で、食育のコーディネーターとしての役割を意識させるよう工夫する。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> 基本的には、今年度の内容をベースにしつつ、各地域での活動を行う際の課題・問題点に配慮した内容となるよう工夫する。
--

研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成20年度 食育指導者養成研修（栄養教諭コース）

9月9日（火）	10:00	10:45	11:20	12:30	13:30	14:30	14:40	17:00
	受付	開講式	オリエンテーション	講義1 「栄養教諭に求められる役割について」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 学校給食調査官 田中延子	昼食 休憩	講義・演習1 「学校給食管理の在り方」 松江市立八雲小学校 栄養教諭 長島美保子	休憩	講義・演習2 「学校全体で取り組む食に関する指導にかかわる全体的な指導計画の作成」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 食育調査官 森泉哲也
会場 教員研修センター（つくば）								

9月10日（水）	8:30	9:50	10:00	11:30	12:30	13:30	13:40	16:10	16:20	17:00
	受付	講義・演習3 「給食の時間における食に関する指導の在り方」 香美市立楠目小学校 栄養教諭 北村和子 越前市立朝日中学校 栄養教諭 水嶋真由美	休憩	講義・演習4 「個別的相談指導の在り方」 東京女子医科大学 名誉教授 村田光範	講義 「食育を推進するにあたっての現状と課題」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 学校給食調査官 田中延子	休憩	講義2 「各教科等における食に関する指導のポイント」 特別活動 国立教育政策研究所 杉田調査官	休憩	講義・演習5 「各教科等における食に関する指導案の作成」 生活、総合的な学習の時間 甲南女子大学 教授 溝邊和成	講義・演習5 「各教科等における食に関する指導案の検討」 保健体育 東京学芸大学 教授 渡邊正樹
会場 教員研修センター（つくば）										

9月11日（木）	8:30	12:00	13:00	13:30	14:30	17:00
	受付	講義・演習5 「各教科等における食に関する指導案の検討」 各教科ごとにおいて、講義・演習	昼食 休憩	講義・演習5 「各教科等における食に関する指導案の検討」 各教科ごとにおいて、講義・演習	講義・演習5 「各教科等における食に関する指導案の検討」 各教科ごとにおいて、講義・演習	
会場 教員研修センター（つくば）						

9月12日（金）	8:30	12:00	13:00	14:30
	受付	講義・演習6 「食に関する指導の模擬授業」 特別活動 宗像市教育委員会 主任指導主事 脇田哲郎	講義・演習7 「研修講師となるために」 文部科学省スポーツ・青少年局 学校健康教育課 食育調査官 森泉哲也	閉講式
会場 教員研修センター（つくば）				

各教科等を担当する講師

- 特別活動
国立教育政策研究所 教育課程調査官 杉田 洋
宗像市教育委員会主任指導主事 脇田 哲郎
生活、総合的な学習の時間
甲南女子大学 教授 溝邊 和成
福岡県教育センター指導主事 四ヶ所 清隆
保健体育
福岡県教育センター指導主事 四ヶ所 清隆
東京学芸大学 教授 渡邊 正樹

研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（A-1：学校評価と学校運営）							
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校並びに幼稚園の教職員及び教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者							
派遣期間	平成20年10月27日（月）～平成20年11月7日（金）				12日間			
受講人数	計画人数	※	人	受講者数	19	人	参加率	※
派遣国	アメリカ							

全体計画人数 500 人、 受講者数 481 人、 参加率 96.2%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数(人)	14	4	1	0	0	0	19
割合(%)	73.7	21.1	5.3	0.0	0.0	0.0	
	18	94.7					

2. 研修内容に関する主な意見

- ・明確な研修テーマが設定されていることがよかったですと思います。
- ・事前研修会後、シニアアドバイザーの先生から、研修に関する資料の紹介があり、大変役に立ちました。資料で勉強しておいたことを実際にアメリカに行き確認できました。
- ・団長、副団長、シニアアドバイザー及び他県から参加した先生方と意見交換をしながら、多くの事を学ぶことができました。海外の学校や教育委員会等の視察訪問で、「学校評価と学校運営」について、いろいろな情報を得ることができ、とても勉強になりました。こういった機会をいただけて本当にうれしく思いました。今後、この研修で学んだ成果を幅広く多くの場で活用できればと思います。
- ・2週間の海外研修は、教育評価、学校区や学校の取り組みやアメリカの教育事情を知る上で参考となるものであり、大きな刺激となりました。実際に学校現場等を自分の目で見て、肌で感じる事ができ、大変勉強になりました。このような研修は今後とも是非続けていただきたいと思います。

研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・事前研修会及び事後研修会での協議時間を延長した。
- ・派遣期間中に、研修内容の協議・まとめを行う時間を設定した。
- ・研修成果報告書を全都道府県、指定都市、中核市の教育委員会及び研修センターに送付した。

次年度に向けて

- ・2年間の実施状況を踏まえた研修テーマの見直しの検討を行うこととする。
- ・事前研修会において、団長、副団長、シニアアドバイザーの協議時間を延長し、派遣団の研修方針、内容の共通理解を深めることとする。

研修日程(プログラム)

別紙のとおり（137ページ参照）

研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（A-2：学校評価と学校運営）							
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校並びに幼稚園の教職員及び教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者							
派遣期間	平成20年11月3日（月）～平成20年11月14日（金）				12日間			
受講人数	計画人数	※	人	受講者数	23	人	参加率	※
派遣国	アメリカ							

全体計画人数 500 人、 受講者数 481 人、 参加率 96.2%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数(人)	19	4	0	0	0	0	23
割合(%)	82.6	17.4	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

2. 研修内容に関する主な意見

- ・シニアアドバイザーの先生から、事前研修会・海外の訪問先や研修のまとめの際に的確なアドバイスをいただいたことで、充実した研修となりました。
- ・アメリカの学校や教育関連施設等を訪問することができ、大変参考になりました。学校評価の第三者評価や学校運営等について学ぶことができました。
- ・長期の研修で集中的に視察訪問できたことは、国内では得ることのできない知識や経験が深まり、貴重な時間となりました。今後の教員生活に生かしたいと思います。
- ・とても貴重な体験をさせて頂きましたことに感謝いたします。今後、勤務校の生徒や職員および地区の教育に生かしていきたいと思います。

研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・事前研修会及び事後研修会での協議時間を延長した。
- ・派遣期間中に、研修内容の協議・まとめを行う時間を設定した。
- ・研修成果報告書を全都道府県、指定都市、中核市の教育委員会及び研修センターに送付した。

次年度に向けて

- ・2年間の実施状況を踏まえた研修テーマの見直しの検討を行うこととする。
- ・事前研修会において、団長、副団長、シニアアドバイザーの協議時間を延長し、派遣団の研修方針、内容の共通理解を深めることとする。

研修日程(プログラム)

別紙のとおり（137ページ参照）

研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（A-3：学校評価と学校運営）							
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校並びに幼稚園の教職員及び教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者							
派遣期間	平成20年11月3日（月）～平成20年11月14日（金）				12日間			
受講人数	計画人数	※	人	受講者数	24	人	参加率	※
派遣国	イギリス							

全体計画人数 500 人、 受講者数 481 人、 参加率 96.2%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数(人)	16	6	2	0	0	0	24
割合(%)	66.7	25.0	8.3	0.0	0.0	0.0	
	22						
	91.7						

2. 研修内容に関する主な意見

- ・研修テーマについて、実際に教育現地に行き、自分の目で見て肌で感じてくるということは、大変貴重な経験でした。広く後輩へも知らせていきたいと思います。
- ・テーマに沿った研修であることに加え、自分の視野を広げるといっても大変有意義だと思います。外の文化風習に触れることによって、逆に日本という国について深く考えさせられました。自分でも、母国というものを、これほど意識することはなかったと思います。日本の国、日本の教育のよさも改めて認識し、一国民としてあるいは教育者として、今後、どうしていくべきか、一つ高い位置から考えられるようになったと思います。
- ・訪問国の教育事情等について、関係機関の方々の生の声を聞き、学校での子どもの生の姿を見ることができて、大変有意義な研修ができたと思います。
- ・シニアアドバイザーの先生の指導・助言により、効果的な研修ができました。今後、今回の研修で学んだことを学校や地域で生かしていこうと思います。

研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・事前研修会及び事後研修会での協議時間を延長した。
- ・派遣期間中に、研修内容の協議・まとめを行う時間を設定した。
- ・研修成果報告書を全都道府県、指定都市、中核市の教育委員会及び研修センターに送付した。

次年度へ向けて

- ・2年間の実施状況を踏まえた研修テーマの見直しの検討を行うこととする。
- ・事前研修会において、団長、副団長、シニアアドバイザーの協議時間を延長し、派遣団の研修方針、内容の共通理解を深めることとする。

研修日程(プログラム)

別紙のとおり（137ページ参照）

研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（A-4：学校評価と学校運営）							
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校並びに幼稚園の教職員及び教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者							
派遣期間	平成20年9月29日（月）～平成20年10月10日（金）				12日間			
受講人数	計画人数	※	人	受講者数	21	人	参加率	※
派遣国	ドイツ							

全体計画人数 500 人、受講者数 481 人、参加率 96.2%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	16	5	0	0	0	0	21
割合 (%)	76.2	23.8	0.0	0.0	0.0	0.0	
	21						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

- ・事前研修会に参加する前は多少不安を感じる部分もありましたが、シニアアドバイザーの講義や協議を通じて、他県から参加の先生方ともコミュニケーションが取れ、その後の準備を進めることができました。
- ・ドイツの学校や教育機関等を視察訪問し、具体的な取り組みを見聞できるという貴重な体験ができました。
- ・ドイツと日本の教育制度の違いと、我が国（日本）の教育制度の良さを感じた。今後、研修の成果を学校や地域の教育現場で役立てていただきたいと思います。
- ・独日協会の方々のお話が、ドイツの現状と課題を良く表していると感じ、非常に価値ある研修だと思いました。ドイツの風土、文化、習慣、歴史を肌で感じるとともに、教育とのつながり、課題への理解を深めることができました。

研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・事前研修会及び事後研修会での協議時間を延長した。
- ・派遣期間中に、研修内容の協議・まとめを行う時間を設定した。
- ・研修成果報告書を全都道府県、指定都市、中核市の教育委員会及び研修センターに送付した。

次年度に向けて

- ・2年間の実施状況を踏まえた研修テーマの見直しの検討を行うこととする。
- ・事前研修会において、団長、副団長、シニアアドバイザーの協議時間を延長し、派遣団の研修方針、内容の共通理解を深めることとする。

研修日程(プログラム)

別紙のとおり（137ページ参照）

研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（B-1：キャリア教育）							
担当課 グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校並びに幼稚園の教職員及び教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者							
派遣期間	平成20年10月12日（日）～平成20年10月23日（木）					12日間		
受講人数	計画人数	※	人	受講者数	25	人	参加率	※
派遣国	ニュージーランド、オーストラリア							

全体計画人数 500人、受講者数 481人、参加率 96.2%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	19	6	0	0	0	0	25
割合 (%)	76.0	24.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	25						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

- ・事前研修会に参加したことにより、海外研修のイメージがつかめました。その後、出発までハードではあるが限りの準備をして研修に望みました。結果、実りある有意義な研修となりました。
- ・研修の目的を十分に達成することができたと思います。シニアアドバイザーの先生の指導・助言がとても参考になり、効率よく実状を把握でき、とても有意義な研修ができました。
- ・全体としても充実した研修であったと感じています。ニュージーランドでは受け入れ先の都合で予定が変更される場面もあったが、シニアアドバイザーはじめ、臨機応変に対応していただいたおかげで変更後の訪問先でも充実した研修を行うことができました。

研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・事前研修会及び事後研修会での協議時間を延長した。
- ・派遣期間中に、研修内容の協議・まとめを行う時間を設定した。
- ・研修成果報告書を全都道府県、指定都市、中核市の教育委員会及び研修センターに送付した。

次年度へ向けて

- ・2年間の実施状況を踏まえた研修テーマの見直しの検討を行うこととする。
- ・事前研修会において、団長、副団長、シニアアドバイザーの協議時間を延長し、派遣団の研修方針、内容の共通理解を深めることとする。

研修日程(プログラム)

別紙のとおり（137ページ参照）

研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（C-1：小学校英語）							
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校並びに幼稚園の教職員及び教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者							
派遣期間	平成20年11月24日（月）～平成20年12月5日（金）					12日間		
受講人数	計画人数	※	人	受講者数	21	人	参加率	※
派遣国	韓国							

全体計画人数 500 人、 受講者数 481 人、 参加率 96.2%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	16	5	0	0	0	0	21
割合 (%)	76.2	23.8	0.0	0.0	0.0	0.0	
	21						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・事前研修会は、大変意義のある研修で出発までに準備がしっかりできました。団員との顔合わせも兼ね、必要な研修だと思えます。 ・海外派遣研修時の「研修のまとめ」の時間でのシニアアドバイザーの先生からの講義・助言は、それまでの調査・研究内容を整理、その後の研修の方向づけをしていただき大変役に立った。 ・韓国の学校や教育関係期間などの英語活動についての取り組みを視察訪問でき大変勉強になりました。全国の先生方と知り合えたことも大きな収穫の一つとなりました。 ・予想以上に得るものがありました。韓国では、英語の必要性について、行政、教員、保護者、児童・生徒のベクトルが同じ方向であり、施策に反映されていると感じた。
--

研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前研修会及び事後研修会での協議時間を延長した。 ・派遣期間中に、研修内容の協議・まとめを行う時間を設定した。 ・研修成果報告書を全都道府県、指定都市、中核市の教育委員会及び研修センターに送付した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年間の実施状況を踏まえた研修テーマの見直しの検討を行うこととする。 ・事前研修会において、団長、副団長、シニアアドバイザーの協議時間を延長し、派遣団の研修方針、内容の共通理解を深めることとする。

研修日程(プログラム)

別紙のとおり（137ページ参照）

研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（C-2：小学校英語）							
担当課 グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校並びに幼稚園の教職員及び教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者							
派遣期間	平成20年11月30日（日）～平成20年12月11日（木）					12日間		
受講人数	計画人数	※	人	受講者数	25	人	参加率	※
派遣国	シンガポール、中国							

全体計画人数 500 人、受講者数 481 人、参加率 96.2%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	24	1	0	0	0	0	25
割合 (%)	96.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	25						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

- ・日数は少ないが大変充実していたので今回の事前研修会で十分であると思う。目的をもつてのぞむことができ大変有意義でした。
- ・たいへん意味のある研修であり、実際に見て感じて体験して学ぶことの大切さを改めて実感できた。子どもたちもこのように体験を通して学ぶことが重要なのだと思った
- ・参加者に任される部分が大きかった分、自分達で考えて行動をしたり、計画・準備をしなければいけなかったが、大変有意義な研修となった。
- ・貴重な経験をさせていただき、大変勉強になりました。また、ご一緒させていただいた先生方との交流も深まり、様々な面で、今後の教育活動へ生かしていきたいと思えます。
- ・英語教育に取り組んでいく方法をたくさん学ぶことができました。二カ国の教育の現状について肌で感じる事ができました。

研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・事前研修会及び事後研修会での協議時間を延長した。
- ・派遣期間中に、研修内容の協議・まとめを行う時間を設定した。
- ・研修成果報告書を全都道府県、指定都市、中核市の教育委員会及び研修センターに送付した。

次年度に向けて

- ・2年間の実施状況を踏まえた研修テーマの見直しの検討を行うこととする。
- ・事前研修会において、団長、副団長、シニアアドバイザーの協議時間を延長し、派遣団の研修方針、内容の共通理解を深めることとする。

研修日程(プログラム)

別紙のとおり（137ページ参照）

研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（D-1：国語力・読解力）							
担当課 グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校並びに幼稚園の教職員及び教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者							
派遣期間	平成20年10月6日（月）～平成20年10月17日（金）					12日間		
受講人数	計画人数	※	人	受講者数	23	人	参加率	※
派遣国	フィンランド							

全体計画人数 500 人、 受講者数 481 人、 参加率 96.2%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	16	7	0	0	0	0	23
割合 (%)	69.6	30.4	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・シニアアドバイザーの先生には、事前研修会より丁寧な説明を頂き大変勉強になりました。また、研修出発日までに、書籍の案内、現地での情報など適宜紹介をいただき、時間の許すかぎり、事前研修に生かすことができました。派遣研修中も専門的な知識と明確な助言により充実した研修となりました。 ・教育委員会、小学校、中学校、高校、教科書製作会社と、とてもバランスよく調査・研究を行うことができた。 ・不安でいっぱい参加でしたが、実際に行ってみて、大変勉強になりました。フィンランドの教育は大変素晴らしく、有意義な時間を過ごすことができました。 ・全国の多くの先生と中身の濃い研修ができたと思います。今後も連絡を取り合いながら広く研修の成果を広げていければと思います。 ・多くの方にご支援、ご配慮をいただき、研修が成立していることに、深く感謝いたします。日常の授業実践の重みを再び認識し直すよい機会を与えていただきました。
--

研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前研修会及び事後研修会での協議時間を延長した。 ・派遣期間中に、研修内容の協議・まとめを行う時間を設定した。 ・研修成果報告書を全都道府県、指定都市、中核市の教育委員会及び研修センターに送付した。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年間の実施状況を踏まえた研修テーマの見直しの検討を行うこととする。 ・事前研修会において、団長、副団長、シニアアドバイザーの協議時間を延長し、派遣団の研修方針、内容の共通理解を深めることとする。

研修日程(プログラム)

別紙のとおり（137ページ参照）

研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（D-2：国語力・読解力）							
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校並びに幼稚園の教職員及び教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者							
派遣期間	平成20年11月25日（火）～平成20年12月6日（土）					12日間		
受講人数	計画人数	※	人	受講者数	24	人	参加率	※
派遣国	アメリカ							

全体計画人数 500 人、 受講者数 481 人、 参加率 96.2%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	23	1	0	0	0	0	24
割合 (%)	95.8	4.2	0.0	0.0	0.0	0.0	
	24						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

- ・事前研修会は、テーマに関する調査事項や質問など具体的な計画の話し合いに深まりがあってよかったと思います。具体的な計画ができて見通しがもてました。
- ・自ら抱えていた教育課題と海外での教育事情を比べて見ていくうちに、自らの実践のよさ・課題が明らかになってきました。研修が単なる見学でなく、シニアアドバイザーによる適切な支援があったおかげだと思いました。
- ・事前研修、また海外派遣研修当日においても、シニアアドバイザーの先生からの説明は大変丁寧でわかりやすかったです。ご指導をいただいたことによりとても有意義な研修となりました。
- ・アメリカ、特にアリゾナ州での国語力の育成について、どのような取り組みがなされているか、その方法、手だて等、自分の今後の実践に取り入れられそうなことも多く学べたことに感謝しています。
- ・シニアアドバイザーの先生も言われたように、研修するのは自分達であり、明確な課題を団としてまとめ、事前に参加者全員が具体的に把握することが有意義な研修につながる。その点で、アドバイザー・団長さんの端的で、明確かつ重点的な指導が難しかった。受け身の研修ではなく、自主的な研修になりとてもよかった。
- ・参加する前はいろいろな不安がありましたが、この研修にさせていただいて、海外の取り組みをたくさん勉強でき、感じることでよかった。

研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・事前研修会及び事後研修会での協議時間を延長した。
- ・派遣期間中に、研修内容の協議・まとめを行う時間を設定した。
- ・研修成果報告書を全都道府県、指定都市、中核市の教育委員会及び研修センターに送付した。

次年度に向けて

- ・2年間の実施状況を踏まえた研修テーマの見直しの検討を行うこととする。
- ・事前研修会において、団長、副団長、シニアアドバイザーの協議時間を延長し、派遣団の研修方針、内容の共通理解を深めることとする。

研修日程(プログラム)

別紙のとおり（137ページ参照）

研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（D-3：国語力・読解力）							
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校並びに幼稚園の教職員及び教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者							
派遣期間	平成20年12月1日（月）～平成20年12月12日（金）				12日間			
受講人数	計画人数	※	人	受講者数	19	人	参加率	※
派遣国	イギリス							

全体計画人数 500 人、 受講者数 481 人、 参加率 96.2%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	19	0	0	0	0	0	19
割合 (%)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	19	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

- ・事前研修会や海外派遣研修で、シニアアドバイザーの先生が的確にアドバイスや講義をしてくださり、そのおかげで海外研修がスムーズに受けられたと思います。また、団長をはじめ団員の先生方との交流にはあたたかいものが流れており、大変貴重な研修となりました。
- ・海外の学校の教育事情に触れることができ、視野を広げることができた。大変有意義な研修となった。
- ・団長をはじめシニア・アドバイザーの先生、団員の方々が、とても温かくすばらしい方たちばかりでしたので、非常に心地よく、充実した研修期間を過ごせたことに感謝しています。日頃、勉強不足な自分が、こうした研修で多くの視点や課題を与えていただけたこともありがたかったです。
- ・短期間であっても、密度の濃い研修で大変勉強になりました。今回得られた多くの研修成果等を、教育システムもまったく異なる日本で、どのくらい実践していけるかわかりませんが、わずかながらでも校内へ、地域へと、具体的に活用できるよう頑張りたいと思っています。

研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・事前研修会及び事後研修会での協議時間を延長した。
- ・派遣期間中に、研修内容の協議・まとめを行う時間を設定した。
- ・研修成果報告書を全都道府県、指定都市、中核市の教育委員会及び研修センターに送付した。

次年度に向けて

- ・2年間の実施状況を踏まえた研修テーマの見直しの検討を行うこととする。
- ・事前研修会において、団長、副団長、シニアアドバイザーの協議時間を延長し、派遣団の研修方針、内容の共通理解を深めることとする。

研修日程(プログラム)

別紙のとおり（137ページ参照）

研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（E-1：伝統・文化の教育）							
担当課 グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校並びに幼稚園の教職員及び教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者							
派遣期間	平成20年10月12日（日）～平成20年10月23日（木）					12日間		
受講人数	計画人数	※	人	受講者数	21	人	参加率	※
派遣国	アメリカ							

全体計画人数 500 人、受講者数 481 人、参加率 96.2%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	20	1	0	0	0	0	21
割合 (%)	95.2	4.8	0.0	0.0	0.0	0.0	
	21						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

- ・シニアアドバイザーの詳細な情報提供や現地での説明があり、短期間に集中した調査・研究ができました。
- ・限られた期間の中で、多くの学校や教育関係施設等の視察訪問ができ、訪問国の教育事情や取り組みなど多くのことを学ぶ機会となった。大変有意義な研修でした。
- ・アメリカと日本の教育・文化の大きな違いを肌で感じることができました。また、学校の視察訪問を通じて教育現場の状況を知ることができ大変勉強になりました。

研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・事前研修会及び事後研修会での協議時間を延長した。
- ・派遣期間中に、研修内容の協議・まとめを行う時間を設定した。
- ・研修成果報告書を全都道府県、指定都市、中核市の教育委員会及び研修センターに送付した。

次年度へ向けて

- ・2年間の実施状況を踏まえた研修テーマの見直しの検討を行うこととする。
- ・事前研修会において、団長、副団長、シニアアドバイザーの協議時間を延長し、派遣団の研修方針、内容の共通理解を深めることとする。

研修日程(プログラム)

別紙のとおり（137ページ参照）

研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（E-2：伝統・文化の教育）							
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校並びに幼稚園の教職員及び教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者							
派遣期間	平成20年11月30日（日）～平成20年12月9日（火）				10日間			
受講人数	計画人数	※	人	受講者数	26	人	参加率	※
派遣国	イギリス							

全体計画人数 500 人、受講者数 481 人、参加率 96.2%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	22	3	0	1	0	0	26
割合 (%)	84.6	11.5	0.0	3.8	0.0	0.0	
	25						
	96.2						

2. 研修内容に関する主な意見

- ・団員が同じ研修テーマを共有することで、視点を明確にした深まりのある研修とすることができたように思う。来年度以降も継続して多くの教員が参加できればと思う
- ・実際に学校訪問をすることによって、実感をもって他国と日本の教育の相違点について理解することができ、非常に有意義であった。他国を訪問することでより広い視野をもって教育について考えられるようになって感じた。
- ・大変充実した内容で、有意義な研修でした。英国の教育の素晴らしさと、かかえている課題を学ぶことができた。又、日本の教育との比較もできた。
- ・シニアアドバイザーの先生の指導・助言は、懇切・丁寧であり研修を進めていく上で大変役に立ちました。
- ・いろいろな方々に支えられて研修の機会を与えて頂き貴重な経験ができましたことに深謝いたしております。今後、子どもたちの教育や学校運営においてきっと役立てたいと思っております。

研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・事前研修会及び事後研修会での協議時間を延長した。
- ・派遣期間中に、研修内容の協議・まとめを行う時間を設定した。
- ・研修成果報告書を全都道府県、指定都市、中核市の教育委員会及び研修センターに送付した。

次年度に向けて

- ・2年間の実施状況を踏まえた研修テーマの見直しの検討を行うこととする。
- ・事前研修会において、団長、副団長、シニアアドバイザーの協議時間を延長し、派遣団の研修方針、内容の共通理解を深めることとする。

研修日程(プログラム)

別紙のとおり（137ページ参照）

研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（F-1：心身の健康教育）							
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校並びに幼稚園の教職員及び教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者							
派遣期間	平成20年11月3日（月）～平成20年11月14日（金）			12日間				
受講人数	計画人数	※	人	受講者数	23	人	参加率	※
派遣国	ドイツ							

全体計画人数 500 人、受講者数 481 人、参加率 96.2%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数(人)	22	1	0	0	0	0	23
割合(%)	95.7	4.3	0.0	0.0	0.0	0.0	
	23						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

- ・シニアアドバイザーの先生には、事前研修会での講義・指導や現地で私たちに適切なアドバイスをいただいたことにより、研修の都度、疑問点を解決し共通理解を図ることができ大変よかったです。
- ・シニアアドバイザーの先生のおかげで、無駄なくポイントをしばった視察訪問ができ、大変有意義な研修となった。
- ・たいへん満足いく研修となりよかったです。団長はじめ副団長そしてシニアアドバイザーの先生に感謝するとともに団の皆様と出会えた事幸せに思います。研修で得たものを広げさらに深めていけたらと考えています。
- ・貴重な体験をさせて頂きありがとうございました。私はドイツへの海外研修でしたが、ドイツの教育のよさ、即学校でも子供への対応や学校としてできることを得てきました。生涯の私の財産として（これからの教育者としての姿）ここでの研修を生かしていきたいと思います。
- ・大変有意義な研修で、得るものが非常に多くありました。この研修を今後、生かしていきたいと思います。

研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・事前研修会及び事後研修会での協議時間を延長した。
- ・派遣期間中に、研修内容の協議・まとめを行う時間を設定した。
- ・研修成果報告書を全都道府県、指定都市、中核市の教育委員会及び研修センターに送付した。

次年度へ向けて

- ・2年間の実施状況を踏まえた研修テーマの見直しの検討を行うこととする。
- ・事前研修会において、団長、副団長、シニアアドバイザーの協議時間を延長し、派遣団の研修方針、内容の共通理解を深めることとする。

研修日程(プログラム)

別紙のとおり（137ページ参照）

研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（F-2：心身の健康教育）							
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校並びに幼稚園の教職員及び教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者							
派遣期間	平成20年12月3日（水）～平成20年12月14日（日）				12日間			
受講人数	計画人数	※	人	受講者数	20	人	参加率	※
派遣国	オーストラリア							

全体計画人数 500 人、受講者数 481 人、参加率 96.2%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数(人)	11	9	0	0	0	0	20
割合(%)	55.0	45.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	20	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

- ・素晴らしいシニアアドバイザーのもと、団長をはじめ、団員の方々の熱心な研讃の中、私自身、たくさんのことを学ぶことができ、たいへん有意義な11日間でした。今後、学校や地域で活用したいと思います。
- ・訪問国の教育の現場にふれることが出来、帰国後の日常の執務にヒントを得ることが多かった。また、日本の教育の長所（木目細かい配慮など）も再認識することができた。
- ・外国の現状を見る事によって、「日本の良さ」「日本に足りないもの」がよくわかりました。このような研修をぜひ続けてほしいと思います。
- ・「心身の健康教育」について、オーストラリアと日本の違い、生徒の違いを学びました。特に心身の健康教育を通し、児童生徒の行動の基盤となる教育が実施されていることを現地で学ぶことができました。
- ・いくつかのテーマを携えて、研修に臨む方法はたいへん有意義と考える。海外の教師との触れあいも、形としては残るものではないが、今後の職務に活力を与えてくれた。

研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・事前研修会及び事後研修会での協議時間を延長した。
- ・派遣期間中に、研修内容の協議・まとめを行う時間を設定した。
- ・研修成果報告書を全都道府県、指定都市、中核市の教育委員会及び研修センターに送付した。

次年度へ向けて

- ・2年間の実施状況を踏まえた研修テーマの見直しの検討を行うこととする。
- ・事前研修会において、団長、副団長、シニアアドバイザーの協議時間を延長し、派遣団の研修方針、内容の共通理解を深めることとする。

研修日程(プログラム)

別紙のとおり（137ページ参照）

研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（G-1：生徒指導、在り方・生き方指導）							
担当課 グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校並びに幼稚園の教職員及び教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者							
派遣期間	平成20年11月10日（月）～平成20年11月21日（金）				12日間			
受講人数	計画人数	※	人	受講者数	23	人	参加率	※
派遣国	イギリス							

全体計画人数 500 人、 受講者数 481 人、 参加率 96.2%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	22	1	0	0	0	0	23
割合 (%)	95.7	4.3	0.0	0.0	0.0	0.0	
	23						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・事前研修会では、シニアアドバイザーの先生の説明がとても分かりやすく、同じ団の方々とも情報交換ができ大変有意義であった ・シニアアドバイザーの先生の指導・助言により、大変充実した海外派遣研修となりました。今後、研修の成果を広く活用していきたいと思えます。 ・イギリスと日本の教育環境の違いを知ることができた。組織、予算、施設はもちろんのこと、人材の生かし方が違うと感じた。 ・現地での協議の時間を確保できたことが有効でした。調査事項や疑問点を整理できスムーズな研修となりました。
--

研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前研修会及び事後研修会での協議時間を延長した。 ・派遣期間中に、研修内容の協議・まとめを行う時間を設定した。 ・研修成果報告書を全都道府県、指定都市、中核市の教育委員会及び研修センターに送付した。 <p>次年度へ向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年間の実施状況を踏まえた研修テーマの見直しの検討を行うこととする。 ・事前研修会において、団長、副団長、シニアアドバイザーの協議時間を延長し、派遣団の研修方針、内容の共通理解を深めることとする。

研修日程(プログラム)

別紙のとおり（137ページ参照）

研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（G-2：生徒指導、在り方・生き方指導）							
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校並びに幼稚園の教職員及び教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者							
派遣期間	平成20年11月8日（土）～平成20年11月19日（水）				12日間			
受講人数	計画人数	※	人	受講者数	19	人	参加率	※
派遣国	オーストラリア							

全体計画人数 500 人、 受講者数 481 人、 参加率 96.2%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	15	4	0	0	0	0	19
割合 (%)	78.9	21.1	0.0	0.0	0.0	0.0	
	19						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

- ・海外の学校視察訪問などを通じて、海外の先進的な取り組みを学ぶ良い機会でした。今後活かしていきたいと思えます。
- ・多くの学校や教育関係施設を見ることができとても良かったです。特に学校の授業を見学でき日本との違いを肌で感じることができました。今後の指導の参考になりました。
- ・海外派遣研修にシニアアドバイザーの先生が同行していただけたので、安心して研修に参加できました。訪問先でも適切なお助言をいただくことができました。
- ・オーストラリアの国の特性と、それに応じた教育施策及び学校現場での現状を知ることができました。日本で生かせることを学校現場などに反映していきたい。
- ・オーストラリアの小、中、高のとり組みにおいて特に生徒指導面で、ピアサポートを取り入れた活動、ピースパックプログラムで子どもを守ることを重要視していることを学んだ。また、少人数、TT（24人に2人）の指導体制の良さや、パソコンの個別練習で、教師の意見を反映させたプログラムの導入などの工夫が見られた。

研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・事前研修会及び事後研修会での協議時間を延長した。
- ・派遣期間中に、研修内容の協議・まとめを行う時間を設定した。
- ・研修成果報告書を全都道府県、指定都市、中核市の教育委員会及び研修センターに送付した。

次年度へ向けて

- ・2年間の実施状況を踏まえた研修テーマの見直しの検討を行うこととする。
- ・事前研修会において、団長、副団長、シニアアドバイザーの協議時間を延長し、派遣団の研修方針、内容の共通理解を深めることとする。

研修日程(プログラム)

別紙のとおり（137ページ参照）

研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（G-3：生徒指導、在り方・生き方指導）							
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校並びに幼稚園の教職員及び教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者							
派遣期間	平成20年10月15日（水）～平成20年10月26日（日）					12日間		
受講人数	計画人数	※	人	受講者数	23	人	参加率	※
派遣国	ドイツ							

全体計画人数 500 人、受講者数 481 人、参加率 96.2%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	17	6	0	0	0	0	23
割合 (%)	73.9	26.1	0.0	0.0	0.0	0.0	
	23						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

- ・シニアアドバイザーの先生に丁寧にご指導いただき、充実とした研修となりました。
- ・学校や教育機関の視察訪問を通じて、ドイツの教育制度と諸課題について理解することができました。貴重な体験をさせていただきました。
- ・大変貴重な機会を与えて頂きましたことを、深く感謝致します。他府県の先生方との交流も含め、今後の人生においても大変意義のあるものとなりました。
- ・限られた時間の中で、充実した有意義な研修をすることができました。この経験を日々の教育活動に活かしたいと思っております。

研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・事前研修会及び事後研修会での協議時間を延長した。
- ・派遣期間中に、研修内容の協議・まとめを行う時間を設定した。
- ・研修成果報告書を全都道府県、指定都市、中核市の教育委員会及び研修センターに送付した。

次年度へ向けて

- ・2年間の実施状況を踏まえた研修テーマの見直しの検討を行うこととする。
- ・事前研修会において、団長、副団長、シニアアドバイザーの協議時間を延長し、派遣団の研修方針、内容の共通理解を深めることとする。

研修日程(プログラム)

別紙のとおり（137ページ参照）

研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（H-1：学校等間の連携）							
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校並びに幼稚園の教職員及び教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者							
派遣期間	平成20年10月13日（月）～平成20年10月24日（金）					12日間		
受講人数	計画人数	※	人	受講者数	25	人	参加率	※
派遣国	ベトナム							

全体計画人数 500 人、受講者数 481 人、参加率 96.2%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった		無回答		未回収		合計
	大変有意義	おおむね有意義								
人数	11	13	1	0	0	0	0	0	25	
割合 (%)	44.0	52.0	4.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
	24									
	96.0									

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・たくさんの教育機関・学校を訪問し、訪問先の先生方のお話を聞き、国の情勢による教育制度の違いを知り大変勉強になりました。また、各学校の取り組みを見て大変刺激を受けました。 ・国内にいて、書物・インターネット等で知ることや学ぶことより、多くのことを海外に行って得ることができたように思う。諸外国における教育事情を、実際に見たり、聞いたりすることで、改めて日本の教育について、深く考えさせられるところもあった。 ・海外の教育事情にふれる機会をいただいたことは、大変貴重であり、日本国の教育、地域の教育を客観視することにつながりよかった。また、団員で力を合わせ、チームでテーマについて探っていく体制をとったことも多くの学びにつながった。 ・全員の協力のもと、毎日熱心に研修を行いました。早朝～夕方まで、盛りだくさんの内容を貴重な体験の場として有意義にすごせました。
--

研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前研修会及び事後研修会での協議時間を延長した。 ・派遣期間中に、研修内容の協議・まとめを行う時間を設定した。 ・研修成果報告書を全都道府県、指定都市、中核市の教育委員会及び研修センターに送付した。 <p>次年度へ向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年間の実施状況を踏まえた研修テーマの見直しの検討を行うこととする。 ・事前研修会において、団長、副団長、シニアアドバイザーの協議時間を延長し、派遣団の研修方針、内容の共通理解を深めることとする。

研修日程(プログラム)

別紙のとおり（137ページ参照）

研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（I-1：理数系教育）							
担当グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校並びに幼稚園の教職員及び教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者							
派遣期間	平成20年10月10日（金）～平成20年10月19日（日）				10日間			
受講人数	計画人数	※	人	受講者数	17	人	参加率	※
派遣国	アメリカ							

全体計画人数 500 人、受講者数 481 人、参加率 96.2%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	13	4	0	0	0	0	17
割合 (%)	76.5	23.5	0.0	0.0	0.0	0.0	
	17						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

- ・多少不安を抱えての参加でしたが、事前研修会の2日間で研修の内容を理解することができました。
- ・シニアアドバイザーの先生の講義・指導により、大変有意義な研修ができ感謝しています。
- ・海外の学校や教育関係機関の教育事情に直接触れることができ、視野を広げることができました。貴重な経験となりました。今後、学校や地域で活用していきたいと思います。
- ・多くの学校の取り組みを見ることができ勉強になりました。

研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・事前研修会及び事後研修会での協議時間を延長した。
- ・派遣期間中に、研修内容の協議・まとめを行う時間を設定した。
- ・研修成果報告書を全都道府県、指定都市、中核市の教育委員会及び研修センターに送付した。

次年度へ向けて

- ・2年間の実施状況を踏まえた研修テーマの見直しの検討を行うこととする。
- ・事前研修会において、団長、副団長、シニアアドバイザーの協議時間を延長し、派遣団の研修方針、内容の共通理解を深めることとする。

研修日程(プログラム)

別紙のとおり（137ページ参照）

研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（I-2：理数系教育）							
担当課 グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校並びに幼稚園の教職員及び教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者							
派遣期間	平成20年10月16日（木）～平成20年10月26日（日）				11日間			
受講人数	計画人数	※	人	受講者数	18	人	参加率	※
派遣国	オーストラリア							

全体計画人数 500 人、受講者数 481 人、参加率 96.2%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった		無回答		未回収		合計
	大変有意義	おおむね有意義								
人数 (人)	13	5	0	0	0	0	0	0	18	
割合 (%)	72.2	27.8	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	18									
	100.0									

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・事前研修会は、短期間で中身の濃い研修会でした。 ・訪問国、地域の教育事情、課題と取組について知ることができ、今後の教育活動に参考となった。良い機会を与えていただき満足しています。 ・毎日が驚きの連続でした。全てがためになりました。貴重なすばらしい経験でした。 ・とても貴重な経験でした。学習指導要領が、何をモデルにして、変えてきているのかも、少しわかった気がしました。もっと多くの先生方が経験した方がよいと思います。 ・学校等も公立、私立、小、中、高、多くの種類見学でき、オーストラリアの教育の指導が理解できたように思う。
--

研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・事前研修会及び事後研修会での協議時間を延長した。 ・派遣期間中に、研修内容の協議・まとめを行う時間を設定した。 ・研修成果報告書を全都道府県、指定都市、中核市の教育委員会及び研修センターに送付した。 <p>次年度へ向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2年間の実施状況を踏まえた研修テーマの見直しの検討を行うこととする。 ・事前研修会において、団長、副団長、シニアアドバイザーの協議時間を延長し、派遣団の研修方針、内容の共通理解を深めることとする。

研修日程(プログラム)

別紙のとおり（137ページ参照）

研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（I-3：理数系教育）							
担当課 グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校並びに幼稚園の教職員及び教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者							
派遣期間	平成20年11月17日（月）～平成20年11月28日（金）				12日間			
受講人数	計画人数	※	人	受講者数	21	人	参加率	※
派遣国	オランダ							

全体計画人数 500 人、受講者数 481 人、参加率 96.2%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	14	7	0	0	0	0	21
割合 (%)	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	
	21						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

- ・事前研修会は、限られた時間の中で効率よく研修が進められました。未知の国オランダについて教育の在り方等理解することができました。また、不安を取り除くことができ、団員との関係もしっかりとつくれる時間となった。
- ・シニアアドバイザーの先生の指導・助言を受けながら、自主研修という姿勢で臨めたので、有意義で実りある研修となった。
- ・団員の協力で大変有意義な研修となりました。海外派遣研修の成果を広く学校現場や地域で活用したいと思えます。
- ・研修課題が多岐にわたると検証しにくい。視察訪問する相手もあることなので、研修課題をしばらくこみ、調査・研究、質問項目を準備し、視察訪問の時間を十分に取れるとより効果的に研修を進められると思う。

研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・事前研修会及び事後研修会での協議時間を延長した。
- ・派遣期間中に、研修内容の協議・まとめを行う時間を設定した。
- ・研修成果報告書を全都道府県、指定都市、中核市の教育委員会及び研修センターに送付した。

次年度へ向けて

- ・2年間の実施状況を踏まえた研修テーマの見直しの検討を行うこととする。
- ・事前研修会において、団長、副団長、シニアアドバイザーの協議時間を延長し、派遣団の研修方針、内容の共通理解を深めることとする。

研修日程(プログラム)

別紙のとおり（137ページ参照）

研修概要

研修名	教育課題研修指導者海外派遣プログラム（J-1：安全に関する教育）							
担当課 グループ	基幹研修事業課 基幹研修第二グループ							
研修目的	教育現場が抱える重要な教育課題に対応する研修指導者を養成するため、当該課題について先進的に取り組む諸外国に各地域の指導者を派遣し、その成果を教育委員会が実施する研修内容に活かし、教員研修の一層の充実を期する。							
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校、特別支援学校並びに幼稚園の教職員及び教育行政機関の職員であって、派遣テーマに関して、地域の中核的な役割を担い指導者となる者							
派遣期間	平成20年11月17日（月）～平成20年11月28日（金）					12日間		
受講人数	計画人数	※	人	受講者数	21	人	参加率	※
派遣国	カナダ							

全体計画人数 500 人、受講者数 481 人、参加率 96.2%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	14	7	0	0	0	0	21
割合 (%)	66.7	33.3	0.0	0.0	0.0	0.0	
	21						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

- ・事前研修会では、「海外派遣プログラムの概要」等についてわかりやすく説明していただきました。
- ・団長、副団長、シニアアドバイザーの先生、団員の協力により充実した研修会となりました。
- ・「百聞は一見にしかず」でした。その国の教育に対する考え方、取り組み、日本とのちがいなどを知ることができました。今後、教育現場で生かして生きたいと思えます。
- ・教員の研修として、すばらしい機会と有意義なプログラムであったと実感することができました。今後も研修に努めてまいります。
- ・海外に出て他国の教育・文化を知ることは、指導力を高める上で、違う視点から見るという点で大変に良いと思う。また、全国の教員と交流する中で情報交換ができる点も良い。
- ・今回の研修に参加させていただき大変有意義でした。日頃いかに狭い視点で物言を考え、行動していたかを考えさせられました。今後、今回の研修で得たものを、しっかり活用していきたいと思えます。

研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・事前研修会及び事後研修会での協議時間を延長した。
- ・派遣期間中に、研修内容の協議・まとめを行う時間を設定した。
- ・研修成果報告書を全都道府県、指定都市、中核市の教育委員会及び研修センターに送付した。

次年度へ向けて

- ・2年間の実施状況を踏まえた研修テーマの見直しの検討を行うこととする。
- ・事前研修会において、団長、副団長、シニアアドバイザーの協議時間を延長し、派遣団の研修方針、内容の共通理解を深めることとする。

研修日程(プログラム)

別紙のとおり（137ページ参照）

平成20年度 教育課題研修指導者海外派遣プログラム

研修テーマ	派遣団名	人数	派遣国	事前研修	派遣期間	日数	事後研修
学校評価と 学校運営 (4団)	A 1	19	アメリカ	8/25.26 東京	10/27 ~ 11/7	12	1/29.30 つくば
	A 2	23	アメリカ	8/7.8 名古屋	11/3 ~ 11/14	12	2/4.5 名古屋
	A 3	24	イギリス	8/21.22 名古屋	11/3 ~ 11/14	12	2/5.6 名古屋
	A 4	21	ドイツ	8/7.8 福岡	9/29 ~ 10/10	12	2/9.10 福岡
キャリア教育 (1団)	B-1	25	ニュージーランド オーストラリア	8/19.20 東京	10/12 ~ 10/23	12	1/26.27 つくば
小学校英語 (2団)	C-1	21	韓国	8/21.22 東京	11/24 ~ 12/5	12	2/9.10 つくば
	C-2	25	シンガポール・ 中国	9/5 松山	11/30 ~ 12/11	12	2/13 愛媛
国語力・読解力 (3団)	D-1	23	フィンランド	7/31.8/1 東京	10/6 ~ 10/17	12	1/26.27 つくば
	D-2	24	アメリカ	8/21.22 名古屋	11/25 ~ 12/6	12	2/5.6 名古屋
	D-3	19	イギリス	8/7.8 福岡	12/1 ~ 12/12	12	2/9.10 福岡
伝統・文化の教育 (2団)	E-1	21	アメリカ	7/31.8/1 東京	10/12 ~ 10/23	12	1/26.27 つくば
	E-2	26	イギリス	8/21.22 名古屋	11/30 ~ 12/9	10	2/5.6 名古屋
心身の健康教育 (2団)	F-1	23	ドイツ	8/21.22 名古屋	11/3 ~ 11/14	12	2/5.6 名古屋
	F-2	20	オーストラリア	8/20.21 東京	12/3 ~ 12/14	12	1/29.30 つくば
生徒指導、 在り方・生き方指導 (3団)	G-1	23	イギリス	7/31.8/1 東京	11/10 ~ 11/21	12	1/29.30 つくば
	G-2	19	オーストラリア	8/21.22 名古屋	11/8 ~ 11/19	12	2/4.5 名古屋
	G-3	23	ドイツ	8/7.8 福岡	10/15 ~ 10/26	12	2/9.10 福岡
学校等間の連携 (1団)	H-1	25	ベトナム	7/31.8/1 東京	10/13 ~ 10/24	12	1/29.30 つくば
理数系教育 (3団)	I-1	17	アメリカ	8/21.22 東京	10/10 ~ 10/19	10	1/29.30 つくば
	I-2	18	オーストラリア	8/7.8 福岡	10/16 ~ 10/26	11	2/9.10 福岡
	I-3	21	オランダ	8/5.6 東京	11/17 ~ 11/28	12	2/12.13 つくば
安全に関する教育 (1団)	J-1	21	カナダ	8/21.22 東京	11/17 ~ 11/28	12	2/12.13 つくば
計	22団	481					

研修概要

研修名	産業・理科教育教員派遣研修							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研修目的	産業教育・理科教育に関して優れた調査研究課題を有する者について、産業教育・理科教育に関する研修を行うにふさわしい大学又は施設に派遣し、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術等を修得させ、もって産業教育・理科教育担当教員の資質を向上し、その指導力の強化を図ることを目的とする。							
受講対象	小学校、中学校、高等学校、中等教育学校及び特別支援学校の産業教育又は理科教育を担当している教職員並びに教育行政機関において産業教育又は理科教育を担当している職員							
開催期日	年間を通して（3ヶ月、6ヶ月、12ヶ月）				—			
受講人数	計画人数	100	人	受講者数	79	人	参加率	79.0%
開催場所	宇都宮大学ほか（次ページのとおり）							

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	62	13	1	0	0	3	79
割合 (%)	78.5	16.5	1.3	0.0	0.0	3.8	
	75	94.9					

2. 研修内容に関する主な意見

- 教科書に掲載される実験・観察の見直し、教材研究ができましたので、直接授業に活かすことができます。
- 普段の勤務では体験できない貴重な体験や勉強ができ、「井の中の蛙」状態で満足するのではなく、常に課題意識を持って自己研修を積むことの大切さを学び、日々の授業や指導に対する見方を変えることが出来ました。
- 学習指導要領改訂のこの時期に研修の機会をいただき、教科の専門性を高めることができた、「生きる力」についても考えることができた。また、校種の違う先生方と情報交換することができた。大学の先生方からは、教育現場の抱える課題など広い視野でものごとをとらえ、考えることの大切さを教えていただいた。
- 一度現場に出ているからこそ分かることがたくさんありました。大学で学んだことも実感を伴って再び勉強することで理解が深まりました。今まで以上に理論的に物事（仕事上の）を判断することにつながるものと思います。
- 一般企業での仕事内容や考え方を体験することができ、この経験を踏まえてキャリア教育への理解を含めることができた。また、教員という立場を客観的に捉えることもでき、自分を振り返る良い機会であった。
- 高度で専門的な知識と技術の習得により、充実した教科指導ができる。また、研修先である研究機関とのネットワークを確立できたことは、今後の職務ばかりでなく、学校が担う地域振興にも役立てられる。
- 研修した内容そのものを利用して授業することはできないが、今回体験したこと（ものづくりの基本）は、実習の授業へも応用できることであった。本校機械科でのものづくり教育に生かしていきたい。
- とても、役に立つと確信しています。かなり上の知識、技能を修得させていただいたおかげで、現場に復帰してからの半年間、指導にも幅が出ていると思います。

研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- 引き続き実地経費の1/2を派遣者負担としている。

次年度へ向けて

- 研修内容を見直しつつ、実地経費については、全額派遣者負担を導入する。

研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成20年度 産業・理科教育教員派遣研修 受講者一覧

No	都道府県	派遣人数	派遣元	派遣先		
			所属	派遣先	派遣時期	期間
1	青森県	1	青森県立三本木農業高等学校	国立大学法人 宇都宮大学	H20.9.1 ~ H20.11.30	3ヶ月
2	岩手県	1	久慈市立久慈中学校	国立大学法人 岩手大学	H20.9.1 ~ H20.11.30	3ヶ月
3	秋田県	2	五城目町立五城目第一中学校	国立大学法人 秋田大学	H20.5.1 ~ H20.7.31	3ヶ月
4			仙北市立角館中学校	国立大学法人 秋田大学	H20.7.1 ~ H20.12.31	6ヶ月
5	福島県	3	福島県立喜多方高等学校	国立大学法人 福島大学	H20.7.1 ~ H20.12.26	6ヶ月
6			福島県立浪江高等学校津島分校	国立大学法人 福島大学	H20.7.1 ~ H20.12.26	6ヶ月
7			福島県郡山市立郡山第七中学校	国立大学法人 福島大学	H20.7.1 ~ H20.12.26	6ヶ月
8	栃木県	17	大平町立大平中央小学校	国立大学法人 宇都宮大学	H20.4.1 ~ H20.9.30	6ヶ月
9			岩船町立岩船中学校	国立大学法人 宇都宮大学	H20.4.1 ~ H20.9.30	6ヶ月
10			小山市立小山中学校	国立大学法人 宇都宮大学	H20.4.1 ~ H20.9.30	6ヶ月
11			佐野市立犬伏小学校	国立大学法人 宇都宮大学	H20.4.1 ~ H20.9.30	6ヶ月
12			宇都宮市立西小学校	国立大学法人 宇都宮大学	H20.4.1 ~ H20.9.30	6ヶ月
13			野木町立野木第二中学校	国立大学法人 宇都宮大学	H20.4.1 ~ H20.9.30	6ヶ月
14			宇都宮市立横川西小学校	国立大学法人 宇都宮大学	H20.10.1 ~ H21.3.31	6ヶ月
15			小山市立美田中学校	国立大学法人 宇都宮大学	H20.10.1 ~ H21.3.31	6ヶ月
16			高根沢町立北高根沢中学校	国立大学法人 宇都宮大学	H20.10.1 ~ H21.3.31	6ヶ月
17			那須町立大沢小学校	国立大学法人 宇都宮大学	H20.10.1 ~ H21.3.31	6ヶ月
18			真岡市立中村中学校	国立大学法人 宇都宮大学	H20.10.1 ~ H21.3.31	6ヶ月
19			足利市立坂西中学校	国立大学法人 宇都宮大学	H20.10.1 ~ H21.3.31	6ヶ月
20			栃木県立栃木女子高等学校	国立大学法人 宇都宮大学	H20.4.1 ~ H21.3.31	12ヶ月
21			栃木県立栃木工業高等学校	国立大学法人 宇都宮大学	H20.4.1 ~ H20.9.30	6ヶ月
22			栃木県立栃木商業高等学校	国立大学法人 一橋大学	H20.4.1 ~ H20.9.30	6ヶ月
23			栃木県立那須拓陽高等学校	国立大学法人 宇都宮大学	H20.10.1 ~ H21.3.31	6ヶ月
24			栃木県立栃木農業高等学校	松島園芸	H20.12.1 ~ H21.2.28	3ヶ月
25	群馬県	1	群馬県立前橋商業高等学校	群馬大学	H20.4.1 ~ H21.3.31	12ヶ月
26	神奈川県	5	神奈川県立相模田名高等学校	国立大学法人 横浜国立大学	H20.6.7 ~ H20.12.6	7ヶ月
27			神奈川県立大清水高等学校	国立大学法人 横浜国立大学	H20.6.7 ~ H20.12.6	7ヶ月
28			神奈川県立鶴見総合高等学校	国立大学法人 横浜国立大学	H20.6.7 ~ H20.12.6	7ヶ月
29			神奈川県立吉田島農林高等学校	東京農業大学	H20.4.1 ~ H21.3.31	12ヶ月
30			神奈川県立藤沢工科高等学校	国立大学法人 横浜国立大学大学院	H20.4.1 ~ H21.3.31	12ヶ月
31	石川県	2	石川県立金沢商業高等学校	金沢星稷大学	H20.4.1 ~ H21.3.31	12ヶ月
32			石川県立小松工業高等学校	金沢工業大学	H20.4.1 ~ H21.3.31	12ヶ月
33	長野県	3	長野県岡谷工業高等学校	国立大学法人 信州大学	H20.5.1 ~ H21.3.31	11ヶ月
34			長野県木曾高等学校	国立大学法人 信州大学	H20.5.1 ~ H21.3.31	11ヶ月
35			長野県松本工業高等学校	国立大学法人 信州大学	H20.5.1 ~ H21.2.28	10ヶ月
36	岐阜県	2	岐阜県立揖斐高等学校	広瀬和哉	H20.6.1 ~ H20.8.31	3ヶ月
37			岐阜県立海津明誠高等学校	愛知教育大学	H20.5.1 ~ H20.7.31	3ヶ月
38	静岡県	1	静岡県立富岳館高等学校	静岡大学	H20.10.1 ~ H21.3.31	6ヶ月
39	愛知県	5	愛知県立時習館高等学校	国立大学法人 豊橋技術科学大学	H20.4.1 ~ H20.9.30	6ヶ月
40			愛知県立一宮商業高等学校	株式会社 エイデン	H20.12.1 ~ H21.2.28	3ヶ月
41			愛知県立豊川工業高等学校	豊川宝飯衛生組合事務所	H20.7.1 ~ H20.9.30	3ヶ月
42			愛知県立碧南工業高等学校	株式会社 五十鈴製作所	H20.7.1 ~ H20.9.30	3ヶ月
43			愛知県立渥美農業高等学校	愛知県田原市役所環境部工コエネ推進室	H20.10.1 ~ H20.12.26	3ヶ月

No	都道府県	派遣人数	派遣元	派遣先		
			所属	派遣先	派遣時期	期間
44	京都府	1	京都府立峰山高等学校	京都工芸繊維大学大学院	H20.4.1 ~ H21.3.31	12ヶ月
45	奈良県	2	奈良市立一条高等学校	国立大学法人 奈良女子大学	H20.5.1 ~ H21.3.31	11ヶ月
46			宇陀市立榛原小学校	国立大学法人 奈良教育大学	H20.5.1 ~ H21.3.31	11ヶ月
47	和歌山県	1	和歌山県立田辺工業高等学校	国立和歌山工業高等専門学校	H20.4.1 ~ H21.3.31	12ヶ月
48	島根県	1	島根県立松江農林高等学校	国立大学法人 島根大学	H20.4.1 ~ H21.3.31	12ヶ月
49	岡山県	3	岡山県立弓削高等学校	国立大学法人 岡山大学	H20.4.1 ~ H21.3.31	12ヶ月
50			岡山県立東岡山工業高等学校	国立大学法人 岡山大学	H20.4.1 ~ H21.3.31	12ヶ月
51			岡山県立笠岡商業高等学校	国立大学法人 岡山大学	H20.4.1 ~ H21.3.31	12ヶ月
52	山口県	5	山口県立山口農業高等学校	(有)鹿野ファーム	H20.5.1 ~ H20.6.30 H20.9.1 ~ H20.9.30	3ヶ月
53			山口県立徳山商工高等学校	大阪商業大学	H20.10.1 ~ H20.12.28	3ヶ月
54			岩国市立玖珂中学校	(株)土網商店	H20.7.15 ~ H20.10.14	4ヶ月
55			岩国市立岩国西中学校	国立大学法人 山口大学	H20.11.1 ~ H21.1.31	3ヶ月
56			山口県立光丘高等学校	国立大学法人 山口大学	H20.5.1 ~ H20.7.31	3ヶ月
57	香川県	2	香川県立三木高等学校	瀬戸内短期大学	H20.4.1 ~ H21.3.31	12ヶ月
58			香川県立坂出商業高等学校	大原簿記法律専門学校難波校	H20.7.1 ~ H20.9.30	3ヶ月
59	高知県	3	高知県立幡多農業高等学校	国立大学法人 高知大学	H20.4.1 ~ H20.9.30	6ヶ月
60			高知県立伊野商業高等学校	高知工科大学	H20.10.1 ~ H21.3.31	6ヶ月
61			高知県立幡多農業高等学校	高知県農業技術センター果樹試験場	H20.10.1 ~ H21.3.31	6ヶ月
62	福岡県	2	福岡県立行橋高等学校	九州栄養福祉大学	H20.4.1 ~ H21.3.31	12ヶ月
63			福岡県立大牟田北高等学校	国立大学法人 熊本大学	H20.4.1 ~ H21.3.31	12ヶ月
64	佐賀県	4	佐賀県立神埼清明高等学校	佐賀調理製菓専門学校	H20.4.1 ~ H21.3.31	12ヶ月
65			佐賀県立嬉野高等学校	学校法人麻生塾 専門学校麻生外語観光カレッジ	H20.4.1 ~ H20.9.30	6ヶ月
66			佐賀県立唐津商業高等学校	大原簿記情報専門学校 福岡校	H20.4.1 ~ H20.9.30	6ヶ月
67			佐賀県立杵島商業高等学校	大原簿記情報専門学校 福岡校	H20.10.1 ~ H21.3.31	6ヶ月
68	熊本県	5	宇城市立小川中学校	国立大学法人 熊本大学	H20.4.1 ~ H21.3.31	12ヶ月
69			益城町立広安小学校	国立大学法人 熊本大学	H20.4.1 ~ H21.3.31	12ヶ月
70			熊本県立河浦高等学校	熊本県農業研究センター農産園芸研究所花き研究室	H20.4.1 ~ H21.3.31	12ヶ月
71			熊本県立球磨工業高等学校	熊本県立技術短期大学校	H20.4.1 ~ H21.3.31	12ヶ月
72			熊本県立翔陽高等学校	学校法人常盤学園 常盤家政調理師専門学校	H20.4.1 ~ H21.3.31	12ヶ月
73	大分県	2	大分県立情報科学高等学校	国立大学法人 大分大学	H20.4.1 ~ H21.3.31	12ヶ月
74			大分県立大分舞鶴高等学校	国立大学法人 大分大学	H20.4.1 ~ H21.3.31	12ヶ月
75	宮崎県	1	宮崎県立都城工業高等学校	国立大学法人 宮崎大学	H20.10.1 ~ H20.12.26	3ヶ月
76	札幌市	1	北海道札幌平岸高等学校	国立大学法人 北海道大学	H20.5.1 ~ H20.12.31	8ヶ月
77	横浜市	2	横浜市立岡津中学校	国立大学法人 横浜国立大学	H20.6.7 ~ H20.12.6	7ヶ月
78			横浜市立仲尾台中学校	国立大学法人 横浜国立大学	H20.6.7 ~ H20.12.6	7ヶ月
79	大阪市	1	大阪市立東淀工業高等学校	兵庫教育大学大学院	H20.4.1 ~ H21.3.31	12ヶ月
合計		79				

研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（農業：A-1） 「生物活用に関する講義と実習」							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術・情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等 							
開 催 期 日	平成20年8月11日（月）～平成20年8月15日（金）				5日間			
受 講 人 数	計画人数	25	人	受講者数	18	人	参加率	72.0%
開 催 場 所	静岡市産学交流センター（静岡県静岡市）							

* 全体計画人数 400 人、 受講者数 342 人、 参加率 85.5%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	16	2	0	0	0	0	18
割合 (%)	88.9	11.1	0.0	0.0	0.0	0.0	
	18	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

- ・生物活用での交流活動について、今まで知らずにやってしまったことが多かったことに気付きました。生徒にとっても対象者にとっても有意義で、かつ成果のある交流活動にするためには、多くの知識を学び、細やかな部分にまで気を配って生徒を動かさなければいけないのだと思いました。
- ・「生物活用」の授業の方法・目的について、初めて理解できました。交流活動を通じた学習法は「生物活用」ならではのと感じました。これから、農業を通して教える事の可能性も学びました。とても有意義な研修でした。必ず生かしたい。
- ・自己の思考のブラッシュアップが出来て良かったと思います。多くの先生方とのネットワークが築けたので、今後の指導に活用して行けたらと思います。
- ・実際に学校を見学させて頂き参考になりました。講義も半分にして、実践発表や現地見学がもっと欲しいな、と思いました。また、このような研修に参加してみたいです。
- ・今回の研修に参加することで、生物活用について理解を深める事ができた。自県、自校に持ち帰り普及していきたいと思います。できれば実習・実技がもう一コマ程度あればより身に付けられたと感じた。より多くの教員に広めることで、今後の活性化につなげて頂きたい。
- ・生物活用の科目だけにとどまらず、他科目でも十分活用できることを数多く学ぶことができた。今後の授業に活かしていきたい。ありがとうございました。
- ・講義ばかりでなく、実際に実習してみたことで、今後活用しやすくなった。

研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・引き続き実地経費の1/2を派遣者負担としている。

次年度へ向けて

- ・研修内容を見直しつつ、実地経費については、全額派遣者負担を導入する。

研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成20年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(農業, A-1)

団体名 全国農業高等学校長協会

日 時	9	10	11	12	13	14	15	16	17
8月11日 (月)	受付：集合	開講式 オリエンテーション	講義・生物活 用の意義と動 向 (添野)	昼休み	自己紹介・交流プログラム紹介 (豊田・久保田)	島原農業社会動 物コースの取組 (山田)			諸 連 絡
12日 (火)	島原農業社会動物 コースの取組 (山田)	交流活動 の進め方 (久保田)	園芸の特質 と活用 (豊田)	昼休み	講義と演習 フアシリテーション 法とは (森)	事例発表インターアプリ テーション法 (久保田)			諸 連 絡
13日 (水)	幼児・児童との園 芸活動 (田宮)	高齢者・障 害者 と行う園芸 (荻原)	高齢者・障 害者 と行う園芸 (荻原)	昼休み	高齢者・障害者に対する園芸 シュミレーション (荻原・豊田・久保田)・静岡農業				諸 連 絡
14日 (木)	生徒の評価・ 観点別評価 (豊田)	生物活用の評 価の具体例 (久保田)	コミュニケー ション (越川)	昼休み	プログラム演習発表 (豊田・久保田)				諸 連 絡
15日 (金)	生物活用・新しい授業 展開の可能性 (豊田・久保田)	閉講式							

実施会場：静岡県静岡市産学交流センター

研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（農業：A-2） 「バイオテクノロジーに関する講義と実習」								
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ								
研 修 目 的	学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術・情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。								
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等 								
開 催 期 日	平成20年7月28日（月）～平成20年8月1日（金）			5日間					
受 講 人 数	計画人数	25	人	受講者数	12	人	参加率	48.0%	
開 催 場 所	農林水産省 農林水産技術会議事務局 筑波農林交流センター（茨城県つくば市）								

* 全体計画人数 400 人、 受講者数 342 人、 参加率 85.5%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった		無 回 答		未 回 収		合計
	大変有意義	おおむね有意義								
人数 (人)	10	2	0	0	0	0	0	0	12	
割合 (%)	83.3	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0		
	12									

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> 講義をされた講師の石川さんが非常に博識が高く、また講義の進め方や教え方が非常に上手で、今までわからなかったことがスッと入ってきました。生徒にかみくだいて教える手法を学ばせてもらいました。とても有意義な研修であり、参加してよかったです。 今すぐにでも授業で取り入れたい内容が多かったです。参加者同士の情報交換も有意義なものでした。 この研修場所ならではの、内容で勉強になりました。県へ持ち帰り様々な面で報告をさせていただきます。 講師の先生はじめ、関係の方々が皆様真摯で内容も充実していた。 研修する環境がとても良かった（周囲は木に囲まれて涼しい）。研修で使用したデータをCDでもらえるのは非常にありがたいことです。 本研修に参加させていただき、有難うございます。ここで得たものを財産として、これから生かしていきたいと思えます。 最新の情報が満載で、吟味された研修計画、素晴らしい講師陣や所長の方々にお会いできて、大変有意義な研修の毎日でした。毎日が感動でした。全国各地の方々とも充実した交流の時間をもつことができ、同じ教育に携わる者としてエネルギーをいただきました。 今回の実験・講義内容は高校生レベルのはずであるが、自分自身の勉強不足の為、大変苦勞した。その場で理解できる内容のものもあれば、全くそうでないものもあり、ある程度の予習が必要であると思った。特に生物に携わってなかった自分にとって石川先生の知識や専門力には驚かされました。教師としてあるべき姿を思い出させてもらいました。ありがとうございました。

研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> 引き続き実地経費の1/2を派遣者負担としている。 <p>次年度へ向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> 研修内容を見直しつつ、実地経費については、全額派遣者負担を導入する。

研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成20年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(農業 A-2)

団体名 全国農業高等学校長協会

日時	9:30	10:00	11:00	12:00	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	備考
7月28日 (月)	受付	開講式 講演:文部科学省 初等中等教育局 参事官付教科調査官 添野龍雄 1.5h	OT 自己紹介 協会 島津理化 0.5h	昼休み	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	
	島津理化									
7月29日 (火)	講義3 DNA抽出 講師: (株)ディーエヌエーバンク 石川貴大 1h	実習1 DNA抽出 指導者:同左 2h		昼休み	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	
		講義4 PCR 講師: (株)ディーエヌエーバンク 石川貴大 1.5h								
7月30日 (水)	講義5 遺伝子組換え 講師: (株)ディーエヌエーバンク 石川貴大 3h	実習2 遺伝子組換え 指導者:同左 2h		昼休み	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	
		講義6 電気泳動 講師: (株)ディーエヌエーバンク 石川貴大 1.5h								
7月31日 (木)	実習4 電気泳動 指導者: (株)ディーエヌエーバンク 石川貴大 3h	実習5 PCR 指導者:同左 1h		昼休み	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	実習6 は考察含む
		考察1 電気泳動 指導者:同左 1h	考察2 遺伝子組換え 指導者:同左 1h							
8月1日 (金)	講義7 食品総合研究所 食品分析研究領域 GMO検知解析工 ニット長橋田 和美 1h	施設見学 農業生物資源研究所(遺伝子 組換え実験圃場見学) リサーチギャラリー(見学) 2h		昼休み	13:00	14:00	15:00	16:00	17:00	
		情報交換会 質疑応答 閉講式								

研修実施場所: 農林水産省 農林水産技術会議事務局 筑波農林交流センター

研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（工業：B-1） 「ものづくりに関する講義及び実習」		
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ		
研 修 目 的	学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術・情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。		
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等 		
開 催 期 日	平成20年8月18日（月）～平成20年8月22日（金）	5日間	
受 講 人 数	計画人数	30 人	受講者数 28 人 参加率 93.3%
開 催 場 所	ものづくり大学（埼玉県行田市）		

* 全体計画人数 400 人、受講者数 342 人、参加率 85.5%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	15	12	0	0	1	0	28
割合 (%)	53.6	42.9	0.0	0.0	3.6	0.0	
	27						
	96.4						

2. 研修内容に関する主な意見

- ・ 5日間の研修を通して、日本の工業の現状、将来、そして問題点をいろいろな分野から知り、学ぶことができたと思います。どの分野の技術も日に日に進化をとげています。その進化に工業高校も対応していかなければならないと強く感じました。教員、一人一人が知識、技能、技術をこの進化、変化に対応し、生徒達に伝え、将来の日本の工業会の発展に貢献したいと思います。5日間ありがとうございました。
- ・ 専門以外の教科を多岐にわたり受講出来たことは、自分の教科の幅を広げる上でも非常に参考になりました。学校に戻り今回の研修を生徒・職員へ何らかの形で還元したいと思います。5日間お世話いただいたものづくり大学の職員の方々と学生、教員研修センターの方々に感謝いたします。ありがとうございました。
- ・ 全体を通してよく学習できた内容だった。興味を引く内容が多く、分野が違ってわかりやすかった。ただ、演習においてはテーマの名前をもう少し具体的に書いていただいた方がよかったものもあった。勘違いをして選択してしまった。また、全国の先生方と話し合え、出会えたことは今後の大きな財産となる。
- ・ 自分の専門だけでなく、幅広く勉強できた。
- ・ 将来の工業教育のすすむ方向について考えるよい機会となりました。今後も続けて欲しいと思います。
- ・ 最新の知識・技術にふれ、また全国の先生方と親しくなれた事は今回の研修の大きな財産です。参加させていただいて本当に良かったです。ありがとうございました。
- ・ 実技や技術を中心に据え、実学重視の「ものづくり大学」で、この度研修させていただき、大変有意義であった。充実した施設・設備群のみならず、人づくりやものづくりに心血を注いでおられる大学職員・教室の先生方の姿勢にも大変感銘を受けた。この研修で学んだ内容を持ち帰り、広く普及・還元するとともに、明日からの自己の教育活動に活かしていきたいと思えます。有難うございました。
- ・ 最先端の講義内容に触れ、工業教育について再認識する、とても良い機会になりました。我々のおかれている立場と使命も同時に理解し、夢のある教育に努力しなければならないと感じました。

研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・ 引き続き実地経費の1/2を派遣者負担としている。

次年度に向けて

- ・ 研修内容を見直しつつ、実地経費については、全額派遣者負担を導入する。

研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成20年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

教科名・研修番号【工業：B - 1】

団体名 ものづくり大学
17:00 17:30 19:30

8月18日 (月)	9:30 10:00 10:30 11:00 12:00 13:00 15:00 17:00 17:30 19:30	受付 開講式 会場 A2010	講演「工業教育の現状と課題」 文科省 池守 滋	講演「将来燃料とエンジン技術」 (神本学長) 「A2010」	「新時代のものづくりに 求められる人物の育成」 講義 (宮本) 「A2010」	休憩 講師と研修 生との情報 交換会 (大学会館)
8月19日 (火)	12:30 13:30	製造学科施設見学 (高橋・河内・平井)	「先端製造技術の概論」 講義 (神谷教務長)	「ものづくりと工業教育(創造プロジェクトの試み)」 講義 (東江) 「A2010」	「インターネットを活用した実践的 設計教育の事例紹介」 講義 (龍前) 「M2070」	
8月20日 (水)		ものづくりのためのCAE技術と演習 (野村) 「M2090」	「M2070」	最近の制御理論及び実習 (ヒチャイ) 「M2072」	塑性加工の理論及び実習 (市川) 「M1020」	
		最新CAD/CAMの理論と実習 (藤澤) 「M2070」	高度計測理論及び実習 (高橋) 「M1090」	ホログラムの理論及び実習 (平谷 定員5人) 「M2010」	同左	
8月21日 (木)		建設学科施設見学 (坂口・澤本・大塚)	「建築物の新しい構工法」 講義 (坂口学科長)	「高強度・高流動コンクリートの技術」 講義・実習 (澤本・大塚)	「A2010 B1090 C1050」	
8月22日 (金)	11:00 12:40 13:10	「歴史的建造物の保存・ 技術」 講義 (小野)	「建設先端材料の利用 技術」 講義 (北條)	閉講式		
		「A2010」	「A2010」	「A2010」		

* 20日については、午前と午後のコースを希望により組み合わせさせてクラス分けを行い実施。 * 研修実施場所 ものづくり大学(埼玉県行田市前谷333)

研修概要

研修名	産業・情報技術等指導者養成研修（工業：B-2） 「専門高校における知的財産教育」					
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第一グループ					
研修目的	学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術・情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。					
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等 					
開催期日	平成20年8月4日（月）～平成20年8月8日（金）			5日間		
受講人数	計画人数	30人	受講者数	19人	参加率	63.3%
開催場所	独立行政法人工業所有権情報・研修館（東京都千代田区）					

* 全体計画人数 400人、受講者数 342人、参加率 85.5%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義がなかった	全く無意義だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	12	6	0	0	1	0	19
割合 (%)	63.2	31.6	0.0	0.0	5.3	0.0	
	18	94.7					

2. 研修内容に関する主な意見

- ・いろいろな実践例を聞くことができよかったですと思います。知財教育に対するカベが低くなって、授業でもう少し進めていき、学校全体でまず取り組んでみたいと感じました。
- ・知財教育というものは、法律や権利、手続き等の知識をイメージしていたが、それだけが目的ではないということを実感しました。発想力を養うということの大切さを実感しました。
- ・知財教育の重要性と概要について理解ができた。自分の知らない分野まで学習でき、とても有意義な研修が受講できた。
- ・全国から先生方が集まり、それぞれの取組み等色々話を聞かせて頂き、いい機会になりました。普段では体験できない研修に参加できて良かったと思います。これをきっかけに益々自己研鑽したいと思います。
- ・ともかく知財教育が今後重要なファクターとなるということがよく理解できました。これからなんだなあと思う反面、どれ程のリーダーシップを発揮できるのか、未知数ですが、自分のやれるところから実践していこうと思います。関係の方々には大変お世話になりました。これを機に今後もよろしくお願いいたします。
- ・講師の先生方の熱心な取組みに大変勉強になった。今後県に今回の内容を持ち帰り生かしていきます。
- ・内容の濃い良い研修でした。
- ・非常に有意義で今後の知財教育に役立つ内容であった。有難うございました。

研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・引き続き実地経費の1/2を派遣者負担としている。

次年度へ向けて

- ・研修内容を見直しつつ、実地経費については、全額派遣者負担を導入する。

研修日程(プログラム)

次ページのとおりに

平成20年産業・情報技術等指導者養成研修(工業:B-2)日程表

月日	時間	研修科目	時間数	講師	研修会場
	開始 ~ 終了				
8/4 (月)	9:30 ~ 9:50	開講式 オリエンテーション		文部科学省 初等中等教育局参事官付 教科調査官 池守滋 (独)工業所有権情報・研修館	INPIT研修教室 104号室 (経産省別館1階)
	10:00 ~ 10:50	高等学校における知財教育	1	文部科学省 初等中等教育局参事官付 教科調査官 池守滋	
	11:00 ~ 11:50	特許法の概要	3	辻田特許事務所 弁理士 辻田幸史	
	13:00 ~ 13:50				
	14:00 ~ 14:50				
	15:10 ~ 16:00	意匠法・商標法の概要	3	東京理科大学専門職大学院 准教授 鈴木公明	
	16:10 ~ 17:00				
17:10 ~ 18:00					
8/5 (火)	10:00 ~ 10:50	著作権法の概要	2	東海大学法科大学院 教授 角田政芳	INPIT研修教室 104号室 (経産省別館1階)
	11:00 ~ 11:50				
	13:00 ~ 13:50	不正競争防止法の概要	2	経済産業省 経済産業政策局知的財産政策室 不正競争防止専門官 望月孝洋	
	14:00 ~ 14:50				
	15:10 ~ 16:00	特許文献分類体系の概要	1	東北大学大学院 教授 平塚政宏	
	16:10 ~ 17:00	先行技術文献検索理論	1		
8/6 (水)	10:00 ~ 10:50	先行技術文献検索理論	2	東北大学大学院 教授 平塚政宏	INPIT研修教室 104号室 (経産省別館1階)
	11:00 ~ 11:50				
	13:00 ~ 13:50	先行技術調査演習	5		
	14:00 ~ 14:50				
	15:10 ~ 16:00				
	16:10 ~ 17:00				
	17:10 ~ 18:00				
8/7 (木)	10:00 ~ 10:50	模範解答解説 (講師からのフォローアップ)	3	東北大学大学院 教授 平塚政宏	INPIT研修教室 104号室 (経産省別館1階)
	11:00 ~ 11:50				
	13:00 ~ 13:50				
	14:00 ~ 15:20	知財教育の実施例 1	1.5	東海大学付属本田記念幼稚園 園長 高橋功	
	15:40 ~ 17:00	知財教育の実施例 2	1.5	東海大学付属仰星高等学校中等部 教諭 宇都口英樹	
8/8 (金)	10:00 ~ 10:50	知財教育の実施例 3	1	(専門) 高校	INPIT研修教室 104号室 (経産省別館1階)
	11:00 ~ 11:50	知財カリキュラム設計について(討論)	2	実験協力校(工業) 教諭	
	13:00 ~ 13:50				
	14:00 ~ 14:50	知財カリキュラム設計について(発表)	2		
	15:10 ~ 16:00				
	16:10 ~ 16:20	閉講式		(独)教員研修センター (独)工業所有権情報・研修館	

* 研修実施場所: 独立行政法人 工業所有権情報・研修館(INPIT)

研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（商業：C-1） 「新商品開発と起業に関する講義と実習」								
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ								
研 修 目 的	学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術・情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。								
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等 								
開 催 期 日	平成20年7月28日（月）～平成20年8月1日（金）			5日間					
受 講 人 数	計画人数	40	人	受講者数	36	人	参加率	90.0%	
開 催 場 所	千葉商科大学（千葉県市原市）								

* 全体計画人数 400人、受講者数 342人、参加率 85.5%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数	30	6	0	0	0	0	36
割合 (%)	83.3	16.7	0.0	0.0	0.0	0.0	
	36	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

- 本県を離れて様々な全国の学校の先生たちと商業教育を中心とした話をする事ができ、本当に有意義だったと思う。新商品を開発する上で、多くの先生方が言っていたことは、「視野を広くすること」であり、教員自身がこのような研修に参加し、自らの知識や考えを広くすることは大変良いことだと思う。この研修に参加でき、本県の指導主事や関係の先生方に本当に感謝している。また機会があったら参加したいと思う。
- 企業の方から生の技術や方法を聞くことができ、とても有意義でした。本で調べるよりも、生で聞く方がとても良いです。事例もありましたが、もっといろいろな事例があった方がよいと思います。
- 商品開発やマーケティングの内容は業界によっても戦略などが異なり、奥が深いと思いました。実際の企業の方々から生のお話を伺うことができ、実感できることが多かったのもとても有意義な研修でした。メーカーさんは実際に扱う商品がある程度決まっているため、そこから発展させていくのであるが、商業というモノを持たない高校でマーケティングや商品開発を実践していく場合、何にフォーカスしていけばいいのかと考えました。
- 多分野にわたる研修内容は大変有意義でした。これらの研修について、どのようにして教育の場に還元していくかをしっかりと考えていきたいと思いますが、まず、私たち教員があらゆることに対して、現状を知ることが大切であると感じました。また、機会があれば是非参加したいと思います。
- 普段お聞きすることができない企業の方々の商品開発、プロモーション、戦略等のお話や大学で行われている商品実験を通しての分析等、本当に興味深く講義・見学等に参加し学ぶことができました。

研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- 引き続き実地経費の1/2を派遣者負担としている。

次年度に向けて

- 研修内容を見直しつつ、実地経費については、全額派遣者負担を導入する。

研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成20年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(商業, C-1)

団体名 千葉商科大学

日 時	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
7月28日 (月)		受付 開講式	(講義) 「次代を 見すえたビジネス 教育について」	昼休み	(講義) 「フリクシオンボール」の開 発と販売戦略	移動	(見学と講義) 「ロッテの球団経営と 地域戦略」			
7月29日 (火)		(実習) 「商品のソフト化と消費技術①、 商品開発の視点からの実験実習の活用につ いて②」	(実習) 「商品のソフト化と消費技術①、 商品開発の視点からの実験実習の活用につ いて①」	昼休み	昼休み					懇親会
7月30日 (水)		(講義) 「商品開発の基礎理論と ケーススタディ」	昼休み 移動	昼休み	(見学と講義) 「マブチモーター (株) における 商品開発とマーケティング」					
7月31日 (木)		(講義) 「小売業の新たな競争局面と 流通革新」	昼休み 学内施設見学	昼休み	(講義) 「コーセーの ブランドマーケティング」					
8月1日 (金)		(講義) 「商業高校における起業家教 育とケースメソッドについて」	昼休み	意見交換会	閉 講 式					

実施会場： 千葉商科大学

研修概要

研修名	産業・情報技術等指導者養成研修（水産：D-1） 「沿岸域の環境保全に関する講義と実習」								
担当課 グループ	教育課題研修課 教育課題第一グループ								
研修目的	学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術・情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。								
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等 								
開催期日	平成20年8月4日（月）～平成20年8月8日（金）			5日間					
受講人数	計画人数	15	人	受講者数	10	人	参加率	66.7%	
開催場所	東京海洋大学（東京都港区）								

* 全体計画人数 400 人、 受講者数 342 人、 参加率 85.5%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった		無回答		未回収		合計
	大変有意義	おおむね有意義								
人数 (人)	2	7	1	0	0	0	0	0	10	
割合 (%)	20.0	70.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0			
	9									
	90.0									

2. 研修内容に関する主な意見

- ・ 今回の研修でこれまで知らなかったこと、教科書には取り上げられているが学校ではやっていなかったことを体験・学ぶことができ、有意義な時間を過ごすことができました。この研修で体験・学んだことを学校に戻り、生徒に還元できるよう努力していきたいと思いました。
- ・ 興味を持てる面白い講義の内容だったと思います。もう少し時間的（講義数）に余裕があっても良いのかもしれない。
- ・ 研修前は「釣り」はレジャー・趣味のものであり、水産業とは別の観点で考えていた。しかし、「釣り」は歴史のある文化であり、魚食文化継続の為に重要な手段であると思った。水産業・漁業に対して興味を持ってもらうチャンスでもあると考えられる。水産高校としても推進し水産・漁業に興味を持つ方法として「釣り」は有力である。漁業と遊魚は共存し、認め合いながら前向きに発展していくべきであると思った。
- ・ 魚拓等、実際に体で覚え、体験できたのが良かった。海での釣り経験はあったが、初めて暖流でのニジマス（ルアー・フライ）という新しい世界を知ることが出来た。
- ・ 海洋環境や遊魚の歴史等の詳しいところまで話を聞くことができたのがとても勉強になった。
- ・ 環境問題を中心に学習をもっとできたらと感じた。（これから予想できること、水質、工場の影響、漁礁など）今回は釣りの講義が中心で、浅い知識の私にとっては勉強になった（釣りの奥深さ）。
- ・ 趣味として釣りはほとんどしませんでしたが、勉強になりました。ただ、我々は地方から集まって来ていますが、関東の釣り環境としての講義でそぐわない部分もありました。また、研修のテーマと内容があまり一致していないことによる勘違いもありました。5日間熱心にご指導して下さいました先生方に深く感謝します。

研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・ 引き続き実地経費の1/2を派遣者負担としている。

次年度に向けて

- ・ 研修内容を見直しつつ、実地経費については、全額派遣者負担を導入する。

研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成20年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(教科名, 研修番号) 沿岸域の環境保全に関する講義と実習, 水産 D-1

団体名 社団法人 全日本釣り団体協議会

日 時	9	10	11	12	13	14	15	16	17
8月4日 (月)	開講	オリエンテーション C・D	理論I 環境問題 A丸山隆	昼休	理論I 安全確保・気象・ 海象	理論I 用具と用品 歴史・文化	理論I 理論I		
8月5日 (火)	理論II 淡水流域釣具の現状 技術 E水上	講義 釣具の現状 D来田	理論II 砂浜海域 技術 C曾根田	昼休	理論II 淡水止水域 技術 G綿井	理論II 港湾海域 技術 D来田	理論II 沖合い海域 技術 H柳田	理論II 磯海域技術 I金田邦夫	
8月6日 (水)	講義 関連法規 J浅野	理論II 擬餌技法 F相川	講義 用品と環境 保全 L兼廣	昼休	実習・講義 記録保存技術I M石原寿峰	実習・講義 記録保存技術II N村松龍溪	1 1 佐藤2 5 海部 1 1 佐藤2 5 海部		
8月7日 (木)	見学 環境対応製品の製造見学 ダイワ精工 株式会社	F相川P相吉		昼休	応用I実釣 安全な管理釣り場 (内水面)			F相川P相吉 2 4 日本溪流釣連盟	
8月8日 (金)	理論II 沿岸域技術 Q遠藤	講義 行政指導 動向 R城崎	研究協議 環境・安全 について C曾根田 J浅野	終了 講式	終了				

実施会場：国立大学法人 東京海洋大学

研修概要

研修名	産業・情報技術等指導者養成研修（家庭：E-1） 「フードビジネス及びファッションビジネス等に関する講義と実習」		
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第一グループ		
研修目的	学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術・情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。		
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等 		
開催期日	平成20年8月4日（月）～平成20年8月8日（金）	5日間	
受講人数	計画人数 30人	受講者数 30人	参加率 100.0%
開催場所	家庭クラブ会館（東京都渋谷区）等		

* 全体計画人数 400人、受講者数 342人、参加率 85.5%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	27	3	0	0	0	0	30
割合 (%)	90.0	10.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	30	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

- ・日頃、自分で学ぶだけでは足りないところを、経験豊富な先生方の講義でより深めることができた。学校にいないだけでは学べないことをたくさん学ぶことができた。また、全国の家庭科を教える立場の先生方と知り合う機会をつくっていただき、皆さんから元気もらった。
- ・フードビジネス、という巨大マーケットの構造を（少しだけですが）現場を見せていただいて、知ることができありがたかったです。教室に持ち帰り、指導に役立てたいと思います。
- ・各講義ごとに多くの資料や情報を提供していただき、今後の授業の取り組みや様々な活動を行う上で大変参考になりました。最終日は講義だけでしたので、できれば実習や演習が入ると活用しやすいので助かります。
- ・様々な内容の研修で新しい知識を得られたことに加え、全国の先生方とお話をさせていただくことで、たくさんの刺激を与えていただくことができました。
- ・次期学習指導要領について、最近の社会の変化に対応した最新の知識・技術を学ぶことができ大変勉強になりました。全国の先生方と交流できたり、素晴らしい人との出会いができ、励まされることも多く、たくさんの元気やパワーをいただけたことも参加してよかったです。
- ・食に関する現状を本当にたくさん勉強できてよかったです。普通の研修では味わえない内容だったと思います。また、家庭科教員として自分を見つめなおすいい機会となりました。県外の先生方と会って話をしたこともいい勉強になりました。ありがとうございました。
- ・専門について深く学ぶことができて良かったと思います。このような機会が少ないので、ぜひまた、このような内容で実施していただきたいと思います。
- ・なかなかこのような研修に参加させていただく機会がなく、今回の研修は大変有意義でした。日頃の授業を振り返り、また照らし合わせながら研修を受けることができました。すぐに授業で活用できる内容や、ぜひ取り入れたいこともたくさんあり、これからもっと頑張ろうという気持ちが湧いてきました。5日間だけでしたが、内容が濃くあっという間に過ぎてしまいました。このような勉強する機会を与えていただきありがとうございました。日々勉強し、新しい情報を入手していかないといけないと深く思いました。

研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・引き続き実地経費の1/2を派遣者負担としている。

次年度に向けて

- ・研修内容を見直しつつ、実地経費については、全額派遣者負担を導入する。

研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成20年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

全国高等学校長協会家庭部会

(家庭 E-1)

日 時	9:00	9:30	9:40	10:00	11:00	12:30	13:30	15:10	16:40	会 場
8月4日 (月) 第1日目	(受付)	【開講式】 「次期学習指導要領の改訂に向けて」 講師 文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター 教育課程調査官 望月 昌代	(講義) 「家庭に関する学科の特色ある取り組み」 講師 文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター 教育課程調査官 望月 昌代	昼 休 み	(講義・演習) 「目指せスペシャリストの取り組み」 (事例発表) 佐賀県立牛津高等学校 教諭 江頭 かおり	(講義・演習) 「目指せスペシャリストの取り組み」 (事例発表) 佐賀県立牛津高等学校 教諭 中山 佳子	15:10	16:40	家庭クラブ 会館	
8月5日 (火) 第2日目	(受付)	(講義) 「フードビジネスの現状」 講師 東京誠心調理師専門学校 校長 廣瀬 喜久子	(講義・見学) 「食の安全・安心 - HACCP対応の現場から -」 講師 東京誠心調理師専門学校 食品衛生学講師 藤木 隆幸	昼 休 み	(講義・見学) 「新調理システムの活用① - クックチルスシステム・カートクックチルスシステム」 講師 東京誠心調理師専門学校 日本料理担当教授 齊藤 利昭	(講義) 「新調理システムの活用② - クックチルスシステム・カートクックチルスシステム」 講師 東京誠心調理師専門学校 日本料理担当教授 齊藤 利昭	東京誠心調理師専門学校	東京誠心調理師専門学校	東京誠心調理師専門学校	
8月6日 (水) 第3日目	(受付)	(講義) 「レストランサービス・マナーの理論」 講師 東京誠心調理師専門学校 フードコーディネーター 佐藤 則子	(講義・演習) 「レストランマナーの理論と実際」 講師 東京誠心調理師専門学校 フードコーディネーター 佐藤 則子	昼 休 み	(実習) 「パーテイスタイルのメニューの実際」 講師 東京誠心調理師専門学校 西洋料理担当教授 藤田 真弘	(講義・演習) 「テーブルコーディネート の実際と評価」 講師 東京誠心調理師専門学校 フードコーディネーター 佐藤 則子	東京誠心調理師専門学校	東京誠心調理師専門学校	東京誠心調理師専門学校	
8月7日 (木) 第3日目	(受付)	(講義) 「フードビジネスのマーケティングと商品開発のトレンド」 講師 東京誠心調理師専門学校 商品開発講師 村田 裕子	(講義) 「フードビジネスのマーケティングと商品開発のトレンド」 講師 東京誠心調理師専門学校 商品開発講師 村田 裕子	昼 休 み	(実習・演習) 「トレンド業態における商品開発の実際」 講師 東京誠心調理師専門学校 商品開発講師 村田 裕子	(実習・演習) 「トレンド業態における商品開発の実際」 講師 東京誠心調理師専門学校 商品開発講師 村田 裕子	東京誠心調理師専門学校	東京誠心調理師専門学校	東京誠心調理師専門学校	
8月8日 (金) 第5日目	(受付)	(講義) 「食育に関する国の取り組み - 食事バランスガイド等の取り組み -」 講師 農林水産省消費・安全局 消費者情報官 補佐 伊佐 寛	(講義) 「家庭科における食育の推進」 講師 千葉大学教授 石井 克枝	昼 休 み	(講義) 「家庭に関する専門性を高めるために」 講師 前岐県立大垣桜高等学校 校長 横山 仁美	【講評・閉講式】 文部科学省 国立教育政策研究所 教育課程研究センター 教育課程調査官 望月 昌代	家庭クラブ 会館	家庭クラブ 会館	家庭クラブ 会館	

実施会場：家庭クラブ会館、東京誠心調理師専門学校

研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（家庭：E-2） 「子ども理解及び子育て理論等に関する講義と実習」							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術・情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 ・高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等 							
開 催 期 日	平成20年7月28日（月）～平成20年8月1日（金）				5日間			
受 講 人 数	計画人数	20	人	受講者数	15	人	参加率	75.0%
開 催 場 所	お茶の水女子大学（東京都文京区）							

* 全体計画人数 400人、受講者数 342人、参加率 85.5%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	13	2	0	0	0	0	15
割合 (%)	86.7	13.3	0.0	0.0	0.0	0.0	
	15	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

- ・著名な講師の方々から、広範囲に渡る貴重なお話を聞かせていただき、大変勉強になりました。他府県の先生方とも多く交流が持てよかったです。
- ・内容が濃く、一度に沢山の情報をいただき、まだ消化不良の感がありますが、戻ってから改めて研修を振り返り、まとめ、今後に生かしたいと思います。名札を準備いただきましたが、机の上に学校名、四名を記入した名札を立てておきながら、研修を受けられたら、もう少し互いの交流が図れるのではないかと思います。
- ・お茶の水女子大学において最新の情報が得られ、全国の先生方と交流でき、いい時間を過ごすことができました。
- ・0才～18才の幅広い子どもの話が聞けてよかったです。また、最新の教育事情を知ることができたこと、普段聞けない講師の先生方の話・研究を聞いたこと、他県の教育と知りあえたことが大変有意義でした。この研修にあたってご尽力頂きありがとうございました。
- ・少人数できめ細やかな研修を受けることができ、有意義でした。

研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・参加状況を踏まえ、計画人数（25人→20人）を見直した。
- ・引き続き実地経費の1/2を派遣者負担としている。

次年度に向けて

- ・研修内容を見直しつつ、実地経費については、全額派遣者負担を導入する。

研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成20年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(家庭, E-2)

団体名：お茶の水女子大学

日 時	9:30	10	10	15	11	11	15	12	12	30	13	13	30	14	14	30	15	15	16	16	30	17
7月28日 (月)	受付	開講式	(講義) 「新たな家庭教育に向けて」	(講演) 「家庭教育における保育教育の課題」	昼休み	(講義) 「子ども発達のキーワード」	(講義) 「今日的家族の心理臨床的諸問題」															懇親会 記念写真
7月29日 (火)	(演習) 「地域子育て支援・親との交流方法」				昼休み	(演習) 「地域子育て支援・親との交流方法」	(講義・演習) 「生涯発達と子育て支援」															
7月30日 (水)	(講義) 「発達の気になる子どもたち：LD, ADHD, 自閉症等の理解」	(演習) 「発達の気になる子どもたち：LD, ADHD, 自閉症等の支援」			昼休み	(講義) 「父親の育児参加」	(講義) 「思春期・青年期の危機と少年非行：親は、教師は何ができるか」															
7月31日 (木)	(実習) 「乳幼児保育の観察」その1				昼休み	(講義) 「子どもへのまなざしと保育理解」	(実習) 「乳幼児保育の観察」その2															
8月1日 (金)	(実習) 「幼児期の遊び」				昼休み	総括：全体協議 「乳幼児理解のための学習指導の新たな創造」	閉講式															

実施会場：お茶の水女子大学

研修概要

研修名	産業・情報技術等指導者養成研修（看護：F-1） 「看護の各領域における教授法・教育評価に関する講義と実習」								
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第一グループ								
研修目的	学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術・情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。								
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等 								
開催期日	平成20年8月4日（月）～平成20年8月8日（金）			5日間					
受講人数	計画人数	20	人	受講者数	14	人	参加率	70.0%	
開催場所	北里大学看護学部（神奈川県相模原市）								

* 全体計画人数 400 人、受講者数 342 人、参加率 85.5%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数	13	1	0	0	0	0	14
割合 (%)	92.9	7.1	0.0	0.0	0.0	0.0	
	14	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

- ・現在の看護の動向と教育を、関連させて考えることができました。指導を担当している方の講義と工夫等は、学校の授業でも活用できることも多くとても参考になりました。
- ・講義内容、講師人も今（現在）の医療・看護の視点からのもので、とても関心を持って学ぶことができました。
- ・内容・資料・先生方全てにおいて、とても内容が充実していました。普段は学校業務に追われ、自分ではなかなか研修できていないのですが、今回の5日間はとても充実して研修することができました。今後もぜひ継続していただきたいです。
- ・看護教育の方向性や保健医療の抱える問題・実践で役立つ知識・技術、貴重な体験など多くの事を学ぶことができました。各県に持ち帰り、高校教育の中に役立てたいと思う。
- ・少人数できめ細やかな研修を受けることができ、有意義でした。
- ・私たちが担当してくださった先生方が皆暖かく、安心して受講することができました。ありがとうございました。とても充実した5日間を過ごせました。
- ・実践力を高めるための看護について、最新の知識を得ることができた。学校における基礎教育と卒後教育、スキルアップ教育、生涯教育など看護師を育てるための様々な教育の在り方について、展望を持つことができた。
- ・講義の内容についてどこかで見たり聞いたことはありましたが、細部に知ることができたことと改めて知り得たことがあり、授業など教育活動に生かせると思います。

研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・引き続き実地経費の1/2を派遣者負担としている。

次年度に向けて

- ・研修内容を見直しつつ、実地経費については、全額派遣者負担を導入する。

研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成20年度 産業・情報技術指導者養成研修日程

看 護 (F—1) 看護の各領域における教授法・教育評価に関する講義と実習

期 日 平成 20 年 8 月 4 日 (月) ～ 8 月 8 日 (金)

会 場 北里大学看護学部 (神奈川県相模原市北里 2-1-1)

講習内容

9:30		13:00 13:30 14:00			16:30	
8月4日 (月)	12:30			受 付	開 講 式	「これからの看護教育」(情報交換を含む) 北里大学看護キャリア開発・研究センター長 高橋真理
8月5日 (火)	「看護診断: NANDA - NIC - NOC」 北里大学看護部教授 黒田裕子		昼食	「看護キャリア開発支援」 神奈川県看護協会研修課 認定教育班 野地金子		
8月6日 (水)	10:00	「最新のスキンケアの実際」 北里大学病院 皮膚排泄ケア認定看護師 川村美紀子	昼食	「看護基礎教育に必要な薬剤の知識」 北里大学病院 医療安全管理室 荒井有美		
8月7日 (木)	8:00～ 「卒後4ヶ月目の新人ナースの到達度」 見学実習 北里大学東病院 看護科長 石井か代 北里大学病院 看護科長 青柳明子 猪又克子		昼食	「卒後4ヶ月目の新人ナースの課題と基礎教育」 グループワークでのディスカッション K)法でのまとめと発表 北里大学看護学部准教授 上澤悦子 北里大学病院臨床指導者 岩村美奈子		
8月8日 (金)	「看護の動向」 北里大学病院 副院長・看護部長 小島恭子	「医療従事者、学生 の感染防止対策」 北里大学病院感染管 理認定看護師 藤木くに子	昼食	「看護教育の動向」 文部科学省教科調 査官 大橋泰久	閉 校 式	
最終日	9:30	11:00	12:00	13:00	14:00	14:30

研修概要

研修名	産業・情報技術等指導者養成研修（看護：F-2） 「看護・医療の高度化に対応した看護教育に関する講義と実習」							
担当課 グループ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研修目的	学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術・情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等 							
開催期日	平成20年8月4日（月）～平成20年8月8日（金）			5日間				
受講人数	計画人数	20	人	受講者数	16	人	参加率	80.0%
開催場所	藍野大学（大阪府茨木市）							

* 全体計画人数 400 人、 受講者数 342 人、 参加率 85.5%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	12	4	0	0	0	0	16
割合 (%)	75.0	25.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

2. 研修内容に関する主な意見

- ・いろいろな先生に出会うことで悩みを相談することができ、自分の視野を広げることができた。
- ・日頃の高校現場での悩み（学校教育・臨床の場、カリキュラム等）を解決する方向性が見出されたような気がします。
- ・看護の授業の工夫その他、対象である生徒理解など、学びたかった内容が多く、期待以上の学習ができた。
- ・各テーマの内容が自分が知りたいこと、知識不足など、どの項目も興味深いものでした。
- ・研修内容は多様であり、関心度の高いものが多くありました。研修環境も整っており、充実した5日間を過ごしました。
- ・大変内容が計画をきちんと立てられていて、理解が深められました。（資料の整備等も）施設も講師も大変素晴らしく、参加させて頂き良かったです。帰りまして伝達したいと思います。
- ・研修を通じて「教育とは」「思春期の心と向き合う」等といった人間教育の在り方等、深い学びを得ました。又、関係者の方の対応や姿勢等から、自分自身もみつめ直すことが出来ました。心から感謝しております。
- ・教員として必要な求められる資質について、学ぶ機会となりました。看護に携わる喜びをあらためて強く感じる事ができました。

研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・引き続き実地経費の1/2を派遣者負担としている。

次年度に向けて

- ・「研修コースの廃止等の基準」に基づき、平成21年度は隔年休止とすることとした。

研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成 20 年度 産業・情報技術指導者養成研修日程

看 護 (F-2) 看護・医療の高度化に対応した看護教育に関する講義と実習

期 日 平成 20 年 8 月 4 日 (月) ~ 8 月 8 日 (金)

会 場 学校法人藍野学院 藍野大学 (大阪府茨木市東太田 4 丁目 5 番 4 号)

開 講 式 8 月 4 日 (月) 9:15~

講習内容

月 日	午前 (9:30 ~ 12:30)			午後 (13:30 ~ 16:30)	
8 月 4 日 (月)	(講義・研究協議) 看護基礎教育カリキュラムの改正 文部科学省初等中等教育局 教科調査官 大橋 泰久			(講義) 患者中心の医療における看護の教育法 藍野学院短期大学 学長 大澤 仲昭	
8 月 5 日 (火)	(講義) 思春期の心と向き合う方法 吉備国際大学 保健科学部看護学科 准教授 岡本 陽子			(講義) 再生医療の現実 - 脊髄損傷を中心にして - 藍野研究所 藍野再生医療研究所 所長 井出 千束	
8 月 6 日 (水)	(講義) 看護師に関する医事法制 - 医療現場と教育現場での事例 - 藍野学院短期大学附属藍野高等学校 校長 山上 賢一			(講義) 看護研究とその教授法 藍野大学 医療保健学部 学部長 中桐 佐智子	
8 月 7 日 (木)	(講義) 藍野大学にお ける統合カリキ ュラムの考え方 藍野大学 医療保健学部 看護学科 学科長 蛭田由美	(講義) 看護実践能力 を高めるため の授業研究 藍野大学 医療保健学部 看護学科 教授 緒方 巧	(演習) 授業計画の考察 藍野大学 医療保健学部 看護学科 学科長 蛭田由美 教授 緒方 巧 教授 小幡セイ 講師 菅沼美佐子	(施設見学) 医療法人恒昭会 藍野病院	(施設見学) 医療法人恒昭会 藍野花園病院
8 月 8 日 (金)	(講義) 高校生と臨床教育 - 体験学習と隣地実習での関わりを通して - 医療法人恒昭会 藍野病院 看護部長 信岡 研身			(カンファレンス) まとめ 学校法人 藍野学院 学院長 小山 昭夫 藍野学院短期大学 副学長 宮近 スイ子 藍野病院 看護部長 信岡研身 藍野大学 教授 小幡 セイ 講師 菅沼 美佐子	閉 講 式

研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（情報：G-1） 「オープンソースソフトウェアを活用したシステム構築に関する講義と実習」		
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ		
研 修 目 的	学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術・情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。		
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等 		
開 催 期 日	平成20年10月27日（月）～平成20年10月31日（金）	5日間	
受 講 人 数	計画人数	20 人	受講者数 10 人 参加率 50.0%
開 催 場 所	兵庫県立教育研修所（兵庫県加東市）		

* 全体計画人数 400 人、受講者数 342 人、参加率 85.5%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	6	4	0	0	0	0	10
割合 (%)	60.0	40.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	10	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

- ・非常に有意義な研修であり、身に付く研修でした。今後もこのような研修を行っていただくことを希望します。
- ・事前にもう少し予備知識があれば大変よかったですのですが少し難しかったです。
- ・少しスピードについていけない時があった。Linuxのコマンド入力が理解できた。L3スイッチの仕組みと運用方法がわかった。
- ・Linuxについて学習することができ、講師の方もわかりやすくていねいな説明で理解しやすかった。学校でもLinuxの環境を作り、今回学んだことを生徒や職員に還元できるように知識・理解を深めていきたいと思う。
- ・時間が少なかったのが残念だった。しかし、1つのテーマを取り上げ行う研修よりも、多くのテーマで研修できたので有意義な研修だった。
- ・大変親切に指導していただき、ありがとうございました。
- ・内容が多く速さが必要だった。ウィンドウズに慣れてしまっていることに気付いた。そのため、操作が混同してしまい、講師に迷惑をかけてしまった。今後、指導する上で、内容を考慮し活用していきたい。本当にありがとうございました。

研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・引き続き実地経費の1/2を派遣者負担としている。
(平成20年度は隔年開催)

次年度に向けて

(平成21年度は隔年休止)

研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成20年度産業・情報技術等指導者育成研修日程

兵庫県立教育研修所

月日	曜日	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18
10月27日	月			受付 開校式・ガイダンス	昼休み				(講義・演習) Linux の概要とインストール		懇親会
10月28日	火		(講義・演習) Linux の基本操作		昼休み				(講義・演習) サーバの役割と概要		
10月29日	水		(演習) Webサーバの構築		昼休み				(演習) PHP, MySQLの基礎とインストール		
10月30日	木		(演習) グループウェアの構築		昼休み				(演習) グループウェアの設定と運用		懇親会
10月31日	金	(講義・演習) ネットワーク・サーバの管理の基礎			閉校式						

実施場所: 兵庫県立教育研修所 〒673-1421 兵庫県加東市山国2006-107 TEL: 0795-42-3104(ダイヤル) 情報教育研修課 FAX: 0795-42-5393

研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（情報：G-2） 「ネットワークとシステム開発に関する講義と実習」					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ					
研 修 目 的	学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術・情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。					
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等 					
開 催 期 日	平成20年7月28日（月）～平成20年8月1日（金）	5日間				
受 講 人 数	計画人数	20 人	受講者数	34 人	参加率	170.0%
開 催 場 所	千葉商科大学（千葉県市川市）					

* 全体計画人数 400 人、 受講者数 342 人、 参加率 85.5%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	13	19	0	0	2	0	34
割合 (%)	38.2	55.9	0.0	0.0	5.9	0.0	
	32						
	94.1						

2. 研修内容に関する主な意見

- ・集中して研修ができました。ここで学んだことを学校のネットワーク整備や授業、また、他の研修及び研究発表等に活用したいと思います。
- ・今回の研修の内容は、以前から興味があっても難しくなかなか勉強できない分野でしたが、この研修で勉強への第一歩をふみ出すことができました。また、5日間という集中して研修できる時間を設けていただき、有意義な時間を過ごせました。このような研修を今後も続けていただきたいと思います。また機会がありましたらぜひ参加したいと思います。
- ・内容がとても幅広く、時間的な余裕があればよかったと思います。講義テーマや演習なども、今回初めて触れる内容もあり、大変勉強になりました。また、教材や資料等の準備がすばらしく、恵まれた研修環境で研修を受講することができ、大変感謝しております。今回学んだ内容を今後の指導に生かしていきたいと思います。大変有意義な研修となりました。ありがとうございました。
- ・他県の先生方との交流もあり、自らの能力を高める事ができ、大変有意義な研修でした。
- ・システム開発の奥深さを知りました。アクセスで仲間と汗をかきつつひとつのものが作成出来て有意義でした。ここまでアクセスを利用したことが無かっただけに、多くを学べました。ありがとうございました。
- ・5日間という短い期間でしたが、有意義に学習させて頂きました。欲を言えば、もう少し日が長ければよかったのではと思います。

研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・引き続き実地経費の1/2を派遣者負担としている。

次年度に向けて

- ・研修内容を見直しつつ、実地経費については、全額派遣者負担を導入する。

研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成20年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(情報, G-2)

貴団体名 千葉商科大学

日 時	9	10	11	12	13	14	15	16	17
7月28日 (月)	開 講 式	(講義、実習) システム開発技法1 (ACCESS)	昼休み	(講義・実習) システム開発 技法1 (ACCESS)	昼休み	(講義、実習) システム開発 技法2 (VBA)	(講義、実習) システム開発 技法2 (VBA)		
7月29日 (火)	(講義) システム開発演習 ガイダンス(システム 開発全般について の説明がループ分 け等)	(実習) システム開発演習1	昼休み	(実習) システム開発 演習1	昼休み	(実習) システム開発演習2	(講義) 文部科学省教科 調査官講話		
7月30日 (水)	(講義、実習) ネットワーク管理 (サーバ構築とWebアプリ)1	ネットワーク管理 (サーバ構築とWebアプリ)1	昼休み	(講義、実習) ネットワーク管理 (サーバ構築とWebアプリ)2	昼休み				
7月31日 (木)	(実習) システム開発演習3	システム開発演習3	昼休み	(実習) システム 開発演習4	昼休み	(講義、実習) ネットワークセキ ュリティー	(講義、実習) IT事業の展望 (Web関連)		
8月1日 (金)	(講義、実習) ネットワーク管理 (サーバ構築とWebアプリ) 3 (シミュレーション分野を含む)	ネットワーク管理 (サーバ構築とWebアプリ) 3	昼休み	(実習) システム開発 演習5 (発表準備 を含む)	昼休み	(実習) システ ム開発 結果発表	閉講式		

実施会場： 千葉商科大学

研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（技術：H-1） 「社会の要請に応える技術分野の指導：生物育成・材料と加工に関する技術を中心として」							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術・情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 ・高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等 							
開 催 期 日	平成20年9月8日（月）～平成20年9月12日（金）			5日間				
受 講 人 数	計画人数	20	人	受講者数	24	人	参加率	120.0%
開 催 場 所	宮城教育大学（宮城県仙台市）							

* 全体計画人数 400人、受講者数 342人、参加率 85.5%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数	21	3	0	0	0	0	24
割合 (%)	87.5	12.5	0.0	0.0	0.0	0.0	
	24	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

- ・指導要領の改訂ともなって生物育成の内容も含まれ、また現場でも使える教材なども多く取り扱ってもらい、大変有意義な研修となりました。
- ・今回本研修に参加させていただき、大変有意義でした。特に新学習指導要領についてこの時期に研修できたことは、今後の教員生活を大きく左右するものであると思います。他の研修内容も、大学の先生方の実践に基づいた理論や実技だったため、得るものがたくさんありました。生物育成も必須となるので、本研修で学んだことを実践していきたいです。本研修を通して、私自身とても成長できたように思います。今後も自己研鑽に務め、更にここでの成果を幅広く広めていきたいと思っています。宮城教育大学の先生方、大変お世話になりました。ありがとうございました。
- ・工具・機械の使用方法を、基本から学ぶことができました。また教材なども工夫されたものがたくさんあって、大変参考になりました。実習をすることで体験できたことが、最も有意義なものでした。このような研修会に積極的に参加して、教員としてのスキルを高めていきたいです。
- ・技術科のものづくりでは、どうしても製作中心の授業になり、終わって完成してよかったと思う反面、それだけになっていることに気付いていたが、なかなか改善できなかった。今回の研修に参加し、改めてものづくりを通して何を生徒に伝えるのか、伝えなくてはいけないのか考えさせられた。正直なかなか授業だけに集中できず、授業改善を考えるが実現できていない。教師は授業が勝負といわれながらも、そんな自分が恥ずかしい。今回の研修ではものづくりの目標や、生徒が将来こうあるべきだと自分がしっかり考えなければいけないことに改めて気付いた。この気持ちを忘れず努力していきたい。

研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・引き続き実地経費の1/2を派遣者負担としている。
- ・参加状況を踏まえ、計画人数（25人→20人）を見直した。

次年度に向けて

- ・研修内容を見直しつつ、実地経費については、全額派遣者負担を導入する。

研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成20年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

団体名：宮城教育大学

(技術, H-1)

日 時	9	9:30	10	11	12	13	14	15	16	17
9月8日 (月)	受付 9:00-	開講式 9:30- 9:50	(講義) 新学習指導要 領と技術科教 育(上野) 10:00-11:00	(講義(実習を含む)) 新発想法でつくる授業案 (安藤) 11:10-12:40	昼休み	昼休み	(講義) 失敗しない生物育成の授 業：教材の選択(岡) 13:30-15:00	(実習) 農機具の使用(岡) 15:10-17:10		
9月9日 (火)	(講義) 生物育成の授業 の進め方：栽培 計画、農薬・肥 料の扱い方(岡) 9:00-10:00	(実習) 作物の栽培管理技術 10:10-12:10(岡)	昼休み	昼休み	(講義) 新しい生物育 成技術の評 価：バイオテク ノロジー(岡) 13:00-14:00	(実習) 植物組織培養の体験(岡) 14:10-17:10				
9月10日 (水)	(講義) 新しいものづくり教材 と技術科教育(安孫子) 9:00-10:30	(講義(実習を含む)) プラスチック加工(安孫子) 10:40-12:10	昼休み	昼休み	(実習) 木材加工と金属加工1 (刃物研ぎ治具の製作) (鈴木・安孫子) 13:00-14:30	(実習) 木材加工と金属加工2 (木材加工小作品の製作) (鈴木・安孫子) 14:40-17:40				
9月11日 (木)	(講義) 風車の形式とエネルギー 変換機構(小野) 9:00-10:30	(実習) 風車の設計と製作(小野) 10:40-12:10	昼休み	昼休み	(実習) 製作した風車の評価 (小野) 13:00-14:30	(講義)LEDと色々 な素材を使ったイ ンテリア照明の製 作1(水谷) 14:40-15:40	(実習)LEDと色々 な素材を使ったイ ンテリア照明の製 作2(水谷) 15:50-17:20			
9月12日 (金)	(講義(実習を含む)) LEDと色々な素材を使っ たインテリア照明の製 作3(水谷) 9:00-10:30	(講義) エネルギー変換およびエネル ギ回生教材としてのモータ (草野) 10:40-12:10	昼休み	昼休み	(実習) 乾電池自動車 の設計と製作 1(草野) 13:00-14:00	(実習) 乾電池自動車の設計と製作2 (草野) 14:10-15:40	閉講式 15:50 16:20			

実施会場：宮城教育大学

研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（技術：H-2） 「社会の要請に応える技術分野の指導：エネルギー変換・情報等に関する技術を中心として」					
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ					
研 修 目 的	学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術・情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。					
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 ・高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等 					
開 催 期 日	平成21年2月16日（月）～平成21年2月20日（金）	5日間				
受 講 人 数	計画人数	20 人	受講者数	7 人	参加率	35.0%
開 催 場 所	長崎大学（長崎県長崎市）					

* 全体計画人数 400 人、受講者数 342 人、参加率 85.5%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	7	0	0	0	0	0	7
割合 (%)	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	
	7	100.0					

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・新教育課程の実施に向けて、とても参考になりました。授業準備にはまだまだ時間がかかりそうですが、今回の研修を元に指導計画をより充実させたいと考えています。 ・本研修は、大変有意義で日ごろ研修できないエキスをたくさん学ぶことができました。大変ありがとうございました。感謝しています。講義と実習があり、授業に活用できる内容でした。今後も新しいものの吸収して身につけたいという意欲がわきました。 ・新しい事や、授業で使えそうな内容が多く、今後の指導に役立つものが多く得られた。人数も少なく、各校の情報交換も有意義に行うことができた。このくらい的人数であったらまた来て見たいと思う。 ・新学習指導要領において、新しく必修となるプログラムと計測制御について、自立型ロボットの実習ができてよかった。又、その他の愛用も様々工夫して準備していただきありがたかった。 ・最近、教材研究をする時間がなかったので、身につけていない知識をたくさん学ぶことができた。1週間ありがとうございました。

研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き実地経費の1/2を派遣者負担としている。
<p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「研修コースの廃止等の基準」に基づき、平成21年度より他の研修コース（技術：H-3）に統合することとした。

研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成20年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(中学校技術, H-2)

団体名 国立大学法人 長崎大学

日 時	9	10	11	12	13	14	15	16	17
2月16日 (月)		受付	開講式 (見学) 三菱重工諫早工場 見学		昼休み	オリエンテーション	(講義) 文部科学省 これからの 技術科の教育	(講義・実習) エネルギー変換 (LCA)	(講義・実習) エネルギー変換 (LCA)
2月17日 (火)	(講義・実習) エネルギー変換 (LCA) (講義・実習) 情報モラル		(協議) 授業実践 について		昼休み	(講義・実習) エネルギー変換 (発電技術)			
2月18日 (水)	(講義・実習) 自立型ロボット (制御を中心に) (講義・実習) ネットワーク活用 (携帯端末)				昼休み	(講義・実習) 自立型ロボット (エネルギーを中心に) (講義・実習) ネットワーク活用 (画像伝送技術)			
2月19日 (木)	(講義・実習) 自立型ロボット (制御を中心に) (講義・実習) ネットワーク活用 (携帯端末)				昼休み	(講義・実習) 自立型ロボット (エネルギーを中心に) (講義・実習) ネットワーク活用 (画像伝送技術)			
2月20日 (金)	(講義・ワークショップ含む) 講習内容の授業活用を考える				昼休み	(講義) 授業評価	閉講式	評価	

実施会場：長崎大学 教育学部

研修概要

研修名	産業・情報技術等指導者養成研修（技術：H-3） 「社会の要請に応える技術分野の指導：情報に関する技術を中心として」							
担当グループ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研修目的	学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術・情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受講対象	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等 							
開催期日	平成20年8月4日（月）～平成20年8月8日（金）				5日間			
受講人数	計画人数	20	人	受講者数	26	人	参加率	130.0%
開催場所	鳴門教育大学（徳島県鳴門市）							

* 全体計画人数 400 人、 受講者数 342 人、 参加率 85.5%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無回答	未回収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	14	12	0	0	0	0	26
割合 (%)	53.8	46.2	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0
	26						

2. 研修内容に関する主な意見

- ・指導要領の改訂に伴い、様々な取り組みのおかげで見えてきたことや自分自身の理解の深まりなどがたくさんありました。ありがとうございました。
- ・指導要領改訂に伴う自分自身の今後の考え方、方向性が持てた。
- ・これからの指導に対して不十分だった情報について大切なものをたくさん知ることができました。また他県の情報も知りえてよかったです。
- ・わかりやすく丁寧な指導で大変ありがたかった。他県の先生方の意見を知る事ができ有意義であった。
- ・講義を減らしてもらってネットワークの設定やプログラムの種類と学校現場で取り入れやすいプログラムがあれば知りたかった。
- ・高いレベルの授業であったが、私の知識が高まったのがよかったことである。大変勉強になりました。
- ・貴重な話や体験をありがとうございました。
- ・デジタル作品の製作（情報メディア）では、事前にデジタルデータを持って参加するようになっていけばよかったと思います。

研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・引き続き実地経費の1/2を派遣者負担としている。

次年度へ向けて

- ・研修内容を見直しつつ、実地経費については、全額派遣者負担を導入する。
- ・他の研修コース（技術：H-2）と統合して実施することとした。

研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成20年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

(教科名, 研修番号)	団体名 鳴門教育大学						
	9	10	11	12	13	14	15
平成20年 8月4日(月)	開 講 式	これからの技術・家庭 (技術分野)(上野)			計算機器の変遷(菊地)	計算機器の開発(菊地)	
8月5日(火)	コンピュータシステムと情報通信ネットワーク(菊地) プログラムによる計測と制御(伊藤)	コンピュータシステムと情報通信ネットワーク(菊地) プログラムによる計測と制御(伊藤)	コンピュータシステムと情報通信ネットワーク(菊地) プログラムによる計測と制御(伊藤)	昼休み	コンピュータシステムと情報通信ネットワーク(菊地) プログラムによる計測と制御(伊藤)	コンピュータシステムと情報通信ネットワーク(菊地) プログラムによる計測と制御(伊藤)	
8月6日(水)	情報メディアを用いた情報表現(林)	情報メディアを用いた情報表現(林)	情報メディアを用いた情報表現(林)	昼休み	情報メディアを用いた情報表現(曽根)	情報メディアを用いた情報表現(曽根)	
8月7日(木)	プログラムによる計測と制御(伊藤) コンピュータシステムと情報通信ネットワーク(菊地)	プログラムによる計測と制御(伊藤) コンピュータシステムと情報通信ネットワーク(菊地)	プログラムによる計測と制御(伊藤) コンピュータシステムと情報通信ネットワーク(菊地)	昼休み	プログラムによる計測と制御(伊藤) コンピュータシステムと情報通信ネットワーク(菊地)	プログラムによる計測と制御(伊藤) コンピュータシステムと情報通信ネットワーク(菊地)	
8月8日(金)	情報技術教育の捉え方(菊地)	情報技術教育の捉え方(菊地)	情報技術教育の捉え方(菊地)	昼休み	情報技術教育の捉え方(菊地)	情報技術教育の捉え方(菊地)	閉 講 式

実施会場：鳴門教育大学

研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（家庭：I-1） 「学校における食育の推進：技術家庭科における食に関する指導」		
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ		
研 修 目 的	学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術・情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。		
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> ・都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 ・高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等 		
開 催 期 日	平成20年8月18日（月）～平成20年8月22日（金）	5日間	
受 講 人 数	計画人数	25 人	受講者数 26 人 参加率 104.0%
開 催 場 所	横浜国立大学（神奈川県横浜市）		

* 全体計画人数 400 人、 受講者数 342 人、 参加率 85.5%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	19	7	0	0	0	0	26
割合 (%)	73.1	26.9	0.0	0.0	0.0	0.0	
	26						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・大変勉強になりました。各先生方のパワーに刺激を受けました。また日頃聞くことができない講義を聞くことができよかったです。指導案等の作成は大変でしたが、これからは生かせるお土産として嬉しいです。一緒に学んだ仲間が、これからもずっとつながっていくといいと思っています。 ・全国各地から集まって出会ったばかりの人であっても、家庭科という教科を研究しながらこの国の将来・未来の子ども達、大人、高齢者さらには地球のことまで考えて、みんなの幸せを願って熱い思いを持って来られた人の集まりで、本当に勉強になりました。有能な先生方ばかりで、また意欲・熱意そして人と人とのつながりを大切にしてください先生方から大きな刺激を受け、更に私自身もスキルアップのためにまだまだ勉強が必要と考えることができました。 ・食の大切さについて様々な角度から学ぶことができ、家庭科だけでなく学校における推進方法についても見通しを持つことができました。研修の内容の充実に加え、各地の先生方とネットワークが広がり、今後の大きな財産ができ大変うれしく思いました。5日間大変有意義な研修を受けさせていただき、ありがとうございます。 ・新学習指導要領、講義、実習、情報交換等、他県の先生と受講することができ、自分の実践につなげていきたいと思いました。ありがとうございます。 ・新学習指導要領の具体的な改訂内容を理解することができました。また食育に関してまだ不明確な部分があったのですが、技術・家庭科の果たすべき役割を理解することができました。今後もこのような研修があれば、参加したいと強く思いました。

研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き実地経費の1/2を派遣者負担としている。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修内容を見直しつつ、実地経費については、全額派遣者負担を導入する。

研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成20年度産業・情報技術等指導者養成研修日程

日時	9:00	9:30	10:00	10:30	12:00	13:00	14:30	15:00	16:00
8月18日 (月)		受付	開講式 10:00 閉会 10:02 挨拶 10:12 ガイダンス 10:22 事務連絡 ガイダンス	(講義)「学校における食育と技術・家庭科の役割」 (担当)金子佳代子(横浜国立大学教授) 7-211教室 10:30-12:00	昼食	(講義・演習)「実践的な態度を育てる技術・家庭での食に関する指導」(指導案作成について) (担当)金子佳代子 / 杉山久仁子(横浜国立大学教授 / 准教授) 7-211教室 13:00-16:00			
8月19日 (火)	(講義)食の現代的問題1 「食の安全性と食品の選択」 (担当)板垣康治(神奈川県立学術アカデミー研究員) 7-211教室 9:00-10:25	休憩 十分	(講義)「新学習指導要領とこれからの技術・家庭科教育」 (担当)岡陽子(文部科学省初等教育局教科調査官) 7-211教室 10:30-12:00	昼食	(講義)「新学習指導要領を踏まえた食に関する指導の充実」 (担当)岡陽子(文部科学省初等教育局教科調査官) (報告)「技術・家庭における食に関する指導の実践事例」 30分 × 2人、質疑応答30分 (担当) 影山葉子(埼玉県新座市立第六中学校教諭) 寺田美代(茨城県土浦市立土浦第二中学校教諭) 7-211教室 13:00-16:00				
8月20日 (水)	(実習)「日常食の調理 - 短時間で調理実習をするための工夫 -」 調理実習 (担当)杉山久仁子(横浜国立大学教授) 1-312室 調理学実験実習室 9:00-12:00			(講義・演習) 「献立作成の指導 - 食品群と食事バランスガイドについて -」 (担当)金子佳代子(横浜国立大学教授) 7-211教室、PC室 13:00-16:00	昼食				
8月21日 (木)	(講義・演習)「地域の食文化の学習の意義とその指導方法」 (担当)金子佳代子 / 杉山久仁子(横浜国立大学教授 / 准教授) 7-211室、PC室 9:00-12:00			(講義)食の現代的問題2 「食情報とフードフィアディズム」 (担当)高橋久仁子(群馬大学教授) 7-211教室 13:00-14:25	昼食	休憩 十分	(講義)食の現代的問題3 「食の“拒否”と食への“回帰”(仮題)」 (担当)矢口悦子(東洋大学教授) 7-201教室 14:35-16:00		
8月22日 (金)	(実習)「食品の調理性を意識した調理実習の指導」調理実習 (担当)杉山久仁子(横浜国立大学教授) 1-312室 調理学実験実習室 9:00-12:00			(ディスカッション) 「実践的な態度を育てる技術・家庭での食に関する指導」指導案発表 (担当)金子佳代子 / 杉山久仁子(横浜国立大学教授 / 准教授) 7-211教室 13:00-14:30	昼食		閉校式 14:40 挨拶 与 修了証授 14:55 事務連絡 15:00 閉会		

研修概要

研 修 名	産業・情報技術等指導者養成研修（家庭：I-2） 「人と関わる力を高める幼児理解に関する指導（講義と演習、実習）」							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	学校における実習等の授業の質の向上を図るため、急速に発展・進歩する産業技術・情報技術等について、情報化・技術革新その他社会情勢の変化に適切に対応した最新の知識・技術を習得させ、受講者が各地域で行われる研修の講師等や各学校への指導・助言等を行うことを目的としている。							
受 講 対 象	<ul style="list-style-type: none"> 都道府県・指定都市・中核市教育委員会の指導主事及び教育センターの研修担当指導主事並びにそれに準じる者 高等学校、中等教育学校又は中学校で産業教育を担当する教諭等 							
開 催 期 日	平成20年7月22日（火）～平成20年7月25日（金）			4日間				
受 講 人 数	計画人数	20	人	受講者数	17	人	参加率	85.0%
開 催 場 所	東京学芸大学（東京都小金井市）							

* 全体計画人数 400人、受講者数 342人、参加率 85.5%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	12	4	0	0	1	0	17
割合 (%)	70.6	23.5	0.0	0.0	5.9	0.0	
	16						
	94.1						

2. 研修内容に関する主な意見

- ・多くの家庭科の先生方と話をしたり大学の先生方から講義を受け毎日が充実していました。いろいろ指導して下さったことを今後の授業に生かせるよう努力していきたいと思えます。また、幼児学習の大切さをより理解することができましたが、評価、評定にも少しふれていただけるとよかったです。
- ・大学の家庭科教育に携わる方のお話をたくさんうかがいたいと思いました。
- ・保育園実習はとてもよい機会でした。受け身的にずっと話を聞くのは苦痛でもありました。参加体験型の講義をもう少し入れていただけるとうれしかったです。せっかく各地から集まった教員同志が自由に話をしたり情報交換したりする時間ももっとあれば・・・と思いました。
- ・今後、幼児ふれあい体験を実施するにあたって、どんなことを準備していったら良いのか、また生徒に事前指導で理解させたら良いかということが、今回の研修に参加し、見えてきた。
- ・新学習指導要領についての講義や保育園実習、いろいろな内容の講義を受けられたのでとても充実していました。ふれあい体験への参考になる内容がたくさんあったので現場で活用していきたいと思えます。
- ・それぞれ先生方の講義にしっかりとした理論と実践や調査データがあり、混沌としながらこれは何かにつながっている？と思いつつ迷いながら授業をしている者に、後立てや理由づけを明確にして下さるものが多くあった。

研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・引き続き実地経費の1/2を派遣者負担としている。

次年度に向けて

- ・研修内容を見直しつつ、実地経費については、全額派遣者負担を導入する。

研修日程(プログラム)

次ページのとおり

研修概要

研 修 名	産業教育実習助手研修（農業） 「農業及び農業教育に関する講義等」							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	高等学校の産業教育に関する教科・科目を担当する実習助手に対して、職務に必要な最新の知識・技術を習得させ、資質の向上を図ることを目的としている。							
受 講 対 象	高等学校（特別支援学校の高等部を含む）の当該教科・科目を担当する実習助手で、実習助手として3年以上勤務し、勤務成績の良好な者とする。							
開 催 期 日	平成20年8月19日（火）～平成20年8月26日（火）				7日間			
受 講 人 数	計画人数	30	人	受講者数	22	人	参加率	73.3%
開 催 場 所	宇都宮大学（栃木県宇都宮市）							

* 全体計画人数 60 人、 受講者数 42 人、 参加率 70.0%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	16	6	0	0	0	0	22
割合 (%)	72.7	27.3	0.0	0.0	0.0	0.0	
	22						
	100.0						

2. 研修内容に関する主な意見

- ・時間が足りず少しづつ多くの講義を受けましたが、もう少しじっくり話を聞きたかったです。
- ・座学のみではなく各会場での実習があり、とても有意義な研修となりました。様々な環境の変化を受け止め修復している現場を視察することができ、私自身とても学ぶことが多かったです。
- ・今回学んだ分野がどれか一つ疎かになっても、人類は生存していけないことを学びました。この研修の成果を持ち帰り、生徒に還していきたいと思います。
- ・新しい技術を学べ、しっかりと生徒に伝えたいです。
- ・各県で行なわれている実験実習の内容状況などを交流できる場を、短時間でもいいから作っていただければ、今後の役に立つと思います。
- ・農業全体として知識を深めることができ、大変有意義であった。また近年の農業事情を知ることができた。

研修内容・方法の見直し等

前年度を踏まえ

- ・引き続き実地経費の1/2を派遣者負担としている。

次年度に向けて

- ・研修内容を見直しつつ、実地経費については、全額派遣者負担を導入する。

研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成20年度産業教育実習助手研修日程

大学名 国立大学法人 宇都宮大学

(農業)

日 時	8:45	10:15	10:30	12:00	13:00	14:30	14:45	16:15
8月19日 (火)			開講式・ 刈エングレション	農学部長 特別講演	昼休み	(講義) 2-① 「食品廃棄物の 再生利用」 宇田 靖	休憩	(講義・実習) 2-② 「食品廃棄物に含まれ る有用成分」宇田 靖
8月20日 (水) ※1	(講義) 3-① 「森林の多面的機能」 執印 康裕	休憩	(講義・実習) 3-② 「森林の多面的機能」 執印 康裕・飯塚和也	昼休み	(講義) 3-③ 「森林環境学」 小金澤 正昭	休憩	(講義・実習) 3-④ 「森林環境学」 小金澤正昭・飯塚和也	
8月21日 (木) ※2	(講義) 2-③ 「生理活性物質」 飯郷 雅之	休憩	(講義) 3-⑤ 「敵か?味方か?雑草の くらしを科学する」 西尾 孝佳	昼休み	(講義) 1-① 「台地をつくる関東ロー ム層の層位学」 相田 吉昭	休憩	(講義・実習) 1-② 「台地をつくる関東ロ ーム層の層位学」 相田 吉昭	
8月22日 (金) ※3	(講義) 1-③ 「日本と世界の食糧 問題」 秋山 満	休憩	(講義) 1-④ 「農業経営学基礎」 原田 淳	昼休み	(講義) 3-⑥ 「水田環境の修復」 水谷 正一	休憩	(講義・実習) 3-⑦ 「水田環境の修復現場 実習」水谷 正一	
8月23日(土) [峰地区停電]								
8月24日 (日)	(講義) 3-⑧ 「バイオマス資源 リサイクル」 岩渕 和則	休憩	(講義) 2-④ 「“生物活用”における 花きの役割」 山根 健治	昼休み	(講義) 1-⑤ 「木材の細胞壁構造と 構成成分」阿部 善作	休憩	(講義) 1-⑥ 「木材製品の検査」 阿部 善作	
8月25日 (月) ※4	(講義) 2-⑤ 「古くて新しい栄養素 “アミノ酸”を持つ さまざまな機能」 吉澤 史昭	休憩	(講義) 3-⑨ 「食の安全と重金属」 深見 元弘	昼休み	(講義) 1-⑦ 「農業生産の システム化と安全性」 柏寄 勝	休憩	(講義・実習) 1-⑧ 「機械作業動力の推定」 柏寄 勝	
8月26日 (火)	(講義) 2-⑥ 「哺乳類の生殖」 松本 浩道	休憩	(講義) 2-⑦ 「環境に優しい害虫防除」 村井 保	昼休み	(講義) 2-⑧ 「植物病理学」 夏秋 知英	休憩	閉講式	

実施会場：国立大学法人 宇都宮大学

教職に関する専門科目 (1単位) 1 農業科教育法 1-①～1-⑧
 教科に関する専門科目 (1単位) 2 農業と生命科学 2-①～2-⑧
 教科に関する専門科目 (1単位) 3 農業と環境科学 3-①～3-⑨

※1 8月20日(水) 大学発 8:00 講義開始 9:00 講義終了 16:30 大学着 17:30 [会場：附属演習林]
 ※2 8月21日(木) 大学発 14:45 目的地到着 15:15 目的地出発 15:45 大学着 16:15 [会場：宇都宮市上欠町]・・・移動中も講義
 ※3 8月22日(金) 大学発 12:30 講義開始 13:00 講義終了 16:15 大学着 16:45 [会場：河内町水田水域]
 ※4 8月25日(月) 大学発 12:30 講義開始 13:00 講義終了 16:15 大学着 16:45 [会場：附属農場]

研修概要

研 修 名	産業教育実習助手研修（工業） 「工業及び工業教育に関する講義等」							
担 当 課 グ ル ー プ	教育課題研修課 教育課題第一グループ							
研 修 目 的	高等学校の産業教育に関する教科・科目を担当する実習助手に対して、職務に必要な最新の知識・技術を習得させ、資質の向上を図ることを目的としている。							
受 講 対 象	高等学校（特別支援学校の高等部を含む）の当該教科・科目を担当する実習助手で、実習助手として3年以上勤務し、勤務成績の良好な者とする。							
開 催 期 日	平成20年7月28日（月）～平成20年8月5日（火）				7日間			
受 講 人 数	計画人数	30	人	受講者数	20	人	参加率	66.7%
開 催 場 所	八戸工業大学（青森県八戸市）							

* 全体計画人数 60 人、 受講者数 42 人、 参加率 70.0%

アンケート結果の状況

1. 研修全体について、「有意義であった」と答えた割合 (人、%)

	有意義であった		あまり意義が なかった	全く無意義 だった	無 回 答	未 回 収	合計
	大変有意義	おおむね有意義					
人数 (人)	16	4	0	0	0	0	20
割合 (%)	80.0	20.0	0.0	0.0	0.0	0.0	100.0

2. 研修内容に関する主な意見

<ul style="list-style-type: none"> ・全国各地の高校の生の声が聞けて良かったです。よい環境で普段聞けない講義に参加できうれしく思っています。今後に生かしていきたいと思えます。 ・今回の研修に参加させていただいて、普段勉強しない分野に触れたことで、あらためて専門性の大切さを実感しました。工業高校の専門性が低下する中で、教員自らが学習をし、生徒に還元することが求められていると思えます。私も専門を意識した教育を実践していかなければと痛感しました。 ・大学という場所での研修をおこなうことは、学習環境（設備や雰囲気を含む）という面において大変すばらしく、有意義な研修になったと思えます。また、東北、八戸という私の教育現場（関東）からはなれた場所で行われたことにより、研修に集中することができたと考えます。 ・今回、研修を受講し、とても有意義な研修になりました。機械と違う分野でしたが、とても分かりやすい講義でとても勉強になりました。今回、学んだ事を今後の生活に活かしていきたいと思えます。

研修内容・方法の見直し等

<p>前年度を踏まえ</p> <ul style="list-style-type: none"> ・引き続き実地経費の1/2を派遣者負担としている。 <p>次年度に向けて</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修内容を見直しつつ、実地経費については、全額派遣者負担を導入する。

研修日程(プログラム)

次ページのとおり

平成20年度産業教育実習助手研修日程

(工業)

大学名：八戸工業大学

日時	第1時限 8:50～10:20	休憩	第2時限 10:30～12:00	昼食	第3時限 12:50～14:20	休憩	第4時限 14:30～16:00
7/28 (月)	開講式		講義①②[工業科指導法] 学習指導要領と教科「工業」について		講義③④[工業科指導法] 工業教育の使命とテクノロジー ス育成の教育		講義⑤⑥[工業科指導法] 中等工業教育の意義・歴史、 法令
7/29 (火)	講義⑦⑧[工業科指導法] 教科「工業」の内容、特に実践的 工業教育について		講義⑨⑩[工業科指導法] 教育課程と授業設計・教育評価、 教育実習		講義⑪⑫[工業科指導法] 工業高校におけるキャリア教育 としての進路指導		講義⑬⑭[工業科指導法] 学校運営、学校の教育力向上・活 性化を目指す取り組み
7/30 (水)	講義⑮⑯[工業科指導法] 工業高校の展望、工業教員・ 実習助手への期待		講義①②[建築と現代社会] 博物館とまちづくり		講義③④[建築と現代社会] 形と建築		講義⑤⑥[建築と現代社会] 建築の見方
7/31 (木)	講義⑦⑧[建築と現代社会] 高齢社会への対応		講義⑨⑩[建築と現代社会] 超高層と大空間建築物		講義⑪⑫[建築と現代社会] 現代建築デザインと構造技術		講義⑬⑭[建築と現代社会] 災害と社会
8/1 (金)	講義⑮⑯[建築と現代社会] 材料・施行と建築生産		講義①②[情報通信工学] ガイダンス、ネットワーク・アプ リケーション概要		講義③④[情報通信工学] 階層化アーキテクチャ(OSI参 照モデル)とプロトコル		講義⑤⑥[情報通信工学] TCPとIP
8/4 (月)	講義⑦⑧[情報通信工学] IP関連技術①(DHCP、NAT)		講義⑨⑩[情報通信工学] IP関連技術②(経路制御)		講義⑪⑫[情報通信工学] ネットワークコマンド		講義⑬⑭[情報通信工学] イーサネット技術
8/5 (火)	講義⑮⑯[情報通信工学] トラブルシューティング、 技術動向		閉講式				
8/29 (金)	レポート提出日						

実施会場：八戸工業大学